

【シ】

師在目錄中。後人ノ書撰歟。後學正之」云云。

①(参考) 本朝台祖撰述書目

十如是章略解 ①(日) Ja-nyo-se-shō-ryaku-ge. ①卷 ③存 ④重光光謙(承應元一原文四 A. D. 1653—1739)撰 ⑤寫本二刊 ⑥(龍大、二六五二・一六七) (首、二・一・中・一六)

十如是讀文 ①(日) Ja-nyo-se-doku-mon. ①卷 ③存 ④元祿一三刊 ⑤(龍大、研佛)

十如是事 ①(日) Ja-nyo-se-no-ko-to. ①卷 ③存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第五 ④日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1223—1283)撰 ⑤正嘉三(A. D. 1238)

⑥法華經方便品の十如是(如是相、如是性、如是體、如是力、如是作、如是因、如是緣、如是果、如是報、如是本末究竟等)は、吾等凡夫衆生が本来三身即一の如來(法華經の三身が吾等の一身に本具せること)であることを説かれたものであり、この十如是の如是相は應身如來、如是性及報身如來、如是體は法身如來であると説明し、更に三體(相、體、中)と三千との關係を説き、三體即一、三身即一と斷じ、この立場を本覺の悟りの境とし、本覺のうごひの覺にかへりて法界をみれば、皆寂光の極樂にて、日來隨しと思ひし我此身が三身即一の本覺の如來に於てあるべきなり」と結んだもの。⑦(参考) 録内各章第三二、所書鈔第二〇

①(馬田行啓) (立大、A三〇・六二)

十念法語 ①(日) Ja-nen-hō-go. ①卷 ③存、日本教育文庫第一一 ④源空(長承二一建曆二 A. D. 1133—1212)撰 ⑤刊本(谷大、外洋・1111)

十波羅 ①(日) Jip-pa-ra. ②(参考) 本朝台祖撰述書目

十波羅聖羯磨形觀相儀 ①(日) Jip-pa-ra-mūshō-kōm-gō-shō-kyōwa-shi. ①帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實隆院)

十波羅聖抄 ①(日) Jip-pa-ra-mūshō-shō. ①十卷抄 ②(参考) 本朝台祖撰述書目、密乘撰述目録

十八會指歸 ①(日) Ja-hachi-e-shi-ki. (文) Shih-pa-hui-shih-kuai. 金剛頂經論十八會指歸、金剛頂經十八會指歸、金剛頂經十八會指歸、金剛頂經論指歸 ①卷 ③存、大正八・二八四No. 869、縮刷(二二七・二・北1385 惠、南1386) 元1357 明北1414、清1444、藏1215 天1248 法1134 至804 明南1150 無、天1448、三十帖策子第二〇 不空(神龍元一大曆九 A. D. 760—774)譯 ④金剛頂經十八會指歸の下を見よ。⑤(文)永八(實善撰)明唐元刊(龍大、二二八・三三) 高次、寄・一・三三(京專)(實善院)

十八會指歸鈔 ①(日) Ja-hachi-e-shi-ki-shō. 十八會指歸鈔 ①卷 ③存 ④(参考) 實善院 ⑤(参考) 諸宗章錄第三 ⑥1304) 述

實水二刊(正大、一一六二・二八)(京專)(谷大、龍大、二九五八) 明曆三刊(龍大、二二八・三三) 萬治元刊(高次、一・三三)

十八會指歸鈔拔書 ①(日) Ja-hachi-e-shi-ki-pyū-shō-naki-gaki. ①册 ③存 ④明治元寫 ⑤(高次、寄・一・三三)

十八會指歸幼學鈔 ①(日) Ja-hachi-e-shi-ki-yō-gaku-shō. ①卷 ③存 ④(實隆院) ⑤(参考) 眞言宗全書刊行決定目録

十八會指歸法 ①(日) Ja-hachi-e-shi-ki-hō. (文) Shih-pa-hui-pyū-shō-chih-fa. ①卷 ③存 ④(参考) 傳教大師將來越州錄 (文) Shih-pa-kuō-jan. ①卷 ③存、大正三・一・八六 No. 1615、二二・一・七、縮書・二 ④龍樹造、陳眞諦(永元元一太建元 A. D. 499—539)譯

⑥現存十八會論は便宜上五節に分つて見るべきである。最初から此下第四分別空理有三の以前までを第一節とし、此文から就此十六空作四料簡の以前までを第二節とし、此文から第三明唯眞實云々の以前までを第三節とし、此文から十勝眞實者有十種智云々の以前までを第四節とし、其以下を第五節とするのである。第一節は中邊分別論相品第一の第十六空の下に於て空の分別を説く爲としての十六空を述ぶるに相當して十八空を辨じたもの、第二節は同論に續いて空の成立の理を述ぶるに相當して論ずるもの、第三節は此論にのみある部分で、以上の結論をなす如きもの、第四節

名所行目◎(名書)書題所現◎月年の刊載◎(書考)書題所註◎書主◎説解存内◎代年作著◎書題◎佚存◎數卷◎(名書)名題◎號字數

【シ】

は中邊分別論眞實品第三の十種眞實の第九分眞實の下に七種眞實を説く中の第三唯眞實に相當して論述するもの、第五節は其第十勝眞實の下に十種の邪執を對治するを説く中の第五までを述ぶ、傷第三を説くものである。かく十八會論は斷片的のものであるが、中邊分別論の一種の注釋數論の論たるに過ぎない。故に著者を龍樹とす如きは全く誤で、眞實の著者は不明である。内容は中邊分別論以外に特殊な面も重要なものを有し、唯識説發史上注意すべきものを含むで居る。(字井伯善)

十八卷傳 ①(日) Fa-hak-kwan-den. ②(参考) 淨土眞宗教典第三

十八願講述 ①(日) Fa-hachi-gwan-ko-jusan. ①卷 ③存 ④雲山龍珠著 ⑤大正五刊 ⑥(龍大、研眞)

十八願仰高記 ①(日) Fa-hachi-gwan-ko-kyō-kōki. ①卷 ③存 ④信教(寶曆三一文政八 A. D. 1753—1825)撰 ⑤寫本(龍大、研眞)

十八願津江漫錄 ①(日) Fa-hachi-gwan-shū-kin-kan-tōkar. ①卷 ③存 ④信教(寶曆三一文政八 A. D. 1753—1825)撰 ⑤寫本(龍大、研眞)

十八願刀力記 ①(日) Fa-hachi-gwan-ko-dō-riki. ①卷 ③存 ④龍(明和六一天保二 A. D. 1769—1841)撰 ⑤寫本(龍大、研眞)

十八願總記 ①(日) Fa-hachi-gwan-cho-ki. ①卷 ③存 ④無蓋記 ⑤寫本

①(龍大、二二二・九九)

十八願文總記 ①(日) Fa-hachi-gwan-cho-ki. ①卷 ③存 ④(實政五一文久元 A. D. 1793—1861)撰 ⑤寫本(龍大、研眞)

十八願文總觀 ①(日) Fa-hachi-gwan-cho-ki-shi. ①卷 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

十八願略説 ①(日) Fa-hachi-gwan-ryaku-shō. ①卷 ③存 ④名和宗瀛(天保六一明治二七 A. D. 1835—1894)撰 ⑤明治二九刊 ⑥(龍大、二二二・100)

十八契印 ①(日) Fa-hachi-ge-in. (文) Shih-pa-ge-in. 十八契印軌、十八道契印、十八道儀軌 ①卷 ③存、大正一・七八一No. 900、縮刷一、二、三、一、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、果(天寶五—永貞元 A. D. 746—805)撰 ④此は又十八契印軌、十八道契印、十八道儀軌とも云はれ十八道立の本據となつて居る。初めに莊嚴行者の五儀即ち淨三業、佛部三昧耶、蓮華部三昧耶、金剛部三昧耶、被甲護身の印言、次に結界法の二儀即ち地界(地結)、金剛結(四方結)、次に莊嚴道場法の二儀即ち道場觀(但し印言を説かず、此は本章により流々により印言を異にするからである) 大虚空觀、次に勸請法の三儀即ち馬頭觀音、金剛觀、火院密經、次に、供養法の三儀即ち圓伽、蓮華座、普供養等の六法十八義の印言を説く。此の軌の初めより淨三業までは不空譯親自在菩薩

如意輪觀音を所座法より以下は同譯如意輪菩薩念誦法と同文なれば、兩軌の合作と云つてよからう。但し終りに十八契印生起略頌を附加す。

本軌の作者に二説あり。惠果説、空海説であるが、前説の根據は三十帖册子目錄に十八契印ある所より支那造とし支那造なれば惠果造ならんとする説である。後説主張者は安然、皇慶、慧什等である。(神林隆博)

十八契印 ①(日) Fa-hachi-ge-in. 十八道契印、十八契印軌、十八道儀軌 ①卷 ③存、大正一・七八一No. 900、縮刷一、二、三、一、日本大藏經眞言事相章疏、弘法大師全集第七、豊山版密經儀軌初一、空海(實龜五—承和二 A. D. 774—835)撰 ④一説に惠果(天寶五—永貞元 A. D. 746—805)撰

⑥密教事相に於ける十八道修法のの本據で、淨三業、三部、被甲、地結等十八種の印契眞言を説いてある。親自在菩薩如意輪觀音及び如意輪菩薩念誦法に依りて作られたものである。

⑦保延五寫(石山寺) 承安二寫(石山寺) 享保二〇寫(大通寺) (吉祥眞雄)

十八契印 ①(日) Fa-hachi-ge-in. 國譯十八契印 ③存、國譯密教々軌部第四 ④(参考) 實善院

十八契印義釋生起 ①(日) Fa-hachi-ge-in-gi-shō-shō-ki. 十八道義釋 ①卷 ③存、大正七八・一一五No. 2475 ④定深(一天仁頃 A. D. 1108—1109)撰

⑥密教の修法次第に十八道立、別行立、大法立の區別があつて、十八道立はその中で最も簡略な法で、十八契印を本として修するものである。本書はこの十八契印を結する次第順序について其理由を述べ、十八契印の如何なるものなるかを明にしてゐる。十八契印の所依の儀軌たる十八契印軌には十七印言を説く道場觀に印眞言を説かないので、十八種の印契を定むるについては古來異説があるが、本書には行儀を大別して六法とし、第一莊嚴行者法に淨三業、佛部三昧耶、蓮華部三昧耶、金剛部三昧耶、護身の五印契、第二結界法に地結、金剛塔の二印契、第三莊嚴道場法に道場觀、虚空觀、普供養の三種、第四勸請法に送車轉、請車轉、奉請の三種、第五結護法に當部明王印明、金剛觀、火院の三種、第六供養法に圓伽、花座、普供養の三種とし、合計十八契印としてゐる。一説には道場觀を大虚空觀に屬し、本章の印眞言を加へて十八種とするが、今は道場觀を別立する説をとつてゐる。東京にも主として此説によつてゐる。

⑦仁安三結果寫 ⑧(高山寺藏) ⑨(小田藤舟) ⑩(龍大、研眞)

十八契印儀軌 ①(日) Fa-hachi-ge-in-ki. ①卷 ③存、大日本佛教全書第三六阿婆羅抄之内 ④承慶(元久二—弘安五 A. D. 1205—1283)撰

十八契印儀軌口決 ①(日) Fa-hachi-ge-in-ki-ketsu. ①卷 ③存、三六抄 ④西山觀性記 ⑤(参考) 本朝台祖撰述書目

十八契印儀軌抄 ①(日) Fa-hachi-

名所行目◎(名書)書題所現◎月年の刊載◎(書考)書題所註◎書主◎説解存内◎代年作著◎書題◎佚存◎數卷◎(名書)名題◎號字數

【シ】

十八道口決 ①(日)Jo-hachi-do-ka ②一帖 ③存 ④(寛政四寫) ⑤(寶善院) ⑥(寛政四寫) ⑦(寶善院) ⑧(寛政四寫) ⑨(寶善院) ⑩(寛政四寫) ⑪(寶善院) ⑫(寛政四寫) ⑬(寶善院) ⑭(寛政四寫) ⑮(寶善院) ⑯(寛政四寫) ⑰(寶善院) ⑱(寛政四寫) ⑲(寶善院) ⑳(寛政四寫) ㉑(寶善院) ㉒(寛政四寫) ㉓(寶善院) ㉔(寛政四寫) ㉕(寶善院) ㉖(寛政四寫) ㉗(寶善院) ㉘(寛政四寫) ㉙(寶善院) ㉚(寛政四寫) ㉛(寶善院) ㉜(寛政四寫) ㉝(寶善院) ㉞(寛政四寫) ㉟(寶善院) ㊱(寛政四寫) ㊲(寶善院) ㊳(寛政四寫) ㊴(寶善院) ㊵(寛政四寫) ㊶(寶善院) ㊷(寛政四寫) ㊸(寶善院) ㊹(寛政四寫) ㊺(寶善院) ㊻(寛政四寫) ㊼(寶善院) ㊽(寛政四寫) ㊾(寶善院) ㊿(寛政四寫) ①(寶善院) ②(寛政四寫) ③(寶善院) ④(寛政四寫) ⑤(寶善院) ⑥(寛政四寫) ⑦(寶善院) ⑧(寛政四寫) ⑨(寶善院) ⑩(寛政四寫) ⑪(寶善院) ⑫(寛政四寫) ⑬(寶善院) ⑭(寛政四寫) ⑮(寶善院) ⑯(寛政四寫) ⑰(寶善院) ⑱(寛政四寫) ⑲(寶善院) ⑳(寛政四寫) ㉑(寶善院) ㉒(寛政四寫) ㉓(寶善院) ㉔(寛政四寫) ㉕(寶善院) ㉖(寛政四寫) ㉗(寶善院) ㉘(寛政四寫) ㉙(寶善院) ㉚(寛政四寫) ㉛(寶善院) ㉜(寛政四寫) ㉝(寶善院) ㉞(寛政四寫) ㉟(寶善院) ㊱(寛政四寫) ㊲(寶善院) ㊳(寛政四寫) ㊴(寶善院) ㊵(寛政四寫) ㊶(寶善院) ㊷(寛政四寫) ㊸(寶善院) ㊹(寛政四寫) ㊺(寶善院) ㊻(寛政四寫) ㊼(寶善院) ㊽(寛政四寫) ㊾(寶善院) ㊿(寛政四寫)

名所行書◎(名庫書)表題所現◎ 月年の刊寫◎ (書考參書附註)書末◎ 説解存内◎ 代年作書◎ 書寫◎ 缺存◎ 數書◎ (名書)名題◎ 號地字數

【シ】

十八道見聞 ①(日)Jo-hachi-do-kenmon ②一帖 ③存 ④(寛政四寫) ⑤(寶善院) ⑥(寛政四寫) ⑦(寶善院) ⑧(寛政四寫) ⑨(寶善院) ⑩(寛政四寫) ⑪(寶善院) ⑫(寛政四寫) ⑬(寶善院) ⑭(寛政四寫) ⑮(寶善院) ⑯(寛政四寫) ⑰(寶善院) ⑱(寛政四寫) ⑲(寶善院) ⑳(寛政四寫) ㉑(寶善院) ㉒(寛政四寫) ㉓(寶善院) ㉔(寛政四寫) ㉕(寶善院) ㉖(寛政四寫) ㉗(寶善院) ㉘(寛政四寫) ㉙(寶善院) ㉚(寛政四寫) ㉛(寶善院) ㉜(寛政四寫) ㉝(寶善院) ㉞(寛政四寫) ㉟(寶善院) ㊱(寛政四寫) ㊲(寶善院) ㊳(寛政四寫) ㊴(寶善院) ㊵(寛政四寫) ㊶(寶善院) ㊷(寛政四寫) ㊸(寶善院) ㊹(寛政四寫) ㊺(寶善院) ㊻(寛政四寫) ㊼(寶善院) ㊽(寛政四寫) ㊾(寶善院) ㊿(寛政四寫) ①(寶善院) ②(寛政四寫) ③(寶善院) ④(寛政四寫) ⑤(寶善院) ⑥(寛政四寫) ⑦(寶善院) ⑧(寛政四寫) ⑨(寶善院) ⑩(寛政四寫) ⑪(寶善院) ⑫(寛政四寫) ⑬(寶善院) ⑭(寛政四寫) ⑮(寶善院) ⑯(寛政四寫) ⑰(寶善院) ⑱(寛政四寫) ⑲(寶善院) ⑳(寛政四寫) ㉑(寶善院) ㉒(寛政四寫) ㉓(寶善院) ㉔(寛政四寫) ㉕(寶善院) ㉖(寛政四寫) ㉗(寶善院) ㉘(寛政四寫) ㉙(寶善院) ㉚(寛政四寫) ㉛(寶善院) ㉜(寛政四寫) ㉝(寶善院) ㉞(寛政四寫) ㉟(寶善院) ㊱(寛政四寫) ㊲(寶善院) ㊳(寛政四寫) ㊴(寶善院) ㊵(寛政四寫) ㊶(寶善院) ㊷(寛政四寫) ㊸(寶善院) ㊹(寛政四寫) ㊺(寶善院) ㊻(寛政四寫) ㊼(寶善院) ㊽(寛政四寫) ㊾(寶善院) ㊿(寛政四寫)

名所行書◎(名庫書)表題所現◎ 月年の刊寫◎ (書考參書附註)書末◎ 説解存内◎ 代年作書◎ 書寫◎ 缺存◎ 數書◎ (名書)名題◎ 號地字數

十八道儀軌並野澤次第目錄に、本記云七平元年(A. D. 1151)五月二十一日點了、日上日記法印和尚時御自筆也、覺一本とあり。

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. ①一帖 ②存 ③編書云、先入堂云々。

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. ①一帖 ②存

①十八道儀軌並野澤次第目錄に、先淨三業云云五悔略之、保壽院傳受本也。西院流傳受之本丈同少異、五悔有無異計也、菩提院流傳受之本五悔有之、題向句題向大菩提院云と。

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. 十八道念誦次第中院流

①一帖 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶龜院)

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. ①一帖 ②存 ③延寶六寫 ④(寶善院)

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. 十八道念誦次第地流

①一冊 ②存 ③文政一二寫 ④(寶善院)

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. 十八道念誦次第第壽院

①一帖 ②存 ③寫本(金剛三昧院)

十八道念誦次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai. 十八道念誦次第第西院

①一帖 ②存 ③寫本(金剛三昧院)

十八道念誦次第密記 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai-mik-ki. ①一冊 ②存 ③(龍大六二)

①(龍大六二) ②(龍大六二) ③(龍大六二)

十八道念誦私記 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai-ki. ①一冊 ②存 ③(龍大六二)

十八道念誦私次第 ①(日)Ja-hachi-do-nen-ju-shi-dai-ji. 十八道念誦私次第第喜院 ①一帖 ②存 ③寫本(金剛三昧院)

十八道祕伎鈔 ①(日)Ja-hachi-do-hi-ge-shu. ①一冊 ②存 ③寫本(龍大六二)

十八道表白 ①(日)Ja-hachi-do-hyo-byaku. ①一帖 ②義福(治安三一寛治) A. D. 1023-1083)記 ③(參考)諸宗章疏錄第三

十八道表白 ①(日)Ja-hachi-do-hyo-byaku. ①一帖 ②存 ③大永五寫 ④(寶善院)寫本(高大六二)

十八道表白神分等 ①(日)Ja-hachi-do-hyo-byaku-jin-bun-bun. ①一帖 ②存 ③天明五寫 ④(寶善院)

十八道標目 ①(日)Ja-hachi-do-hyo-moku. ①一冊 ②存 ③寫本(高大六二)

十八道覆毒鈔 ①(日)Ja-hachi-do-taku-shin-sho. 十八道覆毒鈔法曼流

①一冊 ②存 ③文化一四寫 ④(谷大、長保一九七)

十八道法則 ①(日)Ja-hachi-do-ho-soku. ①一帖 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶善院)寫本(金剛三昧院)

十八道梵字 ①(日)Ja-hachi-do-hon

①(安然(承和八)延喜年間 A. D. 841-901) ②(參考)本朝台祖撰述密部書目

十八道梵本 ①(日)Ja-hachi-do-hon-pon. ①一冊 ②安然(承和八)延喜年間 A. D. 841-901) ③(參考)本朝台祖撰述密部書目、諸宗章疏錄第二、山家祖傳撰述密部書目、密乘撰述目録

十八道面授口決抄 ①(日)Ja-hachi-do-men-ju-shu. ①一冊 ②存 ③(龍大六二)

十八道面授抄 ①(日)Ja-hachi-do-men-ju-shu. ①一冊 ②存 ③(寶曆六刊)

十八道目耳 ①(日)Ja-hachi-do-mokuji. 十八道目耳廣津西院 ②一帖 ③存 ④應永三寫 ⑤(寶龜院)

十八道問答 ①(日)Ja-hachi-do-mondou. 穴太四帖決 ②四卷 ③(參考)本朝台祖撰述密部書目

十八道開記並花盛事 ①(日)Ja-hachi-do-hiraki-gaki-hana-jourai-hana-mori-no-koto. ①一冊 ②存 ③寫本(正大一四八・九七)

十八道用心 ①(日)Ja-hachi-do-yo-jin. (參考)本朝台祖撰述密部書目

十八道用心口決 ①(日)Ja-hachi-do-yo-jin-ku-keisu. ①一冊 ②(廣平三) A. D. 1060) ③(參考)山家祖傳撰述密部書目

十八道略頌 ①(日)Ja-hachi-do-ryakusho. 十八道 ②一冊 ③存 ④興教大師全集 ⑤覺鑒(嘉保二)廣治二 A. D. 1093-1143) ⑥(十八道之下)を見よ。

十八道立印口傳 ①(日)Ja-hachi-do-ryu-in-ku-den. 十八道立印口傳傳壽院

①一冊 ②存 ③延徳二寫 ④(金剛三昧院)

十八道立印鈔 ①(日)Ja-hachi-do-ryu-in-shu. ①一冊 ②存 ③正觀 ④文和三寫 ⑤(正觀)

十八道兩部瑜伽壇之圖 ①(日)Ja-hachi-do-ryu-bu-yoga-dan-no-zu. ①一冊 ②存 ③寫本(正大一四八・一〇〇)

十八道類聚鈔 ①(日)Ja-hachi-do-ryu-rui-shu. ①四卷 ②存 ③長實集 ④嘉承元寫 ⑤(日光)

十八泥掣經 ①(日)Ja-hachi-nai-ryoku-kyo. (支)Shih-pa-ni-ri-ching. ①一冊 ②失譯 ③(參考)出三藏記第四、法經錄第四、靜泰錄第四

十八泥掣經 ①(日)Ja-hachi-nai-ryoku-kyo. (支)Shih-pa-ni-ri-ching. 十八地獄經、地獄衆生相害十八泥掣經 ①一冊 ②存 ③大正一七・五二八 No. 731. 縮寫六、一四・一〇、北816號、南30號、元824無、明北634號、清684號、嘉819號、天817無、指787號、法305號、至1052年、明南700號、No. 698 ④安世高譯 ⑤後漢建和二一建寧三(A. D. 148-170)

①十八泥掣地獄の罪人受苦の有様及び壽命

名所行録◎(名庫書)表題所現◎月年の刊寫◎(書考)書題註◎書玉◎説解存内◎代年作著◎表書◎缺存◎數巻◎(名書)名題◎説略字軌

劫數の相狀を叙べて、惡行を去り善行に就くべきを、佛自ら教へ給ふ所の經である。即ち説いて云く、火泥掣は八、寒泥掣は十、前者は入地中以下、後者は天地際にある。

第一、先就乎——相見れば直ちに問はんとする。人間の三千七百五十歳を一日として萬歳の壽命あり。第二、居處停略——大火中に在つて問ふ。人間の七千五百歳を一日として二萬歳の長壽を有す。第三、桑居都——火中に在つて熱きこと言ふべからず。人間の萬五千歳を一日として四萬歳の長壽あり。第四、樓——城中に入れば燒鐵の如く熱く肌盡く爛れる。人間の三萬歳を一日として八萬歳の大壽あり。第五、旁卒——火に滿ちたる大深浴中に鐵杖を持ちたる守翠者の爲めに追ひ込まれ、身は燒燃せられる。人間の六萬歳を一日として十六萬歳の長壽あり。第六、草鳥車次——火にて滿てる高廣なる城内に入れられ鐵を以て覆はれる。人間の十二萬歳を一日として三十二萬歳の長壽あつて苦しめられる。第七、都意難且——燒きたる大鐵を以て貫いて内に入れられ、出でんとすれば門は閉ぢて無量數の間苦を受く。人間の二十四萬歳を一日として六十四萬歳の長壽なり。第八、不慮都殺乎——地盡く火である。息をすることが出来ず、燻煙して苦しきこと他の聖に萬倍する。人間の四十八萬歳を一日として百二十八萬歳の長壽である。第九、烏窠都——寒きこと言ふべからず、身は盡く凍結する。その壽命に至つては芥種百二十八斛

を百歳に一粒づ、去つてそれが盡きても猶壽は盡きない。第十、毘盧都——二百五十六斛の芥種を百歳に一貫づ、去つてこれが盡きても壽は盡きぬ。第十一、烏略——長壽なること、右の芥種が五百一十二斛となる。第十二、烏滿——千二十四斛の芥種を盡す。第十三、烏蔭——二千四十八斛。第十四、烏呼——四千九十六斛。第十五、須健菓——八千一百九十二斛。第十六、末頭乾直呼——一萬二千三百八十四斛。第十七、風道塵——三萬二千七百六十八斛。第十八、沉莫——六萬五千五百三十六斛の夫々芥種を盡して猶餘りある。

かくの如き泥掣に一度落ちたるものと雖も善を行ふこと多く、惡を行ふこと少いならば出づることを得、その反對ならば益々深く入るのである。故に佛道は必ず知らなければならぬのである。(三好庵)

十八難經 ①(日)Ja-hachi-nan-kyo. (支)Shih-pa-nan-king. ①一冊 ②(失譯) ③(參考)出三藏記第四、法經錄第四、三寶記第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、内典錄第二、武周錄第一、開元錄第二、第一五、貞元錄第三、第二五

十八日觀音供 ①(日)Ja-hachi-ni-chi-kyan-on-ku. ①一冊 ②存 ③大日本傳教全書第四七卷抄之内 ④(康治二)建曆二觀 A. D. 1143-1212) ⑤(支)Shih-pa-nan-king. ①一冊 ②(寶龜院) ③(寶龜院) ④(寶龜院) ⑤(寶龜院)

十八日觀音夜宿夜居法 ①(日)Ja-hachi-ni-chi-kyan-on-ku-ya-shu-ya-ku-ho. ①一冊 ②存 ③(寶龜院) ④(寶龜院) ⑤(寶龜院)

①(安然(承和八)延喜年間 A. D. 841-901) ②(參考)本朝台祖撰述密部書目

十八秘抄都會壇天法 ①(日)Ja-hachi-hi-shu-e-dan-ten-po. ①一冊 ②(安然(承和八)延喜年間 A. D. 841-901) ③(參考)山家祖傳撰述密部書目、密乘撰述目録、諸宗章疏錄第二

十八臂陀羅尼經 ①(日)Ja-hachi-pa-da-ra-ni-kyo. (支)Shih-pa-pa-da-ra-ni-king. ①一冊 ②存 ③大正二〇・五〇七 No. 1118. 縮成八、二一五・五、北559號、南1235號、元1235號、明北888號、清888號、麗341號、天1233號、法1235號、至725年、明南911號、No. 893 ④宋法賢(一咸平四 A. D. 1001)譯

①(世尊、阿難に告げて曰く、世間の衆生は實智に昧く三界に輪廻して苦本を知らず。志に身口意の四重罪を造る。是の如きの人は深く悔懺すべし。我に十八臂陀羅尼あり。若し此の陀羅尼を常に誦するものあらば、所作の根本罪業皆悉く除滅し、復能く無量功德を積集す。とあり、以下十八臂陀羅尼を説く。大正藏經の一頁の三分の一餘の短き經典である。(神林隆澤)

十八不共品經 ①(日)Ja-hachi-ta-ga-bon-kyo. (支)Shih-pa-pa-kang-pin-ching. ①一冊 ②大集經寶女品抄出。 ③(參考)法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

十八部論 ①(日)Ja-hachi-bu-ron. (支)Shih-pa-pa-lun. (支)Samaya-bhedo-paracana-takra. (藏)Gahni-lugs kylo-ye-brag blood-pahi khor-to ①一冊 ②存 ③大正四九・一七 No. 2033. 縮寫四、二二五・四、北977號、南993號、元999號、明北1277號、清1277號、麗883號、天982號、指976號、法967號、至1426號、明南1432號、No. 1234

①本論は部執異論と共に、異部宗輪論の異譯であつて、小乗部派の分派の次第本論初分の文殊師利並に部派所執の教理を明したもので、經によれば大衆部より七部、上座部より十一部派を派出し、枝末部派數合して十八部と成ることから十八部論の名が存するG.P.である。

本論の組織は二部を合集したもので、前分は文殊師利問經卷下の分別部品第十五にして、その後分に羅什法師集としてのこの論を附加し、その前分に於て佛文殊師利に摩訶衍經(大乘・體思願(上座)の根本分派、並に諸部派の分派次第、その年代を明し、次に後分の本論に於て、分派の因縁、次第、その年代を叙し、更に各部派の教理、その末派の教理を叙したものである。

本論によれば摩訶衍部即ち大衆部より第一次に多聞、第三次に施設論、第四次に支提伽・佛婆羅・熱多羅羅羅の三部合して八部の派生を見本末合して九部、上座部より第一次に薩婆多・雪山の二部、第二次に薩婆多部よりの犍子部、第三次に犍子部より建摩

名所行録◎(名庫書)表題所現◎月年の刊寫◎(書考)書題註◎書玉◎説解存内◎代年作著◎表書◎缺存◎數巻◎(名書)名題◎説略字軌

觀多梨・陀陀羅尼・彌羅・六城部派出し、第四次に薩婆多部より彌沙部、第五次に彌沙部より、曇無德部、第六次に薩婆多部より優婆塞沙又は迦葉惟部、第七次に修多羅、論部の十一部本合して十二部となる。(異部宗輪論・部執異論並に本論の部派分裂の對照については林・平松共譯邦譯マハヅンヲ附録、及び木村・千高共譯國譯異部宗輪論附録「結集分派史考」を見よ。)元來本論は宗輪論と共に説一切有部の分派並に有部を標準として、諸部派の教理を叙したものであるから、北傳の本論等による部派分裂の次第年時を以て直ちに歴史的事實と連断すべものではなく、南傳資料と比較對照の上になる総合的研究によつて始めて、正鵠を得るものであつて、これらの考證、並にその所説の南北資料對照の結果に成る部派の教系については拙譯邦譯カタマヅツトウ上巻解題を見よ。

- 一八九・三三) 十八羅漢圖讚 (日)Ja-lachh-rā-kān-pā-sān (支)Shih-pu-to-han-p'a-sān. ①卷 ②存 ③蘇東坡(一建中增國元A. D. 1101)撰、王彦州註 ④貞享四刊 ⑤龍大・研史(曹、あ・一・左・二七)(京大、一・二一・一・二二)
- 十八龍王神呪經 (日)Jo-hachi-ryō-ō-jin-shū-kyō. (支)Shih-pa-lang-wang-shū-shū-chūng. ①卷 ②存 ③東晉竺曇無蘭(一太元六二〇 A. D. 381-395)譯 ④(參考) 出三藏記第四、法苑珠第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第二、貞元錄第二、四
- 十善業道經 (日)Jo-ju-shū-ō-dō-kyō. (支)Shih-pu-shan-yeh-tō-ching. (梵)Daśakusala-karma-pāthā-ni-dēśa. (藏)Dā-ge-ba bcang las kyi lam ban-pa. ①卷 ②存 ③大正一七四四廿 No. 727. 縮讀八、二六六・九、明北 1372年、清1372年、麗1317年、日、1379
- 十不善業道經 (日)Jo-ju-shū-ō-dō-kyō. (支)Shih-pu-shan-yeh-tō-ching. (梵)Daśakusala-karma-pāthā-ni-dēśa. (藏)Dā-ge-ba bcang las kyi lam ban-pa. ①卷 ②存 ③大正一七四四廿 No. 727. 縮讀八、二六六・九、明北 1372年、清1372年、麗1317年、日、1379

三十三箇第三十九番と九十四箇第二十三番とに重出せられてある「Journal asiatique, Tome CCXV, 1929 Oct.-Dec. pp. 268-271参照。(標本文録)

十不同御作並法花密號 (日)Ja-fu-dō-gyō-saku-narabini-hok-ke-nai-tsu-gō. ①帖 ②存 ③徳川時代寫 (寶龜院)

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

を六祖荆溪湛然が註釋し、これを「釋籤」と名けた。この「釋籤」の内て迷門十妙の註が終りに本門十妙の解釋に移る中間に於いて、十ヶの不二門を立て本述不二、教觀一如、解行雙修の義を述べて天台宗義の大綱を論じたものが本書である。本書は近頃は「法華玄義釋籤會本」七上ノ二三右以下七紙に記されて居るから古來の傳説は確實である。本書は「釋籤」から抄されたものであることは疑ひはないが、誰が何年に別行したかといふことは全く不明。荆溪湛然は「法華文句記」(八ノ一七右)に「具如不二門説こと記してあるから或は荆溪自ら別行したかも知れない。乍然荆溪門下の者が荆溪後別行したと見えが正しからう。その事は一には傳教大師將來目錄の台州録に「十不二門義一卷」とあり、又同越州録には「十不二門義一卷」とあり、智證大師將來目錄には「十不二門義一卷、妙樂」とあること、二には「指要鈔詳解」(上本一八右)には「孤山智圓の十不二門正義の文を引用して「行滿法師の涅槃記には法華文句十不二門と指稱してある」とあるから、彼前後に別行したといふ考は充分である。本書の名稱には「十不二門(指要鈔)」。十不二門(義)久元年寫の心性本)。十不二門論(玄義略要)。法華本述十不二門(註十不二門)。法華十妙不二門(示珠指)等の異説があるが、一般には「十不二門」と稱呼されてゐる。本書の述作の主意は一には妙行を成せしめんがために要略した文章を以つて三大部の大要を示し、二には妙行を成せしめんが爲めに

簡易に一家天台の修行を示し、諸種の修行の複雜で實修し難いとの感じを懐かしめなうように工夫して作つたのである。即ち「易通入難」以て略顯の廣、爲成「妙行」以「易通入難」のである。これを要するに教觀雙修解行一致の旨を明らかにせんと企てたものである。何故に是くの如き述作が必要であるかといふは、法華玄義法華文句は主として教義を説き摩訶止觀は主として修行を述ぶ。即ち玄義文句は教正觀修、止觀は觀正教修である。特に玄義は本述二十妙等の義を以つて佛教教義を縱横に説き、其理趣愈多岐に走り、遂に理論建設のために法華經を講述してゐるかの如くに思はるるに至る。荆溪自ら玄義を註解して此感を抱いた。荆溪の考ふる如くであれば玄義の眞意は教義の眞傳を示さんとしたものではなく、巧妙なる原理を買いた實談であつたのだと。この觀點に立脚して色心等の十門を列ね、門々の下で三十三箇の要旨を明し、教門を表に掲げながら實は觀門の本義を確立したものである。かく玄義と止觀との綜合統一を企てたものが本書である。これが同時に本書著作の主意である。若し玄義と止觀とが天台大師の佛教概論であるとすれば、本書は玄義止觀の總論であり、結論であると云へる。更に換言すれば印度佛教即ち翻譯佛教を支那佛教に改造したものが玄義と止觀とであり、支那佛教を總括したものが本書である。本書は初めに著作の意を叙べ次に十門を立て教觀相表の宗趣を彰し次に十門の意義を説く、十門とは色心

- 不二門。内外不二門。修性不二門。因果不二門。染淨不二門。依正不二門。自他不二門。三業不二門。權實不二門。受潤不二門である。この門々に於いて相持的關係に立つるの二の原理を知ることが直ちに一念三千一心三觀の實修實踐であることを述べ、又この十門は一々本述十妙の名稱を變更して名けたものであり、十門は十妙の異名であると述べてゐる。これを要するに本書は玄義と止觀との綜合であり、本述十妙と十門に結合したものであり、妙解即妙行を示したものである。(田島傳音)
- 十不三義 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③梅田謙敬 大正三刊 ④龍大、二六五・一・四(中)
- 十不三義 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③大正四六・七〇一 No. 1927 縮讀一〇・三三三・七・記讀二・五・一、明北 1574 起、清 1533 年、明南 1569 年、日、1591 年、唐 1574 年、景雲二一建中三 A. D. 711-783 述
- 十不三義 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③大正四六・七〇一 No. 1927 縮讀一〇・三三三・七・記讀二・五・一、明北 1574 起、清 1533 年、明南 1569 年、日、1591 年、唐 1574 年、景雲二一建中三 A. D. 711-783 述

と云ふ。「十不二門」の解説参照。

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

十不三義集 (日)Jip-pu-ni-gi-shū. ①卷 ②存 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)

十不二門玄談 (日)Jip-pu-ni-mon-zen-dan. ①卷 ②存 ③寫本 (谷大、餘大、三七〇四)

十不二門講義 (日)Jip-pu-ni-mon-kyō-gi. ①卷 ②存 ③島地大等 (明治八一昭和二 A. D. 1875-1927) 著

十不二門私見聞 (日)Jip-pu-ni-mon-shi-ken-mon. ①卷 ②存 ③寫本 (明治四一刊) (龍大、研佛)

十不二門指要鈔 (日)Jip-pu-ni-mon-shi-yō-shō. (支)Shih-pu-erh-men-chih-yao-ch'iao. 指要鈔 ②卷 ③存 ④大正四六・七〇四 No. 1928 縮讀一〇・三三三・七、明北 1576 起、明南 1569 年、日、1582 年、知禮(建隆元一天聖六 A. D. 960-1028) 述 ⑤景德元(A. D. 1004)正月九日

本書は趙宋時代に山家山外の論争が「金光明玄義」の廣略問題から起り七年の長きに涉つた。此の頃山外の源清は「十不二門示珠指」を、宗昱は「註不二門」を作つた。この二書を山家の四明知證が閱讀した所、二書の所立全く四明知證に背反してゐたから、四明は景德元年自己の所見を記し二書の説を反駁し、安心觀、兩重龍所、理具事造、別理隨緣等に就いて自説を主張し

【シ】

shaku-ri-roku. ⑫二卷 ⑬存 ⑭蓮門記 ⑮寫本(立大、A二・四五)(谷大長保・一三三)

十不三門指要鈔詳解選覽 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-sen-yoku. ②二卷 ③存 ④風澤(承應三元文三) A. D. 1651-1739) ⑤享保五刊(龍大研佛)(正大、一三五・四三・四五)(立大、A二・四四)(谷大、四〇・四五)(高、大、一・一五)(京大、一・二四・一八)享保二二刊(高、大、一・一五)安永五刊(谷大、大、一・二九七)

十不三門指要鈔詳解評 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-hyo. ①一卷 ②存 ③元隆堂(承應元一元文四 A. D. 1659-1739) ④寫本(谷大、大・二〇三三)

十不三門指要鈔詳解辨 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ben-kwa. ①一卷 ②存 ③元隆堂(承應元一元文四 A. D. 1653-1739) ④正徳三寫 ⑤(谷大、長保・一三六)

十不三門指要鈔詳解聞記 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-mon-ki. ②二卷 ③存 ④寫本(龍大、二六五・一七六)

十不三門指要鈔精義 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ki. ①一卷 ②存 ③上田照通(文政一一一明治四〇 A. D. 1838-1907) ④明治二八刊 ⑤(正大・一三五・五九)(高、大、一・一八)

十不三門指要鈔續讀 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ki. ②二卷 ③存 ④寫本(龍大、二六五・一七六)

⑤存 ⑥日蓮(延寶二一延享四 A. D. 1571-1747) ⑦寛文三刊 ⑧(龍大、二六五・一七六)

十不三門文理 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ki. ①一卷 ②存 ③(参考)寛政頃 A. D. 1789-1800) ④(参考)山家祖傳撰述諸目集巻下 ⑤刊本(龍大、二六五・一七六)(立大、A二・一七六)(正大・一三五・五九)寫本(谷大、長保・一七六)

十不三門譯註 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ki. ①一卷 ②存 ③(参考)安永九一文久二 A. D. 1790-1863) ④多田孝泉校 ⑤明治九刊 ⑥(立大、A二・一七六)寫本(谷大、長保・一七六)

十不三門論議 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-ki. ①一卷 ②存 ③(参考)源成記 ④(参考)源成記 ⑤(参考)源成記 ⑥(参考)源成記 ⑦(参考)源成記 ⑧(参考)源成記 ⑨(参考)源成記 ⑩(参考)源成記 ⑪(参考)源成記 ⑫(参考)源成記 ⑬(参考)源成記 ⑭(参考)源成記 ⑮(参考)源成記 ⑯(参考)源成記 ⑰(参考)源成記 ⑱(参考)源成記 ⑲(参考)源成記 ⑳(参考)源成記 ㉑(参考)源成記 ㉒(参考)源成記 ㉓(参考)源成記 ㉔(参考)源成記 ㉕(参考)源成記 ㉖(参考)源成記 ㉗(参考)源成記 ㉘(参考)源成記 ㉙(参考)源成記 ㉚(参考)源成記 ㉛(参考)源成記 ㉜(参考)源成記 ㉝(参考)源成記 ㉞(参考)源成記 ㉟(参考)源成記 ㊱(参考)源成記 ㊲(参考)源成記 ㊳(参考)源成記 ㊴(参考)源成記 ㊵(参考)源成記 ㊶(参考)源成記 ㊷(参考)源成記 ㊸(参考)源成記 ㊹(参考)源成記 ㊺(参考)源成記 ㊻(参考)源成記 ㊼(参考)源成記 ㊽(参考)源成記 ㊾(参考)源成記 ㊿(参考)源成記

【シ】

①(一)道三 A. D. 996) ②法華十妙不三門示珠指の下の見よ。③正保三刊 ④(立大、A二・一七六)

十不三門心解 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-hsin-kan. ①一卷 ②存 ③(参考)源成記 ④(参考)源成記 ⑤(参考)源成記 ⑥(参考)源成記 ⑦(参考)源成記 ⑧(参考)源成記 ⑨(参考)源成記 ⑩(参考)源成記 ⑪(参考)源成記 ⑫(参考)源成記 ⑬(参考)源成記 ⑭(参考)源成記 ⑮(参考)源成記 ⑯(参考)源成記 ⑰(参考)源成記 ⑱(参考)源成記 ⑲(参考)源成記 ⑳(参考)源成記 ㉑(参考)源成記 ㉒(参考)源成記 ㉓(参考)源成記 ㉔(参考)源成記 ㉕(参考)源成記 ㉖(参考)源成記 ㉗(参考)源成記 ㉘(参考)源成記 ㉙(参考)源成記 ㉚(参考)源成記 ㉛(参考)源成記 ㉜(参考)源成記 ㉝(参考)源成記 ㉞(参考)源成記 ㉟(参考)源成記 ㊱(参考)源成記 ㊲(参考)源成記 ㊳(参考)源成記 ㊴(参考)源成記 ㊵(参考)源成記 ㊶(参考)源成記 ㊷(参考)源成記 ㊸(参考)源成記 ㊹(参考)源成記 ㊺(参考)源成記 ㊻(参考)源成記 ㊼(参考)源成記 ㊽(参考)源成記 ㊾(参考)源成記 ㊿(参考)源成記

十不三門心解私抄 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-hsin-kan-shi-sho. ①一卷 ②存 ③(参考)源成記 ④(参考)源成記 ⑤(参考)源成記 ⑥(参考)源成記 ⑦(参考)源成記 ⑧(参考)源成記 ⑨(参考)源成記 ⑩(参考)源成記 ⑪(参考)源成記 ⑫(参考)源成記 ⑬(参考)源成記 ⑭(参考)源成記 ⑮(参考)源成記 ⑯(参考)源成記 ⑰(参考)源成記 ⑱(参考)源成記 ⑲(参考)源成記 ⑳(参考)源成記 ㉑(参考)源成記 ㉒(参考)源成記 ㉓(参考)源成記 ㉔(参考)源成記 ㉕(参考)源成記 ㉖(参考)源成記 ㉗(参考)源成記 ㉘(参考)源成記 ㉙(参考)源成記 ㉚(参考)源成記 ㉛(参考)源成記 ㉜(参考)源成記 ㉝(参考)源成記 ㉞(参考)源成記 ㉟(参考)源成記 ㊱(参考)源成記 ㊲(参考)源成記 ㊳(参考)源成記 ㊴(参考)源成記 ㊵(参考)源成記 ㊶(参考)源成記 ㊷(参考)源成記 ㊸(参考)源成記 ㊹(参考)源成記 ㊺(参考)源成記 ㊻(参考)源成記 ㊼(参考)源成記 ㊽(参考)源成記 ㊾(参考)源成記 ㊿(参考)源成記

十不三門文心解要文 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-hsin-kan-yo-wen. ①一卷 ②存 ③(参考)源成記 ④(参考)源成記 ⑤(参考)源成記 ⑥(参考)源成記 ⑦(参考)源成記 ⑧(参考)源成記 ⑨(参考)源成記 ⑩(参考)源成記 ⑪(参考)源成記 ⑫(参考)源成記 ⑬(参考)源成記 ⑭(参考)源成記 ⑮(参考)源成記 ⑯(参考)源成記 ⑰(参考)源成記 ⑱(参考)源成記 ⑲(参考)源成記 ⑳(参考)源成記 ㉑(参考)源成記 ㉒(参考)源成記 ㉓(参考)源成記 ㉔(参考)源成記 ㉕(参考)源成記 ㉖(参考)源成記 ㉗(参考)源成記 ㉘(参考)源成記 ㉙(参考)源成記 ㉚(参考)源成記 ㉛(参考)源成記 ㉜(参考)源成記 ㉝(参考)源成記 ㉞(参考)源成記 ㉟(参考)源成記 ㊱(参考)源成記 ㊲(参考)源成記 ㊳(参考)源成記 ㊴(参考)源成記 ㊵(参考)源成記 ㊶(参考)源成記 ㊷(参考)源成記 ㊸(参考)源成記 ㊹(参考)源成記 ㊺(参考)源成記 ㊻(参考)源成記 ㊼(参考)源成記 ㊽(参考)源成記 ㊾(参考)源成記 ㊿(参考)源成記

十不三門文心解要文 ①(B)Jip-pu-ni-mom-shi-yo-sho-sho-sho-ge-hsin-kan-yo-wen. ①一卷 ②存 ③(参考)源成記 ④(参考)源成記 ⑤(参考)源成記 ⑥(参考)源成記 ⑦(参考)源成記 ⑧(参考)源成記 ⑨(参考)源成記 ⑩(参考)源成記 ⑪(参考)源成記 ⑫(参考)源成記 ⑬(参考)源成記 ⑭(参考)源成記 ⑮(参考)源成記 ⑯(参考)源成記 ⑰(参考)源成記 ⑱(参考)源成記 ⑲(参考)源成記 ⑳(参考)源成記 ㉑(参考)源成記 ㉒(参考)源成記 ㉓(参考)源成記 ㉔(参考)源成記 ㉕(参考)源成記 ㉖(参考)源成記 ㉗(参考)源成記 ㉘(参考)源成記 ㉙(参考)源成記 ㉚(参考)源成記 ㉛(参考)源成記 ㉜(参考)源成記 ㉝(参考)源成記 ㉞(参考)源成記 ㉟(参考)源成記 ㊱(参考)源成記 ㊲(参考)源成記 ㊳(参考)源成記 ㊴(参考)源成記 ㊵(参考)源成記 ㊶(参考)源成記 ㊷(参考)源成記 ㊸(参考)源成記 ㊹(参考)源成記 ㊺(参考)源成記 ㊻(参考)源成記 ㊼(参考)源成記 ㊽(参考)源成記 ㊾(参考)源成記 ㊿(参考)源成記

【シ】

以下百五十佛を説き、(北方)この佛名をきいて信樂して疑はば十方各恒河沙の佛を見、善知識に遇つて深法忍を獲、所生の處常に人尊と爲るとして北方人王佛以下百五十佛を出し(東北方)この諸佛の名をきき、歡喜信樂する者の所得の功德は一切の布施に勝れ、諸佛の國土に隨意に往生することを得るとして東北方一切閻提長佛以下百五十佛を列し、(上方)此の佛名をきく者は在々所生、身に三十二相を離るゝことがなし。本諸佛國土に往生するを得るとして上方華嚴日王佛以下百五十佛を擧げ、(下方)此の佛名をきいて至心に受持燒香敬禮する者は、所生の處に普光三昧を得、命終の時は億百千億諸佛住前し而も十方何れも然るを見ることが出来るとして下方明佛以下百五十佛を出してゐる。

さて以上の中で東方及び東南方を缺してゐるわけであるが、前述せる如く最初の方が散逸してゐる部分に缺字を含み、二十佛の名號が残してゐる。これは東南方の佛名であつて、その前に東方があつたもので、散逸せる部分は明らかに東方東南方の佛名で、これで十方を完全に具してゐたのである。(三好真撰)

十方佛決狐疑經 ①(日)Jip-pō-butsu-kekkō-gi-kyō. (支)Shih-lang-fō-chieh-hui-ching. ①卷 ②存 ③疑 ④(支)法華經第二、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

十方佛名經 ①(日)Jip-pō-butsu-myo-gyō. (支)Shih-lang-fō-ming-ching. ①卷 ②存 ③疑 ④(支)西晉竺法護(一太始二建興元A.D. 266-313)譯 ⑤(支)三藏記第四、法華經第二、三寶記第四、第七、仁壽錄第三、靜泰錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一一、開元錄第五、第一四、貞元錄第八、第二四

十方菩薩品 ①(日)Jip-pō-bo-satsu-hon. (支)Shih-lang-p'u-sa-p'in. 明度五十校計經 ②二卷 ③存 ④大方等大集經第五九一六〇(大正一三・三九四 No. 397.17)之内 ①那連提那合譯 ②高齊太建九一開皇五(A.D. 577-585) ③右掲の如く、『大方等大集經』第五九一六〇に收められてゐる。『麗藏』本には、那連提那合譯としてゐるが、『宋』元『明三藏本』では、『後漢天竺(又は安息)三藏法師安世高譯』とあり、かつ經名『佛說明度五十校計經』と記して別行

寫 ①(立大、D.O.三三) ②(日)Jip-pō-kai-shō-shi. ③存 ④寫本(立大、D.O.一五八)

【シ】

ても原文であり、善觀も眞の成佛は出来な(以上權實相對)。然るに法華經に於ても法門は佛の久遠實成が顯はれず佛界の常住が説かれてゐるから十界互具一念三千の教理も其の意を盡さず眞の成佛は出来な。本門の善量品に於て始めて久遠實成が顯せられ、十界互具一念三千の教理が究竟して、こゝに眞の佛因佛果が明らかとなつたのである。(以上本述相對)故に本門善量品未説以前の經述門には眞の成佛がな六道の出離もなと説いたものである。

十法界明因果鈔 ①(日)Jip-pō-kai-myō-in-gwa-shō. 十界明因果鈔、十界因果鈔 ①一卷 ②存 ③縮寫一〇、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第四、祖書要津之内 ④日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1223-1282) ⑤文應元(A. D. 1260) ⑥問答體を以て、初めに十界の因果と果とを經文によつて詳述し、次に戒法を論じ、法華經の戒に相持妙の戒、絕對妙の戒とあり、法華經の絕對妙の戒によつて、二乘七道等の如き他經に於て受戒を許されぬ者を受戒成佛する法はないと説いたものである。書名は初めの十界の因果を明すところに就いて名づけたのであるが、述作の動機は最後の絕對妙戒にあることは言ふまでもない。

十法界成就惡業入地獄經 ①(日)Jip-pō-jū-aku-gō-nyū-jū-gok-kyō. (支)Shih-lang-cheng-chia-eh-yeh-jū-ti-yū-chia-ning. ①卷 ②存 ③疑 ④(支)阿含經第三十七卷の抄出。 ⑤(支)三藏記第四、法華經第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第三、貞元錄第四

十法界私記 ①(日)Jip-pō-kai-shō-shi. ①卷 ②存 ③日蓮記 ④享保二一(一〇一) ⑤(支)同光坊仁裏 ⑥(支)本朝台祖撰述密部書目

名所行録 ①(名庫書)高麗所撰 ②月年の刊寫 ③(書考參書釋註)書末 ④説解存内 ⑤代年作書 ⑥書寫 ⑦録存 ⑧數卷 ⑨(名書)名題 ⑩聖略字數

名所行録 ①(名庫書)高麗所撰 ②月年の刊寫 ③(書考參書釋註)書末 ④説解存内 ⑤代年作書 ⑥書寫 ⑦録存 ⑧數卷 ⑨(名書)名題 ⑩聖略字數

1173—1232 説貞永元、年六一、説撰 ④ 四座調式の下を見よ。⑦(参考) 諸宗章疏録第二

十夢經 ①(日)Ja-ma-egō(支)Shih-meng-ching. ②一巻 ③失譯 ④(参考) 出三藏記第三

十門辨惑論 ①(日)Ja-mon-ben-waku-ron. (支)Shih-mun-pien-huo-lun. ②三巻成二巻 ③存、大正五二・五五1 No. 2111、新譯八、三三〇・五、北1081 既、南1097 既、元1099 既、明南1491 既、清1491 既、麗1086 既、天1080 既、指1039 既、法1067 既、至1557 約法、明南1473 既、Nj. 1498 ④復説述 ⑤唐永隆二(A. D. 681)十月一日

⑥この書は原本には上中下三巻に分ける。然るに宋元明三本は通して一巻とする。唐沙門復説が、太子文學權無二の釋典に於ける十門の釋疑に答へたものである。即ち十門とは、通力上感門、應形化門、淨識土別門、迷悟見殊門、顯實得記門、反經遺道門、觀緣救捨門、隨教抑揚門、化佛應顯門、聖王興替門がこれである。權無二は復説に弟子の禮を以て交り、その釋疑から察すれば佛典に對する見解は小乘的ではあるが相當な學識を持ち、本備典に就ても可成りに深い造詣を持つて居た。乃ち復説はこれが善を辨するに、その所説の中に、或は佛典を擧げ、本備言を引き、以て速類として所説の根據となした。然れども備言を引いたのは直ちに以て佛佛の同一を意味するものではなく、唯々その時々々の連類とするに過ぎない。扱て各門の要領を記すれば次の如くである。

〔通力上感門〕 維摩の神力不思議なのは、維摩は法身の居士なるがためである。〔應形化門〕 龍女が成佛して、然も文殊が成佛しないのは如何とならば、龍女は五道に違ふも、位十地を充らし、文殊は菩薩なるも、實はこれ如来なるがためである。〔淨土彌土別門〕 法華經を説くの時を五十小劫と言ひながら、釋迦の説法は四十餘年、正法五百(千年)像法千年等言ふは、後者は彌土の化身に就てであり、前者は淨土の報身に就てである。〔迷悟見殊門〕 法華經に神光遙照、他界、涅槃經に寶蓋廣覆、六千、と言ひ、然も人々は無緣にして見る事能はざるは如何とならば、若し覺悟に廣きも體離は難に遊んで見ず、白日宣し明かなるも、仙風は晝伏して見ざるが如く、見不見は人の迷悟による。〔顯實得記門〕 提婆は佛弟にして闍王に勸めて佛を書して尙天王如来となり、善星は佛子にして罪提婆より輕くして生かながら地獄に入ると如何とならば、これ大小權實を示すものである。〔反經遺道門〕 提婆が後に如来となつたらば、則ちこれ善惡でなければならぬ。菩薩にして然も人に勸めて父を書せしめたのは如何、若し善が書に合ふならば、闍王は自害すべきである。業が非善にあるならば、菩薩の書せしめたのは如何。これ即ち聖人の道に順違がある爲である。〔觀緣救捨門〕 須菩提羅王は首として佛を供養した。その圖せられて未だ死せざる時、佛は

大悲神力を以てこれを救はざるは如何。凡そ此業である。業の感報に三時あり不同である。〔隨教抑揚門〕 涅槃經に涅槃によらざれば成佛し難しとて、般若、法華を輕んずるは如何。時に隨つて義は消滅するが故に、其の常を守る事は出来ない。唯、病に隨つて藥を投ぐるのみである。〔化佛應顯門〕 二月十五日、佛將に涅槃せんと言ひ、却つて後三月、聖衆佛を勸請すと記せらる。滅時の時日は果して如何。涅槃には始終がない。故に時日が無いのである。〔聖王興替門〕 轉輪聖王四天を化すと言ひ、又法華を説く時、輪王稱絶すと言ふも、未だ、金輪の東轉するを見ない。然も輪王の現るゝに中夏の帝皇と異るは如何。中夏に聖王のあるは、金輪が屢々東轉せるを示すものである。

以上十門。復説はこれを權無二に與つて言ふ。「言は意に出づる所以なれども、意にあらず。跡は本を明す所以なれども本に非ず。大聖の教は跡淺くして本深し。この故に一面を以て見る事は出来ない」と。權文學はこの論を見、百年の疑、一朝頓に盡きたりと言ふ。

⑦延寶五寫(谷大、餘大、三〇一五)刊本(正大一、三五・七、(智、え、六、右八))

十門辨惑論纂述 ①(日)Ja-mon-ben-waku-ron-san-jutsu. ②二巻 ③存 ④風雲(一頁保元 A. D. 1741)述 ⑤實保二刊 ⑥龍大(二八・三三〇)(正大、一三・五・一〇)(智、え、五、中・二〇)

十門和評論 ①(日)Ja-mon-wa-pi-ron. (支)Shih-mun-ho-chang-lun. ②二巻 ③新羅元興(眞平王三九 A. D. 617)述 ④(参考) 新編諸宗章疏録第三、東城傳燈目錄卷下、諸宗章疏録第一

十夜念佛緣起 ①(日)Ja-ya-nem-butsu-en-gi. ②註十夜念佛緣起 ③一巻 ④存 ⑤天和二刊 ⑥谷大、宗大、一五〇三)(高大、一・一八)(正大、一〇八・八四)

十夜念佛發願由來根元記 ①(日)Ja-ya-nem-butsu-hotsu-gwan-ya-fal-kon-gen-ki. ②三巻 ③存 ④空無述 ⑤享保五刊 ⑥(龍大)

十要第一述註 ①(日)Ja-yo-dai-i-chi-tac-shu. ②一巻 ③存 ④(正大、一五三二・六六)

十樣論 ①(日)Ja-yo-kin. ②一巻 ③存 ④宗海記 ⑤(参考) 釋尊目錄

十羅刹 ①(日)Ja-ro-shaku. ②一巻 ③存、大日本佛教全書第四〇阿婆羅刹抄之内 ④承慶(元久二一弘安五 A. D. 1205—1282)撰

十樂歡喜辨 ①(日)Ja-raku-kwan-gi-ben. ②三巻 ③存 ④信美述 ⑤安永九刊 ⑥龍大(一・五五・六二)

十樂講作法 ①(日)Ja-raku-ko-e-

ha. ①一巻 ②源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)述 ③(参考) 淨土眞宗教典志第一、淨土依憑經論章疏目錄

十樂手鏡 ①(日)Ja-raku-te-kagami. ②二巻 ③存 ④寶曆新撰十樂手鏡 ⑤二巻 ⑥存 ⑦壽忍(寶永二—天明六 A. D. 1705—1786)述 ⑧寶曆一〇刊 ⑨(高大、寄・一・一八)(京大、一・二六・五五)

十樂和讃 ①(日)Ja-raku-wa-san. ②存、惠心僧都全集第一 ③源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)

④本書は十樂講に唱詠した和讃であらう。「惠心御作」と作者名を記してあるが恐らくは後人の作。十樂とは第一聖衆來迎樂、第二蓮華初開樂、第三身相神通樂、第四五妙境界樂、第五快樂無退樂、第六引接結緣樂、第七聖衆俱會樂、第八見佛開法樂、第九隨心供佛樂、第十智遊佛道をさふ。この十樂は往生要集上之本の欣求淨土の章に記してある十樂と其の名稱が同一。この故に本歌を惠心作と傳へるのべからう。

⑤(参考) 淨土依憑經論章疏目錄 (田島徳香)

十力經 ①(日)Ja-rikk-kyō. (支)Shih-ji-ching. ②一巻 ③存、大正一七・一五 No. 780、縮一五、續三二・三、一、縮1412合 ④唐代勿提々摩魚譯

⑤本經は佛が諸の志智等の爲めに如来の十種大智力を具すことを説けるもので、施護等譯の『佛十力經』とは同本である。十智力とは第一處非處智力、第二業異熟智力、第三智應解脫等持智力、第四根上下智力、第

五種々樂欲勝解判別智力、第六種々諸界智力、第七遍遊行智力、第八宿住智力、第九死生智力、第十攝盡智力で、如来はこの十力を具するを以て如来應正等覺と名づることを得、又能く無上清淨梵輪を轉ずることを得るのである。本經には序として本文の二倍もの長さを有する「大唐貞元新譯十地等經」と云ふのが有る。これは沙門悟空が、「十地經」題向輪經」と共に本「經」傳來の有様を述べてある。〔悟空入竺記(參照)〕

十輪義記 ①(日)Ja-rin-gi-ki. ②八巻 ③(参考) 東城傳燈目錄卷上

十輪經依義立名 ①(日)Ja-rin-gyō-e-gi-ryō-myōki. (支)Shih-lan-chang-i-ti-h-ming. ②三巻 ③隋信行(興和三—開皇一四 A. D. 541—594)撰 ④(参考) 東城傳燈目錄卷上

十輪經音義 ①(日)Ja-rin-gyō-on-gi. (支)Shih-lan-ching-yin-i. ②一巻 ③(支)Shih-lan-ching-yin-i. ④一巻 ⑤(参考) 東城傳燈目錄卷上

十輪經疏 ①(日)Ja-rin-gyō-shū. (支)Shih-lan-ching-shū. ②十巻 ③八巻 ④(参考) 東城傳燈目錄卷上

十輪經抄 ①(日)Ja-rin-gyō-shō. (支)Shih-lan-ching-shō. ②三巻 ③(参考) 東城傳燈目錄卷上

十六箇條義決宗要 ①(日)Ja-rok-ka-jō-keisa-shū-yō. ②一巻 ③存 ④慈觀述 ⑤寫本(正大、一五五四・六四)

十六箇條疑問 ①(日)Ja-rok-ka-jō-gimon. ②淨土十六箇條疑問答、十六箇條疑問答 ③一巻 ④存、淨土宗全書第一 ⑤良辨(延應元—正和後 A. D. 1239—1314)撰 ⑥寫本(正大、一五五四・六〇)

十六箇條疑問答見聞 ①(日)Ja-rok-ka-jō-gimon-dō-kenmon. ②四巻 ③存、續淨土宗全書第一 ④良榮理本(康永元—正長元 A. D. 1342—1428)撰 ⑤應永七(A. D. 1400)十一月

⑥本書は名越堂の著十六箇條疑問答及附録五箇條を註釋したるもの。卷首に當流と異義との稱呼に就いて説明し、黒谷上人の弟子中、流義を立つる者は隆寛、善慧、長西、辨阿の四人にして辨阿の撰西流を當流と云ひ、十六箇條の立義に背く者を異義とし、善導寺派(名越派)は正義、白旗派は異議なりとして十六箇條に對する是非を論じて居る。その説明細微に亘り、實に名越の教義を祖述するのみでなく、藤田、三條、一條等の教義をも述べて其相異點を明にしてある。寛文三年五月西村六兵衛梓行本と享保二年慶雲堂本との二本がある。

【シ】

ron-shi-yohi-gen-to-gem-mei-sha. 十論師及支那住持抄集 ①一巻 ②最澄(神護堂元一弘仁三 A. D. 767-822) (参考) 本朝台祖撰述密部書目

十論略抄 ①(B) Jo-ron-ryaku-sho. (支) Shi-tan-hao-ch'ao. ①一巻 ②最澄(参考) 開元録第一八

什慶記 ①(B) Jo-kei-ki. ③三册 ④存 ⑤(首、七、七、左、三)

什師略傳記 ①(B) Jo-shi-ryaku-den-ki. ②二巻 ③存 ④日進述 ⑤安政五刊(正六、一〇三七、三一)明治一八刊(立大、A. O. 八・五六一五七)

什法師付法 ①(B) Jo-ho-shi-fa-ho. (支) Shi-fa-shi-fa-fa. ①一巻 ②(参考) 傳教大師將來越州録

什門三平經 ①(B) Jo-mon-san-kyo. ②一巻 ③存 ④山中良藏 ⑤明治一八刊 ⑥(谷大、餘大、三二七九)

什門三開スル雜記 ①(B) Jo-mon-si-kwan-gu-ra-sak-ki. ①一巻 ③存 ④寫本(立大、D. O. 11111)

什門論義一正疏 ①(B) Jo-mon-ron-gi-sho-sho. ②二巻 ③存 ④寫本(立大、D. O. 11011)原本(身延山)

充治園全集 ①(B) Jo-jo-on-shu. ⑤五巻 ③存 ④日蓮(寛政一一一安政六 A. D. 1800-1859) 秀海編 ⑤大正一一、一三三刊 ⑥東京池上充治園出版會

充治園の靈影 ①(B) Jo-jo-on-no-an-ya. 妙宗圓通記傳界一覽卷 ①一巻 ③存 ④日蓮(寛政一一一安政六 A. D. 1800-1859) 撰 ⑤明治四一刊 ⑥(高六、一・二一六二・七三)

充治園禮講儀記 ①(B) Jo-jo-on-ritsu-gi-ki. ①一巻 ③存 ④日蓮(寛政一一一安政六 A. D. 1800-1859) 撰 ⑤明治三刊 (参考) 法華宗門著述目録 ⑥明治三刊 ⑦(龍大、二六九九・一一)京大、日大未・五八九(立大、A. O. 八・三一九・八三) (首、え、三・右、二八)(高六、寄、一・一七)

住山校合錠 ①(B) Jo-zan-kyo-oki. ①一帖 ③存 ④徳川時代寫 (寶龜院)

住持籍 ①(B) Jo-ju-eki. ③存 ④史籍集第二六册五山記考異之内 ⑤鎌倉五山記考異(附)住持籍解説(項下参照)

住職御禮留記事 ①(B) Jo-shoku-ori-domei-ji. ①六帖 ③存 ④徳川時代寫 (寶龜院)

住職試験五論講解 ①(B) Jo-shoku-shi-ken-go-ron-dai-kyo. ①一巻 ③存 ④(龍江慶了)(明治二九 A. D. 1896) 撰 ⑤明治一〇寫 ⑥(谷大) 1896) 撰 ⑦(龍江慶了)(明治二九 A. D. 1896) 撰 ⑧(龍江慶了)(明治二九 A. D. 1896) 撰

住職試験論題講述 ①(B) Jo-shoku-shi-ken-ron-dai-kyo-jusan. ①一巻 ③存 ④(龍江慶了)(明治二九 A. D. 1896) 撰 ⑤明治八寫 ⑥(谷大)

住心決疑抄 ①(B) Jo-shin-ketsu-gi-sho. ①一巻 ③存 ④大正七七・五二二 No. 2437 ⑤信譽(應徳三)廣治元 A. D. 1086-1142) 撰 ⑥弘法大師所立の十住心の列に於て、第八

一遺無爲心を天台宗、第九種無自性心を華嚴宗に配するにつき、この兩宗の淺深を論じ、第八第九配當の理由を明にし、更に此の兩宗と眞言宗との淺深を論じ、佛身論に於ける顯著兩宗の見解を述べてみる。一篇悉く問答體にて書き、微細の點にまで論及してゐる。著者は眞言宗の教相學者として比較的初期に屬するもので、本書は教理史研究上重要な地位にある。

(古寫(仁和寺藏) (小田藤舟)

住心品 ①(B) Jo-shim-bon. 科註住心品 ③三册 ③存 ④亮次(元和八)延寶八 A. D. 1692-1690) 撰 ⑤寛文元刊 ⑥(正六、一・一六二・四九) (首、七、右、二〇)

住心品義釋七帖抄 ①(B) Jo-shim-bon-gi-shaku-shichi-jo-sho. ①一巻 ③存 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目

住心品科文 ①(B) Jo-shim-bon-kwa-mon. ①一巻 ③存 ④亮次(慶長一一一承應元 A. D. 1607-1603) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心品冠註聞書 ①(B) Jo-shim-bon-kwan-dan. 大日經住心品疏義 ①一册 ③存 ④(龍川時代寫 (寶龜院)

住心品私記 ①(B) Jo-shim-bon-shi-ki. ②二巻 ③存 ④最澄(神護堂元一弘仁三 A. D. 767-822) 撰 ⑤(参考) 密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、山家祖撰述密部書目

住心品疏 ①(B) Jo-shim-bon-sho. 大日經住心品疏 ⑤五册 ③存 ④刊本 (高六、一・三四) (首、七、左、一〇)

住心品疏玉振抄 ①(B) Jo-shim-bon-sho-yoku-shin-sho. 大日經住心品疏玉振抄 ④十册 ③存 ④法住(享保八一寛政一一 A. D. 1723-1800) 撰 ⑤(首、七、右、一・八)

住心品疏聞書 ①(B) Jo-shim-bon-sho-ki-ki-gaki. 大日經住心品疏聞書 ①一帖 ③存 ④密乘 ⑤徳川時代寫 (寶龜院)

住心品疏冠解 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-gi. 大日經住心品疏冠解 ④九册 ③存 ④妙純述 ⑤元禄一五刊 ⑥(高六、一・三四)

住心品疏冠註 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-cha. ④九巻 ③存 ④覺眼(寛永一一〇享保一〇 A. D. 1643-1725) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心品疏冠註玄談 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-cha-son-dan. 大日經住心品疏冠註玄談 ①一册 ③存 ④(首、五、中、一)

住心品疏懸談 ①(B) Jo-shim-bon-sho-ken-dan. 大日經住心品疏懸談 ①一册 ③存 ④寫本(首、七、中、一一)

住心品疏私記 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shi-ki. 大日經住心品疏私記 ②二十册 ③存 ④參政(延寶二一寛保二 A. D. 1674-1742) 撰 ⑤道空(寛文六一寛元 A. D. 1666-1751) 撰 ⑥寫本(京大)

住心品疏試講 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shi-kyo. 大日經住心品疏試講 ②二十

【シ】

五巻 ③存 ④良恭(一安永六 A. D. 1777-一)述 ⑤安永六寫 ⑥(正六、一・一六二・八三)

住心品疏拾義抄 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shu-shi-gi-sho. 大日經住心品疏拾義抄 ④十巻 ③存 ④覺眼(寛永二〇一享保一〇 A. D. 1643-1725) 撰 ⑤(参考) 眞言宗全書刊行豫定目録

住心品疏專心鈔 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shu-shin-sho. 大日經住心品疏專心鈔 ④十巻 ③存 ④實曆二寫(正六、一・一六二・六七)寫本九册(首、七、中、二)寫本六巻(正六、一・一六二・六六)

住心品疏分科 ①(B) Jo-shim-bon-sho-bun-kwa. 大日經住心品疏分科 ①一帖 ③存 ④徳川時代寫 (寶龜院)

住心品大意事 ①(B) Jo-shim-bon-tai-igo-koto. 大日經住心品大意事 ①一帖 ③存 ④(寶龜院)

住心品味噌帳 ①(B) Jo-shim-bon-mi-so-chō. 大日經住心品味噌帳 ①一册 ③存 ④(寶龜院)

住心品要解 ①(B) Jo-shim-bon-yō. 科註住心品要解 ④七册 ③存 ④(龍川時代寫(一)延寶五 A. D. 1673-1680) 撰 ⑤元和三刊 ⑥(高六、一・三四) (首、七、左、一)

住心品疏略解 ①(B) Jo-shim-bon-sho-ryaku-ge. 冠註住心品疏略解 ④九巻 ③存 ④淨慶(寛永一六一元禄一五 A. D. 1639-1702) 撰 ⑤元禄一五刊 ⑥(京大)

(高六、寄、一・三四) (正六、一・一六二・七三、一四七)(立大、A. O. 二一九)(首、七、左、一)

住心論覺心鈔 ①(B) Jo-shin-ron-kaku-shin-sho. ③三帖 ③存 ④道範(元暦元一建長四 A. D. 1184-1252) 説建長四、年中五説) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心論勸文 ①(B) Jo-shin-ron-kam-mon. ①一巻 ③存 ④道範(元暦元一建長四 A. D. 1184-1252) 説建長四、年中五説) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心論廣名目 ①(B) Jo-shin-ron-ko-myō-moku. 十住心論廣名目、十住心廣名目 ⑥六巻 ③存 ④印融(永享七一永正一六 A. D. 1435-1519) 撰 ⑤十住心論廣名目(下)を見よ。 ⑥(参考) 諸宗章疏錄第三

住心論疏略解 ①(B) Jo-shin-ron-sho-ryaku-ge. 十住心論疏略解 ④七册 ③存 ④(京大)

住心論抄 ①(B) Jo-shin-ron-sho. 十住心論抄 ③三巻 ③存 ④大正七七・六四八 No. 2442 ⑤重譽(一廣治二 A. D. 1142-一)撰 ⑥十住心論抄(下)を見よ。

住心論抄 ①(B) Jo-shin-ron-sho. 十住心論抄 ①一巻 ③存 ④(龍川時代寫(一)貞應二 A. D. 1165-1223) 撰 ⑤(参考) 大正新修大藏經刊行豫定目録

住心論他緣抄 ①(B) Jo-shin-ron-ta-en-sho. ③三帖 ③存 ④道範(元暦元一建長四 A. D. 1184-1252) 説建長四、年中五説) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

一遺無爲心を天台宗、第九種無自性心を華嚴宗に配するにつき、この兩宗の淺深を論じ、第八第九配當の理由を明にし、更に此の兩宗と眞言宗との淺深を論じ、佛身論に於ける顯著兩宗の見解を述べてみる。一篇悉く問答體にて書き、微細の點にまで論及してゐる。著者は眞言宗の教相學者として比較的初期に屬するもので、本書は教理史研究上重要な地位にある。

(古寫(仁和寺藏) (小田藤舟)

住心品 ①(B) Jo-shim-bon. 科註住心品 ③三册 ③存 ④亮次(元和八)延寶八 A. D. 1692-1690) 撰 ⑤寛文元刊 ⑥(正六、一・一六二・四九) (首、七、右、二〇)

住心品義釋七帖抄 ①(B) Jo-shim-bon-gi-shaku-shichi-jo-sho. ①一巻 ③存 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目

住心品科文 ①(B) Jo-shim-bon-kwa-mon. ①一巻 ③存 ④亮次(慶長一一一承應元 A. D. 1607-1603) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心品冠註聞書 ①(B) Jo-shim-bon-kwan-dan. 大日經住心品疏義 ①一册 ③存 ④(龍川時代寫 (寶龜院)

住心品私記 ①(B) Jo-shim-bon-shi-ki. ②二巻 ③存 ④最澄(神護堂元一弘仁三 A. D. 767-822) 撰 ⑤(参考) 密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、山家祖撰述密部書目

住心品疏 ①(B) Jo-shim-bon-sho. 大日經住心品疏 ⑤五册 ③存 ④刊本 (高六、一・三四) (首、七、左、一〇)

住心品疏玉振抄 ①(B) Jo-shim-bon-sho-yoku-shin-sho. 大日經住心品疏玉振抄 ④十册 ③存 ④法住(享保八一寛政一一 A. D. 1723-1800) 撰 ⑤(首、七、右、一・八)

住心品疏聞書 ①(B) Jo-shim-bon-sho-ki-ki-gaki. 大日經住心品疏聞書 ①一帖 ③存 ④密乘 ⑤徳川時代寫 (寶龜院)

住心品疏冠解 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-gi. 大日經住心品疏冠解 ④九册 ③存 ④妙純述 ⑤元禄一五刊 ⑥(高六、一・三四)

住心品疏冠註 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-cha. ④九巻 ③存 ④覺眼(寛永一一〇享保一〇 A. D. 1643-1725) 撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三

住心品疏冠註玄談 ①(B) Jo-shim-bon-sho-kwan-cha-son-dan. 大日經住心品疏冠註玄談 ①一册 ③存 ④(首、五、中、一)

住心品疏懸談 ①(B) Jo-shim-bon-sho-ken-dan. 大日經住心品疏懸談 ①一册 ③存 ④寫本(首、七、中、一一)

住心品疏私記 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shi-ki. 大日經住心品疏私記 ②二十册 ③存 ④參政(延寶二一寛保二 A. D. 1674-1742) 撰 ⑤道空(寛文六一寛元 A. D. 1666-1751) 撰 ⑥寫本(京大)

住心品疏試講 ①(B) Jo-shim-bon-sho-shi-kyo. 大日經住心品疏試講 ②二十

及新支鈔絶干世云々。十住心論義批の参考。

住僧清範 ①(B) Jo-ō-sei-han. 日本諸寺住僧清範 ①一巻 ③存 ④上田照嗣(文政一一一明治四〇 A. D. 1838-1907) 記 ⑤明治二九刊 ⑥(谷大、餘大、二六〇) (京大)

住法經 ①(B) Jo-hō-kyō. (支) Chu-fa-chiang. (B) A. X. 53 Thir. ③存 ④阿含經第二三(大正一・五七七 No. 26. 95)

住蓮と安樂 ①(B) Jo-ren-to-an-raku. ①一巻 ③存 ④佐和圓眞著 ⑤大正四刊 ⑥滋賀法藏寺

重位祕密灌頂加行等日記 ①(B) Jo-i-hi-mitsu-kwan-jo-ke-ryō-to-shi. ①一帖 ③存 ⑤足利中期寫 (金剛三昧院)

重刊貞和類聚祖苑芳集 ①(B) Jo-kan-jō-wari-jō-so-ō-ara-hō-shū. ④十巻 ③存 ④大日本佛教全書第一四三

①本書は、五山詩僧中の俊英たる空華道人義堂周信師が、諸祖の偈頌を蒐録したものである。義堂の空華集巻十八題跋に收められた永和元年(A. D. 1375)夏の首の撰である「書新刊貞和集後」並に本書の巻末に收められた嘉慶二年(A. D. 1388)三月十四日の撰である。本書の題跋に依つて、本書刊行の緣由を見るに、初め義堂和尚は、貞和年間(京都嵯峨の靈龜山天龍寺)に在つて、童蒙の求めに應じ、宋元二代の書偈の五首七言の絶句數千首を選取し、後これを編定

して三巻と成し、一千五百首を収め、貞和集と題して、向陽谷に命じて楷書せしめ、録津流通せしめんとしたが、延文三年(A. D. 1338)に其の稿を焼いた。然るに利を撰ぐ侍士が、刪定前の原稿を切寫して貞和集を刊行したが、錯誤極めて多きを以て、校讎を加へ重刊せんと志し、未だ果さざるに、興國至翁の命を承けて、永和元年初夏、編を整理し、疑はしきものには朱點を加へ、更に從來に加へなかつた眞淨克文禪師以下尊宿の五七首八句を採つて三千首を補入し「重刊貞和集」を題し、嘉慶二年三月十四日自跋して上梓流通せしめたものである。重刊貞和集十巻は即ち是れである。義堂は、同年(A. D. 1338)四月四日、壽六十四、臘五十にして示寂したのであるから、本書の跋に「余是時老病相侵、命在呼吸」とある如きは、死に至るまで譯坐調語を缺かざりし義堂和尚の風格を偲ばしめるものである。

新撰貞和分類古今尊宿傳頌集と題するものは、所謂新撰貞和集三巻の初編本で、三巻五冊又は三巻六冊の五山版であり、佛教全書一四三冊にも収められて居る。重刊貞和集は、鼓叔守仙和尚が書入した十巻五冊の嘉慶二年刊記の五山版、三冊本の五山版、寛永九年の十冊本慶安五年の五冊本等が現存し、一編中曼和尚が貞和集抄を撰したと傳へられて居り、印成和尚の聯芳集抄六冊(一冊缺)の寫本が在る。(詳細目録参照)本書、項目を分つこと六十五、其の内容を示せば左の如くである。

- 【卷一】(一)頌古百首。(二)經歌四十一首。(三)語錄題跋附三十六首。(四)禮塔八十九首。(五)禮塔舍利附二十二首。(六)二二(六)讀二百六十二首。(七)天文二十一首。(八)前序七十八首。(九)時事八首。(一〇)地理二十首。(一一)靈跡三十九首。(一二)寺觀二十首。(一三)居處百二十七首。(一四)帝五十五首。(一五)宰臣儒士附五十一首。(一六)慶賀十三首。(一七)道士七首。(一八)父母三十二首。(一九)伎藝七十一首。(二〇)住持五十六首。(二一)示衆十首。(二二)退院十七首。(二三)辭免二十五首。(二四)頭首六十九首。(二五)侍者二十四首。(二六)知事二十二首。(二七)化士十一首。(二八)沙彌童行尼女附十六首。(二九)師弟二十六首。(三〇)法眷二十首。(三一)僧道七首。(三二)道號百一首。(三三)道行二百四首。(三四)禮讚十六首。(三五)遊行二十二首。(三六)遊覽十首。(三七)三(三)簡寄九十七首。(三八)酬答七十三首。(三九)懷友十四首。(四〇)招友十八首。(四一)尋訪十七首。(四二)會合十首。(四三)離別十二首。(四四)留人七首。(四五)住持九首。(四六)山居二十二首。(四七)夢夢四首。(四八)道具三十首。(四九)法器二十首。(五〇)衣服三十首。(五一)器用樂器附九十一首。(五二)文用二十七首。(五三)食物藥物附九十三首。(五四)茶湯二十七首。(五五)燈燭柴炭附三十七首。(五六)沐浴四首。(五七)九(九)圖畫百七十二首。(五八)飛走六十二首。(五九)草木百十五首。(六〇)法數八十一首。(六一)草木百五十八首。(六二)哀悼百二十三首。(六三)雜類

- 四十九首 以上 (大久保堅瑞)
- 重刊瑞應集 (支) (日) Ja-kan-ni-shi-jō-ku. (支) Ch'ang-ke-an-jai-yang-chi-lin. 一冊 存 妙然集 刊本 (谷大、餘大、四四三五)
- 重誨哀懇鈔 (日) Ja-ko-ni-min-shū. 一冊 存 竟木了隆述 專念の欣淨妙術を破したるもの。 寫本 (龍大、一七九九・二〇)
- 重幸由來傳記 (日) Ja-ko-pu-rai-den-shi. 一冊 存 安政七寫 (龍大、別設)
- 重興南都大佛殿讚頌集 (日) Ja-kan-nō-dai-hō-den-zan-shū. 四卷 存 大日本佛教全書東大寺叢書第二 紹榮(元祿元A. D. 1698)等集 元祿元(A. D. 1698)
- 永祿十年十月、三好、松永の兵火に遭つて大佛殿炎上し、寶佛は化して草莽の廢墟となり、大佛は風雨に曝されて露座し給ふに至る。爾來、年を経る事百二十餘年、元祿元年に及んで、龜松院の公慶上人(慶安元—寶永二A. D. 1542—1705)大佛殿再建の大願を起し勸によりにその財を天下に勸請し、三月八日より四月八日迄、大佛開眼供養を執行(大佛開眼供養記及び「大佛開眼供養並萬僧供養之記」参照)又、四月二日より七日間、新始儀式が行はれた。本書は此の間に於て諸方より寄せられた讚頌の詩文、贊狀等を輯録したもので、東大寺別當二品親王清深及び東大寺釋教長史二月堂別當安井道愨の贊偈並序を始め

六十有餘を掲載してある。何れも公慶の功を讀し、再興の業を感嘆してある。本書四卷の内、一、二、四巻は紹榮、元萬、宗智の撰録する所であるが各巻末に周賢の補遺があり、三の巻は補遺のみより成つてゐる。尚、巻頭の序は沙門性澄の執筆にかゝる。(不破幹雄)

重治毘尼事義要 (日) Ja-ni-shi-gi-yō (支) Ch'ang-chih-pi-ni-shi-gi-yō. 十七卷 存、記續六三・二一三 明智旭(萬曆二七—永曆九A. D. 1599—1635)撰

が不如法となつた。この故に本書を撰した。四には律は元來居士の護法に因つて制定されたものだ。支那では戒行を遵奉したくも居士が未だ必しも護法しないから持犯などを嚴調するに及ばない等と主張し、戒學が亂れ衰へたから戒學興隆のために撰集した等。内外の因縁によつて本書を撰したものである。故に本書は戒學の形式は四分より、四分は懷柔の精神を取り、五分十通並に菩薩戒を探り、戒學の教理は天台の戒疏により、時代に適應するように戒學を組織し、これに依つて一般に普及せしめ律學ばかりに限りず戒學、律學皆悉く戒を奉ぜしめようと念じて撰したものである。特に禪寺に對する態度には頗る強い力が注がれてゐる。本書は卷首に序文三篇を跋文一種と目次とを収め、卷一乃至十までは四分戒本を、卷十一には總辨戒法、結界法、授戒法を、卷十二には依止法、師法、弟子事師法、上座法、同學法、禮敬法、孝父母法、安居法、自恣法、迦絺那衣法を、卷十三には治罪法を、卷十四には衣法、鉢法、食法、藥法、受食法、看病法、房舍法、臥具法、器物法、杖法、糞林法を、卷十五には阿闍若法、大衆會法、分物法、說法法、讀誦法、坐禪法、雜法、佛說戒戒重經、戒相攝頌を、卷十六、十七には比丘尼戒を収め、最後に跋語を附す。(田島德香)

- 重釋安養顯正記 (日) Ja-shaku-an-yō-ken-shō-ki. 二卷 存 性心(弘安一〇—延文二 A. D. 1287—1357)述 寫本(觀智院)
- 重受次第 (日) Ja-shō-shi-dai. 重受灌頂作法 一巻 存 金剛三昧院
- 重修人天眼目集 (日) Ja-shū-ni-an-dan-gan-ten-gan-shū. 三巻 存 智照集 寫本二二刊 帝國(一一一〇・一一一一)
- 重集大乘血脈圖 (日) Ja-shū-dai-ippō-kechi-myaku-gū. (支) Ch'ang-chi-tō-irō-ang-hachō-ō-tō. 一巻 宣臨(參考) 智證大師請來目錄
- 重書 (日) Ja-shū. 六巻 辨匠(長寛元—嘉祿四 A. D. 1163—1238) 淨土正依經論書目録(參考) 淨土正依經論書目録
- 重書相傳 (日) Ja-shō-shō-den. 一冊 寫本(實菩提院)
- 重書無題鈔 (日) Ja-shō-mu-dai-shū. 一巻 存、淨土宗全書第一〇

本書は作者不明の淨土宗要集(西宗要)の末疏にして、元内題を缺き外題を移して名付けし西宗要の要項に就いて加釋し秘傳相承されしもの、様である。内容を見るに、先づ表紙上書事、淨土三部經事、遺付開字世、一向專修、專修二修、隨自意、願教一乘、安心起行、持戒往生、善解義趣、女人往生、三定業、中品生佛、報身報土、善導不依願、四誓、三世諸佛淨業、十惡往生、等の下に於て宗要所説の大意を批判し加説してゐる。要之本書は相當批判的に西宗要の要義を

- 重訂西方公據 (日) Ja-shi-kyō. (支) Ch'ang-kyō. 二巻 存、記續二・一四・四 清影勝清(一乾隆四〇 A. D. 1775—)集 西方公據の下を見よ。
- 重訂二課合解 (日) Ja-shi-ni-kyō. (支) Ch'ang-ni-kyō. 二巻 存、記續二・一四・四 清影勝清(一乾隆四〇 A. D. 1775—)集 西方公據の下を見よ。
- 重訂五講式 (日) Ja-shi-gō-shiki. 一巻 存 明和四刊 (龍大、一一〇・二・九)
- 重續日域洞上諸祖傳 (日) Ja-zoku-michi-ō-jō-shō-so-den. 四巻 存、大日本佛教全書第一一〇 良機(享保二(A. D. 1717)
- 日本曹洞宗に列傳體の大部の歴史が刊行されたのは、日域洞上諸祖傳を以て嚆矢とする。元祿六年(A. D. 1693)堪元自證の寫す所である。〇五寶永五年(A. D. 1708)西來良高が、續日域洞上諸祖傳を著し、前者に補れたる八十餘人を傳した。良高は更に尙ほ脱漏するものあるを遺憾とし、蒐集専ら努めたが、未だその業を了せずして去つた。弟子良機は頗るこれを惜み、自ら業を繼いで享保二年、終に刊行を見るに至つたのが、この重續洞上諸祖傳である。傳する所九十餘人。(山田雲林)
- 重訂西方公據 (日) Ja-shi-kyō. (支) Ch'ung-kyō. 二巻 存、記續二・一四・四 清影勝清(一乾隆四〇 A. D. 1775—)集 西方公據の下を見よ。
- 重訂二課合解 (日) Ja-shi-ni-kyō. (支) Ch'ung-ni-kyō. 二巻 存、記續二・一四・四 清影勝清(一乾隆四〇 A. D. 1775—)集 西方公據の下を見よ。

重天諸法 (日) Ja-ten-shō-hō. 一括 存 足利一徳川時代寫 (實德院)
- 重編諸天傳 (日) Ja-hen-shō-ten-den. (支) Ch'ang-pien-sha-pien-ch'uan. 二巻 存、記續二・二・三・二 宋行進述

名所行發 (名東書) 重訂所現 月年の刊載 (書考參書釋註) 書末 説解有内 代年作者 書著 缺存 數卷 (名書) 名題 號字等

【シ】

次とし、釋を後にせんとした。慧乘法師、爲に佛法を廣述し、亦法華が『辨正論』を爲つた。これ等の葛藤の経緯以下、貞觀中に於ける道佛交涉に關するものを五項を載せる。就中、貞觀二十一年、文帝が、支那をして『老子道經』を梵文に翻譯せしめんとした。然しながら老子の言は佛と連類となす事は出来るが、佛語を以てあらはす事の出来ない故を以て翻譯の事は止めた。〔卷丁〕道宣が所謂今上帝一高宗時代の記録にしてその中、特に擧ぐべきは、顯慶五年、僧靜泰と道士李榮の『老子化胡經』の問答がある。尙、卷丁續附として高宗龍朔元年に於ける記録であるがこれは原本に限り、宋元明三本には缺く。

右の如くして本書に收むる所の道佛關係資料は、古くは兩教の角法、近くは道教が當時の爲政者に重んじられて廢佛の因をなした経緯並に資料である。されどこれ等の外劉宋南齊時代の兩教の思想的に同一或は優劣の論がなされたそれ等は梁僧祐『弘明集』に收録せられるものが多い。然もそれ等は本書には一篇も載せられて居ない。目次左の如し。

- 〔卷甲〕
- (一) 後漢明帝感夢金人降闍人諸道士等請求角試事。
 - (二) 前魏時吳主崇重門爲佛立塔寺因問三教優劣事。魏陳思王曹子建辯道論、晉孫盛譚靈寶同軌老聃非大賢論、晉孫盛老子疑門反訊。
 - (三) 元魏君臨釋李僧信致有異廢述其由事。
 - (四) 宋太宗文帝朝會群臣論佛治致太平事。
 - (五) 魏明帝登極召

集古今佛道論衡實錄

〔日〕Ja-ko-kon-hunsu-do-ron-ko-jian-roku. (次) Chi-ku-chin-to-ao-jan-heng-shih. 集古今佛道論衡、古今佛道論、佛道論衡、古今佛道論、四卷、大正五二、三六三No. 3104、續編七、二七、四、北1069、南1086、元1081、明北1464、清1225、天1073、天1069、指1028、法1035、至1545、明南1464、給、N. 1471、唐道宣(開皇一六一)乾封二A. D. 596-667)撰、寛永一五刊、(谷大、餘丙、七)

〔卷乙〕

- (一) 周高祖武帝將滅佛法有安法師上論事。
- (二) 周武帝齊大集僧徒問以興廢遠法師抗詔事。
- (三) 周高祖武帝除佛僧徒有僧徒道林上表請開法事。
- (四) 隋文帝詔爲降州天火焚老君像事。
- (五) 隋兩帝重佛宗法俱受歸戒事。
- (六) 唐高祖問僧形服有何利益法師率對事。
- (七) 高祖皇帝問僧三教問僧道是佛師事。
- (八) 道士李仲卿等造論設佛法法師著辯正論以抗事。
- (九) 太宗下勅道先佛後僧等上陳事。
- (十) 太宗太子集三教學者評論事。
- (十一) 太子中舍辛善齊物論并淨琳二法師抗拒事。
- (十二) 太宗皇帝問沙門法華交報顯應事。
- (十三) 文帝帝弘福寺立願重道敘佛道先後事。
- (十四) 太宗下勅道士三皇經不足傳授令焚除事。
- (十五) 文帝詔令法法師翻老子爲梵文事。

沙門道士對論敘佛道先後事。〔北齊高祖文宣皇帝下勅廢道事。〕

〔卷乙〕

- (一) 周高祖武帝將滅佛法有安法師上論事。
- (二) 周武帝齊大集僧徒問以興廢遠法師抗詔事。
- (三) 周高祖武帝除佛僧徒有僧徒道林上表請開法事。
- (四) 隋文帝詔爲降州天火焚老君像事。
- (五) 隋兩帝重佛宗法俱受歸戒事。
- (六) 唐高祖問僧形服有何利益法師率對事。
- (七) 高祖皇帝問僧三教問僧道是佛師事。
- (八) 道士李仲卿等造論設佛法法師著辯正論以抗事。
- (九) 太宗下勅道先佛後僧等上陳事。
- (十) 太宗太子集三教學者評論事。
- (十一) 太子中舍辛善齊物論并淨琳二法師抗拒事。
- (十二) 太宗皇帝問沙門法華交報顯應事。
- (十三) 文帝帝弘福寺立願重道敘佛道先後事。
- (十四) 太宗下勅道士三皇經不足傳授令焚除事。
- (十五) 文帝詔令法法師翻老子爲梵文事。

【シ】

あらうと思はれる。因みに大谷大學に現存する惠空自筆の寫本の奥には左の記事がある。『右第一冊、本紙ハ爲四帖、是肥後國安養寺(法名失念)所集也、栗津大進(法名道純)大學ト云シ時、彼僧在京、則命之而令書者也。但其紙面、諸記ニ異、又不詳事アリ、今以八木監物(重繼)之本一寫之耳、是雖似三都、本一部』

〔日〕Ja-ko-shih-ko-ji-ya-nan-nan-reo-shi-sho-shaku. 一巻、(一)守書編

〔日〕延享元年(立大、A五〇・二九)貞治六刊(谷大、餘甲、四〇)

集錄 〔日〕Ja-o-roku. 一巻

〔日〕西雲記 〔日〕寫本(龍大)

集沙門不應拜俗等事 〔日〕Ja-sha-mon-in-ai-pai-soku-to-ji. (次) Chi-sha-man-pu-ying-pai-sa-teng-shih. 集沙門不應拜俗、六卷、大正五二、四四三No. 3108、續編七、二一八、一、北1072、南1088、元1083、明北1472、清1494、天1075、天1070、指1031、右、法1089、右、至1548、明南1471、冠、N. 1480

支那に於ける沙門不敬門題は、表面單に拜と不拜ではあるが、實はその勝敗は印度思想に立つ佛法と、支那思想に立つ王法との興廢を意味した。故に東晉時代、この問題が起されて以來、沙門が僧主一王者を敬する事は、佛法の存立を掛けての問題とされた。従つて廢佛と相關し、衆僧を陶汰せんとする沙法問題も伴つた。本書は東晉成帝の時、輔政庾冰によつて起されたから、唐の龍朔二年、高宗の拜君の勅令事件に至る間、屢々繰返された拜不拜事件の資料集成である。即ち東晉庾冰が成帝に代つて勅して以下、晚晉桓玄、夏赫連勃勃、宋孝武帝、齊武帝、隋煬帝、唐高宗等は、何れも沙門に勅して敬を致さしめんとした。これに對して儒教者から、夫れ「拜不拜の表啓狀が上られた。これを目次の如く各々上下宛三篇に分けた。故事篇とは隋以前のものを指し、聖朝とは編者彦暉の生存した唐高宗時代に於けるものを指す。右の中、庾冰、桓玄に關するものは、護法を以て爲せられた梁僧祐『弘明集』中に、これより後、及唐高宗の勅令並にこれに對する沙門の表啓三首、即ち本卷三の半に至る迄は、既に亦唐道宣『廣弘明集』中に攝せられる資料である。

これに對し、八座以下何れも皆不可とす、桓玄は遂に「沙門の禮を致さざるを許す」の詔を發し、唯、侍中臣下嗣之等が四度この詔の不可を上奏したが、やがて桓玄は敗死した。これ等不拜の論の組織的なものに盧山慧遠の『沙門不敬王者論』五篇がある。その題旨は沙門は出家して順化せず、然も其道は六合に洽く、澤は天下に流れる。故に内は天屬の重に垂くも而も其の孝に違はず、外は奉主の恭を闕くも、而も其教を失はぬ。かくして在家、出家、求宗不順化、體極不兼應、形盡不滅の五篇に分ち、佛法に順つて不拜の理を擧げた。不敬問題の前後を通して慧遠のこの論は最も理を得、後世の範をなして居る。劉宋に入つて佛法が益々宣布せられ、その弊も從つて伴ひ、孝武帝は衆僧を沙汰してこれを還俗せしめんとすると同時に、亦一般沙門をして王者に敬を致さしめんとして酷虐を極めた。本書にはその詔勅を載せるが、その事情に至つては『梁高僧傳』その他を参照すべきである。又、隋煬帝が、無條件的拜敬の詔を發し、隋の沙門彦暉が爲に『福田論』を爲つて不拜を諷刺し、沙門は遂に依然として敬拜しない。これ等の理論は前代、晋上の卷一、二故事篇に屬する。唐高宗龍朔二年四月、勅して「君臣の義は在三の調を重しとなす。愛敬の道は凡百の行の先とする故なり」との題旨を以て沙門を拜せしめんとした。本書の編者彦暉の説明に隨へば、この詔あるや、文武官僧九品以上を

集め、並に州縣官等千有餘人、總て中臺都堂に坐して其事を議し、沙門道宣、成秀、靈會、會理等三百餘人、經文の意を辨つてし、又歷代佛敎除廢の狀を陳べ、其不拜の事を具し、乃ち各々其の見地から表啓した。本書卷三、四には高宗の親勅一首、並にこれに對する沙門の表啓三首。外に群官の議狀三十二を編め、卷五には同じ群官にして儒教的或は國家政策的立場から拜禮を言ふ議狀三十二を收める。高宗の詔の翌五月、拜不拜の議論紛然たる時、普光寺支那が晋の盧山慧遠等の説を採つて拜の意を贊し、更に其翌六月五日、隋西王博又等の不拜を請ふもの五百三十九人、拜を請ふもの三百五十四人の意を併せて奏聞し、同月八日高宗は遂に「沙門拜君を停むる」の詔を發したが、然も尙沙門不拜の啓表の上らるるもの六。以て唐初の不拜事件は終つた。而して編者彦暉は亦親ら「沙門不應拜俗論」を爲つて、この巻を結んだ。此の如くして屢々繰返された拜俗問題も、その理論は遂に晋代のものを出でず、然も多くは佛敎の隆盛と共に起るその弊害を論じ、沙法問題とも關聯し、排佛的根柢に於て成された。かゝる間に佛敎は支那化した。而して宋代禪者に依つて成された佛敎融合は、亦完全に王法即佛法の思想を作り成した。目次左の如し。

故事篇(卷一)

- (一) 晉尙書令何充等執沙門不應敬王者奏。
- (二) 東晉將軍庾氷爲成帝出令沙門敬敬詔。
- (三) 大尉桓玄與八座桓護等論道人應敬敬事

真心信都全集第五 ① 源信
本書は出家得度戒作法としては最も整
つたもので真心信都源信撰たることは確か
なものであらう。授戒本尊を蓮華臺上寶滿
如来とし、梵網の十重戒を授け、四弘誓願
は十戒の中に含まるとなし、四弘と三業淨
戒との不二を述べ、同向を以てする。

出家授戒作法

① (日) Shuk-ke-jin-ka-sha-ha. ② 1巻
道元(正治二)建
長五 A. D. 1200-1253) ③ (参考) 譯
目録

出家授戒法

① (日) Shuk-ke-jin-ka-sha-ha. ② 1巻
日本大藏經戒律宗章疏
第三 ③ 實範(一天養元 A. D. 1144)

④ 新たに出家する者は剃度授戒する作法を
記せるもの。和上と阿闍梨を兼ねる一戒師
の場合に就て説く。その次第は、先づ露地
に香水を洒ぎ、七尺四方の四隅に幡を懸
け、中に出家のための一座と和上のための
座を設く。次ぎに和上三禮し三歸の文を
唱へ、次ぎに如来、如来妙色身の文。次
に表白。次に出家の功徳を記す經律の文を
抄唱。次に請和上の言。次に氏神等に別
辭。入無爲備三説灑水。次に出家者衣服を
改めて露前に胡跪し、師は出家を許す。次
に香水灌頂。次に禮十方佛説偈。次に剃
髮。次法名。次授與袈裟。次出家者禮佛。行
道三匝、説自慶偈。次法同單白。次禮信足
胡跪合掌。次三歸三誓各三説。次に沙彌十
戒を授く。次に發願。次に神分祈願同向。
次に下座。次に着座にて終る。書後に

「中川實範上人作」とあるは後人の假くとこ
ろ、實範四年(A. D. 1453)金剛佛子重寶、
文祿五年(A. D. 1596)法印悲長の後批あ
り。

出家授近圓羯磨儀範

① (日) Shu-
ka-jin-gon-ear-kom-ma-gi-han(支)Ch'u-
chia-shou-chia-yuan-chieh-mo-tan.
根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範 ② 1
巻 ③ 存、正一、九、六、縮卷六 ④ 元拔合
思巴(嘉熙三)至元一七 A. D. 1239-1290)
集 ⑤ 根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範
の下を見よ。

出家賦註解

① (日) Shuk-ke-shin-
cha-ge. ② 1巻 ③ 存 ④ 正亮述 ⑤ 刊本
(谷大)長保三(三)龍大(二六二・二一九)
⑥ 出家大綱 ⑦ (日) Shuk-ke-shin-ka.
⑧ 1巻 ③ 存 ④ 宗西(永治元)建保三
A. D. 1141-1215) ⑤ (参考) 山家風
徳撰述篇目集卷下、日本釋林撰述書目
寛政元刊(谷大)餘大(四五〇)(京大、日大
未、四六七)明治一三刊(駒大)(正大、一七
六・六)高六、寄・一・二四(哲、ふ・三・左・一
七)

出家得度狀

① (日) Shuk-ke-to-ku-
do-ki. ② 1紙 ③ 存 ④ 徳川時代寫
(寶龜院)

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 存、日本大藏經戒律宗章疏第二
③ 此略作法の聖衆勸請に於て南無菩提達
磨闍維大師一切諸佛菩薩歷代諸國諸天神仙

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 3巻 ③ 存 ④ 信證(應徳三)
廣治元 A. D. 1086-1142) ⑤ (参考) 眞
言宗全書刊行豫定目録

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
足利末期寫 ③ (金剛三昧院(寶龜院))
出家略作法西院 ④ 1巻 ③ 存

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
一巻 ③ 存 ④ 有快(貞和元)應永三三 A.
D. 1345-1416) ⑤ 徳川時代寫 ⑥ (寶
龜院)

出家略授戒作法

① (日) Shuk-ke-
ryaku-jin-ka-sha-ha. ② 1巻 ③ 存 ④ 眞
性錄

出現光明會

① (日) Shutsu-ka-ko-
myo-e. (支) Ch'u-tai-hen-kung-ming-ku-hui.
(梵) Rasmi-samant-mukta-virdesa(藏傳)

大日本國諸大權現…等とあれば禪宗系の出
家作法なること明かである。且つ本作法の
末尾には「此外、雖作法多爲小庵小衆
執行一記之、至大刹刹人廣衆之時、詳予
清規一矣」とあり。此の作法中、剃髮後に
尼師壇・三衣・鉢盂を受くる時、大徳一心
念我比丘某甲云々と標出しつゝ、次に三
歸・五戒・八戒十戒を受けて出家位に入り、
次に三業及び梵網十重戒を受けて佛位に
入るとするは、この作法に統一なきを暗示
せるものである。

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 3巻 ③ 存 ④ 信證(應徳三)
廣治元 A. D. 1086-1142) ⑤ (参考) 眞
言宗全書刊行豫定目録

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 1巻 ③ 存 ④ 宗西(永治元)建保三
A. D. 1141-1215) ⑤ (参考) 山家風
徳撰述篇目集卷下、日本釋林撰述書目
寛政元刊(谷大)餘大(四五〇)(京大、日大
未、四六七)明治一三刊(駒大)(正大、一七
六・六)高六、寄・一・二四(哲、ふ・三・左・一
七)

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
足利末期寫 ③ (金剛三昧院(寶龜院))
出家略作法西院 ④ 1巻 ③ 存

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
一巻 ③ 存 ④ 有快(貞和元)應永三三 A.
D. 1345-1416) ⑤ 徳川時代寫 ⑥ (寶
龜院)

出家略授戒作法

① (日) Shuk-ke-
ryaku-jin-ka-sha-ha. ② 1巻 ③ 存 ④ 眞
性錄

出現光明會

① (日) Shutsu-ka-ko-
myo-e. (支) Ch'u-tai-hen-kung-ming-ku-hui.
(梵) Rasmi-samant-mukta-virdesa(藏傳)

(藏) Hphags-pa bod-zer kun du bkye
ba bstan-ba shes-bya-ba theng-pa chen-
po'i mdo. ② 5巻 ③ 存、大寶積經第三
〇一三四(大正一・一六三 No. 310. 11)
④ 菩提流志譯 ⑤ 唐景龍二一開元元(A. D.
708-713)

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 3巻 ③ 存 ④ 信證(應徳三)
廣治元 A. D. 1086-1142) ⑤ (参考) 眞
言宗全書刊行豫定目録

出家略作法

① (日) Shuk-ke-ryaku-
do-ki. ② 1巻 ③ 存 ④ 宗西(永治元)建保三
A. D. 1141-1215) ⑤ (参考) 山家風
徳撰述篇目集卷下、日本釋林撰述書目
寛政元刊(谷大)餘大(四五〇)(京大、日大
未、四六七)明治一三刊(駒大)(正大、一七
六・六)高六、寄・一・二四(哲、ふ・三・左・一
七)

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
足利末期寫 ③ (金剛三昧院(寶龜院))
出家略作法西院 ④ 1巻 ③ 存

出家略作法並廣作法

① (日) Shuk-
ke-ryaku-do-ki-anan-hi-to-sa-ho. ②
一巻 ③ 存 ④ 有快(貞和元)應永三三 A.
D. 1345-1416) ⑤ 徳川時代寫 ⑥ (寶
龜院)

出家略授戒作法

① (日) Shuk-ke-
ryaku-jin-ka-sha-ha. ② 1巻 ③ 存 ④ 眞
性錄

出現光明會

① (日) Shutsu-ka-ko-
myo-e. (支) Ch'u-tai-hen-kung-ming-ku-hui.
(梵) Rasmi-samant-mukta-virdesa(藏傳)

ふ。(第三卷) 佛は満足の微笑を泛び、金
色の手もて月光の頂を摩でつゝ、佛が因位
に燃燈佛の弟子摩訶として成佛して釋迦本
尼佛たらんとせし時、月光もその宣化を助
けんと發願したことを感念せられ、正法滅
せんとする時は衆生のために此の出現光經
を開示せよと仰せられる。それから佛は大
衆と共に城中に入らんとし、大地震動し、
虚空中に殊妙の聲が聞える。(第四卷) 此
の空中の聲を聞いて諸の衆生は眼等の六根
が清淨になる。佛は眞に如来を見る所以は
眼の寂滅、眼の無有、眼の滅盡、眼の無
常、眼の因縁生にして空寂無我なることを
了知するにあることを述べ、佛の威神力で
盲者は能く見、聾者は能く聴き、不完具者
は完具となり、不安樂者は安樂となる。
(第五卷) 佛は更に神通力を以て空中に微
妙の聲を出し、種々の陀羅尼の行を演説し
て、此の陀羅尼は如来の殊勝の力、威徳の
力を成就せしめ、世間の衆生を歡喜せしめ、煩
惱を摧滅せしめ、功徳を増長せしめ、菩提
の道に趣向せしむることを述べ、月光の家
に行き、之れに告げて大乘に住する者に布
施すれば、八十(實は五十三)の功徳があ
り、大乘に住して陀羅尼を成就せんとす
には八十の非法を遠離すべきことを説かれ
最後に法を宣説する上に於て特に眼性の空
なるを了知すべきことを詳説される。佛が
此の經を説き已るや月光童子等歡喜して、
信受奉行する。(江田俊雄)

出據索引

① (日) Shuk-ke-jin-ka.
② 存 ③ 寫本(哲、ふ、四、中、五)

出講義定

① (日) Shuk-ke-ji-
do-ki. ② 1巻 ③ 存 ④ 寫本(龍大)

出三藏記

① (日) Shus-san-ki.
(支) Ch'u-san-t'ang-chi. 出三藏記集、僧
祐録 ② 15巻 ③ 存、大正五五・一・No.
2145、縮卷一、正一、九、一〇、北1005
肆肆、南1071肆肆、元1067肆肆、明北1469
肆肆、南1050肆肆、天1054肆肆、指1015
肆肆、法1042肆肆、至1532寄勿、明南1589
肆肆、No. 1476 ④ 梁僧祐(元嘉三)二天
監一七 A. D. 445-518) ⑤ (参考) 譯
經志卷上

出三藏記集

① (日) Shus-san-ki-
shu. (支) Ch'u-san-t'ang-chi-shu. 出三藏
記、僧祐録 ② 15巻 ③ 存、大正五五・
一・No. 2145、縮卷一、正一、九、一〇、
北1005肆肆、南1071肆肆、元1067肆肆、明
北1469肆肆、法1042肆肆、至1532寄勿、明南
1589肆肆、No. 1476 ④ 僧祐(元嘉三)二天
監一七 A. D. 445-518) ⑤ 梁天監九一
天監一七(A. D. 510-518)

出三藏記集

① 出三藏記集全十五巻は律師釋僧祐の撰集
せるものである。故に、又僧祐録とも云
ふ。本集は現存諸經録中の最古のものに屬
するが爲めに、佛敎聖典學の研究上最も重
要なる資料の一として學者間に珍重せられ
つゝあるものである。

出三藏記集

① 本集の内容組織は、既にその巻第一の序
中に指摘されて居る如く、(一)撰錄起、
(二)詮名録、(三)總經序、(四)述列傳の四
部に分れ、撰錄起はその巻第一に、詮名録

出三藏記集

は巻第二より巻第五に、總經序は巻第六よ
り巻第十二に、述列傳は巻第十三より巻十
五に收められて居る。尤も、この巻数は
現存の出三藏記集の上に云つたものであつ
て、歴代三寶記乃至内典等では之れを十六
巻と記載し、本集の巻第十二に收められて
居る釋僧祐法集總目錄序第三の中には「出
三藏記集十巻、右一部第三帙」とあつて、
本集の巻数を十巻となして居るのである。
歴代三寶記等の十六巻は、その當時の本
集が十六巻に開卷されて居つたことに依
るものであつて、その内容に變化があつた
譯ではない。釋僧祐法集總目錄序の中に云
ふ十巻は、多少不思議に見えるかも知れな
いけれども、この總目錄をよく注意して
見ると、その中に三藏記集と別記しある
釋僧祐、世界記、薩婆多部相承傳、法苑
珠林、弘明集、十住律記、法苑珠林傳名等の目
録及び序が、本集の巻第十二以後に收めら
れて居るのを見る。この點から見ると、本
集が最初に編められた時は十巻であつたの
であらうが、その後於てその内容中に
收むる必要を認められたものは隨時之れを追加
編入して行つた爲めに最後に十五巻又は
十六巻のものとなつたのであらう。本集の
内容の概説を概説するに、その第一巻は前
述の如く撰錄起である。この撰錄起は彼が
その序中に「緣起撰則原始之本克昭」と云
へる如く、本集の編纂の因縁、聖典成立の
因縁等を記述せるものであつて

出三藏記集

① 撰錄起第一(出大智度論)

出三藏記集

① 撰錄起第一(出大智度論)

出三藏記集

① 撰錄起第一(出大智度論)

出三藏記集

① 撰錄起第一(出大智度論)

出三藏記集

① 撰錄起第一(出大智度論)

十師律五百經漢出三藏記第二
善薩處胎經出八藏記第三
胡漢譯經文字音義同異記第四
前後出經異記第五
等が收められて居る。最後の前後出經異記
は古譯經典と舊譯經典との間に存する用語
の相違を表示したものである。
第二の詮名録は、經録に關するものであ
つて、この部分はその巻第二より巻第五に
亘り本集の中心をなすものである。尤も、
これを分量的に云へば、この詮名録は十五
巻の内容中四巻を占むるに過ぎないもので
あるけれども、本集其のものの編纂の動機
は、この經録の撰述にあつたものであつ
て、その餘の部分は畢竟經録の編纂に關聯
して便宜編入せしめられたものに他ならな
いものである。これ本集の内容中には經録
以外の種々なるものを藏して居るに拘ら
ず、從來の經録がこれを目錄部に收めて居
る所以である。この詮名録の内容に收めら
れて居るものは次の如くである。

Table with 2 columns: Title and Volume/Part. Includes items like 新集撰出經論錄第一 (四七〇部), 新集撰出經論錄第二 (四七〇部), etc.

shō-go-wa-ge. ①一巻 ②存 ③平田篤
真安永五一天保一四A.D.176—1843)述、
湯谷基守解 ④明治二七刊 ⑤(帝國・六
六・一八六)

出雲師子吼經 ①(日)Shōjō-shi-
shi-ka-gō. (支)Chū-chōng-shih-tā-
ho-ching. ②一巻 ③展徳經 ④(参考)
出三藏記第五、法經錄第二、仁壽錄第四、
武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二

出世元意 ①(日)Shū-se-gwan-i-
法華念佛同體異名事 ②一巻 ③存、真宗
假名聖教第三、真宗法要第六之内、真宗聖
典全書之内 ④覺如(文永七一觀應二A.D.
1270—1351)撰

⑤真宗法要本、假名聖教本共に出世元意と
題し、次に「法華念佛同體異名事」と置く、寛
永元年に成れる一巻の真宗正依典籍集、已
下寶曆三年に成る僧録の真宗法要左券に至
るまで、いづれも法華念佛同體異名事又は
法華念佛同體異名事としてある、明和二年刊
行の真宗法要に於て出世元意の題を見、已
後此題を以て呼ばれることとなつたやうで
ある。所が著者の第二子從覺の墓誌附詞卷
十に、覺如の著述を述べた後に、「この外に法
華念佛同體異名名のこと、いへるうす雙紙こ
れあり」と云へるものが此書に當るもので
あることは疑ふべくもないから、此書の本
來は出世元意なる題目は存せなかつたのを
後人が内容から加へたものであり、真宗法
要は其本に依つたのであらう、此書には法
華と念佛とが同體異名であるから、法華が

釋教出世の本懐なると等しく、念佛も釋教
出世の本懐なりと示されてあるから法華念
佛同體異名事と題せられ、それを出世元意
と呼ばれたのは元意は本意又は本懐と云ふ
のやあらう、出世の元意なる語は著者も口
傳鈔第十五章に用ひられて居るところであ
る。

此書は僅かに二紙に過ぎない短篇であつ
て、其内容は法華經が醍醐味であつて、出
世の本懐たるが如く、淨土真宗の經典たる
大無量壽經も醍醐味であつて出世の本意で
あると云ふ、法華念佛同體の說と、法華の
說時に當つて王宮興造の事件があつて觀無
量壽經が説かれたのであるから、兩經は同
時の說であるといふ、法華念佛同時の說と
によつて、同體異名の說を立て、しかもそ
こに自ら劣機救済に於て念佛最勝なること
を顯はし、遂に念佛こそ唯一眞實の教法な
ることを暗示して居るものである、これは
法然の選擇集、親鸞の教行信證等の意を承
けて、當時尙ほ教界の權威たる天台宗、新
興宗教たりし日蓮宗の法華高調の說に對抗
したものであらう。

此書の刊行は慧琳の和語教目録には真
宗法要が最初であるとし、琢成の圓典集ま
た其說である、所が別に刊行不明の一可板
が現存し、それは出世元意の題目なく法
華念佛同體異名事とし、末尾に覺如上人作
と題する、其各大所藏本には明和四年の
慧琳の書入ありと云へば其已前のものでは
あらう、真宗法要及び假名聖教に收められて

から廣く行はれた。

⑦(註釋) 出世元意辛卯錄(宣成)、出世元
意略述(覺海)
⑧(參考) 淨土真宗教典志第一 ⑨文化
八、本山藏(谷大、宗小・八二) ⑩(杉紫朗)
出世元意聞書 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gaki. ②一巻 ③存 ④義導
(文化二一明治一四A.D.1805—1881)述
⑤元治元寫 ⑥(谷大、宗大・三八五七)
⑦(谷大、宗大・三八五六)
⑧(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意辛卯錄 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(宣成(安
永六—文久元A.D.1777—1861)述)天
保二辛卯(A.D.1831)刊

出世元意聞書 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

寫本(谷大、宗大・二〇三六)

出世元意略述 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(惠然(元
祿六一明和元A.D.1693—1764)述)寫
本(龍大、研眞)

出世元意丁巳錄 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(崇實(—安政五A.D.1858)述)寫本(龍大、研眞)

出世元意聞書 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(義導(文
化二一明治一四A.D.1805—1881))寫
本(谷大、宗大・三五六)

出世元意講義 ①(日)Shū-se-gwan-
ann-tō-ki-gō. ②一巻 ③存 ④(觀月(天
明七—安政六A.D.1787—1859))寫本
(谷大、宗大・三五六)

⑥本書は顯著一致の義に立脚して發菩提心
の義を説いたものであるが、多分に禪學的
の傾向を合むと共に師資口傳の義を尊重し
つゝある。先づ序に於て、心性は法爾にして
無始無終であり、根境は不二で無迷無悟で
あり、染淨は一如、善惡は一法、故に如實
に心月輪を知り通達すれば自性身の如來の
相が顯れる。この故に世諦に約し眞諦に寄
せて法佛の妙境を辨じ、自心他心共に三寶
の本源なることを示さんとて本書を作る
と。次に菩提心は五智である五智、五方、
五部の義に明達すればこれ眞俗二諦を以つ
て心性法爾の發心不思議を説するのである
と述へ、次に菩提心を五智、五行、五方、
五部に約して解説し次に「出離」とは出は悟
の義、離は我の義である。我即佛と觀する
から「出離」と名けたのであると題名を説明
し、次に之の深義を傳授するには他門並に
小智の人を簡び能く機を見て傳授すべしと
制限し、最後には「自らの運心作意のため
に之れを草す」といふ。本書は東西時代の
思想傾向を示したものであり、後世に至つ
て日本天台傳法門の原型が含蓋されてあ
るかの如く思はれる。(田島徳善)

出離經 ①(日)Shūtsū-kyō. (支)Chū-
yao-ching. ②二十巻 ③(失譯)
④(參考) 出三藏記第四、法經錄第一、仁
壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開
元錄第五、貞元錄第八、第二二五

出要律儀綱目章 ①(日)Shūtsū-kyō-
i-tsu-gō-ki-moku-shō. (支)Chū-yao-i-
tshang-mu-chang. ②一巻 ③智首述

⑤(參考) 新編諸宗教藏總錄第二
出離經 ①(日)Shūtsū-kyō. (支)Chū-
yao-ching. (梵)Udana-varga(藏傳)
(藏)Ches-du brjod-pahi tshoms. 出離論
②三十巻或二十巻 ③存、大正四・六〇九
No.212、續藏五、二二六・二二七、北984
宮殿、南1000宮殿、元996宮殿、明北1314
宮殿、清1414宮殿、慶899宮殿、天989宮
殿、指466宮殿、法972宮殿、至1434佐五
街、明南1075定寫初、N.1331 ④竺佛念
譯 ⑤東晋永和六一義熙一三(A.D.359—
427)

⑥出離經は佛敎の教訓的傳頌とその註釋的
説話とから成るものであり、その傳頌の部
分が實は出離と呼ばれるので、出離はUda-
naの譯語である。又の名を法句(Dham-
mapadam)と云ひ、現に巴利所傳のものは法
句の名に依つて呼ばれてゐる。それである
から實はこの出離經は委しく云へば出離經
論經とも呼ばれるべきものである。それで
出離論に十二部經の分類に當ると優陀
那に當てらるが、譬喩説話を含む出離經全
體は譬喩に收めらるべきものである。この
出離の原語が優陀那であることは西藏譯の
この傳頌の名が Udana-varga となつてゐ
ること、及び智度論三十三卷の所説、この
出離經第六卷の出離の下の解釋に依つて疑
ふべき所はない。

この出離(即ち法句)は婆沙論一、俱舍論
二、ターラナータの印度佛敎史は法敎の獨
とし、僧敎は出離經の序にこれに従ひ、智
度論三十三卷では佛入滅後諸弟子の集むる

所としてゐる。然し巴利系の法句には何人
の撰であるかの傳説がなく、この出離との
編者及び傳持の關係は不明である。

この類經は巴利系の Gū Dharmapala
(an aṭṭhakāṇḍī) 法句經註があり、漢譯に法
句譬喩經(大正四)がある。法句經註は註
佛の作であるが法句譬喩經の譬喩の部分
は作者不明であり、これと同じくこの出離
經の出離の部分に法敎と同じく譬喩の部
分は作者不明であると云はねばならぬ。

この經の内容は左の三四四品である。
無常品第一、欲品第二、愛品第三、無放
逸品第四、放逸品第五、念品第六、戒品
第七、學品第八、誦誦品第九、行品第
十、信品第十一、沙門品第十二、道品第
十三、利養品第十四、忿怒品第十五、惟
華品第十六、馬喩品第十七、水品第十八、
一。如來品第二十二、開品第二十三、我
品第二十四、廣演品第二十五、觀品第二
十六、泥洹品第二十七、觀品第二十八、
惡行品第二十九、要品第三十、樂品第
三十一、心意品第三十二、沙門品第三十
三、梵志品第三十四。(赤沼智善)

出離經 ①(日)Shūtsū-kyō. 國譯
②存、國譯一切經本緣部第一〇
出離經 ③(支)Chū-yao-ching. ④一巻 ⑤失
譯 ⑥(參考) 出三藏記第十三卷の抄出。⑦(參考) 出
三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜
泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

出離最要 ①(日)Shūtsū-ri-sai-yō.
②一巻 ③存 ④貞慶(久壽二—建保元A.
D.1155—1213)述 ⑤寫本(谷大、餘大・三三
九)

出離生死血脈 ①(日)Shūtsū-ri-
shō-ji-kechi-en-yaku. 妙法蓮華經出離生死
血脈 ②一巻 ③存、日本大藏經天台宗願
敎疏第二、傳敎大師全集第四 ④最澄
⑤本書は傳敎大師最澄が入唐し道徳・行滿
から法花による出離生死の實因の口決を傳
へ、これを後輩のために註記したものである。法
華流通には三力具足を説き信の一行のみで
往生成佛を述ぶ。是の如き思想は顯著一
致、台譯融合の運動が發生した後に現れた
ものであるから本書は明らかに偽撰。本書
は人身を受け佛法に値ひ親しく妙法蓮華經
に値へること喜び入唐求法の述べ、次に法
花による出離生死の要義三ありとし、一は
諸法實相の説を言下に開悟し不斷煩惱不證
菩提に觀望して生死を出離し、二は一念三
千を觀じて生死を出で、三は一心三觀を修
して生死を出る。是の三を行ふものは無相
觀門の機である。下劣の鈍人は有相門から
速かに生死を出る。一は法花を信じて直ち
に成佛を期し、二は法花を信じて十方の佛
土に往生を期する二途がある。前者は今生
得説の人。後者は他土往生の人である。信
法花の功德利益は經力、願力、信力の三力
具足による。餘餘餘佛を信する者には三力
がない。若し後生成佛すれば行がないかと
疑ふであらうが、第二生以後には有相無相
の機に就いて縱横の信行證を説く。これが

出世不動明王略緣起 ①(日)Shūtsū-
sei-tō-myō-dō-ryaku-en-gi. ②一巻
③存 ④寫本(正大一〇三三・一一一)
出世本懐 ①(日)Shūtsū-hon-gwan-
i. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

出經大綱 ①(日)Shūtsū-tai-kō.
②一巻 ③存、日本大藏經天台宗密敎疏第三 ④
榮西 ⑤承安五(A.D.1175)

【シ】

春貞記録

①(日)Shun-jū-ki-roku. ②三巻 ③存 眞宗全書第七二 ④春貞(眞宗元文化)A. D. 1751-1806 ⑤文化(11 A. D. 1805)十一月

春澤和尚録

①(日)Shun-zoku-roku. ①一巻 ②存 ③宗瑞玉舟 ④(参考) 禪語目録

春田開話

①(日)Shun-den-kan-wa. ①一巻 ②存 ③三葉の説を述ぶ。④寫本(龍六、一七五・五二)

春浦録

①(日)Shun-po-roku. ①一巻 ②存 ③三葉の説を述ぶ。④寫本(龍六、一七五・五二)

春夢庵詩鈔

①(日)Shun-mu-an-shi-sho. ①三巻 ②存 眞宗全書第七三 ③無著(一文化)10 A. D. 1815 作

純正宗教論

①(日)Jun-sei-sho-kyo-ro. ①一巻 ②存 ③破邪顯正純正宗教論 ④一巻 ⑤存

純正日蓮主義

①(日)Jun-sei-nichi-ren-shu-gi. ①一巻 ②存 ③克木清男著 ④大正一〇刊 ⑤(谷大、餘洋、六〇頁)(參照)

純日蓮の研究に就て

①(日)Jun-nichi-ren-no-ken-kyu-ni-tsuite. ①一巻 ②存 ③川勝一郎著 ④昭和七刊

純秘の講義

①(日)Jun-hi-kou-kyo. ①五巻 ②存 ③亮次(元和八)延寶八 A. D. 1623-1680 著 ④英岳(寛永一六一)田代三 A. D. 1639-1712 註 ⑤(参考) 諸宗章疏三三 ⑥(京事)

准后御移徒御列

①(日)Jun-ko-go-tsi-on-reisa. ①一巻 ②存 ③安政二 ④(龍大、別號)

准后御移徒飛香舎次第

①(日)Jun-ko-go-tsi-shi-ki-sha-shi-dai. ①一巻 ②存 ③寫本(龍大、別號)

准宗主遂終記

①(日)Jun-shu-sui-shu-ki. ①一巻 ②存 ③前後(慶長六一)天和 11 A. D. 1601-1683 記 ④寛永八 (A. D. 1631) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二

准提三昧行法

①(日)Jun-dai-san-mei-gyo-bu. ①一巻 ②存 ③(寛永) ④(龍大、別號)

準疑問決集

①(日)Shun-gi-kei-ke-tan-shu. ①一巻 ②存 ③浄土宗全書第一二 ④聖阿(唐應四)應永二七 A. D. 1341-1420 撰

春林和尚行實

①(日)Shun-jin-oshō-jō-ji-hon. ①一巻 ②存 ③續群書類從第九 ④宗瑞記

春和蘭語

①(日)Shun-wan-go. ①一巻 ②存 ③西堂春和 ④(参考) 禪語目録

春和蘭語

①(日)Shun-wan-go. ①一巻 ②存 ③西堂春和 ④(参考) 禪語目録

巡寺御八幡宮行事雜記

①(日)Jun-ji-go-hachi-man-gu-gyo-jizak-ki. ①一帖 ②存 ③明和七寫 ④(高六、寄一・五)

巡禮記

①(日)Jun-rei-ki. ①四巻 ②存 ③大日本佛教全書第一一三遊方傳説書第一 ④圓仁(延暦一三一貞觀六 A. D. 791-864) ⑤入唐求法巡禮行記の下を見よ。⑥(参考) 本朝合祖撰述密部書目

巡禮所作次第

①(日)Jun-rei-dō-shō-shi-dai. ①一巻 ②存 ③日本大藏經修驗道章疏第三 ④蓋圓記

巡禮日記

①(日)Jun-rei-nichi-ki. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

【シ】

準疑問決集

①(日)Shun-gi-kei-ke-tan-shu. ①一巻 ②存 ③浄土宗全書第一二 ④聖阿(唐應四)應永二七 A. D. 1341-1420 撰

春林和尚行實

①(日)Shun-jin-oshō-jō-ji-hon. ①一巻 ②存 ③續群書類從第九 ④宗瑞記

春和蘭語

①(日)Shun-wan-go. ①一巻 ②存 ③西堂春和 ④(参考) 禪語目録

春和蘭語

①(日)Shun-wan-go. ①一巻 ②存 ③西堂春和 ④(参考) 禪語目録

巡寺御八幡宮行事雜記

①(日)Jun-ji-go-hachi-man-gu-gyo-jizak-ki. ①一帖 ②存 ③明和七寫 ④(高六、寄一・五)

巡禮記

①(日)Jun-rei-ki. ①四巻 ②存 ③大日本佛教全書第一一三遊方傳説書第一 ④圓仁(延暦一三一貞觀六 A. D. 791-864) ⑤入唐求法巡禮行記の下を見よ。⑥(参考) 本朝合祖撰述密部書目

巡禮所作次第

①(日)Jun-rei-dō-shō-shi-dai. ①一巻 ②存 ③日本大藏經修驗道章疏第三 ④蓋圓記

巡禮日記

①(日)Jun-rei-nichi-ki. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

巡禮所

①(日)Jun-rei-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(無動寺藏) ④同前行の書 ⑤寫本(無動寺藏)

名所行録◎(名庫書)高麗所現◎月年の刊録◎(書考參書釋註)書主◎説解存内◎代年作書◎表書◎録存◎數巻◎(名書)名題◎號略字號

名所行録◎(名庫書)高麗所現◎月年の刊録◎(書考參書釋註)書主◎説解存内◎代年作書◎表書◎録存◎數巻◎(名書)名題◎號略字號

【1131】述・道安註
 ①本書は、白雲宗祖である河南府洛陽龍門山寶應寺本然清覺和尚が初心者の爲に起行造修の法として依行すべき三乘十地の要法を説き、初覺者をして佛知見に入らしめんとしたもので、嗣孫である南山大菩薩寺道安和尚が、是れに加注して行はしめたもので、此の初學記は、元皇慶二年(A. D. 1313)四月白雲宗主明仁が、仁宗帝に奏進し、大慈恩寺に授けられて入藏したもので、其の奏進文は別項の正行集の卷末に收められて居る。本書には、集賢待講學士趙孟頫(字子昂)が、同年三月七日に白雲祖師初學記序を撰し、卷首に收められて居る。清覺の時傳は、別項正行集に記した通りである。②寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ③寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ④寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑤寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑥寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑦寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑧寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑨寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑩寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑪寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑫寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑬寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑭寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑮寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑯寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑰寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑱寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑲寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑳寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉑寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉒寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉓寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉔寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉕寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉖寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉗寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉘寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉙寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉚寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉛寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉜寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉝寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉞寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉟寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊱寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊲寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊳寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊴寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊵寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊶寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊷寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊸寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊹寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊺寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊻寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊼寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊽寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊾寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊿寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞)

【1132】述・道安註
 ①本書は、白雲宗祖である河南府洛陽龍門山寶應寺本然清覺和尚が初心者の爲に起行造修の法として依行すべき三乘十地の要法を説き、初覺者をして佛知見に入らしめんとしたもので、嗣孫である南山大菩薩寺道安和尚が、是れに加注して行はしめたもので、此の初學記は、元皇慶二年(A. D. 1313)四月白雲宗主明仁が、仁宗帝に奏進し、大慈恩寺に授けられて入藏したもので、其の奏進文は別項の正行集の卷末に收められて居る。本書には、集賢待講學士趙孟頫(字子昂)が、同年三月七日に白雲祖師初學記序を撰し、卷首に收められて居る。清覺の時傳は、別項正行集に記した通りである。②寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ③寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ④寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑤寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑥寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑦寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑧寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑨寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑩寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑪寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑫寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑬寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑭寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑮寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑯寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑰寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑱寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑲寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ⑳寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉑寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉒寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉓寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉔寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉕寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉖寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉗寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉘寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉙寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉚寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉛寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉜寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉝寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉞寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㉟寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊱寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊲寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊳寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊴寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊵寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊶寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊷寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊸寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊹寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊺寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊻寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊼寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊽寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊾寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞) ㊿寫本(京大藏・二四・五一) (大久保堅瑞)

【シ】

初心行者用心私記 ①(日) Sho-shin-gyo-jin-yu-jin-shi-ki. ①一帖 ②存

初心行者要文 ①(日) Sho-shin-gyo-jin-yu-jin-shi-ki. ②存 興教大師全集 ③覺慶(嘉保二—康治二)A.D. 1095—1143)

④眞言宗の初心者が知り置くべき要文を、諸祖論并に諸書より抄出したるものである。最初に大日如来抄出したりと云ふ十一の経論等を列してあるが、内容は之と合はぬのである。「宋再治之」と初めに法記せられて居るが如く、興教大師が備忘のため諸書より抄出せられたるものを、後人が初心行者要文と名けたものであらう。

⑤(参考) 諸宗章疏録第三 (富田義純)

初心勤學鈔 ①(日) Sho-shin-kan-gaku-sho. ②二卷 ③存 ④承應二刊(谷大、餘大・二七〇)(龍大、二六五・二六六)(正大、一三〇・三八)(哲、一・右・二〇・あ・一・左・二五)明治一七刊(帝國、一三・八・九三)

初心勤學鈔私見聞 ①(日) Sho-shin-kan-gaku-sho-shi-ken-mon. ②二卷 ③存 ④刊本(谷大、餘大・二二五)

初心五音伽陀私譜 ①(日) Sho-shin-gon-ka-da-shi-fu. ②一册 ③存 ④寫本(高六、寄・一・四九)

初心示六端 ①(日) Sho-shin-shi-ro-ku-tan. ②一卷 ③存、續淨土宗全書第一四 ④良山妙觀(永仁二—康安元)A.D. 1294—1361 ⑤説永仁元A.D. 1293(生) ⑥本書は大乗聖道門六宗の義理の一端を示したるもの。即ち八萬の教門各別なりと雖も、皆根柢に稱ひ、面々の樂欲に隨つて得脱無法なり、諸門に於て是非無く唯所望に順つて精細を盡すべしとす。一、密宗の即身成佛。二、佛心宗の直指人心見性成佛。三、天台宗の即身成佛。四、華嚴宗の初發心時便成正覺。五、三論宗の三藏成佛。六、法相宗の三藏成佛の旨を簡潔に説明してある。

⑦(警城矢ノ目如来寺月形論)(越前西福寺不明函) (原田靈道)

初心修行用心 ①(日) Sho-shin-shu-jin-yu-jin-shi. ②一帖 ③存 ④文明一一寫 ⑤(寶龜院)

初心講要文 ①(日) Sho-shin-kyo-jin-yu-jin-shi. ②一帖 ③存 ④光(文政二—明治二)A.D. 1819—1895 ⑤編 ⑥刊本(正大、一三〇・三七)

初心小名目 ①(日) Sho-shin-sho-nami-me. ②一卷 ③存 ④寫本(京大、藏・二四・五四)

初心抄 ①(日) Sho-shin-sho. ②野山正明坊(参考) 本朝台觀撰述部書目

初心聲明私譜 ①(日) Sho-shin-sho-shi-fu. ②一卷 ③存 ④寫本(帝國、二一四・九三)

初心成佛抄 ①(日) Sho-shin-butsu-sho. ②一卷 ③存 ④日我撰 ⑤原本(稻田海素撰)寫本(立大、D・二五九)

初心探調子口傳 ①(日) Sho-shin-tan-chu-shi-ku-den. ②一卷 ③存 ④内山正如編 ⑤(京大)

初心得意章 ①(日) Sho-shin-iki-chō. ②一册 ③存 ④哲、え・二・左・一〇)

初心頓覺鈔 ①(日) Sho-shin-ton-kan-shō. ②三卷或一卷 ③存 ④道鏡(元暦元—建長四)A.D. 1184—1232 ⑤説建長四年七五(寂)記 ⑥(参考) 諸宗章疏録第三 ⑦慶安二刊 ⑧(京大)(龍大、二六六・二七七)(哲、け・四・左・四一)(正大、一四二・四七)(京大、日大宋・四二八)(高六、寄・一・四八)

初心法衣調 ①(日) Sho-shin-hō-eki. ②一卷 ③存 ④雲照(文政一〇—明治四)A.D. 1827—1909 ⑤述 ⑥明治一四刊 ⑦(正大、一八九・八三)(京大)

初心用心抄 ①(日) Sho-shin-jin-yu-jin-shi. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

初心要學論 ①(日) Sho-shin-yō-gaku-ron. ②二卷 ③存 ④寶永二刊(龍大、二五・三)

初心要義鈔 ①(日) Sho-shin-yō-gi-shō. ②宗圓通記 ③存、國文東方佛教叢書第一 ④日蓮(寛政二—安政六)A.D. 1800—1853 ⑤述

⑥別名を「妙宗圓通記」とも云ふ。法華初心行者の心得べき要義を十ヶ條として擧げ、各條につき説明を加へ信心修行の方法を示したものである。歸依本尊第一。本尊に歸依する第一番である。本尊には木蓮の二があり、木像よりは畫像、即ち曼荼羅の方がすぐれてゐる。日蓮大士が佐渡始願の

名所行目◎(名庫書)書題所現◎月年の刊載◎(書考)書目録◎書末◎説解内容◎代中作書◎著書◎録存◎教書◎(名書)名題◎號字

【シ】

智者を求めて疑を決せよ。八、解了をもとめよ。九、正行(唱題)に併せて助行(讀誦解説等)をも修せよ。十、回向を怠るな。隨順王制第六。王制に回ふとは己の職分を守ることである。斯くて和合せば己の佛の本意に叶ふ。そのためには我が儘を退け佛の忠孝を始めとして世法を守るは妙法の功徳を守るのであると心得、疎かにしてはならぬ。供養三寶第八。三寶を供養するとは佛像の修置、寺塔の造補、道場の莊嚴、本尊の供養、法の宣布、僧の供養等である。併せて國王、父母、衆生、三寶の四恩を報ずべきを説く。隨喜功徳第九。唱題には天地十方法界に通じて功徳莫大であると深く信じて喜び、常に平等に回向すれば必ず無量の福徳利益を得る。これは妙法の不思議で述べ難い。志願成佛第十。成佛とは事々物々に微妙の樂あるを通達すること、この妙法を持つものは佛の四徳を具ふるのである。常に成佛を志願して樂しめ、即ち現世にも未來にも成佛である。以上十ヶ條は日常生活上の心得で、五とか十とかの記憶し易い箇條に纏めたことと共に「初心要義抄」の名に適しく、日蓮宗の學者に斯くの如く理論を超越して卑近なる事項を述べた著述は珍らしいものである。又著者は神佛の三教の根本は同一で、三教に隨ふは佛の信心と相違せずとの思想なりしが、本書の内容より何はれる。(三好蓮地)

初祖道元和尚行録 ①(日) Sho-so-do-gen-ō-shō-ō-gō-tōka. 永平開山道元和

尚行録、道元和尚行録 ①一卷 ②存、續群書類第九 ③道元和尚行録の下を見よ。

初祖菩提達磨三朝傳 ①(日) Sho-so-ho-dai-darū-ma-san-chō-den. ②四卷 ③存 ④善養(一寛永元A.D. 1704—) ⑤寛政三刊 ⑥(谷大、餘大・三二四)

初祖菩提達磨大師入道四行 ①(日) Sho-so-ho-dai-darū-ma-dai-shi-nyū-dō-shi-yō. (支) Ch'u-tan-p'u-t'i-ta-mo-ta-shi-nyū-dō-shi-yō. ①一卷 ②存、神海十抄(仁續二・三二)一爲靈禪師法泊聖稿附録之内 ③爲靈道譜(一康熙二二A.D. 1684—)編 ④元禄八刊 ⑤(谷大、餘大・四四一)(駒大)

初胎後金 ①(日) Sho-tai-go-kan. ②二帖 ③存 ④智快(貞和元—應永二二A.D. 1345—1416) ⑤文化一〇、寶曆三寫 ⑥(金剛三昧院)

初胎後金入句 ①(日) Sho-tai-go-kan-nyū-kyū. ②二帖 ③存 ④寶曆九寫 ⑤(寶善院)

初大本經 ①(日) Sho-dai-hon-kyō. 現代意譯初大本經 ②存、現代意譯根本佛敎聖典叢書第一長阿含經抄 ③羽溪了詩、林五邦共譯

初代佛敎 ①(日) Sho-dai-buk-kyō. ①一卷 ②存 ③ライス、ムット著、白石善之助譯 ④昭和四刊 ⑤東京新生堂

初誕生現大瑞應經 ①(日) Sho-tan-jō-ten-shō-jin-yu-jin-shi. (支) Ch'u-tan-shō-nyū-jin-yu-jin-shi. ①一卷 ②初傳授記 ③(日) Sho-tan-jū-ki. ④

根本説一切有部毘奈耶雜事第二十卷の抄出。(参考) 開元錄第一六、貞元錄第二六

初中後善義 ①(日) Sho-chū-go-zen-gi. ①一卷 ②存、眞宗全書第六二 ③智潤(一文化三)A.D. 1806 ④編

④法華經序品に「演説正法、初善中善後善其義深遠」とある文に就いて、光宅の義記、善祥の義疏、天台の文句等の諸説より十五義を列挙したものである。終りに十五説を略説して次の如く述べてゐる。

一、善正流通天台等正用之、二、少壯老、三、入行出、四、捨離捨離及一切捨(已上三義成論三善品説)、五、讚禮度戒及二法果生天佛前、六、見五衆、生、眼身業、捨居家、心離、煩惱、七、説三乘法、(已上三義智論四十九説)、八、開時歡喜修時無苦究竟離垢(理伽八十三説)、九、從、他聞、法如説修行得、聖正見、十、見、苦斷、集、道、證、滅(此二小乘三善義説)、十一、善、思、引、之、十二、善、提、心、不、念、二、乘、通、向、一、切、智、十三、行、六、度、破、六、界、通、向、一、切、智、此二亦實證説大乘三善、十三、戒、定、慧(天台所出異解中)、十四、初中後心(天台依、金光明經説、已上二義出、文句)、十五、開、思、修(荆溪記引論説)。(藤枝昌道)

初天問如來善戒不思議經 ①(日) Sho-tan-mon-nyō-tai-kyō-kai-ta-shi-ji-kyō. (支) Ch'u-tan-wai-wei-jai-chi-nyō-chi-ki-pu-sat-tsing. ①一卷 ②失譯 ③(参考) 出三藏記第四

初傳授記 ①(日) Sho-tan-jū-ki. ④

十界勤請曼荼羅が宗門の正意であり、これ即ち持法華經である。依止妙戒第二。持戒とは即ち持法華經である。「法華經」には「讀持此經、是名持戒」と云つてゐる。故に法華經を歸依するが戒行第一である。然るに餘宗餘經に心をよせると法華經の信心がうすくなるから堅く制すべきである。諸佛の通戒は「諸惡莫作諸善奉行」である。何事もつゝしままれば佛戒に叶ふのである。起立信心第三。信心とは佛の教を疑はず法華經を持ち題目を唱へて成佛を求むることである。勿論信心は唱題の多少にはよらなすが信する者は忘れず、忘れれば唱へるのであるから怠らず唱題する人は信心ある人である。併し題目を唱へても疑つてはいけぬ。修行より信心が第一である。受持正行第四。信心を以て法華經を受取り唱題修行する。これあらゆる修行の根本で無量の利益がある。即ち五善の功徳を擧げる。一に佛一代の經々の功徳、二に三世十方の諸佛の悟の功徳、三に諸菩薩の修行の功徳、四に天地法界萬法の功徳、五に自己一心の不思議功徳、この五はすべて五字の題目に具つてゐる。結開教義第五。信心を起す爲めには善知識に就いて法義をきかねばならぬ。義理をわきまると信心增長す。今法門の肝要十意を擧ぐ。一、凡ての教は惡を戒め善を勸む。二、佛敎の根本主は釋迦佛である。三、佛敎中法華經のみ佛の實敎を明す。四、題目を持つは萬行の根本である。五、佛の心は平等安樂を願ふ。道心六、出家は在家の師、在家は出家の親。七、

名所行目◎(名庫書)書題所現◎月年の刊載◎(書考)書目録◎書末◎説解内容◎代中作書◎著書◎録存◎教書◎(名書)名題◎號字

【シ】

心を推し、彼をして遂に五百弟子を率ゐて出家するに至らしめる由來が述べられて上巻は終る。下巻に入りて彼が弟子と共に出家するに説き起されて、彼の二弟にして共に兄と道と同じうする那提迦葉は三百の弟子を率ゐ、伽耶迦葉は二百弟子を率ゐて共に長兄に倣つて出家することが説かれる。それより佛は彼ら新附の弟子を率ゐて象頭山に入り、彼らに説法し、又杖林山に入り、次いで王舍城に到りて頻婆沙羅王を教化せんとす。此の時王及會衆、佛と有名なる老迦葉と何れが師にして何れが弟子なるかに疑念を抱いたので、佛は迦葉をして之を會衆に告知せしめ、やをら説法を始めて王の歸佛を得たる事が述べられ、最後に簡略に迦葉の弟子舍利弗目連の得度の事が説かれて、一經は終つてゐる。所説通途と異なる處けれども、那提の弟子三百、伽耶の弟子二百といふは、本經と佛本行集經、五分律、mahāvagga、Pheragaha註、など、他經は多く各二百五十とする。

尙ほ本經の内容は多くの經典に説かれてはゐるが、此の經に説く三事のみを取扱へる體即ち異譯は漢譯中に見えぬ。又西譯にもない(大藏目錄參看)。本經の譯出は北印度烏旗國帝釋宮等の沙門にして、宋の太宗太平興國五年(A. D. 980)來せざる施護に依つてせられたが、その年時は不明である。但、宋元明三本及宮内省本に於て譯者に冠する官位。朝奉大夫試光祿卿に依て(高麗本之れを缺)、彼が官位に補せられたる神宗二年(A. D. 983)以後と之を推定し得る。

【寺修一】
初發意菩薩行易行法經 ①(日) Sho-ho-chi-bo-sang-ji-gyo-bo-kyo. (支) Ch'u-tai-p'u-sai-shing-t-hsing-ching. ①卷 ①失譯 ①十住論易行品の抄出 ②(參考) 出三藏記第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

初發意菩薩常晝夜六時行五事經 ①(日) Sho-ho-chi-bo-sasa-ji-t-ho-ya-yok-i-ji-gyo-go-ji-kyo (支) Ch'u-tai-p'u-sai-chang-choh-yeh-hu-shih-hsing-ya-shih-ching. 初發意菩薩常晝夜六時行五事經 ①卷 ①失譯 ②後漢代失譯 ③(參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、內典錄第一、武周錄第一、開元錄第一、第一四貞元錄第二、第二四

初發心時 ①(日) Sho-ho-shin-ji. ①卷 ①存、日本大藏經華嚴宗章疏卷下、大日本佛敎全書第一三華嚴小部集 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初發願得鈔 ①(日) Sho-ho-kon-ko-ka-sho. ①帖 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜後夜作法 ①(日) Sho-ya-go-ya-kyo. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜金剛界 ①(日) Sho-ta-kong-ko-ka. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初發心要 ①(日) Sho-ho-shin-yo. ①帖 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初發願得鈔 ①(日) Sho-ho-kon-ko-ka-sho. ①帖 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜後夜作法 ①(日) Sho-ya-go-ya-kyo. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜金剛界 ①(日) Sho-ta-kong-ko-ka. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

【シ】

初夜作法 ①(日) Sho-ya-go-ya-kyo. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜作法 ①(日) Sho-ya-go-ya-kyo. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜導師作法 ①(日) Sho-ya-do-ji-shih. ①帖 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初夜禮讚 ①(日) Sho-ya-rai-san-ji. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

初例抄 ①(日) Sho-rei-sho. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所依身私記 ①(日) Sho-e-shin-shi-ki. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所欣釋經 ①(日) Sho-gon-jak-kyo. (支) So-shin-shih-ching. ①存、生經第二(大正三・八六No. 154, 23)

所讚念佛集 ①(日) Sho-san-nem-ban-shu. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所止辨 ①(日) Sho-shi-ben. ①存、難波摩堂之内 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

【シ】

心を推し、彼をして遂に五百弟子を率ゐて出家するに至らしめる由來が述べられて上巻は終る。下巻に入りて彼が弟子と共に出家するに説き起されて、彼の二弟にして共に兄と道と同じうする那提迦葉は三百の弟子を率ゐ、伽耶迦葉は二百弟子を率ゐて共に長兄に倣つて出家することが説かれる。それより佛は彼ら新附の弟子を率ゐて象頭山に入り、彼らに説法し、又杖林山に入り、次いで王舍城に到りて頻婆沙羅王を教化せんとす。此の時王及會衆、佛と有名なる老迦葉と何れが師にして何れが弟子なるかに疑念を抱いたので、佛は迦葉をして之を會衆に告知せしめ、やをら説法を始めて王の歸佛を得たる事が述べられ、最後に簡略に迦葉の弟子舍利弗目連の得度の事が説かれて、一經は終つてゐる。所説通途と異なる處けれども、那提の弟子三百、伽耶の弟子二百といふは、本經と佛本行集經、五分律、mahāvagga、Pheragaha註、など、他經は多く各二百五十とする。

尙ほ本經の内容は多くの經典に説かれてはゐるが、此の經に説く三事のみを取扱へる體即ち異譯は漢譯中に見えぬ。又西譯にもない(大藏目錄參看)。本經の譯出は北印度烏旗國帝釋宮等の沙門にして、宋の太宗太平興國五年(A. D. 980)來せざる施護に依つてせられたが、その年時は不明である。但、宋元明三本及宮内省本に於て譯者に冠する官位。朝奉大夫試光祿卿に依て(高麗本之れを缺)、彼が官位に補せられたる神宗二年(A. D. 983)以後と之を推定し得る。

大、新撰

所信能信之辨 ①(日) Sho-shin-nen-shin-no-hen. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所非汝所經 ①(日) Sho-hi-nyo-sho-kyo. ①卷 ①存 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所欲致意經 ①(日) Sho-yoku-chi-ge-kyo. (支) So-yu-chih-huan-ching. ①卷 ①存、大正一七・五三九No. 737 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

所欲致意經 ①(日) Sho-yoku-chi-ge-kyo. (支) So-yu-chih-huan-ching. ①卷 ①存、大正一七・五三九No. 737 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

并鈴義 ①(日) Sho-rei-gi. (支) Ch'u-hang-i. ①卷 ①存、日本大藏

經言宗事相章疏 ①(日) Sho-gon-jou-ji-shu. ①卷 ①存、大正一七・五三九No. 737 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

眞言宗事相章疏 ①(日) Sho-gon-jou-ji-shu. ①卷 ①存、大正一七・五三九No. 737 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

眞言の修法に用ひる金剛鈴と金剛杵とに關する、その象徵する所の意義を説いた書である。卷末に大日を中尊とし、金剛手除障尊等八菩薩圍繞の種子曼荼羅が付してゐる。これは多分後人の加筆で、原本には無かつたものと思ふ。

書 ①(日) Sho. (支) Shu. ①卷 ①存、大正一七・五三九No. 737 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

眞言の修法に用ひる金剛鈴と金剛杵とに關する、その象徵する所の意義を説いた書である。卷末に大日を中尊とし、金剛手除障尊等八菩薩圍繞の種子曼荼羅が付してゐる。これは多分後人の加筆で、原本には無かつたものと思ふ。

征西府に拒まれて上洛し難きを知り、前記の天台僧なる克勤を嘉興府天寧寺仲猷祖開禪師(元興行禪師の法嗣にして南岳下二十世)とに命じ、當時在明せし日本僧持庭海壽和尚(足利義滿の歸依を受け京の眞如、鎌倉の淨智、開覺、京の天龍南禪等に歴住す)並に杭州中竺の藏主權中興の二名を通事として同行せしめたもので、本書の文中に最後、源信、俊徳等日本僧と支那との關係、唐宋以來の修好に言及して、時に天台座主の轉法輪を興ふて居り、且つ唐宋五代の忠臣王が高麗に使者を遣はし、高麗の諸親、經典を奉じて朝貢したることを述べて、虚堂智愚禪師贊の天台像一軸を進むることを記し終りに支那に遺供せし天台教典の目錄を掲げて居る。日支外交關係書として興味あるものであり、且つ佛敎書誌學上より彼我典籍の研究に就ても興味あるものである。尙ほ克勤は詩文に長じ、五山僧の詩文を閲して賞讃したる事など、義堂則信禪師の空華日工集應安六年八月、同八年三月、至徳二年二月の項などに散見して居る。

尙ほ續藏本に於ては、本書の終りに、續文獻通考、圖書百四十六、圖書編五十、明太祖朱元璋文集、九靈山房集、夢觀集、佛祖統紀、續佛祖統紀等の諸書に現れた關係文書を掲げてある。克勤の書に記された當時支那に遺供せし天台典籍は左の如くである。

(南岳)大乗止觀二卷。四十二字門二卷。無野行門二卷。三智觀門。次第釋要。釋論

支各一卷。

(天台)智度論疏二十卷。彌勒成佛經疏五卷。觀心釋一切經義一卷。彌勒上生經疏一卷。仁王般若經疏二卷。禪門章。般若行法雜難行。入道大旨。五方便門。七方便義。七病人義。一三三四身義。法門儀。禪門要略。彌陀經疏。金剛般若經疏各一卷。

(華嚴)止觀要記十卷。涅槃後分疏。授菩薩戒文。止觀文句。方等補闕儀各一卷。

尙ほ天台傳列祖として、高麗僧持祥者より十七祖法智尊者に至り、次で南屏、慈辨、車溪、竹菴、北峰、剎源、雲夢、洪堂、我菴、並に無逸克勤の嗣法の師たる元瑩法師に至る傳燈を掲げて居る。(大久保照瑞)

書 ①(日) Sho. (支) Shu. ①卷 ①存、應雲華全集第一五 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

書 ①(日) Sho. (支) Shu. ①卷 ①存、應雲華全集第一五 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考) ㊷(參考) ㊸(參考) ㊹(參考) ㊺(參考) ㊻(參考) ㊼(參考) ㊽(參考) ㊾(參考) ㊿(參考)

書 ①(日) Sho. (支) Shu. ①卷 ①存、應雲華全集第一五 ②(參考) ③(參考) ④(參考) ⑤(參考) ⑥(參考) ⑦(參考) ⑧(參考) ⑨(參考) ⑩(參考) ⑪(參考) ⑫(參考) ⑬(參考) ⑭(參考) ⑮(參考) ⑯(參考) ⑰(參考) ⑱(參考) ⑲(參考) ⑳(參考) ㉑(參考) ㉒(參考) ㉓(參考) ㉔(參考) ㉕(參考) ㉖(參考) ㉗(參考) ㉘(參考) ㉙(參考) ㉚(參考) ㉛(參考) ㉜(參考) ㉝(參考) ㉞(參考) ㉟(參考) ㊱(參考) ㊲(參考) ㊳(參考) ㊴(參考) ㊵(參考) ㊶(參考)

【シ】

①存 ②支那享保一九一〇寛政六
D. 1734-1793) 撰 ③寫本(龍大、別置)
書撰論編徒後二篇 ④(日)Sho-
ron-shi-to-go-ni-ken. ⑤存 ⑥寫本(龍
大、別置)
書寫山緣起 ⑦(日)Sho-sha-zan-en
撰. 播州書寫山緣起 ⑧存. 大日本佛教全
書第一一七寺誌叢書第一、國文東方佛教叢
書第二輯第六寺誌部 ⑨快倫 ⑩寛永二一
(A. D. 1644)年撰
⑪播州書寫山圓教寺は村上天皇の康保三年
(A. D. 1066)、性空の開創する所、爾來、
朝野の尊崇を受け天台三道の場の一に数へら
れし聖刹である。本書は即ち當山の緣起で
あつて、其の奥書にある如く、寛永二十一
年、書寫山理教房前住内供來快倫の撰録す
る所である。
撰者の言によれば、性空未だ存命の時、
即ち、長保四年三月五日に花山法皇が書寫
山に再度の幸駕ありし折、通寶山に一日御
逗留ありて、上人の形貌と行業を圖記せし
められしものを『聖地傳』と稱して仙洞の文
事に置かせられしを、上人の没後四年にし
て寛弘七年十月に兼從の願により當山に送
り給はりて今に遺寶となつてあるといふ。
本書は此の『聖地傳』に據りて成りしもので
「此かたに書ぬるも、皆かの文の心をうつ
してわたくしなし云々」の「かの文」とは『聖
地傳』を指示するもので、又、「くはしむる所
ねは、眞名の文を見し」と云つてある所
から『聖地傳』は漢文體のものである事も知
られる。即ち、快倫撰録の本緣起は其の原

本たる『聖地傳』の意を變改することなく、
之を平易なる假名交り文となし、それに
『高僧傳』や『元亨釋書』等を參照して聊か附
記したものである。本書の一本に繪の字有
ること及び、文中に「たゞ在世萬徳のあら
ましを、筆畫にうつして云々」と云つてあ
る點を考ふれば、原本即ち、『聖地傳』は恐
らく繪傳なりしならんも今親しく見るを得
ず。(不破幹雄)
書寫山舊記 ⑫(日)Sho-sha-san-ku
撰. ⑬存. 大日本佛教全書第一一七寺誌
叢書第一
⑭本記はその奥書に依つて貞享二年に書寫
山圓教寺寶藏本を撰録したものである事が
分る。書寫山は其の開山性空以來、上下の
尊崇厚く、叡山、大山(伯耆)と共に天臺三
道場の一に數へられし程の聖刹なれば、當
山に關する舊記も亦多かりしならんも今は
之を見るを得ず。
本記の内容に就いて云へば、最初に、承
安四年四月三日、後白河法皇、當山に幸駕
あり、其際、勅定を以て如意堂の本尊(書
寫山緣起)によれば、開山性空が安儀に仰
て、靈樞を以て作らしめ給ひし生木の如意
輪尊)を拜見され、御自筆の御札を賜はり
て如意堂の正面に打たせられし事を記して
ある。次に、惠心僧都の遺上人時を載せ、
最後に、元弘三年五月廿七日、後醍醐天皇
が隱岐より京都へ還幸の途次、當山に行幸
あり、翌廿八日には如意堂、増位、法華の
二寺に行幸ありし事を仔細に記してある。

今、此の行幸の記載の内容を按ずるに、天
皇の當山臨幸には、且なる御參詣の御恩石
のみではなく、深き御宿願の意の存せしこ
とを窺ひ得る。尙、此の記事は『群書類從
帝王部』所載の『書寫山行幸記』と其の本
文全く同一であつて、天皇行幸の御、御先
導役をなせし權律師行春が同年六月三日に
記録せし所のものである。(不破幹雄)
書寫聖人懺悔法 ⑮(日)Sho-sha-
shu-ni-han-ge-ho. 書寫聖人懺悔法 ⑯一巻
撰. ⑰(参考)淨土依憑經論叢書目録
書寫請來法門等目録 ⑱(日)Sho-
shu-shu-tai-ho-mo-ko-to-mo-ko-to-ku.
一巻 ⑲存. 大日本佛教全書第二佛教叢書
目録 ⑳宗敎大同四元(慶長八、A. D. 1609)
撰. ㉑成通六(A. D. 1665)
⑳本書は眞言宗東寺入唐五家の隨一宗敎の
請來目録であつて、全體が三部から成つて
居る。第一部は金剛頂瑜珈中略出念誦經一
部六卷以下百六十六種の聖典を掲げ、第二
部は五結鈴三口以下九種の道具目録であり
第三部は都利事新書一部五卷以下十部の雜
書目録である。第一部中收められたる書籍は宗
敎在唐中各地にて蒐集せる聖典中に先に
弘法大師、或は他師に依りて既に我が國に將
來されて他所に在りと雖も、未だ東寺に至
らざるものと、既に東寺に藏せられ居るも
多少とも字句に異點の存する眞言經、儀軌、
雜法門のみを特に選んで目録を製したるも
である。即ち、第一部の終りに
右眞言經并儀軌及雜法門等。或雖他處
先來一是即東寺未、到因、致隨分請寫勸力

増。
と云へるは此の消息を語つたものである。
冒頭に一百三十四部一紙書十九張と云へる
も、卷本一百四十二部、一紙書二十四部と
すべきか。第二部は青龍寺法全、善無長三
藏の舊註等に附せられたる道具目録であ
り、第三部は當時我が國の入唐僧圓敎が宣
宗皇帝の請に應じて宮中に法輪を轉じ、勅
を奉じて西明寺に住し、釋典備書數千卷を
本國に寫持せんとし、寫り居りしを以て、
宗敎是を訪ひ、乞ふて寫得せるものであ
る。宗敎の西明寺に至りしは成通六年(A.
D. 865)なり、この年歸朝し、右聖典道具
を東寺に藏するに當つて本目録を製したる
のである。(林屋友次郎)
書寫理趣經願文 ㉒(日)Sho-sha-
ri-shu-kyo-e-wan-mon. ㉓一巻 ㉔存
⑳光嚴記 ㉕徳川時代寫 ㉖(黃龜院)
書寫聖敎貸不忘記 ㉗(日)Sho-
shu-shu-kyo-tai-to-mo-ko-to-ku. ㉘一帖 ㉙存
㉚天保一四寫 ㉛(黃龜院)
書寫目錄 ㉜(日)Sho-shu-ki-mo-ko-
to-ku. ㉝一帖 ㉞存 ㉟寫本(谷大、餘大、
三七五二)
書寫會異文集 ㊱(日)Sho-han-
i-mon-shu. ㊲一巻 ㊳存 ㊴蘭英 ㊵寛
文九刊 ㊶(龍大、二六九四、四)
書目集覽 ㊷(日)Sho-mo-ku-shu-tai-
to-ku. ㊸一巻 ㊹存 ㊺先氏結譯者 ㊻昭和

名所行記◎(名庫書)書寫所現◎ 月年の刊記◎ (書考參書附註)書主◎ 説明有内◎ 代年作撰◎ 表題◎ 録存◎ 數卷◎ (名書)名題◎ 號或字數

【シ】

三刊 ①(龍大)
書札式 ②(日)Sho-sas-shiki. ③一
巻 ④存 ⑤寫本(龍大、別置)
庶人王並庶民受五戒正信除邪
經 ⑥(日)Sho-nan-ji-narabhai-sho-
ma-ji-go-kai-sho-shin-jo-ya-kyo. (支)
Sho-ji-wang & shu-mi-shou-wa-chieh-
-cheng-hsin-ch'u-hsieh-ching. ⑦一巻
⑧疑偽經 ⑨(參考)開元錄第一八
疏及念誦類 ⑩(日)Sho-oyon-
-ji-rui. ⑪一巻 ⑫存 ⑬刊本(駒大)
疏記第七古記 ⑭(日)Sho-ki-dai-
shichi-ko-ki. ⑮存 ⑯寫本(立大、A. 11-
1136)
疏記抄 ⑰(日)Sho-ki-sho. ⑱十巻
⑲山家圓敎撰述爲目集巻下に大論義抄、法
華五部九巻、高徳徳王抄、枕雙紙、三大部
七百科、疏記抄十巻、四教圖抄三巻を列舉
にその下に細註して曰く、「已上七部大聖賢
撰爲兵部仁快撰。五大院閣聖安然撰以七
部爲忠孝撰。其撰也。今即記之。天正錄。
仁快撰玉泉抄一部而已。今依之。後賢思、
之云々」
疏御釋目錄 ⑳(日)Sho-go-shaku-
moku-roku. ㉑一冊 ㉒存 ㉓寫本(龍大、
寄・一・五〇)
疏相承次第 ㉔(日)Sho-jo-ji-shi-
dai. ㉕一帖 ㉖存 ㉗寄稿記 ㉘永祿六
寫 ㉙(龍大、寄・一・六四)
疏草第七有慶記 ㉚(日)Sho-an-
dai-shichi-u-kyo-ki. ㉛二冊 ㉜存 ㉝信
想(貞享二一寛曆一三 A. D. 1685-1763) 述

眞良記 ㉞寫本(龍大、一・三四)
疏草第十有慶記 ㉟(日)Sho-an-
dai-ju-u-kyo-ki. ㊱一巻 ㊲存 ㊳寫本
(正大、一四四・五〇)
疏六啓蒙 ㊴(日)Sho-roku-ki-mo.
一冊 ㊵存 ㊶泊知運敎(慶長一九一
元 祿六 A. D. 1614-1693) 述 ㊷延寶元刊 ㊸
(龍大、大末、四四〇)
處處經 ㊹(日)Sho-sho-kyo. (支)Ch'u-
-ch'u-ching. ㊺一巻 ㊻失譯 ㊼(參考)
出三藏記第四、法經錄第四、佛華錄第四
處處經 ㊽(日)Sho-sho-kyo. (支)
Ch'u-ch'u-ching. ㊾一巻 ㊿存. 大正一
一・五二二 No. 730. 箱六・花二四一〇.
北812無. 南826無. 元830無. 明北890敎.
清690敎. 麗811註. 天813無. 推725註. 法
800註. 至1017年. 明南906敎. 634 後
漢安世高譯 ㊿建和一一建寧三(A. D. 148
-170)
①本經は支那譯經中の初期に屬するもので
あるだけに、雖然と佛敎智識を集めた觀が
あり、云はば佛敎一般に關する紹介とも見
ゆるべきものである。從つて經として首尾一
貫の組織を持たぬ。佛敎傳來の初期に於
ては、この種のものが特に必要とされたも
のと思はれる。大略五十許りの項目になる
が、佛、菩薩、阿羅漢、辟支佛等について
各その特性を擧げ、佛敎教目に就いても極
めて端的に記述する等、特に實踐道德に關
する方面が説かれてゐる。故に戒律に關す
るものも多く、しかも所謂戒律としての組織
も持たぬ。惟かに支那佛敎初期の資料と合

せ見るならば興味深きものがあらう。次に
内容について因縁の項目とその他四五の文
を引くことにする。
道人行。不隨自犯。意中大深解。菩薩四
事。佛四事。四無畏。頂光三因緣。舉手四
因緣。不著履三因。(以下縁略)佛行足大地
四十三因。行地高下平等三因。不飛行四
因。初成道時七日不食四因。佛三病六憂。
佛乘餘壽二十年三因。佛身三因。佛笑口
中有五色光五因。佛度世去四因。彌勒不來
下四因。阿那含三結。須陀洹七結。鉢有因
名。後不食五福。
○阿羅漢守空不得菩薩道。
○諸阿羅漢共贊阿羅漢。佛在世時欲得水何以
故不與。十方一切皆當從佛解脫汝何以不留
佛。
○佛本行共學道者有八十位萬人皆求菩薩
道。唯有兩人得道耳。一有釋迦文二者彌勒。
○佛忍辱過於地。心軟過於水。意堅過於須
彌山。功德過於海水。智慧過於虚空。以是
故前得佛耳。
○彌勒時人眼見四千里者。本行十因緣得。
不掩人眼明。不捨人眼。不覆人眼。不藏
人善。不視殺。不視盜。不視淫。不視及人
短。諸惡事不視。然燈於佛事。
○佛辟支佛阿羅漢是三人法同行異。佛者爲
覺意。辟支佛爲見因緣知。阿羅漢坐禪乃知
……辟支佛身已有三十相。無二相不及佛。
○無善根方便故。阿羅漢自斷苦不斷他人苦。
○彈指之間人宜有六十生死。彈指之間三意
並行。
○佛言舍利弗第一。目健連神足第一。阿

羅漢第一。羅雲或第一。阿那律觀第一。
舍利弗兼帶三千大千日月天地悉動等。
○不知身生意意生身。
○栴那比丘得病言。地水火風空皆當滅但爲
意識移生耳。
○阿那律提提金毘羅三人共坐自思惟七事
……少欲知足持守六寶自護守智覺乃至
得菩薩。
○人在世間五十歲。出息不還屬後世。人命
在呼吸之間耳。
○比丘入人舍中當如手在空中無所履履。
○人命盡時不滅。(稻葉文海)
處處應用禪ノ殺活 ㊿(日)Sho-
-jo-zen-no-shiki-kawata. ㊿一巻 ㊿存
竹田默雷著 ㊿昭和六刊 ㊿東京中央佛敎
社
處世禪 ㊿(日)Sho-jo-zen. 殺活自在
處世禪 ㊿一巻 ㊿存 ㊿丸山徳仙述 ㊿
大正七刊 ㊿(駒大) ㊿東京若月書店
處世と信仰 ㊿(日)Sho-jo-zen-shin-
-tai. ㊿一巻 ㊿存 ㊿瑞穂敎部著 ㊿大
正七刊 ㊿東京顯道書院
處中行道經 ㊿(日)Sho-cho-kyo-
-do-kyo. (支)Ch'u-chung-kyo-shin-
-do-kyo. ㊿一巻 ㊿失譯 ㊿阿含經の抄出
㊿(參考) ㊿出三藏記第四、法經錄第四、仁
壽錄第三、佛華錄第三、第四、武則錄第一
二、開元錄第一六、貞元錄第二六。
署杜婆娑羅門經 ㊿(日)Sho-to-
-ba-ra-mo-n-kyo. (支)Shu-to-
-ba-ra-mo-n-kyo. ㊿一巻 ㊿失譯
㊿(參考) ㊿出三藏記第三、法經錄第三、仁

名所行記◎(名庫書)書寫所現◎ 月年の刊記◎ (書考參書附註)書主◎ 説明有内◎ 代年作撰◎ 表題◎ 録存◎ 數卷◎ (名書)名題◎ 號或字數

諸宗便覽 ①(日) Sho-sha-ben-ran. ②四帖 ③存 ④寛永一〇寫 ⑤(寶龜院) ⑥五册 ⑦存 ⑧論什著 ⑨元祿二刊 ⑩(龍大、二五四・一四) (寶・元・四・中・一九) (帝國、二三二・二六八)

諸宗本山寺諸法度 ①(日) Sho-sha-hon-za-hon-j-i-sho-hat-to. ②存 ③大日本史料第二二編第三二 ④徳川家康(天文一一元和) A. D. 1542-1616 ⑤大正九刊 ⑥(駒大)

諸宗本寺ヨリ差出候法度書 ①(日) Sho-sha-hon-za-hon-j-i-sho-hat-to-gaki. ②一巻 ③存 ④寫本 (龍大、二九九・六)

諸宗無得道論 ①(日) Sho-sha-mu-toku-ido-ron. ②一巻 ③存 ④日朝作 ⑤大正四寫 ⑥(立大、D. O. 一七一一)

諸宗問答抄 ①(日) Sho-sha-mon-dō-shō. ②三種抄相抄 ③一巻 ④存 ⑤日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第一 ⑥日蓮貞應元一弘安五 A. D. 1223-1282 ⑦建治三(A. D. 1277) 或云建長十(A. D. 1255)

⑧日蓮が弟子三位房日行に與つた書、諸宗と問答の用意を教示したもので、諸宗としては(一)禪宗、(二)華嚴等南都六宗、(三)眞言宗、(四)念佛宗の九宗にわたつてゐる。初めに天台の三轉教相「相持妙、絶持妙」等を擧げ、諸宗に對する教相上の意を示し用次に諸宗以下の諸宗の所立を擧げて一々之を反駁してゐる。

⑨(参考) 餘外徵考卷上、餘外考文第四 (馬田行啓)

諸宗要論 ①(日) Sho-sha-yō-ron. ②一巻 ③存 ④寫本(哲・元・四・右・一五)

諸宗略傳 ①(日) Sho-sha-ryaku-den. ②一巻 ③存 ④刊本(立大、A. 六一・二五)

諸集 ①(日) Sho-shū. ②一巻 ③存 ④大日本佛教全集第二二東大寺叢書第二 ⑤諸抄記類 ⑥(日) Sho-shū-ki-rui. ⑦一括 ⑧存 ⑨徳川時代寫 ⑩(寶善提院)

諸星母陀羅尼經 ①(日) Sho-shō-mo-da-ra-ni-kyō. ②(日) Chu-shō-gō-mo-da-ra-ni-kyō. ③一巻 ④存 ⑤大正二一・四二 No. 1302 ⑥唐代法成譯 ⑦初に釋迦如來が金剛手菩薩の請に應じて、先づ供養星法と八星秘密心呪とを述べられ、次で復爲に諸星母陀羅尼を説かれたことを示し、終に其の諸星母陀羅尼秘密呪句の功徳として、九月の白月七日より十四日に至るまで諸星に供養し、月に十五日、晝夜之を誦讀して滿九年に至れば、死の畏れ及び星流墮落等の畏れなく、一切の諸星は、行者の所願に隨つて、願望成就せしめ玉ふ靈が明しである。(神林隆淨)

諸星要集 ①(日) Sho-shō-yō-shū. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

諸聖明口傳隨聞注 ①(日) Sho-shō-mei-kyō-den-ai-mon-chū. ②一巻 ③存 ④圓珠注 ⑤(文永九) A. D. 1272 ⑥(無動寺藏)

諸上善人詠 ①(日) Sho-jō-shō-nin-ai. ②一巻 ③存、慈雲尊者全集首巻 ④長谷實秀編 ⑤大正一五(A. D. 1926)

⑥慈雲尊者全集の編輯に方新に編次したるもの、此の中に貴高明神由來記、慈雲尊者御消息四通、諸神受菩薩或安名集、受菩薩戒神記、諸神演頂投華包記の五種を収録してゐる。⑦初三は慈雲尊者(歿光)筆、後二は他筆(河内西方院)

諸神佛御詠歌 ①(日) Sho-jin-shō-butsu-ryō-ka. ②一帖 ③存 ④慶安四刊 ⑤(龍大、二六八・一八六)

諸神遷宮略作法 ①(日) Sho-jin-shō-utsunaga-ryaku-sa-hō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

諸神本懷集 ①(日) Sho-jin-hon-ei-shū. ②一巻或二巻 ③存、異義集(了稿稿本)第七、同第二(眞宗大本系) ④源空(長承二)建曆二 A. D. 1133-1212 撰 ⑤本書は漢文體の諸神本懷集上下二巻の合冊せられたもので、その撰述に沙門源空記とあつて、法然上人の著述とせられ、奥には承應三甲午正月吉日吉田庄左衛門刊行之とある。されど此の刊記は後から其板形を嵌めたものと見られるから、實際開板の年時は其前とも或は其後とも考へられることとなる。之を源空記とする所は、或は本書を以て假名聖教本法要本の國文諸神本懷集の底本に擬せるものらしいが、之を以て存覺の日本流布之本と稱するものに充てるには、餘りに多くの疑義がある。了詳師は版

①即ち諸上善人とは阿彌陀經所説の樂業淨土往生を願求する者の稱であつて、本書は淨土願往生者僧俗男女の代表者の德行を讃詠したものである。撰者道行は始め天台を學び、中頃禪門に歸したが、後淨土門に歸入し専ら禮拜誦經を事としてゐた。自序によると、撰者はこの書によりて善く十方の有縁に淨土往生を勧め、若し能くこれによりて信を起し念を興さば我が願は遂げられ、他日諸上善人とともに淨土に於て遊戯三昧をなし得べしと述べてゐる。本書成るの年七月、大佑は隨喜のあまり跋を叙し洪武十六年有志の援助によりて開板に際し性深は出版の由序を述べ、且つ揚次公撰の念佛願文を附記した。猶本書の撰者道行には「淨土簡要録」なる淨土往生者の心得べき要項を述べた著述一巻が傳存してゐる。

②(参考) 淨土正依經論書目録、淨土眞宗教典第三、總淨土正依經論書目録、③寛文元刊(正大一〇三六・八、八二)(龍大、二九六四・五二)京大、藏・一九九・三三)天保三刊(谷大、宗大・二五九九)正大、一〇三六・九(哲・元・左・一四) (高瀬水鏡)

諸上善人詠略釋 ①(日) Sho-jō-shō-nin-ai-ryaku-shō. ②一巻 ③存 ④貞定(天文二一)寛永一六 A. D. 1539-1639 ⑤寛文元刊 ⑥(龍大、二九六四・五三)正大、一〇三六・一〇〇(哲・元・中・二二)

諸定書集 ①(日) Sho-jō-shū-shū. ②一巻 ③存 ④寫本(正大一五一一・一一)

諸乘法數 ①(日) Sho-jō-hō-sū. ②(支) Chu-chō-hō-sū. ③(支) Sho-jō-hō-sū. ④十一巻 ⑤存、佛學三書第一 ⑥明代行深編、野村淨建校 ⑦寛文五刊(正大、一〇一一・一一)貞享二刊(正大、一〇一一・一一)京大、藏・二二・六(帝國、一八六・六)寛政一二刊(龍大、二〇三三・一八一・九)明治一三刊(龍大、研佛)内閣(正大、一〇一・九六)高木、二・二四(京專)宣徳二刊(龍大、二〇二二・一八)

諸申物御禮等記 ①(日) Sho-shin-motsu-on-rei-ō-no-ki. ②一巻 ③存 ④安政二寫 ⑤(谷大、宗大・二八八・六)

諸眞言 ①(日) Sho-shin-gon. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶龜院) (寶善提院)

諸眞言句義私鈔 ①(日) Sho-shin-gon-ku-gi-shi-shō. ②三巻 ③存 ④刊本(龍大、二六二・六九)

諸眞言集 ①(日) Sho-shin-gon-shū. ②二巻 ③存 ④心曼(永久五)治承四 A. D. 1127-1180 ⑤徳川時代寫 ⑥(寶善提院)

諸眞言要集 ①(日) Sho-shin-gon-yō-shū. ②四巻 ③存 ④眞享三刊 ⑤(谷大、龍大・一四六) (正大、一四二・九)

諸神呪經 ①(日) Sho-jin-shū-kyō. ②(支) Chu-shin-shū-kyō. ③三巻 ④存 ⑤西晉法護(一太始二)建興元 A. D. 265-313 譯 ⑥(参考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

諸神受戒記集 ①(日) Sho-jin-ji-ji. ②一巻 ③存、慈雲尊者全集首巻 ④長谷實秀編 ⑤大正一五(A. D. 1926)

⑥慈雲尊者全集の編輯に方新に編次したるもの、此の中に貴高明神由來記、慈雲尊者御消息四通、諸神受菩薩或安名集、受菩薩戒神記、諸神演頂投華包記の五種を収録してゐる。⑦初三は慈雲尊者(歿光)筆、後二は他筆(河内西方院)

諸神佛御詠歌 ①(日) Sho-jin-shō-butsu-ryō-ka. ②一帖 ③存 ④慶安四刊 ⑤(龍大、二六八・一八六)

諸神遷宮略作法 ①(日) Sho-jin-shō-utsunaga-ryaku-sa-hō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

諸神本懷集 ①(日) Sho-jin-hon-ei-shū. ②一巻或二巻 ③存、異義集(了稿稿本)第七、同第二(眞宗大本系) ④源空(長承二)建曆二 A. D. 1133-1212 撰 ⑤本書は漢文體の諸神本懷集上下二巻の合冊せられたもので、その撰述に沙門源空記とあつて、法然上人の著述とせられ、奥には承應三甲午正月吉日吉田庄左衛門刊行之とある。されど此の刊記は後から其板形を嵌めたものと見られるから、實際開板の年時は其前とも或は其後とも考へられることとなる。之を源空記とする所は、或は本書を以て假名聖教本法要本の國文諸神本懷集の底本に擬せるものらしいが、之を以て存覺の日本流布之本と稱するものに充てるには、餘りに多くの疑義がある。了詳師は版

①即ち諸上善人とは阿彌陀經所説の樂業淨土往生を願求する者の稱であつて、本書は淨土願往生者僧俗男女の代表者の德行を讃詠したものである。撰者道行は始め天台を學び、中頃禪門に歸したが、後淨土門に歸入し専ら禮拜誦經を事としてゐた。自序によると、撰者はこの書によりて善く十方の有縁に淨土往生を勧め、若し能くこれによりて信を起し念を興さば我が願は遂げられ、他日諸上善人とともに淨土に於て遊戯三昧をなし得べしと述べてゐる。本書成るの年七月、大佑は隨喜のあまり跋を叙し洪武十六年有志の援助によりて開板に際し性深は出版の由序を述べ、且つ揚次公撰の念佛願文を附記した。猶本書の撰者道行には「淨土簡要録」なる淨土往生者の心得べき要項を述べた著述一巻が傳存してゐる。

②(参考) 淨土正依經論書目録、淨土眞宗教典第三、總淨土正依經論書目録、③寛文元刊(正大一〇三六・八、八二)(龍大、二九六四・五二)京大、藏・一九九・三三)天保三刊(谷大、宗大・二五九九)正大、一〇三六・九(哲・元・左・一四) (高瀬水鏡)

諸上善人詠略釋 ①(日) Sho-jō-shō-nin-ai-ryaku-shō. ②一巻 ③存 ④貞定(天文二一)寛永一六 A. D. 1539-1639 ⑤寛文元刊 ⑥(龍大、二九六四・五三)正大、一〇三六・一〇〇(哲・元・中・二二)

諸定書集 ①(日) Sho-jō-shū-shū. ②一巻 ③存 ④寫本(正大一五一一・一一)

年冬八幡宮に參詣した時の託宣である。こと、六條條起第九に出でゐるし、又同一八右に出る千勢破の歌も、玉葉和歌集神祇部に出でゐて、何れも源空の時代より後のこととあれば、それが既に源空撰の本集に出ることは時代の錯誤となること先言の指摘せる如くである。それゆゑ寧ろ之を遺に考へれば、存覺の國文本懷集を底本とし、何人か漢文體に書き改め、源空記として、存覺添加の底本に擬せしものと見られ得ることとなる。

④正保三刊(正大、一五四・三三五)承應三刊(正大、一五四・三三六)(龍大、研眞)

諸神本懷集 ①(日) Sho-jin-hon-ei-shū. ②一巻或二巻 ③存、眞宗假名聖教第二、眞宗假名聖教第六(本山藏)、眞宗法要第一二、假名聖教(源空編)八十八部 ④存覺(正應三)應安六 A. D. 1290-1273 撰

⑤本書は其の跋文に依れば、存覺上人が元享四年正月(三十五歳)滋谷の第七世源性房了源の懇囑に由り、従來世に流布せる一本に就いて、其の文言の相違せるが如き點や、又義理の不審な所に、大略これが添削を加へ、願主了源に授與せられたものである。假名聖教、眞宗法要俱に之れを編入し存如寫書の奥書を存すれば、本書が存覺の添削に成れるものなることに疑ひはない。されどその添削の原本たりし日本流布之本とあるが果してどんな本であつたかといふことは古來の疑問である。爾るに坊刊にか

から漢文體の諸神本懐集一冊(上下二巻合冊)があつて、その撰者に沙門源空記とあるけれど、たゞ本集が和風體の漢文に書かれてゐるのみで、其の内容が殆んど一致し、添削せられた形跡が餘りに乏しい、殊に源空記とあるは奇怪である。(別項参照)されば日來流布の本と謂はれるものが今日に於いて全く不明であるとすれば、隨ひて存覺が之れを添削せられた程度もまた明かでない。されど、其の造意のある所は、日本に古くより行はれた神佛二道の調和思想たる本地垂迹説に立脚して、眞宗一流の神祇觀を創建せんが爲めであつた。何となれば佛敎が日本に傳つてより、在來の敎神思想との衝突は免れぬ所であつたが、佛敎の特質たる包容性はいつか其の敎義の上から神明と協調し融合して、本地垂迹といふ神佛混淆の敎義を建設し、時代の推移に伴ひて當時既に一般民間に抜くべからざる信仰を形成してゐた。されば聖道諸宗殊に眞言天台等にあつて、それら神祇觀を構成し神々の本地を佛菩薩に認めて、神佛一如の崇拜を民衆に勧めてゐたが、眞宗もまたこれら一般の神祇觀と如何に關涉し如何に融會すべきかを、宗團として實際に解決を迫られた問題であつた。特に眞宗は一向専念の宗義を高調し、諸神佛の崇信を排斥して排斥することだから、動もすれば國神を排斥するとの謗を招く虞がある。爾るに宗祖親覺にあつて、未だ國神に對する明白なる敎示がないのであるから、本問題の解決は容易な事業ではないばかりか、當時の宗團

として實際の傳道に、特に民衆誘引のため最も必要に區られてゐたことであらう。而して本集一部本末二巻の大綱は、要するに佛陀は神明の本地、神明は佛陀の垂迹なりとし本迹二門の利生を對説して、竟に之れを彌陀一佛に歸するのである。故に書中三門を分ち、第一に佛菩薩の垂迹たる權社の諸靈神を擧げて、本地の利生の尊むべきを敎へ、こゝに具體的に當時世に崇敬せらるる國神の一々につき其の本地たる佛菩薩を擧げ來り、是れ等の諸神何れも其の本地を尋ねれば、補果の如來深位の大神であつて利益衆生の悲願に催され、かりに神明の形を現じたまへるものとし、最後に其の本地は觀音勢至文殊彌勒等それらに異なれど皆是れ本師たる彌陀一佛の智慧に攝まる、從つて彌陀一佛に歸すれば自ら他の諸佛諸菩薩に歸することゝなると、此れに一般佛敎に於ける神明の迷門と佛菩薩の本門との間に於ける本迹迷劣の相對的神明觀は、更に一轉して眞宗別途たる本師彌陀と弟子諸菩薩との間に於ける本迹師弟相對の絕對的統一的の神明觀を成立せしめた。第二段には生靈死靈番類等を記れる實社の神祇を明し、これが承事の思ひを止むべき旨を勧めた。是れ迷信の打破であつて、從らに淫邪邪神に引ひおれども願を獲ずして却つて禍を招くことを戒められた。第三段に廣く諸神の本懐を明し、幾多の方面から、何れの神々も其の本懐とする所、全く佛法を行じ念佛を修するにあることに結歸せられた。而して存覺の著述中、本書の外に神祇問題

に觸れてゐるは、破邪顯正鈔、持名鈔、六要鈔であるが、それは書中の一部分に過ぎない。本集は専ら此の問題のみを取扱つるものであつて、其の後に於ける眞宗の神祇觀は、概ね此の思想を繼承せるものに外ならない。加之、存覺の神祇に對する態度は、斯くの如く本迹思想に依れる融會調和を基調とせるものであつたけれど、其の内面には權社の神に與へて、實社の神に之れを奪ふ與奪を含むものであつて、其の外表面に至つて理和なるに拘らず、而も諸佛諸菩薩を彌陀一佛に統攝し來つて、眞宗に於ける廢立の趣旨を當時の散漫なる神祇觀に徹底せしめて、一宗別途の神明に對する敎義を組織せんとする、以て本集の特色とせらるべきである。

①(参考) 淨土眞宗敎典第一、總淨土依經論論書目録、淨土眞宗敎目録、淨土目録、高宮聖敎目録、遺徳法輪集卷一、②端之坊本(谷大、宗四、七) (龍大、研眞)寫本(龍大、別置)文化六寫(谷大、宗大、三、八、七)刊本(龍大、一、二、三、研眞)各六、宗大、三、四、八、五) (大須賀秀道)

諸神本懐集引據記 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②二卷 ③存 ④(義)寫本(寛政八—安政五 A. D. 1796—1835) ⑤寫本(谷大、宗大、二、一、一、七)

諸神本懐集記 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki. ②三卷 ③存 ④(義)寫本(寛政八—安政五 A. D. 1795—1835) ⑤寫本(谷大、宗大、二、九、二、七、六)

諸神本懐集甲辰記 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②二卷 ③存 ④(明)明和六—嘉永四 A. D. 1769—1831) ⑤(参考) 眞宗全書刊行豫定書目

諸神本懐集講義 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki-kyō. ②一巻 ③存 ④眞宗大系第二 ⑤(義)寫本(寛政三—安政五 A. D. 1791—1835) ⑥天保七(A. D. 1836) ⑦本書は存覺作諸神本懐集を天保七年三月尾張國淨賢寺に於て講せしものである。製作の人體、選集の所由、一部大綱、入文解釋の四項に分つて詳細に述べてある。

諸神本懐集講義 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki-kyō. ③三巻 ④存 ⑤眞宗全書第四三 ⑥(義)寫本(寛政八—安政五 A. D. 1795—1835) ⑦(大原性實)

⑧汎く神道の典籍を涉獵して、神佛二道の關係を詳細に論議し、眞宗の宗意を諷解せざらしめんと意を須ひられし踳然たるものがある、諸神本懐集の講義としては桑葉の政涉録と共に東西兩派に於ける變遷と稱すべきものである。(大原性實)

諸神本懐集講義引據 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki-kyō-kyō. ②二巻 ③存 ④(義)寫本(谷大、宗大、三、五、六、九)

諸神本懐集講義並引文 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki-kyō-kyō-kyō. ⑦七巻 ③存 ④元治元—二(A. D. 1861—1865) ⑤寫本(谷大、宗大、一、七、六、八)

諸神本懐集親聽記 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-ki-kin-ōki. ②一巻 ③存

名所行録◎(名書)表題所見◎月年の刊行◎(書考)書目録◎書主◎説解存内◎代年作書◎表書◎録存◎敎書◎(名書)名題◎號字

hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④(義)寫本(文化二—明治一四 A. D. 1805—1881) ⑤元治元—二(A. D. 1861—1865) ⑥寫本(谷大、宗大、二、六、八、九)

諸神本懐集典據 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、宗大、二、〇、八、〇)

諸神本懐集跋涉録 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④(眞宗全書第六二) ⑤桑葉述 ⑥(文政五(A. D. 1823))

⑦本願寺派學匠中の唯一の神道研究家と稱せられし阿波國、桑葉師の撰である。簡明に神道と佛敎との關係を叙述し、直宗敎徒の神祇に對する心得を示してゐる。

諸神本懐集分科 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④(義)寫本(谷大、宗大、三、五、九、五)

諸神本懐集開次録 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④(義)寫本(天保三寫) ⑤(谷大、宗大、三、五、六、八)

諸神本懐集略述 ①(日)Sho-jin-hon-gwai-sha-to-shin-ki. ②一巻 ③存 ④(義)寫本(天保三寫) ⑤(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑥(義)寫本(天保三寫) ⑦(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑧(義)寫本(天保三寫) ⑨(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑩(義)寫本(天保三寫) ⑪(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑫(義)寫本(天保三寫) ⑬(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑭(義)寫本(天保三寫) ⑮(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑯(義)寫本(天保三寫) ⑰(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑱(義)寫本(天保三寫) ⑲(谷大、宗大、三、五、六、八)

⑳(義)寫本(天保三寫) ㉑(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉒(義)寫本(天保三寫) ㉓(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉔(義)寫本(天保三寫) ㉕(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉖(義)寫本(天保三寫) ㉗(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉘(義)寫本(天保三寫) ㉙(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉚(義)寫本(天保三寫) ㉛(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉜(義)寫本(天保三寫) ㉝(谷大、宗大、三、五、六、八)

㉞(義)寫本(天保三寫) ㉟(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊱(義)寫本(天保三寫) ㊲(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊳(義)寫本(天保三寫) ㊴(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊵(義)寫本(天保三寫) ㊶(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊷(義)寫本(天保三寫) ㊸(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊹(義)寫本(天保三寫) ㊺(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊻(義)寫本(天保三寫) ㊼(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊽(義)寫本(天保三寫) ㊾(谷大、宗大、三、五、六、八)

㊿(義)寫本(天保三寫) ㊿(谷大、宗大、三、五、六、八)

諸説不同記 ①(日)Sho-seki-to-shi-ki. ②大徳詔書普通大徳茶屋中諸尊種子權形形相聖位諸説不同記、胎藏諸説不同記 ③十巻、八巻或十一巻 ④存、大日本佛敎全書第四四 ⑤(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑥(大徳詔書普通大徳茶屋中諸尊種子權形相聖位諸説不同記) ⑦(下) ⑧(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑨(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑩(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑪(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑫(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑬(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑭(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑮(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑯(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑰(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑱(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑲(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ⑳(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉑(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉒(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉓(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉔(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉕(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉖(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉗(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉘(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉙(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉚(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉛(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉜(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉝(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉞(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㉟(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊱(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊲(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊳(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊴(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊵(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊶(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊷(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊸(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊹(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊺(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊻(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊼(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊽(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊾(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927) ㊿(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 895—927)

諸尊口傳集 ①(日)Sho-on-ku-den-shū. ②六巻 ③存 ④(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 1227—1307) ⑤(参考) 諸尊口傳集 ⑥(参考) 諸尊口傳集 ⑦(参考) 諸尊口傳集 ⑧(参考) 諸尊口傳集 ⑨(参考) 諸尊口傳集 ⑩(参考) 諸尊口傳集 ⑪(参考) 諸尊口傳集 ⑫(参考) 諸尊口傳集 ⑬(参考) 諸尊口傳集 ⑭(参考) 諸尊口傳集 ⑮(参考) 諸尊口傳集 ⑯(参考) 諸尊口傳集 ⑰(参考) 諸尊口傳集 ⑱(参考) 諸尊口傳集 ⑲(参考) 諸尊口傳集 ⑳(参考) 諸尊口傳集 ㉑(参考) 諸尊口傳集 ㉒(参考) 諸尊口傳集 ㉓(参考) 諸尊口傳集 ㉔(参考) 諸尊口傳集 ㉕(参考) 諸尊口傳集 ㉖(参考) 諸尊口傳集 ㉗(参考) 諸尊口傳集 ㉘(参考) 諸尊口傳集 ㉙(参考) 諸尊口傳集 ㉚(参考) 諸尊口傳集 ㉛(参考) 諸尊口傳集 ㉜(参考) 諸尊口傳集 ㉝(参考) 諸尊口傳集 ㉞(参考) 諸尊口傳集 ㉟(参考) 諸尊口傳集 ㊱(参考) 諸尊口傳集 ㊲(参考) 諸尊口傳集 ㊳(参考) 諸尊口傳集 ㊴(参考) 諸尊口傳集 ㊵(参考) 諸尊口傳集 ㊶(参考) 諸尊口傳集 ㊷(参考) 諸尊口傳集 ㊸(参考) 諸尊口傳集 ㊹(参考) 諸尊口傳集 ㊺(参考) 諸尊口傳集 ㊻(参考) 諸尊口傳集 ㊼(参考) 諸尊口傳集 ㊽(参考) 諸尊口傳集 ㊾(参考) 諸尊口傳集 ㊿(参考) 諸尊口傳集

諸尊見聞抄 ①(日)Sho-on-ken-shō. ②四巻 ③存 ④(眞宗親王仁和二—延長五 A. D. 1150—1202) ⑤(参考) 諸尊見聞抄 ⑥(参考) 諸尊見聞抄 ⑦(参考) 諸尊見聞抄 ⑧(参考) 諸尊見聞抄 ⑨(参考) 諸尊見聞抄 ⑩(参考) 諸尊見聞抄 ⑪(参考) 諸尊見聞抄 ⑫(参考) 諸尊見聞抄 ⑬(参考) 諸尊見聞抄 ⑭(参考) 諸尊見聞抄 ⑮(参考) 諸尊見聞抄 ⑯(参考) 諸尊見聞抄 ⑰(参考) 諸尊見聞抄 ⑱(参考) 諸尊見聞抄 ⑲(参考) 諸尊見聞抄 ⑳(参考) 諸尊見聞抄 ㉑(参考) 諸尊見聞抄 ㉒(参考) 諸尊見聞抄 ㉓(参考) 諸尊見聞抄 ㉔(参考) 諸尊見聞抄 ㉕(参考) 諸尊見聞抄 ㉖(参考) 諸尊見聞抄 ㉗(参考) 諸尊見聞抄 ㉘(参考) 諸尊見聞抄 ㉙(参考) 諸尊見聞抄 ㉚(参考) 諸尊見聞抄 ㉛(参考) 諸尊見聞抄 ㉜(参考) 諸尊見聞抄 ㉝(参考) 諸尊見聞抄 ㉞(参考) 諸尊見聞抄 ㉟(参考) 諸尊見聞抄 ㊱(参考) 諸尊見聞抄 ㊲(参考) 諸尊見聞抄 ㊳(参考) 諸尊見聞抄 ㊴(参考) 諸尊見聞抄 ㊵(参考) 諸尊見聞抄 ㊶(参考) 諸尊見聞抄 ㊷(参考) 諸尊見聞抄 ㊸(参考) 諸尊見聞抄 ㊹(参考) 諸尊見聞抄 ㊺(参考) 諸尊見聞抄 ㊻(参考) 諸尊見聞抄 ㊼(参考) 諸尊見聞抄 ㊽(参考) 諸尊見聞抄 ㊾(参考) 諸尊見聞抄 ㊿(参考) 諸尊見聞抄

名所行録◎(名書)表題所見◎月年の刊行◎(書考)書目録◎書主◎説解存内◎代年作書◎表書◎録存◎敎書◎(名書)名題◎號字

【シ】

都、轉法輪(小野)。愛染王。如法愛染王(小野敬愛)。調伏。不動。安樂。降三世。軍荼利。大成德。金剛樂又。烏帽沙摩。

諸尊摩抄 ①(日)Sho-son-go-ha-shō. ②五卷 ③存 ④良明述 ⑤實永元寫(金剛三昧院)慶安三寫(實善提院)

諸尊次第 ①(日)Sho-son-shi-dai. ②十二卷 ③存 ④元文四刊 ⑤(正大、一四八・二七)

諸尊手印圖 ①(日)Sho-son-shu-in-shū. ②三卷 ③存 ④(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

諸尊種子集 ①(日)Sho-son-shū-shū. ②(參考) 本朝古風撰述密部書目

諸尊種子真言集 ①(日)Sho-son-shū-jū-shin-gon-shū. ②1卷 ③存 ④撰(一真文項。A. D. 1661—1672) 關

①真文二刊(正大、一四八・二二) ②帝國二二・四九 ③真文二刊(備大、二六六・二七〇) ④京專)昭和復寫版(立大、A. D. 一七九) 刊本(高六、一・五二) ⑤京大、一・二六・一九) 寫本(高六、寄・一・六六)

諸尊宿入寺法語 ①(日)Sho-son-shū-nyū-ji-ō-ge. ②1卷 ③存 ④五山宿入寺法語 ⑤(參考) 釋教目錄

諸尊諸正點調解 ①(日)Sho-son-shū-shō-ten-kun-ge. ②1冊 ③存 ④德川中期寫 ⑤(金剛三昧院)

諸尊諸菩薩法 ①(日)Sho-son-shū-bō-satsu-hō. ②1帖 ③存 ④平安朝時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊抄 ①(日)Sho-son-shū. ②1帖 ③存 ④(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

③存 ④南北朝時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊眞影本誓集 ①(日)Sho-son-shū-ji-hon-ei-shū. ②1卷 ③存 ④我覺 ⑤高野山清淨心院所藏。諸佛像並其兩界法曼荼羅眞影 ⑥刊本(谷大、備大、三一四九) ⑦高六、一・五四) ⑧(帝國、二三五・六一)

諸尊眞言句義 ①(日)Sho-son-shū-gon-ku-gi. ②1卷 ③存 ④空海(實善五一本和) ⑤A. D. 774—835) 述 ⑥(參考) 本朝古風撰述密部書目

諸尊眞言句義抄 ①(日)Sho-son-shū-gon-ku-gi-shō. ②二卷或三卷 ③存 ④印藏(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519) 述 ⑤刊本(谷大、備大、九一七) ⑥(高六、寄・一・五二) ⑦(京專)

諸尊眞言梵字句義 ①(日)Sho-son-shū-gon-ku-gon-bon-ji-ku-gi. ②1卷 ③存 ④空海(實善五一本和) ⑤A. D. 774—835) 述 ⑥(參考) 諸宗宗統錄第三

諸尊圖印 ①(日)Sho-son-shū-zu-in. ②1卷 ③存 ④刊本(正大、一四八・一六六) ⑤(帝國、真・一〇五)

諸尊圖像抄 ①(日)Sho-son-shū-zu-zō-shō. ②十卷 ③存 ④原本(仁和寺寫本)

諸尊通行次第 ①(日)Sho-son-shū-kyō-shū-dai. ②1帖 ③存 ④天文二二三寫 ⑤(實善提院)

諸尊通相口訣 ①(日)Sho-son-shū-ō-ka-setsu. ②1帖 ③存 ④寛政元寫 ⑤(實善提院)

諸尊通用 ①(日)Sho-son-shū-yō. ②1帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊通用法略次第 ①(日)Sho-son-shū-yō-hyō-byaku-shū-dai. ②1帖 ③存 ④喜祿二寫 ⑤(高六、寄・一・六六)

諸尊通用私略口訣 ①(日)Sho-son-shū-yō-shi-ryaku-ku-ketsu. ②1冊 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

諸尊通用表白 ①(日)Sho-son-shū-yō-hyō-byaku. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊通用表白集 ①(日)Sho-son-shū-yō-hyō-byaku-shū. ②1帖 ③存 ④觀瑜(喜祿二—喜元) ⑤A. D. 1226—1304) ⑥(參考) 諸宗宗統錄第三

諸尊通用略次第 ①(日)Sho-son-shū-yō-ryaku-shū-dai. ②1帖 ③存 ④南北朝時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊傳授開書 ①(日)Sho-son-shū-den-ji-ku-shō. ②1帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

諸尊道場觀 ①(日)Sho-son-shū-dō-jō-kan. ②1冊 ③存 ⑤德川時代寫 ⑥(實善提院)

諸尊並重義等目錄 ①(日)Sho-son-shū-narabishō-gi-ō-moku-roku. ②元瑜方諸尊並重義等目錄 ③1帖 ④存 ⑤文明一八寫 ⑥(金剛三昧院)

諸尊念誦次第 ①(日)Sho-son-shū-nen-ji-shū-dai. ②四十九帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊念誦次第目錄 ①(日)Sho-son-shū-nen-ji-shū-dai-moku-roku. ②1帖 ③存 ④(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

③存 ④(實善提院) ⑤(實善提院)

諸尊秘事口傳集 ①(日)Sho-son-shū-hi-shū-kan-shū. ②六卷 ③存 ④源運(天永三—治承四 A. D. 1112—1180) ⑤(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

諸尊秘密集 ①(日)Sho-son-hi-mi-shū. ②1帖 ③存 ④常喜院流の九十五法をまとめたもの。 ⑤喜祿二寫 ⑥(高六、寄・一・六四)

諸尊表白 ①(日)Sho-son-hyō-byaku. ②1帖 ③存 ④喜祿元寫 ⑤(實善提院)

諸尊表白集 ①(日)Sho-son-hyō-byaku-shū. ②1卷 ③存 ④印藏(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519) ⑤元祿一〇刊(高六、寄・一・四九) ⑥大正二刊(谷大、備小、一〇六) ⑦(京都六社)

諸尊別行次第等 ①(日)Sho-son-betsu-kyō-shū-dai-ō. ②1括 ③存 ④德川時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊菩薩明王法等 ①(日)Sho-son-bō-satsu-myō-ō-hō-hō. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②諸尊法常喜院流 ③1帖 ④存 ⑤平安朝中期寫 ⑥(高六、寄・一・六四)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②諸尊法西院流 ③1帖 ④存 ⑤水和二寫 ⑥(高六、寄・一・六六)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②三卷 ③存 ④元寛(治承元—延應元 A. D. 1177—1299) ⑤(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

名所行目◎(名庫書)高麗所見◎月年の刊寫◎(書考)書目註)書主◎説解存内◎代年作書◎著書◎録存◎數卷◎(名書)名題◎號字數

【シ】

1299) ⑥(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②1卷 ③存 ④宗源記 ⑤(西教寺) ⑥(實善提院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②十卷 ③存 ④(明徳院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②諸尊法欠太流 ③六卷 ④存 ⑤覺性 ⑥(高六、寄・一・六六) ⑦(谷大、備大、二九二) ⑧(首、あ、一・中、五) ⑨(高六、寄・一・六六)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②花嚴院流諸尊法 ③數帖 ④存 ⑤寫本(金剛三昧院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②勸流諸尊法 ③六帖 ④存 ⑤如來部八帖、經部十帖、菩薩部十二帖、明王部十帖、天等部十九帖、觀音部十三帖。 ⑥足利末期寫 ⑦(金剛三昧院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②金流六十一法諸尊法 ③十二帖 ④存 ⑤寫本(金剛三昧院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②諸尊法黑拍子 ③三帖 ④存 ⑤文曆元寫 ⑥(實善提院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②不動諸尊法 ③一帖 ④存 ⑤足利時代寫 ⑥(實善提院)

諸尊法 ①(日)Sho-son-hō. ②保壽院諸尊法 ④四十三帖 ⑤存 ⑥足利時代寫 ⑦(實善提院)

諸尊法薄口決 ①(日)Sho-son-hō-utsu-ku-keitsu. ②三帖 ③存 ④永祿八寫

④(金剛三昧院)

諸尊法加持祕府傳 ①(日)Sho-son-hō-ka-ji-hi-fu-den. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(實善提院)

諸尊法肝心抄 ①(日)Sho-son-hō-kan-jin-shō. ②八卷 ③存 ④(参考) 諸尊法に就きて經疏抄を引きてその肝心の義を釋す。日次左の如し。

①(第一)藥師。阿闍。寶生。阿彌陀。釋迦。光明眞言。佛眼。②(第二)大佛眼。金輪。尊勝。轉法輪。大勝金剛。③(第三)孔雀。仁王。請雨。水天。止雨。理趣。心經。六字。法華。④(第四)正觀音(並に間十八日典抄法)。千手。如意輪。馬頭。十一面。准胝(牛黃加持。不空罽索。揭摩。白衣。葉衣。青頸。⑤(第五)五大虛空藏。求聞持。⑥(第六)普賢。文殊。彌勒。般若。隨求。勢至。五秘密。地藏。延命。招魂。北斗。屬星。⑦(第七)五大章(四度破事)。降三世。軍荼利。大成德。轉法輪。金剛夜叉。烏剌沙摩。太元。⑧(第八)相摩。大黑。深砂。阿梨帝。童子經法並經。毘沙門。吉祥。十二天。摩利支。帝釋。施餓鬼。地天。大自在。以上。

諸尊法記 ①(日)Sho-son-hō-ki. ②七冊 ③存 ④寫本(高六、寄・一・六六)

諸尊法記錄 ①(日)Sho-son-hō-ki-roku. ②1卷 ③存 ④寫本二寫 ⑤(谷大、備大、九四〇)

諸尊法開書 ①(日)Sho-son-hō-ki-shō. ②1冊 ③存 ④爽快(眞和元一應永三三 A. D. 1343—1416) 述。全書記 ⑤元祿五寫 ⑥(金剛三昧院)

諸尊法口決 ①(日)Sho-son-hō-ku-ketsu. ②五冊 ③存 ④實善一秀範寫 ⑤(高六、一・六六)

諸尊法口決 ①(日)Sho-son-hō-ku-ketsu. ②金澤抄 ③1卷 ④存 ⑤(遠久三—弘長三 A. D. 1192—1263) 口説。⑥(高六、一・六六)

諸尊法口決 ①(日)Sho-son-hō-ku-ketsu. ②五卷或十二卷 ③存 ④果實(德治元—貞治元 A. D. 1306—1363) 述 ⑤寫本(京大、日大、三六六)

諸尊法口決 ①(日)Sho-son-hō-ku-ketsu. ②五帖 ③存 ④道快(一明徳元 A. D. 1390—) ⑤(參考) 諸宗宗統錄第三

諸尊法口訣 ①(日)Sho-son-hō-ku-ketsu. ②三寶院海神紙初三重口訣 ③二卷 ④存 ⑤(高六、寄・一・六七)

諸尊法口傳 ①(日)Sho-son-hō-ku-den. ②1冊 ③存 ④永福記 ⑤足利末期寫 ⑥(金剛三昧院)

諸尊法具書 ①(日)Sho-son-hō-ku-shū. ②八帖 ③存 ⑤足利、德川時代寫 ⑥(金剛三昧院)

諸尊法見聞錄 ①(日)Sho-son-hō-ken-mon-roku. ②1冊 ③存 ⑤廣永三二寫 ⑥(高六、一・六二)

諸尊法小卷 ①(日)Sho-son-hō-ko-maki. ②十六帖 ③存 ⑤德川時代寫

④(實善提院)

諸尊法作法 ①(日)Sho-son-hō-sa-hō. ②諸尊法作法理性院流 ③1帖 ④存 ⑤平安朝時代寫 ⑥(高六、寄・一・六五)

諸尊法次第 ①(日)Sho-son-hō-shū-dai. ②三帖 ③存 ④(實善提院) ⑤(金剛三昧院)

諸尊法私 ①(日)Sho-son-hō-shi. ②三十二卷 ③存 ④良快抄 ⑤寫本(正教院)

諸尊法私記 ①(日)Sho-son-hō-shi-ki. ②十四帖 ③存 ⑤鎌倉時代寫 ⑥(實善提院)

諸尊法眞言集 ①(日)Sho-son-hō-shin-gon-shū. ②二冊 ③存 ⑤宗命集 ⑥元祿一三寫 ⑦(金剛三昧院)

諸尊法通次第 ①(日)Sho-son-hō-tō-shū-dai. ③存 ⑤足利、德川時代寫 ⑥(實善提院)

諸尊法傳授印決 ①(日)Sho-son-hō-den-ju-in-keitsu. ②三卷 ③(參考) 本朝古風撰述密部書目

諸尊法傳授師決 ①(日)Sho-son-hō-den-ju-shi-keitsu. ②三卷 ③存 ④支推記 ⑤貞和三(A. D. 1347) ⑥(明徳院)

諸尊法日記 ①(日)Sho-son-hō-nikki. ②1帖 ③存 ⑤南北朝時代寫 ⑥(實善提院)

諸尊法目錄 ①(日)Sho-son-hō-moku-roku. ②1卷 ③存 ⑤勝海記 ⑥寫本(谷大、備甲、一〇〇)

諸尊法目錄 ①(日)Sho-son-hō-moku-roku. ②1帖 ③存 ⑤(實善提院)

名所行目◎(名庫書)高麗所見◎月年の刊寫◎(書考)書目註)書主◎説解存内◎代年作書◎著書◎録存◎數卷◎(名書)名題◎號字數

たる「常用の一心三觀」を引用してゐる。文安三年丙丑五月二十六日に幸海が記した奥書を見ると「忠孝私に云く、此の書は慈覺大師の掌中の珠である」といふ。口決相承の秘傳の立場で天台宗大綱を述べたものであるが其所述は實に明確整然。口傳秘傳の初期のものか。又禪宗風が現れてゐないから榮西の禪風が叡山に影響しない頃の仕事である。思ふに圓仁の真撰ではなく、後人の偽撰であるが藤原末期以降の作であらう。

諸佛淨穢二土事

①(日) Sho-butsu-ji-do-e-ni-do-no-koto. 貞慶(久壽二)一建保元A.D.1155-1213. ②(参考) 淨土依憑經論章疏目錄

諸佛心印陀羅尼經

①(日) Sho-busshin-in-ta-da-rani-kyō. (支) Chu-to-hsin-yin-to-to-ni-ching. (梵) Buddha-hrdaya-dharaṇī(藏) Hophags-pa sabs-rgyas-kyi sñid-po shes-bya-baht gnas-kyi chos-kyi nam-gras. ①一卷 ②存、大正一九・一No.919. 縮成八、二一五・三、北1149封、南1155封、元1192封、明北830封、清830封、天1141封、天1138封、法1253封、高、明南393封、Nj.825. ③宋代法天譯

佛史率天に在して諸菩薩の爲めに陀羅尼を説きたまふ。名づけて諸佛心印と云ふ。

是の陀羅尼を聞く者は宿命智を得、重罪消滅し、乃至千劫輪廻して魔界に生ぜず、速かに無上菩提を證得すと。次に一切諸佛心印陀羅尼を説く。これ伏魔除障の法なり。

諸佛世尊如來菩薩尊者神僧名經

①(日) Sho-butsu-e-son-nyō-rai-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十卷 ③存、縮二一三、二三五・七一八 ④明永樂一五(A.D.1417)四月

⑤本書は聖月信亨氏が佛光大年表に、福田行誠編の御製大藏經序跋集の説を引用して

を講うたが皆同意せず(以上上巻)……文殊獨り娑婆よりかの普光土天王佛の所に至る。天王佛、文殊を鐵圍山上に退立せしむ。而も天王佛の右に難童女あり、文殊不審をくだく、以下文殊と光明童子、天王如來、華嚴菩薩、難童女との間に種々問答あり、恰も維摩經に於ける問疾者と維摩、又舍利弗と天女の對應説話に覺悟たる記述あり、終に佛勸勉に對して此の經の流通を附屬し、一經を經つてある。此の經梵本を得てゐるが、西藏譯あり、題名は上記の如くである。大谷甘珠爾勸助目録No.8914を參照せよ。(標部文鏡)

諸佛要集經

①(日) Sho-butsu-yō-jū-kyō. (支) Chu-to-yao-chi-ching. ②二卷 ③存、西晉譯道真(太康元一永嘉六A.D.280-312)譯 ④第二譯 ⑤(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

諸佛要集經

①(日) Sho-butsu-yō-jū-kyō. (支) Chu-to-yao-chi-ching. ①一卷 ②存、西晉譯道真(太康元一永嘉六A.D.280-312)譯 ③第二譯 ④(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

諸佛求佛本業經

①(日) Sho-to-satsu-gō-pa-sachū-to-pen-yeh-ching. ②一卷 ③存、大正一〇・四五一No.283. 縮天一〇、二八・四、北96成、南96成、元94成、明北103成、清103成、慶94成、天96成、法93成、至96成、明南95成、Nj.109. ④漢道真譯 ⑤西晉太

諸佛求佛本業經

①(日) Sho-to-satsu-gō-pa-sachū-to-pen-yeh-ching. ②一卷 ③存、大正一〇・四五一No.283. 縮天一〇、二八・四、北96成、南96成、元94成、明北103成、清103成、慶94成、天96成、法93成、至96成、明南95成、Nj.109. ④漢道真譯 ⑤西晉太

諸佛求佛本業經

①(日) Sho-to-satsu-gō-pa-sachū-to-pen-yeh-ching. ②一卷 ③存、大正一〇・四五一No.283. 縮天一〇、二八・四、北96成、南96成、元94成、明北103成、清103成、慶94成、天96成、法93成、至96成、明南95成、Nj.109. ④漢道真譯 ⑤西晉太

諸佛求佛本業經

①(日) Sho-to-satsu-gō-pa-sachū-to-pen-yeh-ching. ②一卷 ③存、大正一〇・四五一No.283. 縮天一〇、二八・四、北96成、南96成、元94成、明北103成、清103成、慶94成、天96成、法93成、至96成、明南95成、Nj.109. ④漢道真譯 ⑤西晉太

明の太宗永樂十五年四月勅命によつて製したものであると記してゐる如く、諸佛世尊如來菩薩尊者神僧名を稱念することによつて、大明帝國の安泰と無窮の隆昌とを回顧し、國民の福を祈願し、國民をして君上に忠ならしめ、父母に孝し、天地を敬し、祖宗を奉じ、三寶を尊び、神明を敬し、王法に遵ひ、言行を謹み、殺生せず陰陽を行はしめんがために著したものであつて、所謂國民の遵守すべき德行を教示した書である。其の内容は諸佛世尊如來菩薩尊者神僧の名を稱念する儀軌を記したものであつて第一巻より第二十巻までは、諸佛世尊如來菩薩尊者神僧名が記してあり、第二十一巻以下は、弘法門、慶太平、勝妙明具莊嚴、勝妙明、具莊嚴、降福祥、善法界、弘利益等の曲が記されてあり、最後に五供養、懺悔、興善滅惡懺悔、大明神呪、回向、十二因縁呪、吉祥讚等が記してある。(惠谷隆成)

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸佛世尊如來菩薩尊者名稱歌

①(日) Sho-butsu-e-son-bo-satsu-son-jū-ni-pa-sa-sana-che-shen-shō-ming-ching. ②四十七卷 ③存、縮四一五、二三五・九一〇、三六甲・一一二

④太宗御製 ⑤明永樂一五(A.D.1417)

⑥本書は明の太祖の御製で、その立場は本書の清浄な割合に極めて簡單である。要するに諸佛・世尊・如來・菩薩・尊者の名號を稱念すれば其の功德は甚深廣大で福を得ることとは最も多いといふ建前より出發したるの

で、しかも漸くすることに依つてはじめの諸佛・世尊・如來・菩薩尊者の名號を取つて、歌曲に仕組み、以て讚歎讃頌に便ならしめた所にある、その列次は左の如くである。卷一は序二編(最初の序には永樂十五年四月十七日といふ日附がある)發四無量心・發願並に佛名稱歌(北)高の第一曲華嚴海會之曲。卷二・卷三、卷四・卷五は佛名稱歌の引續きで、たいの諸佛之曲外二曲。卷六から卷十までは如來名稱歌(北)高。卷十一・卷十二は菩薩名稱歌(北)高。卷十三は菩薩名稱歌(北)十數曲並に尊者名稱歌(北)十數曲。卷十四・卷十五は佛名稱歌(南)高。卷十六、卷十七は如來名稱歌(南)高。卷十八は菩薩名稱歌(南)高並に尊者名稱歌(南)高。卷十九から卷二十八までは善法界之曲。卷二十九から卷四十五までは弘利益之曲。廣善緣之曲。利一切之曲。普應利之曲。則混融之曲。卷四十六は五供養・懺悔・興善滅惡懺悔・大明神呪回向・五供養・發願・十二因縁呪・吉祥讚。卷四十七は文並に御製後序二編。前者は永樂十五年四月十七日、後者は永樂十八年正月初一日の日附になつてゐる。

諸方門人參問語錄

①(日) Sho-hō-mon-in-sanmon-goroku. (支) Chu-fang-men-tan-wen-yen-tai. ①一卷 ②存、記續二・一五・五 ③唐代大珠慧海撰 ④江西馬祖道一禪師の法嗣である越州大雲寺大珠慧海禪師が、門人の參問に答へた語要である。慧海は、建州(福建建寧)の人、越州(浙江紹興府)大雲寺道智に受業し、江西の馬祖に參じて大悟し、待すること六年にして受業師道智の老衰に依つて大雲寺に歸り、晦迹藏用し、頓悟入道要門論一巻を著したのを、簡經の玄奘が竊に馬祖に呈示した。馬祖は此を閲して「越州に大珠圓明なるものあり、光透自在にして遮障の處無し」と讚嘆したのと、慧海の姓が朱氏であつたので、時人大珠を以て號した。平生「我れ禪を會せず並に一法の人に示す可き無し」と謂つて居たが、以上の如き慧海の道行を慕つて、參問の學人は極めて多数に上つたもので、本書に於ては此等諸方より來問せし學人は、學侶、行者、三藏法師、道流、觀光大德、道光座主、志慶主、維摩座主、源律師、慧座主、宿德十餘人、法師、僧、客などと多彩なるものがあり、其の取扱はれた問答も多様である。即ち、佛、即心即佛、教と禪、眞如、世間と法、生死、大虛、乃至は諸經、念佛、言語是心、定慧などに及んで居る。

浙江會稽道四明翠山の大中理の法嗣である妙叶和尚は、禪餘慧海禪師の語録を閲して證入する所あり、頓悟入道要門論に本書を合して二巻とし、捐貨録板したもので、

諸方門人參問語錄 ①(日) Sho-hō-mon-in-sanmon-goroku. (支) Chu-fang-men-tan-wen-yen-tai. ①一卷 ②存、記續二・一五・五 ③唐代大珠慧海撰 ④江西馬祖道一禪師の法嗣である越州大雲寺大珠慧海禪師が、門人の參問に答へた語要である。慧海は、建州(福建建寧)の人、越州(浙江紹興府)大雲寺道智に受業し、江西の馬祖に參じて大悟し、待すること六年にして受業師道智の老衰に依つて大雲寺に歸り、晦迹藏用し、頓悟入道要門論一巻を著したのを、簡經の玄奘が竊に馬祖に呈示した。馬祖は此を閲して「越州に大珠圓明なるものあり、光透自在にして遮障の處無し」と讚嘆したのと、慧海の姓が朱氏であつたので、時人大珠を以て號した。平生「我れ禪を會せず並に一法の人に示す可き無し」と謂つて居たが、以上の如き慧海の道行を慕つて、參問の學人は極めて多数に上つたもので、本書に於ては此等諸方より來問せし學人は、學侶、行者、三藏法師、道流、觀光大德、道光座主、志慶主、維摩座主、源律師、慧座主、宿德十餘人、法師、僧、客などと多彩なるものがあり、其の取扱はれた問答も多様である。即ち、佛、即心即佛、教と禪、眞如

明洪武六年正月十日... 諸法集要經... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō... 諸法集要經 (日) Sho-ho-jū-yō...

【シ】

觀無量壽經疏私記 ①行觀覺照(仁治二—正中二A.D.1241—1325)述 ②觀無量壽經疏私記(下)を以よ。③刊本(正大、一一五三・一五四・一五七・二五六)(谷大、宗大・六八九)

序分義私抄 ①(日)Jo-hun-gi-shi-sha. ②二卷 ③存 ④功存(享保五—寛政八A.D.1720—1796)述 ⑤(参考)淨土真宗教典卷第二 ⑥寫本(龍大、研眞)

序分義集解 ①(日)Jo-hun-gi-sha-ge. ②一卷 ③存 ④月珠(—安政三A.D.1856)述 ⑤寫本(龍大、研眞)

序分義抄 ①(日)Jo-hun-gi-sha. ②一卷 ③存 ④正保元—享保六A.D.1644—1721)作 ⑤(参考)淨土真宗教典卷第二 ⑥寫本(龍大、研眞)

序分義他筆抄 ①(日)Jo-hun-gi-sha-hisun-sho. ②觀無量壽經序分義他筆抄、觀經疏序分義他筆抄 ③五卷 ④存、觀經疏他筆抄(大日本佛教全書第五六一—五七七、西山全書第四一—五)之内 ⑤設空(治承元—寶治元A.D.1177—1247)述 ⑥觀經疏他筆抄(下)を以よ。

序分義短冊 ①(日)Jo-hun-gi-sha-jaku. ②一卷 ③存 ④韻藻(享保二—享元二A.D.1226—1304)述 ⑤(参考)諸宗章疏錄第三

序分義聽記 ①(日)Jo-hun-gi-sha-ki. ②三卷 ③存 ④性海(明和二—天保九A.D.1765—1838)述 ⑤寫本(龍大)

序分義聽記 ①(日)Jo-hun-gi-sha-ki. ②一卷 ③存 ④松島善廣(文化三—明治一九A.D.1806—1896)述 ⑤寫本(龍大、研眞)

大、一二三六六五)

序分義無射 ①(日)Jo-hun-gi-sha-sha. ②觀經疏序分義無射 ③一卷 ④存 ⑤僧觀(寶曆三—文政八A.D.1753—1825)述 ⑥文政九、年六五叙述 ⑦寫本(龍大、研眞)(帝國、一八七・三〇)(谷大、長保・一四)

序要看柄 ①(日)Jo-yo-kan-hei. ②(支)Hid-yao-kan-ping. ③一卷 ④存 ⑤海庵撰 ⑥(参考)朝鮮佛教總書刊行豫定書目

序要看柄私記 ①(日)Jo-yo-kan-hei-shi-ki. ②(支)Hid-yao-kan-ping-shi-ki. ③一卷 ④存 ⑤海庵撰 ⑥(参考)朝鮮佛教總書刊行豫定書目

助顯唱導文集 ①(日)Jo-ken-sho-domon-shu. ②六册 ③存 ④日澄撰 ⑤寛永一二刊 ⑥(立大、A〇四、四七—四九)(首、あ、四、左、二九)

助顯成佛頌 ①(日)Jo-shi-to-butsu-shu. ②存、興教大師全集之内 ③覺慶(嘉保二—康治二A.D.1095—1143)述 ④七言十六頌の師匠と弟子との關係を説きたるものである、興教大師は東開持法を八度修したるも其の悉地を得ず、九度目に明寂上人の助法に依りて悉地を得られたのである、其の時に此の度若し悉地成就せば、生々世々明寂上人に奉仕せんと誓はれた、助師とは助法の師匠と云ふ意にて、己の積みたる功德を師匠に譲りて成佛せしめんとする意を顯したるものである、謝徳成佛頌と姉妹篇あり。

⑦(参考)諸宗章疏錄第三 (富田繁純)

助正釋問 ①(日)Jo-sho-shaku-mon. ②一卷 ③存、真宗全書第五〇 ④僧觀(寶曆二—文政九A.D.1762—1826)述 ⑤文化二(A.D.1805)

⑥真宗學に於ける助正論は學識によつて異論のあるところであるが、そのうち所謂弘願助正説を主張せるものは石泉僧觀にして、本書は客問に擬してそのイデオロギーを露堂々と詳述せるものである、もとの説は文化元年の夏安居に廣島市龍原山佛護寺に於て、般舟講を講ぜし礎發表せしものである、しかるにこの設立安心、助正行儀の説は、藝極の鼻祖深院慧雲の所説に倣けるところより物議を生ずるに至つた、仍つて佛護寺々主はその間に立ちて調停せんと試みたが、僧觀之を聞き入れず、翌文化二年六月一書を寫して益々その所論を高調した。すなはち本書である。

⑦著者自筆本(安藝長濱石泉文庫)寫本(龍大、研眞)

助正釋問讀 ①(日)Jo-sho-shaku-mon-sho. ②一卷 ③存、真宗全書第五〇 ④僧觀(寶曆三—文政八A.D.1753—1825)述 ⑤文政九年六五叙述

⑥本書は真宗本派の助正論争に關する一資料である、僧觀は弘願助正説を主張して、先づ助正釋問の一書を著し、以て門弟僧觀をしてこの書に對する疑難を提出せしめ、而してその僧觀の疑問の一々に就いて文を追ふて、釋明したが、この讀である。

⑦(参考)諸宗章疏錄第三 (藤枝昌道)

助正釋問拔粹 ①(日)Jo-sho-shaku-mon-sho. ②一卷 ③存、真宗全書第五〇 ④僧觀(寶曆三—文政八A.D.1753—1825)述 ⑤文化五(A.D.1808)八月

⑥文化年間に於ける真宗本派の助正論争の發端をなすものであつて、石泉の「助正釋問」を排斥せるものである。執行信院行巻の所明は五念門によつて、五正行は引用せられてない、この五正行は化巻に於て細列せられてある。故に五念門と五正行とは自らその意趣を異にすべきであるとして、兩者の間に一、所依佛經異、二、建立義門異、三、眞假總異、四、助正有無異、五、

⑦(参考)諸宗章疏錄第三 (藤枝昌道)

【シ】

行相難易をあげて釋明してある。尙、助正の判意を述べて、稱名に於て業成を説ずるが故に、行に助正を辨別すと雖、宗祖の如く信心を以て正因となすときは、稱名は報恩行であつて、五正行は悉く報恩の所用となるものである。故に、これには何等助正と分別すべきものがなからしむべきである。これ石泉の弘願助正説に對辨せるものであつて、石泉は更に「助正支持」を著してこれが反駁をしてゐる。(藤枝昌道)

助説要旨集 ①(日)Jo-sei-yo-gan-shu. ②存、輪池叢書第三五 ③(帝國、特別・A・P)

助宣記 ①(日)Jo-sen-ki. ②(支)Chiu-hadan-chi. ③二卷 ④宋仁岳(淳化三—治平元A.D.992—1064)述 ⑤孤山遺教經疏を撰す。⑥(参考)諸宗章疏錄第二

助善經 ①(日)Jo-sen-kyō. ②(支)Chiu-shan-king. ③一卷 ④佚 ⑤失譯

〔参考〕出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

楞山集 ①(日)Jo-san-shū. ②(支)Chiu-shan-shū. ③十卷 ④存、三高僧詩集之内

⑤唐代皎然集 ⑥寫本(京大、藏、二四・一〇)

叙古啓明讀禪宗正法

①(日)Jo-ko-kei-mei-doku-zen-sho-shō-myaku-hō. ②(支)Ichi-ku-chi-ming-gu-chō-an-tsung-cheng-mo-fa. ③禪宗正法 ④二卷 ⑤存、繪圖一一二 ⑥如卷撰 ⑦禪宗正法の下を以よ。

恕中和尚語錄 ①(日)Jo-sha-o-shō

①(支)Shu-chung-ho-shang-yū-ko-roku. ②(支)Shu-chung-ho-shang-yū-shu. ③恕中無愠禪師語錄、空室和尚語錄 ④六卷 ⑤存、記續二・二八・五 ⑥明恕中無愠(至大二—洪武一九A.D.1309—1386)語宗師 ⑦(帝國、八二・一七)

恕中無愠禪師語錄 ①(日)Jo-sha-mau-on-zen-ji-go-roku. ②(支)Shu-chung-wu-wen-ch'an-shih-yū-ko. ③空室和尚語錄、恕中和尚語錄 ④六卷 ⑤存、記續二・二八・五 ⑥明恕中無愠(至大二—洪武一九A.D.1309—1386)語宗師等撰

⑦台州紫雲山竺原妙道禪師の法嗣にして南岳下二十二世台州瑞巖淨土禪寺恕中無愠禪師二會の語を門人宗師等が編録したるもの、明洪武七年(A.D.1374)十月二十二日宋源序文を撰し、同二十一年(A.D.1388)九月既望四明山人烏斯道、天台空室無愠禪師行業記を撰してこれに附したるもの、無愠は字は恕中、空室と號し、台州臨海の陳氏に生れ、七歲徑山の元叟行端禪師に遊學し、淨慈の靈石如芝、湖州寶福の一源堂、天童の平石如菴等に歴參し、台州紫雲山竺原妙道の獅子無佛性の話に大悟し、明州靈巖廣福禪寺に初住して嗣香を妙道に歎し、居ること三年にして台州瑞巖淨土禪寺に遷り、瑞巖の三關を以て學人を接待した。明洪武七年將軍尼利義滿の命により管領細川頼之、實物を獻じて無愠を特請したが、太祖帝老を憫みて許さず、天界寺に居らしめた、天界寺全宗宗師、宋源居士と號じ、洪武十七年門人圓慧居頂に浙江寧波府鄞の翠山草堂に請せられて老を養ひ、洪武十九年

(A.D.1386)七月十日壽七十八歳にして示寂した。道行總密なる一代の宗匠である。今其の編次を見るに、卷首に宋源の序を收め、卷一に初住象山靈巖廣福禪師語録(門人前住昌國萬壽禪寺宗師等撰)、卷二に次住廣巖瑞巖淨土禪師語録(處州府南明禪寺道重等撰)、卷三に學古、頌古並に小佛事(仗錫禪寺宗師等撰)、卷四に讚、銘、偈頌(翠山禪師居頂等撰)、卷五に偈頌、法語(清寂等撰)、卷六に五言七言の律詩、七言絕句、題跋(清寂等撰)を收め、卷末に烏斯道の撰に成る行業記、並に宋源の空室和尚の時一篇を附したるもの、(大久保堅瑞)

除闇鈔 ①(日)Jo-an-shō. ②大日經疏除闇鈔 ③七卷(一—七)合本三册 ④存、佛光大系第一九 ⑤道鏡(治承二—建長四A.D.1178—1233)撰 ⑥貞應三(A.D.1245)

⑦本書は眞言密教に於ける根本聖典の一たる大日經一部七卷の注疏たる唐善無畏三藏の大日經疏に就いて、大足成道那羅延文今此誰人請來乎」といふ問題を最初として、百十三箇條を設け、大日經疏卷一四大菩薩の釋段までを問答體に釋してゐる。然も本書は高野山華王院覺海大徳の口説を記して、彼の大日經疏明鈔の如く、京都禪林寺靜通僧都の傳を混じてゐないといふので、古來高野山學徒の珍重する所となつてゐる。

⑧奥書によれば、貞應三年七月御室(道助親王)の御により、宗師檢校の許に於て、道鏡等の學侶を集めて説講せしめられしことあり、その後に於て抄記したこととなつ

⑨(支)Jo-sho-shaku-mon-sho. ①一卷 ②存 ③道鏡(安永二—文政七A.D.1773—1824)撰 ④寫本(龍大、一五〇・一四三)

助正莖柞 ①(日)Jo-shō-sen-akaku. ②二卷 ③存、真宗全書第五〇 ④僧觀(寶曆二—文政九A.D.1762—1826)述 ⑤文化六(A.D.1809)

⑥助正釋問に對して道命は助正論を作つてこれを駁した、仍つて僧觀更に之を破斥する爲にものせるが本書である。初めに本書なるの緣由を著者はその序文に於て詳述して居る。莖柞とは「叢會」に「除草曰莖柞、除木曰柞」とあり、共に斷除の義である。辭言繁りて法田蹙る、我れ利鎌をもつて之を斷除すべしとの意味からかゝる標題を附したものである。

⑦著者自筆本(安藝長濱石泉文庫)文化一三寫(谷大、宗大・二九五)寫本(龍大、一五〇・一四二)

助正箋 ①(日)Jo-shō-sen. ②一卷 ③存、真宗全書第五〇 ④道命(明和八—文化九A.D.1771—1812)述 ⑤文化五(A.D.1808)八月

⑥文化年間に於ける真宗本派の助正論争の發端をなすものであつて、石泉の「助正釋問」を排斥せるものである。執行信院行巻の所明は五念門によつて、五正行は引用せられてない、この五正行は化巻に於て細列せられてある。故に五念門と五正行とは自らその意趣を異にすべきであるとして、兩者の間に一、所依佛經異、二、建立義門異、三、眞假總異、四、助正有無異、五、

⑦(参考)諸宗章疏錄第三 (藤枝昌道)

③三冊 ④存 ⑤元政(元和九一寛文八A. D. 1693-1698)撰 ⑥明曆三刊 ⑦(立大、A. 11・108)(晋、キ・六・右・一)(高、キ・六・右・一)

小次第 ①(日)Sho-shi-dai 安祥流小次第 ①一帖 ②存 ③慶長三寫 ④(金剛三昧院)

小次第目録 ①(日)Sho-shi-dai-moku-foku ①一帖 ②存 ③徳川時代寫(寶善投院)

小須頼經 ①(日)Sho-shu-rai-kyō (支)Haiso-hai-tai-ching ①一巻 ②(支)失譯 ③(参考) 出三藏記第三、法經錄第一、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一二、開元錄第二、第一四、貞元錄第四、第二四

小十二經 ①(日)Sho-jū-ni-mon-kyō (支)Haiso-shih-erh-men-ching ①一巻 ②(支)後漢安世高(一建和二建、三A. D. 148-170)譯 ③(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二四

小消息講説 ①(日)Sho-shō-soku-ko-setsu ②二巻 ③存 ④法華講説之内

⑤(支)阿法洲(明和二天保一〇A. D. 1765-1839) ⑥天保一〇刊 ⑦(龍大)二六八・一一〇(谷大、宗大・五五五)(正大、一五四・三〇六・三五〇)

小消息托事辨 ①(日)Sho-shō-shō-an-taku-ji-ben ①一巻 ②存 ③寫本(龍大)二〇五・一一一)

小乘位義 ①(日)Sho-ji-gi ②一

③最澄(神護景雲元一弘仁一三A. D. 767-823)撰 ④(参考) 山家祖徳撰述篇目集卷上

小乘教大意 ①(日)Shō-jō-daigi ①一巻 ②存 ③村上專精(嘉永四一昭和四A. D. 1851-1939)著 ④明治二九刊(龍大)二五三・五)

小乘五位斷道 ①(日)Shō-jō-go-dan-ida ①一巻 ②存 ③明治二九刊(正大、一〇二・二四六)

小乘集 ①(日)Shō-jō-shū (支)Haiso-ching-chi ②(参考) 奈良朝現在一切經破目録2783

小乘大乘分別鈔 ①(日)Shō-jō-dai-ryō-fun-betsu-shō ①一巻 ②存 ③日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第三之内 ④日蓮、貞應元一弘安五A. D. 1222-1282)述 ⑤(支)水一〇(A. D. 1273)

⑥日蓮が依波の所から宮木氏(又は南條氏)に送った書。小乘大乘の區別は相對的なので、外道の教に相對すれば小乘も大乘である、これと同様に法華經、天台宗に相對すれば他の大小乘實顯密の法經諸宗も悉く小乘經小乘宗である。其は法華經に十界成佛の因たる一念三千の法門があるからで、他經には是れが無く、故に法華經の二大特長は二乗作佛久遠實成であることは誰人も異議の無いところであるが、若し然らば他經に許してある二乗以外の成佛は眞の成佛ではない。然るに諸宗の學者は尤も日宗によつて成佛できるもの、如く鎌倉殿や一般世人を欺してゐるのであるといふのが

本書の大意である。尙ほ本書の末尾は夙く遺失せられたものと思はれる。

⑦(参考) 録外教考卷上、録外考文第三(馬田行啓)

小乘入道位 ①(日)Shō-jō-nyū-dō-i-chō (支)Haiso-ching-jin-tō-wei ①一巻 ②(参考) 入唐新求聖教目録

小乘部諸經の解題及び正文 ①(日)Shō-jō-bu-shō-kyō-no-kaiki-tai-oyu-oh-shū-pan ②存 ③大藏經要義第七本多日生(昭和六A. D. 1931)著

小乘佛敎概論 ①(日)Shō-jō-buk-kyō-gai-ron ①一巻 ②存 ③高井親海著 ④昭和三刊 ⑤正大、一〇七・二六〇・二六八・三二七(高、大、寄・一・一〇)(京、大)二〇三・一七(立、大、B. 一六・一四・一九)(帝國、三一九・五二)

小乘名目 ①(日)Shō-jō-myo-moku ①一帖 ②存 ③嘉吉元寫 ④(寶壽院)

小申日經 ①(日)Shō-shin-nichi-kyō (日)Haiso-shin-ji-ching ①一巻 ②(支)失譯 ③(参考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

小清規 ①(日)Shō-shin-ki-yoku ①一巻 ②存 ③(晋、キ・一・左・一)

小施餽鬼會疏玄談 ①(日)Shō-shō-kei-gi-kaigi-entan ①一巻 ②存 ③寫本(正大、一〇八・一〇八)

小施餽鬼集 ①(日)Shō-shō-kei-gi-shū ②三巻 ③存 ④多夢(天和元續頃A. D. 1681-1703) ⑤天和二刊 ⑥(龍大)二六・一九・三二)

小双紙 ①(日)Shō-sōshi 宗要集私見聞且那流 ②存

小叢林清規 ①(日)Shō-sōrin-kei-in-gi ②三巻 ③存 ④大正八・一六八No. 2579 ⑤無著道忠(承應二一延享元A. D. 1653-1744)撰 ⑥貞享元(A. D. 1694)甲子十二月

⑦禪門僧衆の依違すべき儀式軌範を示したものである。撰者は大叢林に大清規があるが如く、小叢林に小清規なかるべからずなし、特に小叢林の儀規として之れを示されたものである。日次は通用清規第一、日分清規第二、月分清規第三、臨時清規第四に分ち、最後に回向、圖式あり。通用清規第一には遊退起坐の作法、住持兼侍僧の動作等を示し、日分清規第二には毎日の念經晚課より諸風經及び坐禪に就て指示し、月分清規第三には正月より十二月に至る諸法要の作法を記し、臨時清規第四には得度儀規より相着兼禮承示入室に及ぶ。下巻には諸種の回向を記載し、最後に得度受戒或入空圖等六十四の圖式が擧げられてゐる。

⑧(駒大) ⑨京都御枝軒 (安藤文英) ⑩(駒大) ⑪少叢林清規 ⑫三巻 ⑬

存 ⑮無著道忠(承應二一延享元A. D. 1653-1744)撰 ⑯貞享元刊 ⑰(駒大)(晋、キ・三・中・一六)(京大、印、キ・〇・一三)

小傳法院供養願文 ①(日)Shō-den-bō-in-ku-yō-gwan-mon ②一帖 ③(支)慶長(嘉保二一康治二A. D. 1695-1743) ④(参考) 諸宗章疏錄第三

小道地經 ①(日)Shō-dō-ji-kyō (支)Haiso-tao-ti-ching ①一巻 ②存 ③大正一五・三三六No. 608(龍大、二二六・六・キ1032) ④南1048 ⑤元1044 ⑥明北1331 ⑦清1331 ⑧(支)法1016 ⑨(支)明南1126 ⑩(支)法1333 ⑪後漢支曜(一中平二A. D. 185)撰

⑫修行持息等の法を説くものである。道人、息を求めて息を得たのは四因縁あるに由る。息を得んと欲するならば必ず坐行の二事、生死の二因縁を知らなければならぬ。又道人、求めて道に向ふには必ず過去の念事を知らねばならぬ。譬へば稻を種うるは稻を收せんと念じ、豆を種うるは豆を收せんと念ずる如く、十惡は十惡を種うるである。

⑬(参考) 法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四 (三好鹿雄)

小泥洹經 ①(日)Shō-ni-uan-kyō (支)Haiso-ni-uan-ching ①一巻 ②(支)失譯 ③(参考) 武周錄第一

小兒往生開疑鈔 ①(日)Shō-ni-ō-jō-kai-kyō ②二巻 ③存 ④(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ⑤享保二二刊 ⑥(龍大、一五〇・一五三)

小兒往生記 ①(日)Shō-ni-ō-jō-ki ①一巻 ②存 ③眞宗全書第六二 ④法華(元禄六一直保元A. D. 1693-1744)述 ⑤(支)元文四(A. D. 1739)

⑥小兒の淨土往生は可能なりや否やは徳川中期に於ける眞宗學界の一問題であつた。即ち寛文中に本願寺派に於て規定せられたる小兒教化の儀式、所謂「名代親み」による小兒の往生を肯定する説と否定する説との論争が行はれたのであるが、本書はその肯定説の代表的なものである。(大原性實)

小兒往生の記 ①(日)Shō-ni-ō-jō-no-ki ①一巻 ②存 ③深助(寛延二一文化一四A. D. 1749-1817)述 ④文化六寫(谷大、宗大・三九一三)

小兒往生辨 ①(日)Shō-ni-ō-jō-ben ①一巻 ②存 ③眞宗全書第六二、説林乾冊之内

④延享三年の夏、慈説といふ人に對して當時紛々の論議ありし小兒往生の得否に對する見解を示せるものである。肯定説の一種であつて、特に本書所説の特徴は胎教説を高揚せることである。即ち「止觀轉行」の「子初在胎、依於母息、故、俗名、子以之爲「息」の文や、補經「氣在人身中、所謂氣以生也」の文を引き、又胎中女體經の胎兒歸佛開法の説をかりて、母子は異體同氣であるから、母の信仰がそのまゝ、子の信仰となる旨を述べ、從つて名代親往生は可能なりと論じてゐる。(大原性實)

小兒往生辨問記 ①(日)Shō-ni-ō-jō-ben-mon-ki ②存 ③寫本(龍大、一

七四・四)

小兒往生問答 ①(日)Shō-ni-ō-jō-mon-dō ①一巻 ②存 ③寫本(谷大、宗大・二六一九)

小兒往生便設紳 ①(日)Shō-ni-ō-jō-tsen-shō ①一巻 ②存 ③桂南南麟作 ④元文六(A. D. 1741)四月 ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二

小兒開法即解經 ①(日)Shō-ni-ō-hō-kyō (支)Haiso-eh-wen-ta-chi-ching-ching ①一巻 ②(支)失譯 ③六度集經第六卷の抄出。④(参考) 出三藏記第四、三寶紀第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、内典錄第一、開元錄第一六、貞元錄第二六

小兒聞名義 ①(日)Shō-ni-ō-nami-gi ①一巻 ②存 ③(支)遠(貞保二一寛政一〇A. D. 1742-1798)述 ④寫本(龍大、一七五・九四)

小般泥洹經 ①(日)Shō-hatsu-nai-on-kyō (支)Haiso-pan-ni-uan-ching ①一巻 ②(支)後漢安世高(一建和二建、三A. D. 148-170)譯 ③(参考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

小般泥洹經 ①(日)Shō-hatsu-nai-on-kyō (支)Haiso-pan-ni-uan-ching ①一巻 ②(支)疑傳 ③(参考) 法經錄第一、仁壽錄第四、内典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

小部雜集 ①(日)Shō-buzasshū ①一巻 ②存 ③二十部義、帖外七種來書、顯如消息(天正

四年)、説如消息、枕石寺時(惠雲)、顯如消息四通、法如詠歌二首、古教奇屋法語(法雲)、下向衆白、文如御直論(寛政三年)、功存消息(琉球尼講究)、法華消息(下向衆宛)を輯む。

④寫本(龍大、一〇三・五〇)

小部集 ①(日)Shō-bushū ①一巻 ②存 ③秘事法門集下篇、眞宗大系第三六之内

④短篇九種を集む。(一)開山聖人御遺書「は五條から成る、自性安心で彌陀を我心の異名とし、明々たる本心にとづくを他力に歸すといふ。又、男女の俗と席を同じ柔和を以て衆生をいたはり」云々といふは怪しく、元より邪義の書である。(二)根本之觀。大日彌陀の根本を見開くと根本の觀と名け、眞言の金胎兩部を持ちだして怪しい説をなし、能々秘密形を觀すべき也、是本願に見準、南無阿彌陀佛と結んでゐる。(三)六字御傳書。名號を萬法の本源として凡てを之におさめ、南の字に阿含經がこもり、無の字に華嚴經がこもり……又、南の字に伊勢兩宮がこもり、無の字に熊野三社大權現がこもり……又、日月星辰も六字の尤なりと怪しい説をなし、一會念佛するものは現世安穩後生攝取不捨と論じてゐる。末尾に建暦元年二月彌陀在列とあるが、もとより偽書である。(四)一枚起請文。前の「開山聖人御遺書」を取意したやうな書で、内容粗々同じ、兩書ともに武州報恩寺に歸傳すといふが元より信じ難い。(五)阿彌陀本原經、神を創造主とし、その神を

【シ】

印度では阿彌陀といひ、支那では上帝といひ、我國では國常立尊といふ、而して萬物は神の變化であるが、其中人間が最も靈的なものであるから、此の意を體して稱名せよと論じてゐる。(六)十八願。蓮如上人の御文を逐しく解して三業壽命一益法門のやうな説を述べてゐる。(七)無題。親覺、如信、覺如、蓮如上人の語として自性安心を述べてゐる。(八)無題。法然上人の一枚起請文を冗長に引きのばしたるもの、末尾に建曆二年源空御判とあるが、もとより偽書である。(九)五願曼陀羅。五願五行等を諸佛諸經等に配圖したものである。以上九篇何れも邪義秘法門の書である。

小部集釋

(甲)Sho-bu-shi-shi-shaku. 天台小部集釋 ①一卷 ②存、大日本佛教全書第二四 ③敬光(元文五—寛政七、A. D. 1740—1795)校、安永七刊 ④帝國、一九六・七三)

小部集要十六部

(甲)Sho-bu-shi-shi-shaku. 保五—寛政九 A. D. 1720—1797)編 ⑤寶曆六(A. D. 1756)丙子

⑥淨土真宗教典志に曰く初二冊蓮如師作、後二冊實如師作、今案各部題目、恐は後人所安、一部不通過、教新、要之帖外消息類耳、所謂諸論文亦不純粹、と、

小部輯釋

(甲)Sho-bu-shi-shi-shaku. ①一卷 ②存

③法華十不同並密説、理觀啓白文、四重禁戒部事、劫章頌并鈔附六種釋、蓮花三昧經

八句勸釋付字輪觀、大日經疏緣起を輯む。 ④延寶九刊 ⑤龍大、二六六・一〇(正)大、一四三・一七三(立)大、一四三・一七三(二)

小部類聚

(甲)Sho-bu-rui-ju. ②卷 ③存 ④(京事)

小法滅盡經

(甲)Sho-bu-metsu-jin-kyo. (支)Hsiao-fa-mieh-chin-ching. 法滅盡經 ①一卷 ②存、大正二・一一一八 No. 396、縮版一〇、二二・五、北514行、南523行、元523行、明北466行、清666行、脚537行、天533行、指481行、法512行、至465葉、明南537頁、Nj. 470 ③失譯 ④法滅盡經の下を見よ。

小法沒盡經

(甲)Sho-bu-moen-jin-kyo. (支)Hsiao-fa-mieh-chin-ching. ①一卷 ②存、西晉竺法護(—太始二—建興元 A. D. 266—313)譯 ③(參考)仁壽錄第五、隋書錄第五、開元錄第一四、貞元錄第二四

小本起經

(甲)Sho-bu-ki-kyo. (支)Hsiao-pen-chi-king. ②二卷 ③失譯 ④(參考)仁壽錄第五、隋書錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二四

小本起經

(甲)Sho-bu-ki-kyo. (支)Hsiao-pen-chi-king. ②二卷 ③失譯 ④(參考)仁壽錄第五、隋書錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二四

小本真宗法要御上木一件

(甲)Sho-bu-shin-jyoh-kyo. ①一卷 ②存 ③安政二寫

これらの中、(一)に就いては、果して「小品般若經」の部當に属すべき否か疑はしき點があり、(八)は漢譯より略出と思はれ、また(二)の如きは「小品般若」の經意を偶に頷したものであつて、餘他異本と甚しく相異してゐる。尙現存七譯中羅什譯以前の三譯の譯時及び譯者に就いても、學者間に異説の存する所であるが、いまは且く『出三藏記集』、『歷代三寶記』等の古傳をそのまゝ、踏踏して示したのである。上掲の表によつても知らるゝ如く、本經は、實に支那佛教における翻譯の初期より終期に及ぶまで、著名なる翻譯家の必ず手にした所であつて、これのみを以てしても、いかに本經が印度並に支那に於て重んぜられ來つたかを窺知することが出来るであらう。而して竺佛朗の『道行經』の譯出は、實に支那佛教史上に於ける大乘經典翻譯の嚆矢を爲せるものであり、なほ道安はこれに序並びに註を書いてゐるから、支那に於ける註經製作のことは、亦以て本經に端を發する所といはねばならない。本經が後漢代に既に漢譯されてゐることより考ふるに、本經の原本は遅くとも紀元前後には既にその成立を見てゐたものといはねばならない。『小品般若經』の原本との成立の前後に關しては、

(八)摩訶般若波羅蜜經鈔 五卷 符秦建元十八年? 曇摩讖、鳩摩羅什 存
(九)摩訶般若波羅蜜經 七卷 純秦弘始十年 鳩摩羅什 存
(一〇)大般若波羅蜜多經 十八卷 唐顯慶五年—龍朔三年 玄奘 存
(一一)佛母出生三法藏般若波羅蜜多心經 二十五卷 宋太宗時 施護 存
(一二)佛母寶德藏般若波羅蜜經 三卷 宋太宗時 施護 存

【シ】

ることよりして、一般に般若思想の研究は『小品般若經』を主として爲されたがために、特に本經の講究註疏とはその著しいものを見るに至らなかつたやうである。さりながら、なほ宋代に於ては法華・法智・慧榮・慧斌等あり、また南齊の代には慧基・曇瑒・智稱等のあるあつて、孰れも本經をよくしてふ消息が傳へられてゐる。しかしこれらの人々も、やはり『小品般若』を以て主とするの傾向であつたから、特に本經のみの講究としていふならば寧ろ甚だ振はなかつた所といふべく、爾來般若思想への關心の薄らぐに従つて漸次本經の講讀も衰勢に赴いたやうである。最近(A. D. 1914) Walleiser 氏は、前記 Mitra 氏出版の本經梵本中より、一・二八・九・一三・一五・一六・一八・一九・二二・二七の十一品を獨譯し、般若經典に關する歴史的批判的解題を附し、"Pratiparimita"と題して出版した。泰西學界に直接本經の内容の一部を紹介したものととして、特に注目すべき所である。

本經は、すでに題して『般若波羅蜜經』と呼ばれてゐる如く、般若波羅蜜を説くを以てその根本的主張とする。般若(Prajna)譯して智慧といひ、經驗的な智識(Vidya)とは全然異り、宗教的體驗に於ける直觀的智識をいふのである。波羅蜜(Paramita)は、譯して『到彼岸』といひ、般若の智慧の究竟せる状態を指すのである。而して般若の智慧の内容は、一言以て蔽へば「空」(Emptiness)の一語に盡きる。よつて本經の内容は、主觀的には般若を以て、客觀的に

④(龍大、別置) ⑤(龍大、別置) ⑥(龍大、別置) ⑦(龍大、別置) ⑧(龍大、別置) ⑨(龍大、別置) ⑩(龍大、別置) ⑪(龍大、別置) ⑫(龍大、別置) ⑬(龍大、別置) ⑭(龍大、別置) ⑮(龍大、別置) ⑯(龍大、別置) ⑰(龍大、別置) ⑱(龍大、別置) ⑲(龍大、別置) ⑳(龍大、別置) ㉑(龍大、別置) ㉒(龍大、別置) ㉓(龍大、別置) ㉔(龍大、別置) ㉕(龍大、別置) ㉖(龍大、別置) ㉗(龍大、別置) ㉘(龍大、別置) ㉙(龍大、別置) ㉚(龍大、別置) ㉛(龍大、別置) ㉜(龍大、別置) ㉝(龍大、別置) ㉞(龍大、別置) ㉟(龍大、別置) ㊱(龍大、別置) ㊲(龍大、別置) ㊳(龍大、別置) ㊴(龍大、別置) ㊵(龍大、別置) ㊶(龍大、別置) ㊷(龍大、別置) ㊸(龍大、別置) ㊹(龍大、別置) ㊺(龍大、別置) ㊻(龍大、別置) ㊼(龍大、別置) ㊽(龍大、別置) ㊾(龍大、別置) ㊿(龍大、別置)

は空を以てその根本的立場とする。この點に於て本經は、餘他般若經典と共に、亦以て大乘佛教の根本の思潮の上に立つものといはねばならぬ。一經二十九品の據々たる教説は、孰れも、この般若・空の立場より觀ぜられたる世界觀・人生觀及び、その般若・空の立場に體達する實際的方法の叙述に外ならない。以下各品の梗概を述べてその内容の一斑を窺ふこととしよう。
〔第一卷〕(初品第一)佛國圖山に在して千二百五十人の大阿羅漢と俱に居られた時、空行第一といはれた須菩提に向つて般若波羅蜜を説くべきことを命じたまふ。須菩提乃ち佛神力を承けて、般若波羅蜜を説く。特に五蘊皆空と體達するを以て菩薩の諸法無受三昧と名け、これによつて阿耨多羅三藐三菩提を得べしといひ、而も空は單なる空に非ずして有をも包含すべく、凡夫は無明のための故に諸法を如實に知らざるが故に、分別計する旨を説く。無明に探られた有無、斷常の二見を離れ、人法二無我の境に達せるを名けて菩薩摩訶薩とし、これを離れて更に摩訶衍即ち大乘はないとの意を明す。(釋提桓因品第二)時に釋提桓因等の諸天會座にあつて如上の説法を聴き、釋提桓因の請によつて須菩提は更に説法を續ける。曰く、般若波羅蜜は色受想行識の五蘊中に見求むべからず、また五蘊を離れても求むべからず、般若波羅蜜は五蘊を離れても、また五蘊中にも求むべからざるが故に、と。色即是空、空即是色の奥義、こゝに遺憾なく説破される。(第二卷)

名所行録◎ (名庫書)高麗所撰◎ 月年の刊録◎ (書考參書釋註)書主◎ 説解内容◎ 代年作者◎ 書體◎ 缺存◎ 教體◎ (名書)名題◎ 號字◎

名所行録◎ (名庫書)高麗所撰◎ 月年の刊録◎ (書考參書釋註)書主◎ 説解内容◎ 代年作者◎ 書體◎ 缺存◎ 教體◎ (名書)名題◎ 號字◎

〔塔品第三〕會座の大衆は佛に向つて、若し人般若波羅蜜を離れざる時は、當にこの人を顧ること佛の如くすべきかと問へば、佛は如是とて、燃燈佛の許に於ける佛自らの本生を説く。次いで般若波羅蜜を説く經典、並びに舍利・塔を崇拝供養すべきことが力説される。(明咒品第四)佛釋提桓因に向つて、般若波羅蜜は大明咒、無上咒たることを説き、種々の利益を述べ給ふ。また六波羅蜜中般若波羅蜜の最勝なることを説き給ふ。(舍利品第五)般若波羅蜜の尊信と舍利供養とに於て前者を取らざるべきことが釋提桓因によつて説かれる。(第三卷)(佐助品第六)前品に續いて佛更に般若經典書寫讀誦の功徳を高調されると同時に、五種無常と説く小乘教義の所説を以て相似般若波羅蜜といひ、色を壊せざるが故に色無常を觀するに如き、大乘の空觀を以て正しく般若波羅蜜なりといふ。(廻向品第七)須菩提、彌勒に向つて、廻向隨喜も亦空によつて根柢づけられねばならないことを説く。「諸佛は取相の廻向を許したまはず、而して取相分別は要するに有所得の立場なるが故に、有所得廻向は、亦「諸佛許したまはず」と説く。(泥梨品第八)舍利弗般若波羅蜜の徳を説いて後、佛須菩提に向つて般若波羅蜜を誦讀し拒絶する者の地獄に墮せむことを説く。最後に五蘊と薩婆若との無二無異なることがいはれてゐる。(第四卷)(歎淨品第九)舍利弗によつて五蘊の畢竟淨なることが歎ぜられて後、更に須菩提は取相の著すべからざるを述べて空の義を

顯はす。また般若の行者たる菩薩は「一切衆生を度せむが爲めの故に、大莊嚴を發す」ことを説く。「般若經」の讀誦説法の日時を示し、また三轉法輪の説の片鱗を見せてゐることは注意すべき所である。(不可思議品第一〇)般若波羅蜜を信解する者を阿毘跋致とし、必ず授記を得べしとし、五蘊十力等の不可思議を分別せざるを以て般若波羅蜜を行はずといふ。本品の最後の部分に本經の流傳を佛の預言される一段は、本經の成立年代及び地方を暗示してゐるとみられてゐる重要な部分である。(第五卷)(魔事品第一一)般若修行に際しての種々の魔事を明す。(小如品第一二)恰も母の病に際しては衆子のこれを憂ふる如く、十方諸佛皆その母たる般若波羅蜜を念ずると叙べ、更に佛は須菩提に向つて、般若は世間一切諸法の如實知にあることを説かれる。(相無相品第一三)諸法は恰も虚空の如く、作相なく、常住不變なることが説かれる。(船喻品第一四)恰も大海中に於て船の難破せむに、速かに木板浮囊等に頼らざれば直に溺死せむが如く、菩薩も亦直ちに般若波羅蜜を得ずんば、中道にして退没して二乘に墮せむといひ、般若を船に譬へて二乘に沈まむことを極力斥けたる點は、後世易行道として水路乘船の譬喩の出づる源としてみらるべきであらう。(第六卷)(大如品第一五)諸法甚深不來不去、一如不可得無障礙なる旨を明して後、般若の力によつて二乘に墮すべからずと説きつゝ、而も最後に於ては「如中に三乘人を求むるに差別有るこ

と無し」と説いて、大乘一佛乘の思想を見せらる。(阿惟越致相品第一六)廣く阿惟越致の相を明す。就中、惡魔沙門と化して菩薩の前に來り、般若波羅蜜の教説を指して「佛の説きたまふ所に非ず、皆是れ文飾莊嚴之辭なり。我が所説の經こそ眞に是れ佛語なり」とて、菩薩を誑惑するも、而も動ぜざる者、即ち阿惟越致の菩薩なりと説くあたりは、本經の成立當時、いかに大乘非佛説論の旺んなりしかを知らるに足る文獻の一である。(第七卷)(深功徳品第一七)佛、須菩提に向つて、阿惟越致菩薩の甚深功徳の相を説き給ふ。曰く、「甚深相とは即ち是れ空の義、即ち是れ無相・無作・無起・無生・無滅・無所有・無染・寂滅・清淨・涅槃の義なり」と。本經所説の功徳は、常に空の義によつて貫かれてゐる。また本品に於て「如來の所説は無盡・無量……」なり、但だ名字方便を以ての故に説く」といへるは、まさに所謂般若の二諦説の源流と見られるであらう。(恒伽提婆品第一八)時に會中に恒伽提婆と名くる女人あり、佛に白して言く、「我來世に於て亦た衆生の爲めに斯の要を演説せむ」と。即ち金華を持して佛に散ずれば、佛微笑してこれを受け給ふ。阿羅漢の何故に微笑したまふやを問へば、佛は具さに恒伽提婆の當來成佛の爲めを記したまふ。續いて更にまた須菩提の爲めに空三昧の義を詳説し給ふ。(阿惟越致覺魔品第一九)阿惟越致菩薩の相並びにその魔事を明す。(第八卷)(深心求菩提品第二十)六波羅蜜の行が高調され、更に特に般若

若波羅蜜の相が叙べられてゐる。(慈敬菩薩品第二一)菩薩般若波羅蜜を離れずば、惡魔も遂にその便を得ず、更に菩薩自ら衆生に護下してこれを恭敬するの心を起すに至る。菩薩薩婆若を學ぶことの諸種の利益を擧げてゐる。(無量煩惱品第二二)佛、須菩提に向つて、般若波羅蜜を學ぶ者は、煩惱心・慳心・破戒心等なきこと、並びに般若は大利たることを説き給へば、釋提桓因は曼陀羅華を化作して佛上に散ず、佛彼の爲に更に隨喜の願徳を明したまふ。(第九卷)(稱揚菩薩品第二三)佛、須菩提に對して、般若波羅蜜は無分別なるが故に「摩訶薩支佛は我を去ること遠し」と思ふべからざることを説き給ふ。般若波羅蜜を學ぶ菩薩は諸天諸佛に護念せられ阿毘跋致たり、菩薩は一切法を空と觀すること、及び一切衆生を捨てざることを二法を成就し、また説に隨つて能く行ずると諸佛に念ぜらるゝとの二法を成就するといひ、般若を學ぶ菩薩は、十方の諸佛その名字を讚嘆し給ふことが説かれる。(唱樂品第二四)般若波羅蜜を學ぶことにより阿毘跋致に至り薩婆若に住すること等を叙べられた後、佛はこの般若を以て阿羅漢に屬し給ふ。(見阿闍佛品第二五)佛神力を以て大衆に阿闍佛國に於けるかの佛の説法會座を觀見せしめ給ふこと(因んで更に般若空の深理を高調し給ふ。(隨知品第二六)前品に引續いて般若空の無相にして廣大無邊なることを明す。(第十卷)(薩陀波菴品第二七)般若波羅蜜を行じて不惜

身命、求道の精進を勵みし薩陀波菴即ち當時菩薩の有名な求道の物語りが爲される。(曼無錫品第二八)前品に引續いて、佛の常時菩薩、終に衆香城なる曼無錫菩薩の許に至り、法を聽きて般若不可思議の境涯を體驗せしことが具さに記されてゐる。(彌果品第二九)最後に佛は本經を以て再び阿羅漢に付屬し、廣く流布宣教すべしことを命ぜられ、以て本經一部の教説が結ばれる。(深浦正文)

小品文集 ①(日)Shō-bōm-mon-shū. ①巻 ②存 ③寫本(龍大、別號)

小彌陀懺 ①(日)Shō-mi-tō-shan. (支)Hsiao-mi-tō-shan. 小阿彌陀經往生淨土懺願儀、往生淨土懺願儀、往生淨土懺願儀、小彌陀懺 ①一卷 ②存、大正四七・四九〇No.1984、縮刷一、一、三〇・八、明治1506補、明南1491頁、淨土十要第一、1513 ③慈雲懺式(乾徳元—明道元A.D.963—1032)撰 ④宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑤宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑥宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑦(參考) 諸宗章疏卷第二

小彌陀懺儀 ①(日)Shō-mi-tō-shan-ri. (支)Hsiao-mi-tō-ch'an-ri. 小阿彌陀經往生淨土懺願儀、往生淨土懺願儀、往生淨土懺願儀、小彌陀懺 ①一卷 ②存、大正四七・四九〇No.1984、縮刷一、一、三〇・八、明治1506補、明南1491頁、淨土十要第一、1513 ③慈雲懺式(乾徳元—明道元A.D.963—1032)撰 ④宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑤宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑥宋大中祥符八(A.D.1015—1032)撰 ⑦(參考) 諸宗章疏卷第二

小無量壽經 ①(日)Shō-mō-jyō-shū. (支)Hsiao-wu-liang-shou-ching. ①一卷 ②存 ③宋求那跋陀羅(太元一九—泰始四A.D.391—438)譯 ④第二譯 ⑤(參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

小樓炭經 ①(日)Shō-rō-tan-kyō. (支)Hsiao-tou-tan-ching. ①一卷 ②疑偽經 ③(參考) 法苑珠林第二、仁壽錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

上人繪詞傳 ①(日)Shō-in-e-shi-den. 黒谷上人傳繪詞、勸修御傳 ④四十八巻 ⑤存 ⑥寫本(一、建武I.A.D.1335)撰 ⑦(參考) 總淨土依憑章疏目錄

上人傳 ①(日)Shō-in-den. 黒谷源空上人傳、十六門記 ②一卷 ③存、淨土宗全書第一七、法然上人全集、續群書類從第九、帝國文庫第四四佛敎各宗高僧實傳 ④聖覺(仁安二—嘉祿元A.D.1167—1235)撰 ⑤黒谷源空上人傳の下を見よ。

上人と明通との問答 ①(日)Shō-in-to-myō-ō-ka-bō-an-10. ⑥存、黒谷上人語燈錄和語(大正八三No.2011)第五、淨土宗全書第九 ⑦源空(長承二—建曆II.A.D.1133—1213)撰

上人祕傳記 ①(日)Shō-in-hiden-ki. ③巻 ④除寛(久安四—安貞元A.D.1148—1227)撰(參考) 總淨土依憑章疏目錄

少室六門 ①(日)Shō-shitsu-rokumon. (支)Shao-shih-lu-mên. 小室六門集 ①一卷 ②存、大正四八・三六五No.2009、

記續二・一八・五 ①傳、般若提達所造 ②本書は、梁の菩提達磨大師の著作と傳承され、然も偽疑に屬するものと信ぜられて居る問題の著作である。内容は、六門に分たれ、第一門心經論、第二門破相論、第三門二種入、第四門安法門、第五門悟相論、第六門血脈論である。心經は唐の玄奘三蔵の譯せる般若波羅蜜多心經を頌せるもので、達磨大師滅後大約二百年に屬する譯經を頌するの理なく、後人の大師に托して頌せるものなること明である。第二門の破相論に於ては「觀心の一法、總て諸法を攝す(中略)心は萬法の根本、一切諸法は唯心の所生なり」といふ觀心經を採り「自心の起用を了見するに二種の差別あり(中略)一には淨心、二には染心」と説くなど宛然、起信論を思はしむるものがあり、熾煌出土スタイン氏蒐集本、同ベリオ氏蒐集本等(本辭典の第二卷一六七頁中段の觀心論の項参照)の觀心論は、本書破相論の異本で、五眼大滿弘忍禪師の法訓、神秀上座の著作とも傳唱されて居る程で、且つ心を觀じて三毒を制するを解説と名くと説くに就て「阿僧祇劫と云は三毒の心なり、胡に阿僧祇と云ひ、漢に不可數と名く」とあるが如き、大師にして西天を指して胡と云ひ、東土を漢と稱するの理なきなど、乃至、佛成道時に於ける乳糜食を不淨視し、稱名念佛を云々するなど、國情に暗く時代を知らざるものが多々ある。第三門の二種入は、所謂達磨の二入四行説として、正統思想と認定されて居るもので、夫れ入道多途なれども要

して之を言はば二種を出でず、一には是れ理入、二には是れ行入なり。理入とは、謂く「教に藉りて宗を悟り、深く今生の同一眞性なることを信じ、但だ客塵妄念の爲に覆はれ顯了する能はず」云々とあり。行入とは、謂く「四行あり、其餘の諸行は悉く此の中に入る、何等をか因なるや、一には報冤行、二には隨緣行、三には無所求行、四には稱法行」云々とあるもので、大師の眞説と認むべき所説に充ちて居る。第四門の安心法門は、別項にある宗門證會要が南宋淳熙十年に成るに及んで、始めて此の文を見るに至つたもので、「達時は人、法を迷ひ、解時には法、人を迷ふ。(中略)若し眞心寂滅して一も動念の處無くば、是れを正覺と名く」云々と説いて居る。第五門の悟性論は「夫れ道と云ふは寂滅を以て體と爲す。修と云ふは離相を以て宗と爲す」云々と云ひ、見性悟道を論じたもので、「諸の動定を離るるを大坐禪と名く、何を以ての故に、凡夫は一向に動じ、小乘は一向に定す、凡夫小乘の坐禪を出過するを謂つて大坐禪と名くるなり」と云ひて、坐禪に言及し、夜坐偈をも收めて居るが、この偈中に不起一念一塵三千ごなど云ひて天台思想を思はしむるものがあるなど、偽疑に屬すべきものである。殊に終りに眞性頌を録するが如き頗る疑難に當るものである。第六門の血脈論は「三界の興起は同じく一心に歸す、前佛後佛、心を以て心を傳へ、文字を立てず」と云ひ、若し本性を見れば十二部經は總に是れ閑文字、千經萬論は只だ是れ

正信備拾遺録 ①(日)Sho-shin-ge-sha-shin-roku. ②1巻 ③存 ④龍山述 ⑤寫本(龍大、一二三五・六九)

正信備集解 ①(日)Sho-shin-ge-sha-ge. ②正信念佛集解 ③二巻或四巻 ④存 ⑤了齋述 ⑥享保三刊(龍大、一二三五・七〇)元文元刊(龍大、研究)

正信備集註 ①(日)Sho-shin-ge-sha-cha. ②三巻 ③存 ④廣善(實曆四一文政二A.D.1751-1819)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・七一)

正信備述古録 ①(日)Sho-shin-ge-fuk-ko-roku. ②1巻 ③存 ④香雪(一安政五A.D.1858)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・七三)

正信備稱揚抄 ①(日)Sho-shin-ge-sho-yo-sho. ②正信念佛稱揚抄 ③三巻 ④存 ⑤豐樂(長一八元祿四A.D.1613-1691)述 ⑥寛文二刊(龍大、一二三五・七四)(香、二・六・中・一)寛政一刊(京大、一二六・六三)

正信備隨聞記 ①(日)Sho-shin-ge-sui-mon-ki. ②四巻 ③存 ④性海(明和二一天保九A.D.1765-1838)記 ⑤寫本(龍大、研究)

正信備隨聞記 ①(日)Sho-shin-ge-sui-mon-ki. ②1巻 ③存 ④豐樂(天明八一明治二A.D.1788-1869)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・七五)

正信備説約 ①(日)Sho-shin-ge-ee-sen-yaku. ②正信念佛講義説約、正信念佛説約 ③1巻 ④存、眞宗全書第三九

①隨筆(一天明二A.D.1788)述 ②實曆六A.D.1756) ③正信備講義説約の下の見よ ④明治四〇寫 ⑤(谷大、宗大、一〇一九)

正信備祖釋會本 ①(日)Sho-shin-ge-so-shaku-e-hon. ②1巻 ③存 ④雲山龍珠述 ⑤大正四刊 ⑥(龍大、一二三五・三二)

正信備藻鑑 ①(日)Sho-shin-ge-kan. ②正信念佛藻鑑 ③三巻 ④存 ⑤慧敏述 ⑥寫本(龍大、一二三五・八二)

正信備勸説 ①(日)Sho-shin-ge-etsu. ②正信念佛勸説 ③三巻 ④存 ⑤月峯(寛文一一享保一四A.D.1671-1729)述 ⑥正徳元(A.D.1711) ⑦正徳四、五刊 ⑧(龍大、一二三五・七七・七九、研究)(香、五・五・左・一一)

正信備勸説義理 ①(日)Sho-shin-ge-so-setsu-gi-ryo. ②正信念佛勸説義理 ③七巻 ④存 ⑤月峯(寛文一一享保一四A.D.1671-1729)述 ⑥寫本(龍大、一二三五・八〇)別號(實曆一一寫(谷大、長保・九四)實曆一一寫(谷大、三〇五五))

正信備勸説義理由辨 ①(日)Sho-shin-ge-so-setsu-gi-ryo-kwan-pu-ben. ②正信念佛勸説義理由辨 ③1巻 ④存 ⑤泰庵(正徳元一實曆一三A.D.1711-1763)述 ⑥寛延元(A.D.1748) ⑦寫本(龍大、一二三五・八一)別號)

正信備大意 ①(日)Sho-shin-ge-tai. ②正信念佛大意 ③1巻 ④存、龍如上人全集、眞宗法要第二、眞宗聖教大全上巻、眞宗聖典全書、眞宗假名聖教第一

〇之内 ①蓮如(應永二一明應八A.D.1415-1499) ②長祿四(A.D.1460) ③常に蓮如を後援せし有名なる信徒近江國野洲郡金森村の道西(後に善從と改む、通稱金森道西)の再三の懇望により、本傷の文意を和けて簡明に筆述せるもの。本書の奥書に自らこのことを記し、文首ノイキヤシキヲカハリミズ、マタ義理ノ次第ヲモイハス、タゞ願主ノ命ニマカセテ、コトバフヤハラゲ、コレヲシルシアタフ」と述べて、年時をも書き添へてみられる。長祿四年は蓮如四十六歳の時である。初めに本傷の前半は、大無量壽經の意、後半は三朝七祖の教意を讀誦せるものなる由を一言し、次に本文を追ふて解釋を下してゐる。本傷の研究には必ず参考すべき指針であり、蓮如の生涯中唯一の著書といふべきであらう。

【参考】浄土眞宗聖教目録、浄土眞宗教典第一、明和七刊(谷大、宗大、三四一・三五・五二九)(龍大、研究)元祿二刊(谷大、宗大、三四九六)寫本(谷大、宗大、三四一八・三四一九)(龍大、別號) (柏原祐義)

正信備大意 ①(日)Sho-shin-ge-tai. ②漢文正信備大意 ③1巻 ④存 ⑤蓮如(應永二一明應八A.D.1415-1499)述

正信備大意講義 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ko-gi. ②1巻 ③存、眞宗大系第二九 ④德能(安永元一安政五A.D.1772-1855)述 ⑤天保一五(A.D.1844)

①天保十五年二月十八日より近江國長濱別院にて講述せるもの、筆録である。來意、

願説、入文の三門に分ち、案簡よくその度を計つて述べてあるから、意を汲むに極めて便利である。殊に述者は有名なる篤信者であつたから、その篤信の片鱗が叙述の上に見えてゐる。

(柏原祐義)

正信備大意講解 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ko-gi. ②三巻 ③存 ④福田義尋(文化二一明治一四A.D.1805-1881)述 ⑤明治一〇刊(龍大、一二四三・一)明治一二刊(谷大、宗小・九七)

正信備大意講述 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ko-jutsu. ②1巻 ③存 ④德能(安永元一安政五A.D.1772-1858)述 ⑤明治二八刊 ⑥(谷大、宗小・一二三)

正信備大意二十題撰英 ①(日)Sho-shin-ge-tai-jiu-juhachi-juu-ka. ②1巻 ③存 ④占部觀順(文政七一明治四三A.D.1824-1910)作 ⑤明治一〇刊 ⑥(龍大、一二四三・一一)(帝國、一八三・三〇一一)

正信備大意略解 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ryaku-gai. ②1巻 ③存 ④宮地義天(文化一四一明治一三A.D.1817-1879)述 ⑤明治一七刊 ⑥(谷大、宗小・一九〇)

正信備大意略述 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ryaku-jutsu. ②1巻 ③存

吉谷覺海(天保一三一大正三A.D.1842-1914)述 ⑤明治四二刊 ⑥(谷大、宗小・一八二)(龍大、研究)

正信備大綱 ①(日)Sho-shin-ge-tai-ko. ②1巻 ③存 ④製法述 ⑤寫本(龍大)

正信備短練録 ①(日)Sho-shin-ge-tan-ko-roku. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、一二三五・八三)

正信備談話 ①(日)Sho-shin-ge-dan-ka. ②1巻 ③存 ④行照(一文久一A.D.1863)述 ⑤寫本(龍大)

正信備註釋 ①(日)Sho-shin-ge-cho-shaku. ②1巻 ③存 ④曉晴述 ⑤寫本(龍大、研究)

正信備聽記 ①(日)Sho-shin-ge-cho-ki. ②1巻 ③存 ④頼乘(寛政一一元久二A.D.1799-1862) ⑤寫本(龍大、一二三五・八六)

正信備聽記 ①(日)Sho-shin-ge-cho-ki. ②1巻 ③存 ④龍溪記 ⑤寫本(龍大、一二三五・八七)

正信備聽記 ①(日)Sho-shin-ge-cho-ki. ②1巻 ③存 ④松島善慶(文化三一明治一九A.D.1806-1886)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・八八)(研究)

正信備聽録 ①(日)Sho-shin-ge-cho-roku. ②1巻 ③存 ④道隆記 ⑤寫本(龍大)

正信備隨意鈔 ①(日)Sho-shin-ge-zui-ishi. ②勸化拾葉正信備隨意鈔 ③十二巻 ④存 ⑤南沢 ⑥元文元刊 ⑦(龍大、

一〇五五・六八)

正信備通釋 ①(日)Sho-shin-ge-ta-shaku. ②1巻 ③存 ④高木俊一述 ⑤大正一〇刊 ⑥(龍大、一二三五・八九)(研究)

正信備天親章 ①(日)Sho-shin-ge-ten-shin-sho. ②1巻 ③存 ④常觀述 ⑤寫本(龍大、一二三五・九二)

正信備桃華語 ①(日)Sho-shin-ge-to-ka-wa-go. ②二巻 ③存 ④若葉(延寶三一享保二〇A.D.1675-1735)述 ⑤享二寫 ⑥(龍大、研究)

正信備統略 ①(日)Sho-shin-ge-ryaku. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、一二三五・九〇)

正信備如幻録 ①(日)Sho-shin-ge-nyo-gen-roku. ②二巻 ③存 ④性海(明和二一天保九A.D.1765-1838)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・九二)

正信備念佛略解 ①(日)Sho-shin-ge-nem-butsu-ryaku-gai. ②1巻 ③存 ④蓮如(安永四一享永四A.D.1775-1851)述 ⑤明治二六寫 ⑥(龍大、研究)

正信備之中興書 ①(日)Sho-shin-ge-no-naka-no-oku-gaki. ②1巻 ③存 ④興義集(了詳稿本)第一 ⑤傳、蓮如(應永二一明應八A.D.1415-1499) ⑥文明一(A.D.1479)

①信の一念、行の一念の區別を簡単に説明したもので、中に「信ノ一念トイフハ領解ノコトヲ信ノ一念トイハス、マタ凡夫ノ念ニアラストイフナリ、コレヲ眞因ヲ決スル安心ノ一念トモ、隠ノ一念トモ、信

心決定ノ一念トモ、コトウキナリ」として、信の一念といふ珍らしき術語を出し、行の一念は佛恩報謝にして、これ「稱名ノ一念ナレバ、スナハチ行者ノ念ナレバ、行ノ一念トイフナリ」と云ひ、巻尾に「于時文明十一年三月二十三日、フナリ山中徒然、ヤ、筆ヲグサシ、コレヲ書キ、コレヲカキ、コトウキナリ、アラ、片取イタキコトイモヤ、シカリトイハドモ、カタク所望ノアコメ、コトウキナリ、南無阿彌陀佛」と記し、別行に「蓮如上人之御眞筆令書寫訖」と書添へてあるが、了詳は興義集巻十の末尾に本書を録し、それより十数紙前の一紙に本書の眞偽を稽つて、「信行一念抄と全く同じ、文に「釋尊ノ經教、代々相承ノ善知識、コトモ、今時聖人御筆」と云ふに於て、蓮師の御筆にはあらざるや」と推定しつゝある。

(柏原祐義)

正信備版本一件記録 ①(日)Sho-shin-ge-han-ge-han-ki-roku. ②1巻 ③存 ④文政九寫 ⑤(龍大、別號)

正信備秘訣鈔 ①(日)Sho-shin-ge-hi-ke-setsu. ②1巻 ③存 ④實雲(寛政三一弘化四A.D.1791-1847)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・一〇〇)

正信備備檢 ①(日)Sho-shin-ge-bi-ken. ②二巻 ③存 ④支智(享保一九寛政六A.D.1734-1794)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・九四)

正信備備録 ①(日)Sho-shin-ge-biroku. ②1巻 ③存 ④實雲(寛政三一弘化四A.D.1791-1847)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・九四)

正信備評註 ①(日)Sho-shin-ge-byo-chu. ②正信念佛評註 ③存、眞宗全書第四〇 ④信翁(享保八一天明三A.D.1723-1783)述

①著者信翁は眞宗本願寺派に於いて最も勢力ある學派なる空華派の鼻祖である。本書は極めて簡潔に正信備の註釋を施せるものである。題説に已に評註とあるが如く、存覺上人の「六要鈔」、西吟の「要解」、知空の「助講」、性海の「刊定記」、月峯の「助説」、若葉の「文軌」、法華の「時淨記」の七部の正信備註釋書に批評を加へ、ついで後學の指針となせるものである。

(雲山龍珠)

正信備標註撮要 ①(日)Sho-shin-ge-hyō-chū-satsū-yō. ②1巻 ③存 ④信翁(享保八一天明三A.D.1723-1783)述 ⑤寫本(龍大、研究)

正信備不及録 ①(日)Sho-shin-ge-fu-kyō-roku. ②1巻 ③存 ④龍溪(一文久元A.D.1861)述 ⑤寫本(龍大、一二三五・一〇一)

正信備丙子記 ①(日)Sho-shin-ge-hei-shi-ki. ②四巻 ③存、眞宗大系第一七 ④宣明(寛延三一文政四A.D.1750-1821)記 ⑤文化一三(A.D.1816)

【シ】

①高倉學寮講義年鑑によるに、師は文化三年及び同十三年の前後兩度に本編を講述してゐるが、本書は後の文化十三年の大谷派夏安居における講義の筆録である。先づ初に淨土真宗の大綱たる教行信證の四法につきて要義を述べ、次に正しく本編の來意、大意、題號を講じ、更に本文を追ふて懇切に詳解してゐる。即ち本編の來意には遠近の二義ありとして、遠くは教行信證類の行巻に言他力者如來本願力とあるより出で、近くは同行卷前文に示されたる意より出づといひ、大意釋には唯他力の信心を示す本編の大意なりと講じ、題號釋また甚だ詳解をきはめ、本文の解釋も師の遺著を頼りてその解釋實に至れり盡せりの觀がある。四月十五日開建以後、會を重ねること五十二回、蓋し正信佛講義の精なるものであらう。

正信佛問答

①(日) Sho-shin-ge-heki-an. ①一巻 ②存 ③知空寛永一十一享保三 A. D. 1631—1718) ④寫本 (龍大、二二三・一〇三)

正信佛辨述抄

①(日) Sho-shin-ge-ben-jus-sho. ②三巻 ③存 ④元禄九刊 (龍大、二二三・九五)

正信佛捕影記

①(日) Sho-shin-ge-no-yo-ki. ②正信念佛佛影記 ③三巻 ④存 ⑤真宗全書第四〇 ⑥法藏(元禄六—寛保元 A. D. 1693—1741) ⑦著者法藏は真宗本願寺派の第四能化にして、其の學識は廣く佛教一般に通じ、真宗宗學の大成者である。本書は古來真宗の學

匠の末書には多く引用せられたるところにして、あらゆる點に於いて真宗の學の基礎となるる確者である。殊に一般佛教の原理の上に、真宗の學の種々なる問題を調理せんとするものには、是非とも参考とすべき書である。

正信佛法語

①(日) Sho-shin-ge-ho-go. ①一冊 ②存 ③藤井信悟述 ④大正三刊 (谷大)

正信佛報恩記

①(日) Sho-shin-ge-ho-on-ki. ②正信念佛佛報恩記 ③二巻 ④存 ⑤真宗全書第四〇 ⑥道振(安永二—文政七 A. D. 1773—1834) ⑦著者道振は真宗本願寺派の學匠にして、西國學派の大成者である。本書は文簡なれども西國學派の精神を盡し、其の師大派の衣鉢をよく繼承せる點に於て注意すべき書である。真宗の學史上、西國學派の學說を把握せんと欲するものは、是非本書の精讀を怠るべからず。

正信佛本義

①(日) Sho-shin-ge-hon-gi. ②正信念佛佛本義 ③四巻 ④存 ⑤貞阿(寛永二 A. D. 1705—) ⑥寶水二刊 (龍大、二二三・一〇六)

正信佛妙義實錄

①(日) Sho-shin-ge-myō-gi-jitsu-roku. ②四巻 ③存 ④寫本(龍大、二二三・一〇七)

正信佛密已錄

①(日) Sho-shin-ge-mi-jiki-roku. ②三巻 ③存 ④行感(一

享保一〇 A. D. 1731—) ⑤寫本(龍大、二二三・九九)

正信佛文軌

①(日) Sho-shin-ge-bun-ki. ②正信念佛佛文軌 ③三巻或四巻 ④存 ⑤若菜汝岱(延寶三—享保二〇 A. D. 1675—1735) ⑥元文頃刊 (龍大、日大末・六八七)(龍大、二二三・一一二)

正信佛文軌附書

①(日) Sho-shin-ge-bun-ki-kaki. ①一巻 ②存 ③寫本(龍大、二二三・一一四)

正信佛文軌旁通

①(日) Sho-shin-ge-bun-ki-bō-tō. ②正信念佛佛文軌旁通 ③存 ④若菜(延寶三—享保二〇 A. D. 1675—1735) ⑤刊本(龍大、二二三・一一二)

正信佛文說

①(日) Sho-shin-ge-bun-shi. ②正信念佛佛文說 ③一巻 ④存 ⑤寫本(龍大、二二三・一一五)

正信佛文林

①(日) Sho-shin-ge-bun-rin. ②正信念佛佛文林 ③一巻 ④存 ⑤真宗全書第三九 ⑥聖安(正保元—享保六 A. D. 1644—1721) ⑦寛文四(A. D. 1664) ⑧普通の講義と異り、本編の字句を講述の文章中にはめくみ、巧に達意的解釋を下したところが本書の特色である。即ちその一節を出せば、本編の極重惡人唯稱佛、我亦在彼攝取中、煩惱障眼不見を講述して、「極重惡人無他方便、幸今值彌陀佛之願、唯稱佛名、生極樂、若稱佛名者名義相應、而蒙攝取之益、故一一光明顯照十方世界念佛衆生、攝取不捨、是故我亦在彼攝取之光中、同、已處、光中、何不、見光明乎、

【シ】

答難(光中、恒沙煩惱障、蔽智慧、不能見)といふ風である。若し本書の意をとつて和譯したならば、平易流麗なる一篇の正信佛大意が得られるであらう。

正信佛問答記

①(日) Sho-shin-ge-mon-do-ki. ②二冊 ③存 ④勝山善壽編 ⑤明治二八刊 (帝國、一〇・三三)

正信佛問記

①(日) Sho-shin-ge-mon-ki. ①一巻 ②存 ③功存(享保五—寛政八 A. D. 1720—1796) ④寛政五寫 (谷大、宗大・三〇五)

正信佛問記

①(日) Sho-shin-ge-mon-ki. ②二巻 ③存 ④雲龍(寶曆九—文政七 A. D. 1759—1834) ⑤寫本(龍大、二二三・一〇九)

正信佛問記

①(日) Sho-shin-ge-mon-ki. ①一巻 ②存 ③行照(文久二 A. D. 1863) ④寫本(龍大、二二三・一〇八)

正信佛問林

①(日) Sho-shin-ge-mon-rin. ③三巻 ④存 ⑤寫本(龍大、二二三・一一六)

正信佛問序解

①(日) Sho-shin-ge-yū-jō-ge. ⑤五巻 ⑥存 ⑦寫本(龍大、二二三・一一七)

正信佛問序解

①(日) Sho-shin-ge-yū-jō-ge-roku. ①一巻 ②存 ③古道記 ④寫本(龍大、二二三・一一八)

正信佛問要解

①(日) Sho-shin-ge-yū-jō-ge-yō-ge. ④四巻 ⑤存 ⑥西

【シ】

吟(龍大、一〇—寛文三 A. D. 1695—1663) ⑤明曆四刊 ⑥龍大、二二三・一一三 (龍大、二二三・三)

正信佛要解評説

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-kyō-setsu. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

正信佛要訣

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-kyaku. ②一巻 ③存 ④松原一誠述 ⑤寫本(龍大、二二三・一一三)

正信佛略記

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-ki. ②一巻 ③存 ④寶雲(寛政三—弘化四 A. D. 1791—1847) ⑤寫本(龍大、二二三・一一八)

正信佛略考

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-ko. ②一巻 ③存 ④僧辯(享保八—天明三 A. D. 1723—1783) ⑤寫本(龍大、研眞)

正信佛略讀

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-ron. ②二巻 ③存 ④僧辯(享保八

八—天明三 A. D. 1723—1783) ⑤寫本(龍大、研眞)

正信佛略釋

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-shaku. ②一巻或二巻 ③存 ④後藤藤城(文化九—明治三 A. D. 1812—1880) ⑤明治一、三〇再刊 (帝國、五・一四六)(龍大、研眞)

正信佛略釋

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-shaku. ②一巻 ③存 ④平安專修學院編 (大正一五刊 (龍大))

正信佛略述

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-jutsu. ②正信念佛佛略述 ③一巻 ④存 ⑤真宗全書第三九 ⑥聖安(正保元—享保六 A. D. 1644—1721) ⑦元禄一六(A. D. 1703)

正信佛略述

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-jutsu. ②一巻 ③存 ④師六十歳のとき本編を講義し、後その要領を自ら草したのが本書である。來意、大意、題目、正文の四大段に分ち、處々に佛光寺第十三主光教の正信佛問書、并に慶秀の同佛私記の説を批判し、別に一義を立てたる點が、永く大谷派學界の權威とされてゐる。説述の體裁は比較的簡約であるが、明透適確、殊に本編の字句に關する典據の文獻を一々細密に抄出してゐるから、この方面のことを知るに至便である。

正信佛略讀

①(日) Sho-shin-ge-yō-ge-ryaku-ron. ②二巻 ③存 ④僧辯(享保八

「行巻」末尾に出する七百二十句の偈頌である。略して正信偈とも呼ぶ。別行する所には佛前に於ける圓通のために、何人によつて創始されしかば不明である。但し蓮如上人に至つて、和讃と共に佛前勸行に並用せられ、上人の越前吉崎に居住の時、三帖和讃に合刺せられた。製作年代は「教行信證」と同時代である。觀覺聖人の文に「爾者歸大聖眞言、聞大聖解釋、信如佛恩深遠、作正信念佛偈」と明記せられる如く、經釋の解釋によつて以て宗旨を宣述し、廣大の佛恩を謝せんとするにある。本偈は大別して二段となる。初めの一段は依經分にして、「歸命無量」等の二句は壽命光明の二徳を標して所讚の佛徳を出し、「法藏菩薩」等八句は彌陀成佛の因を明し、「普放無量」等六句は彌陀成佛の果を顯し、「本願名號」等四句は衆生往生の因果を示し、「如來所以」等二句は釋尊の眞説を出せるものである。後の一段は依釋分にして三國傳來の七高祖の功徳を歌歎せるもの、就中、「釋迦如來」等十二句は龍樹菩薩、「天親菩薩」等十二句は天親菩薩、「本師曇鸞」等二句は曇鸞大師、「道綽決擇」等八句は道綽大師、「善導開明」等八句は善導大師、「源信廣闡」等八句は源信和尚、「本師深望」等八句は法然上人を讚嘆し其所説を宣述せられたものである。而して「弘經大士」等の四句はこの七祖の恩徳を總結するものである。要するに、一偈の明すところは淨土真宗の精要にして、一宗の肝腑はこの中に盡

【シ】

されてゐる。その所説は一言にして覆へば、大行と大信を明すものにして、これはその題に顯はれてゐる。正信は大信、念佛とは大行にして、共にこれ選擇本願の行信にして、如來同施の眞實法である。衆生はこの大行大信によつて、往生の因を成就し、佛の機功を用ふるを要せないのである。本佛の註釋は無慮數十部の多きに達し、先哲の力を盡して講究せるところである。註釋書については別項を参照せられたる。

①(参考) 淨土眞宗教典卷第一 ②寛延四刊 ③(谷大、宗大、三二五) (雲山龍珠) ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

編名「會鈔句義」とする如く、各節毎に先づ一々本佛并に六要鈔の註文を擧げ、六要鈔を標準として解釋を下してゐる所が本書の特色である。本佛に對する存疑六要鈔、蓮如(正信佛大意)兩師の釋意を知るに參考すべきである。

①(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ②享保一八寫 ③(谷大、宗大、三三三) (柏原祐義) ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

shin-nem-but-su-ge-kan-ko-roku. ①一巻 ②存 ③(参考) ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

〇一八) 正信念佛講義 ①(日) Sho-shin-nem-but-su-ge-ki-gaki. ②二巻 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

【シ】

大・二一八九) 正信念佛講義 ①(日) Sho-shin-nem-but-su-ge-kan-ko-roku. ②一巻 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

①正信佛夏檀寫の下を見よ。 ②寫本(谷大、長保・四三)(龍大、一一三・五・一一) ③(参考) ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

正信念佛講義 ①(日) Sho-shin-nem-but-su-ge-ki-gaki. ②二巻 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

法住(一明治七 A. D. 1874) ①寫本(龍大) ②(参考) ③(参考) ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

は須要の書なり。本書は久しく寫本として
展轉し來りしが、大正三年初めに印刷して
正法眼藏註解全書第九卷に收められたり。
正法眼藏註解全書第一〇、佛
教大系第六一第九 ①西山瑞方(天和三
明和六A.D.1683-1769)撰 ②寶曆九(A
D.1759)

③永平正法眼藏九十五卷全部の典據を指摘
解説せしもの。著者は元文三年五十六歳に
して業願を發してより相州老梅庵に閉居し
二十一年間にしてこの書を完成せり。全部
九十五卷の抄本をなせるもの本録を以て撰
與とす。序に云く、「道孫の小機は信解に悞
惚たり、この故に余多年抄典に従事して以
て取由する所の全文を集む、更に細題を
提して以て信根を培ふ者なり」と存す。有
らゆる佛典眼藏和漢の書を眼藏中の文
字、成語、故事、典故、句意、傳記等を舉
ぐるに及ぶに及ぶ宛然眼藏故事成語辭典
の體を呈す。眼藏を研鑽せんとするもの、
座右に具ふべき良書なり。

④享保元刊(駒大) 明和六刊(各大、餘大・二
二五) (安藤文英)

正法眼藏涉典和語抄 ①(日)Sho-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. 正法眼藏
和語抄 ①一巻 ②存、正法眼藏註解全書
第九 ③西山瑞方(天和三・明和六、A.D.
1683-1769)撰 ④明和元(A.D.1766)春
⑤永平正法眼藏中の眼藏なる和語についで

典據語例を出せるもの。漢文の涉典錄に對
比すべき好書なり。卷の列次に拘らず出づ
るに隨ひ録せるもの、如し。序に「梵語は
一語多義にして密家の所謂一字の理を含む
もの之に因るなり。須らく知るべし天然
(語)と日本(語)とは之れ原始これ同じきな
り」と云へり。以て其の内容を知るべし。
建仁寺の撰集に於て書き了りしを徵集、
慧輪、良樹、萬瑞等撰譯寫して傳へ、大
正三年これを印刷して正法眼藏註解全書中
に收めたり。(安藤文英)

正法眼藏隨聞記 ①(日)Sho-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②六巻 ③存、國文
東方佛敎叢書第一輯第四卷、禪門法語
全集第三、永陽大師聖敎全集第三 ④孤雲
懷英(建久九一弘安三A.D.1198-1280)編
撰(長久九一弘安三A.D.1235-1235)
⑤道元禪師が其の會下に隨時觀調せられた
る示教を門人懷英和尚自ら筆記せられたる
の。禪師の平生を示し其の所信を語り參學
の要道を示さる。和文にして語また平易な
れば參學者の好指南にして、道元禪師の家
風を知る最良書なり。本書の跋に「先師永
平和尙在學地之日、學道至要隨聞記録」と
記されしは懷英和尚の筆蹟なることを證
明するものなり。但し六卷の書冊として輕
められたるは和尙滅後のことなるべし。本
書に慶安版本と寶曆版本との二種あり。寶
曆刊本の首に西山瑞方の序あり東海聖命の
首を引用して「曾て越の臥山に留録して古
寫の正法眼藏隨聞記を拜讀す。印刷する所
の本と之を對考するに大に差異あり、精寫

に眼なくして今に到りて悽々たりと。略々
自ら記持する所の差異を語る。余聞て歡
喜し頗る好本なりとす」と云へり。之に依つ
て見るに西山は古寫本と寛文九年版とを比
較校正して重刻せられたるを知るべし。
⑥[注釋] 陸鏡巖著正法眼藏隨聞記布鼓。
⑦慶安四初版。寛文九己酉(皇紀二二二九)
再版、翌年二月三版。寶曆八戊寅(皇紀二
四一八)二月四版。明和六己丑(皇紀二四二
九)五版。昭和四、六版 ⑧(駒大)永平寺書
庫等(正六一七五・三一) ⑨初版中村長
兵衛。二版三版京都五條小龜三左衛門。四
版五版京都御枝軒。六版道元禪師研究會。
正法眼藏隨聞記 ①(日)Sho-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、瑞
芳校刻 ④明治七刊 ⑤(京大)一・二五、
九)

正法眼藏隨聞記 ①(日)Sho-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. 道元語錄正法眼藏隨
聞記 ①一巻 ②存、和辻哲郎校訂 ③
昭和四刊 ④東京岩波書店

正法眼藏隨聞記布鼓 ①(日)Shō-
bō-gen-zō-shū-ten-kyōki. 正法眼藏
布鼓 ①一巻 ②存、陸鏡巖撰 ③大正
一〇刊 ④(駒大)京大、一・二五、一八、
一九(帝室)

正法眼藏持書錄 ①(日)Sho-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②四巻 ③存、
[參考] 瑞芳校刻

正法眼藏續註講義 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②五巻 ③存、

正法眼藏註解全書第一〇 ①乙堂喚丑述
②享保一六(A.D.1731)辛亥十一月
③凡例に「撰註は予直に正文に註するの書
目なり、講義は或者の愚解を講取する所
なり」と存す。これ本書名稱の依り來る所以
なり。或者とは天桂傳尊の辨註を指し、殊
に面授、訓法、授記の三卷に對しては一々
辨駁して完備なし。蓋し「辨註」に對して非
議を唱へしもの、先驅をなす書なり。眼藏
中に於ける疑義争論を研究せんとするもの
、主要なる參考書たり。

明治二九刊 ④(駒大)(各大、餘大・六一
九) ⑤京都貝葉書院 (安藤文英)

正法眼藏續集 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. (支)Chang-fa-yan-shū-
huan-chi. ②存、清代天際 ③[參考]
瑞芳校刻

正法眼藏知布布鼓 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存
④陸鏡巖撰 ⑤大正一〇刊 ⑥(駒大)

正法眼藏註解全書 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②十一巻 ③
存、神保知天、安藤文英共編
④(第一巻) 辨道話。摩訶般若波羅蜜。現
成公案。一顯明珠。重雲堂式。即心是佛。
洗淨。禮拜得髓。溪聲山色。諸惡莫作。
[第二巻] 有時。袈裟功德。傳衣。山水
經。佛眼。圖書。法華轉法輪。心不可得。
後心不可得。古鏡。[第三巻] 看經。佛
性。行佛成儀。佛敎。神通。[第四巻] 大
悟。坐禪。佛向上事。集慶。行持(上、
下)。海印三昧。[第五巻] 授記。觀音。

阿羅漢。拍樹子。光明。身心學道。夢中說
夢。道得。畫餅。金橋。都橋。[第六卷]
空觀。古佛心。四攝法。葛藤。三界唯心。
觀心說性。佛道。諸法實相。密語。佛經。
無情說法。法性。[第七卷] 陀羅尼。洗
面。面授。坐禪儀。梅華。十方。見佛。獨
步。眼語。家常。龍吟。春秋。觀師西來
意。[第八卷] 優曇華。發無上心。發菩提
心。如來全身。三昧王三昧。三十七品香提
分法。轉法輪。自證三昧。大修行。虛空。
鉢盂。安居。[第九卷] 他心通。玉素仙陀
婆。承院院文。出家。三時業。四馬。出家
功德。供養諸佛。歸依三寶。深信因果。四禪
比丘。唯佛與佛。生死。道心。受戒。八大人
覺。正法眼藏涉典補同錄(萬位道坦)。正
法眼藏補同錄。正法眼藏和語抄(西山瑞
方)正法眼藏和語抄(萬瑞)。[第一〇卷]
正法眼藏序跋題類。答客議(江山道白)。正
法眼藏子一吼集(定山良光)。正法眼藏辨
註調註(天桂傳尊)。正法眼藏續註講義(乙
堂喚丑)。正法眼藏問邪訣(西山瑞方)。雪
夜爐談(西山瑞方)。正法眼藏誦經錄(萬位
道坦)。正法眼藏誦經孔(心應空印)。議水
平持遺物(萬位道坦)。高麗破斥臨
濟德山大德雲門等辯(萬位道坦)。天桂不
知正法眼藏之由來事(公普道端)。嘉錄考
(西山瑞方)。正法眼藏品目頌金剛草參
(本光勝道)。影刻永平正法眼藏凡例並卷目
(釋達)。正法眼藏支說科釋(慧亮忘光)。正
法眼藏那一實凡說並末記(老那父幼)。正法
眼藏開講備忘(西有移山)。承陽大師聖敎全
集解題(弘津說三)。正法眼藏註解書序跋凡

例目錄類。[別卷] 正法眼藏註解全書總目
次。正法眼藏註解全書內容目解題。正法
眼藏索引。正法眼藏註解全書故事成語索引。
大正三刊 ④(駒大) ⑤東京無我山房

正法眼藏摘旨讀文布鼓 ①(日)
Shō-bō-gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、
三巻 ④存、陸鏡巖撰 ⑤大正一五刊
⑥名古屋圓通寺僧堂

正法眼藏證 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、一文政頃A.
D.1818-1829)撰 ④[參考] 瑞芳校刻

正法眼藏道心講義 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②存、曹洞禪講
義第九 ③山田孝道(文久三・明和三A.D.
1863-1903)述 ④大正六刊 ⑤東京光臨
館

正法眼藏那一實 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②二十二巻 ③存、正
法眼藏註解全書之内、佛敎大系第六一第九
④老那父幼述 ⑤寛政三(A.D.1791)仲秋
⑥著者は天桂傳尊の法孫、無量眼文の直嗣
なり。字治の興聖寺に住院中師祖天桂の
「辨註」を祖述して之れに僅かに自己の新註
を加へ、正法眼藏の本文を平假名となし、
處々に割註し、且つ巻尾に一括して註を列
ぬ。初め六十巻本に據りしが、後拾遺別輯
として三十五巻を加ふ。註解は師祖天桂の
如く獨斷を以てせず、校訂もまた豊後の泉
福寺、城州の永正寺、丹後の玉雲寺及び永
平寺諸藏の諸本に據りて爲されたるが故
に、比較的完全なるものなり。序に云く
「絶對の藏本を得ず舞踏して蕙香拜

讀し殆ど貧兒の一實を得るが如し」とあり、
以てその題名を知るべし。
寛政三刊 ④(駒大) ⑤字治興聖寺藏版
(安藤文英)

正法眼藏並述議 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②二十五巻 ③存
④[參考] 瑞芳校刻

正法眼藏拈鋒 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、一文政頃A.
D.1818-1829)撰 ④[參考] 瑞芳校刻

正法眼藏八大人覺 ①(日)Shō-bō-
gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③
存、正法眼藏第九五(大正八二・三〇八No.
3503)之内 ④(哲、イ、三、中、二七)

正法眼藏秘鈔 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②二十巻 ③萬位道坦(一享
保元A.D.1716-1735)撰 ④[參考] 瑞
芳校刻

正法眼藏問邪訣 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、
正法眼藏註解全書第一〇 ④西山瑞方(天
和三・明和六A.D.1683-1769)述 ⑤元
文三戊午(A.D.1738)正月

天桂傳尊の「辨註調註」の所解を邪なりと
し、其の邪解を調き以て後學に始さんがた
めに著されたる書なり。學者間に此の書率
強説無きに非ずと評する者もあれども、
宗義對論上に於ける西山系の主張を知る要
書たり。首に永平四十二世寂寂圓和尚の
序文を載せ、巻尾に自跋を載す。跋文に云
く「若し夫れ世に反逆のもの有りて國紀ま
さに危からんとす、三寶も亦これが爲に留

難を生ずるときは則ち佛既に降伏の法を説
く。今もまた風頭留難を生ずるが爲の故に
説く此吐時を治するの訣なり」と以て本
書著作の意氣を顯ふべし。

明治三〇刊、寛保二刊 ④(駒大) ⑤京
都御枝軒。東京鴻聖社 (安藤文英)

正法眼藏問邪訣補缺錄 ①(日)
Shō-bō-gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、
正法眼藏辨々註、正法眼藏誦經錄
④一巻 ⑤存、萬位道坦(一享保元A.D.
1716-1735)撰 ⑥明和三寫 ⑦(駒大)

正法眼藏布鼓 ①(日)Shō-bō-gen-
zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、
陸鏡巖撰 ④大正九刊 ⑤(駒大)

正法眼藏佛向上事卷行事卷 ①(日)Shō-
bō-gen-zō-shū-ten-kyōki. ②一巻 ③存、
曹洞宗務局訂正 ④明治二四刊 ⑤(帝國、
六・二)

正法眼藏辨註並調註 ①(日)Shō-
bō-gen-zō-shū-ten-kyōki. ②二十二巻 ③存、正法眼藏註解全書第一
〇 ④天桂傳尊(慶安元一享保二〇A.D.
1648-1735)述 ⑤享保一五(A.D.1730)
八月

⑥義雲和尚編集の正法眼藏六十巻本に就て
各巻に註し或は辨を加へしもの。而して初
めに調註(最初は辨註と稱す)一篇を附す。
著者は六十巻本を正本として本文を平假名
に書き改め、その餘の三十五巻を拾遺別輯
となし片假名の儘に爲して多くは註せず。

【シ】

諸宗草疏卷第二
正理略纂 ①(日)Shō-ri-ryaku-an. (支)Chōgō-ri-hō-issan. 因明入正理論略纂、因明略纂 ②四卷 ③佚 ④唐慧沼撰(一四元二A.D.714)述 ⑤藏後の因明大疏抄(大正六八・四三七No.227)に援引。 ⑥(参考)諸宗草疏卷第一
正理論抄 ①(日)Shō-ri-ron-shō. (支)Chōgō-ri-hō-issan. 因明入正理論抄、因明正理門論抄 ②二卷 ③佚 ④唐代文備述(参考)奈良朝現在一切經疏目錄2405
正流成邪流事 ①(日)Shō-ryū-ka-ri-ryū-no-keiji. ②三帖 ③存 ④寫本(高木・香・1・711)
正流布薩辨 ①(日)Shō-ryū-fu-sa-sen-ben. ②一卷 ③存 ④動息義城(嘉永元一大正一〇A.D.1848—1921)述 ⑤刊本(正大一五五二・1140)
正流辨 ①(日)Shō-ryū-ben. 淨業内辨附錄正流辨、吉水遺書論附錄正流辨 ②存、淨土宗全書第九 ③弘法(正保二—正徳元A.D.1648—1711)撰
 ④本書は淨土扶宗の志深き弘法が念佛往生の概要たる安心起行を示せる吉水遺書論中に、東西相承、源智相承に就いて辨釋詳述して淨土正統流義を顯示したる草稿である。然るにその要義の朽ちるを忍びず、寶曆三年釋教光が淨業同辨の附録として、加載したるも同書の持板局有に歸せるを以て、更に順阿隆圖が文政四年に該論の附録として上梓したるものである。

内容は該論と同じく和文體の短篇にして初めに觀西聖光の略傳歴并に觀西相承の緣由を叙し、法然より觀西に授けし法語及び附法の起請文を擧げて、觀西相承の眞實吉水の正統なる所由を示し、次に源智の略傳歴及び同相承を擧げて前者と共に各々相承の正義を弘通する旨を示すと共に、法然の未來智を尊く仰ぐものなりと述懐してゐる。終りに隆圖の本書再校上木の誌語がある。
 要之本書は古來より淨土宗史上二傑題として、論評される觀西の正統説なるを知る單簡要を得たる一支持書である。
正了知王藥又眷屬法 ①(日)Shō-ryō-chi-ō-ya-shū-ken-zoku-hō. (支)Chōgō-ri-hō-issan. ②一卷 ③存、正續一・三・四 ④唐義淨(貞觀九—先天二A.D.638—713)動譯 ⑤藥又の眷屬、即ち二十八部藥又に就つ述べたものである。二十八部藥又(Atalpasas)は、大自在の神通威徳を現じて、十方世界に於て、一切衆生を覆護して、表裏厄難の事を除く。東西南北の四方に各々四藥又あり、その他四維と地上と空中との各々に四藥又あり、合して二十八藥又となる。此等の藥又を供養し讚歎すれば、國土安穩、萬民富樂を得と説く。
 地哩伽(Dīrgha)
 蘇尼恒羅(Suñetra)
 暗摩摩(Pāra)
 却摩羅(Kapila)
 東方
 蘇尼恒羅(Suñetra)
 暗摩摩(Pāra)
 却摩羅(Kapila)

嗽里(Hari)
 囉里舍(Harikesho)
 鉢利伽(Prihanu)
 水伽羅(Viṅgala)
 僧伽(Siṅha)
 波伽羅(Upsattha)
 南 方
 商伽羅(Sakha)
 密伽羅(Canda)
 密伽羅(Dharaṅga)
 密伽羅(Dharaṅga)
 密伽羅(Udyaspatika)
 吹申奴(Viṅga)
 半支迦(Pāṭika)
 般迦羅婆茶(Pāṭicalghayata)
 四 維
 婆沙利(Sapagiri)
 般迦羅婆多(Himavata)
 般迦羅(Bhama)
 蘇那羅(Sudhama)
 蘇那羅(Kāra)
 蘇那羅(Upatala)
 蘇那羅(Sarya)
 蘇那羅(Soma)
 蘇那羅(Agni)
 蘇那羅(Vayu)
 正和二年後宇多院高野御幸記
 ①(日)Shō-wa-ni-ue-go-ō-in-kyō-ji-ki. 後宇多院御幸記 ②存、續群書類第八七
 生起 ①(日)Shō-ki. 金剛界生起 ②一巻 ③覺超(天徳四—長元七A.D.961—1034)撰 ④本朝台祖撰述密部書目に曰く「覺超(天徳四—長元七)撰」

法次第ニモ出レ之云々。
生起 ①(日)Shō-ki. ①真興(承平四—寛弘元A.D.934—1004)
 ②本朝台祖撰述密部書目に曰く「真興太和小鳥寺法相宗後移、眞言一〇八道義釋生起一巻。アサハ所引此文也。但阿作「生義」。此本無「記書人名。決是真興作也」云々
生起 ①(日)Shō-ki. 胎藏界生起 ②一巻 ③存、大正七六・七九九No.2404
 ④覺超(天徳四—長元七A.D.960—1034)述 ⑤胎藏界生起の下を見よ ⑥(参考)本朝台祖撰述密部書目
生起集説 ①(日)Shō-ki-kaishū. ②一巻 ③存 ④阿滿得開(文政九—明治三九A.D.1826—1906)述 ⑤明治一三刊
 ⑥龍大(二〇九九・七一—三三)研究
生疑 ①(日)Shō-gi. 長實三昧、三昧 ②三巻
 ③本朝台祖撰述密部書目に曰く「長實三昧は内題也外題三昧抄書ヲ長實ハ法勝寺三昧僧也。三昧抄。私云。今調爲三昧。無三巻内題等。卷末云。嘉承元年。於法勝寺之阿抄記之云々。故知長實三昧之所記之本也。アサハ抄所引今此三巻之本文ナリ」云々
生經 ①(日)Shō-kyō. (支)Sheng-ching. ②五巻 ③存、大正三三〇No.154. 續編五、正一四・三、北803定、南816定、元810定、明北655定、清665定、顯806定、天803定、指764定、法791定、至1033存、明南984定、Nf.669 ④法法護撰 ⑤西晉法始二—建興元(A.D.266—313)

凡所行録(名家書)表題所現(月年の刊取)(書考抄書釋註)書末(説解有内)代年作書(表實)佚存(書名)名題(書考抄書)

【シ】

⑥この經典は錫蘭上座部の所住Jataka(本生經)Caryyapitaka(行能)Paripat-Jataka(五十本本生經)Mahāvastu(大事)中のJataka Jātakamālā(本生集)「六度集經」菩薩本緣經(中に八個の本生經あり)等と共に所謂十二部經九分經中の本生に屬するもので、經そのものの性質から云ふと、佛の本生原であるが、この生經は五十五經に分れ、第五十五經が更に八つの異なつた物語を含むから、都合六十二の物語から成り立つて居り、この中十五經は性質上生經でなく、又最後の二經の中に含まるゝ八經は特驗經(Upana)であるから、それを差し引いた残り三十九經が生經であるわけである。然し猶その中には阿羅漢の前身に關するもの(第二十八經)、分衛比丘の前身に關するもの(第三二經)、和羅比丘の前身に關するもの(第三三經)或る長者の前身に關するもの(第四七經)の五經があるから、正しく生經と呼ぶべきもの、即ち釋尊の前身に關するものは三十四經に過ぎなから、この中これらの説話に於て、釋尊がかななる生を受け給ふたかを見るに左の通りになつてゐる。

(九)俗人 No.9
 (一〇)船師 No.8
 (一一)女 No.55第1
 (一二)盜賊 No.12
 (一三)動物 No.10, 36.
 鳥 No.6
 水牛王 No.30
 兎王 No.31
 鳥王 No.47
 孔雀 No.51
 大魚 No.55第11
 此の經典の所傳部派は不明であるが、五道説を取り、十二部經の語があり、又三千大千の佛國、異佛國、十方佛、普賢菩薩、阿彌陀佛の本生原など、小乘部派の所傳として頗る變つた語と内容を示し、本無とか一切皆空とか云ふ語も出で、陀羅尼を説く經典が四經まである。大乘教興起後その影響を受けたものであることは十分に看取される。
生經 ①(日)Shō-kyō. 國譯生經 ②存、國譯一切經本緣部第一—四尾京雜譯
生經 ①(日)Shō-kyō. (支)Sheng-ching. ②五巻 ③佚 ④宋智嚴(一元嘉四A.D.427—)譯 ⑤三三譯 ⑥(参考)國元錄第一五、貞元錄第二四
生家養者勸計記 ①(日)Shō-ka-ryō-kan-kei-ki. ②一冊 ③存 ④快設述 ⑤徳川時代寫 ⑥(寶龜院)
生下未分語 ①(日)Shō-ge-ai-fun-go. ②一巻 ③存 ④正保四刊 ⑤正

大、一四九・一一(京大、一・二六・一一一)
 (帯紙、一〇五・七〇)
生業門佛用如義語事 ①(日)Shō-gon-mon-butō-yō-nyō-nyō-no-kyō. ②一冊 ③存 ④永享二宮 ⑤(寶龜院)
生西指南要 ①(日)Shō-sei-shi-an-yō. ②一巻 ③佚 ④(参考)淨土依願經論章疏目錄
生西方齋經 ①(日)Shō-sai-hō-sai-kyō. (支)Sheng-hsi-fang-chai-ching. ②一巻 ③佚 ④(参考)出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五
生死大事血脈鈔 ①(日)Shō-ji-ishi-dai-kechi-hyaku-shū. ②一巻 ③存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第六房が臨終の心得を問ふたに對し、十界の生死の當體が妙法蓮華經であつて、釋尊も多寶佛も、上行も我等も悉くこの生死の理即ち妙法の理に從つて居る所以を知り、所詮臨終只今にありと解して信心を致して、南無妙法蓮華經と唱ふる」ところに生死一大事の血脈がある。隨つて所かる人は命終の際に必ず千佛の來迎があるに相違ない。故に「返す返すも強盛の大信心を起して、南無妙法蓮華經、臨終正念と祈念し給へ、生死一大事の血脈此れより外に全く求ること勿れ、煩惱即菩提、生死即涅槃とは是れなり、信心の血脈なくんば法華經を持つとも

無益なり」と答へてゐる。「諸法實相抄」と共に、日蓮聖人の重大な教義、安心の法門が説かれてゐる書である。(参考) 餘外考文第四
生死海法語 ①(日)Shō-ji-kai-hō-go. ②一巻 ③存、慈覺尊者全集第一四
 ④慈覺飲光(享保三—文化元A.D.1718—1804)撰 ⑤寶曆一三(A.D.1763) ⑥自筆本(河内長榮寺)
生死海法語 ①(日)Shō-ji-kai-hō-go. ②二巻 ③存、慈覺尊者全集第一四
 ④慈覺飲光(享保三—文化元A.D.1718—1804)撰 ⑤寶曆一三(A.D.1763) ⑥自筆本(河内高貴寺)
生死覺用抄 ①(日)Shō-ji-kai-yō-shō. 本無生死論 ②一巻 ③存、大日本佛教全書第二四、天台小部集第五 ④最澄(神護景雲元—弘仁一三—A.D.767—822)撰
 ⑤本書は觀那流惠光院の秘書(兩流舎の説)であつて、著者を等海口傳(一一二二)は道遠といひ、山家祖傳撰述篇目集は撰述道遠であるといふ。本書は生と死とは一心の妙用であり、有無の二道は本覺の眞徳である。故に生死は一體、空有は不二なりと體解して俱體俱用の無作の生死界を説き、生死を畏れず涅槃に執せず直ちに佛地に至れといふ。撰述流口傳書の一。
 (参考) 山家祖傳撰述篇目集卷上
生死覺用抄 ①(日)Shō-ji-kai-yō-shō. ②撰述道遠(—天長久安頃A.D.1144

凡所行録(名家書)表題所現(月年の刊取)(書考抄書釋註)書末(説解有内)代年作書(表實)佚存(書名)名題(書考抄書)

【シ】

目録巻下
生死覺用抄 ①(日) Sho-ji-kaku-yō-shū. ②伊勢道徳撰 ③(參考) 本朝古撰撰述部書目
生死自在 ①(日) Sho-ji-ji-ai. ②1卷 ③存 ④河口聖海著 ⑤明治三十七刊 ⑥(谷大、余洋、一五二)
生死の研究 ①(日) Sho-ji-no-ken-kyō. ②1卷 ③存 ④修養協會編 ⑤大正三刊 ⑥(正大、一〇九・七七) ⑦修養世專社
生死變化經 ①(日) Sho-ji-hen-gē-kyō. (支) Sheng-sai-pien-hua-ching. ②1卷 ③存 ④(參考) 出三藏記第三
生死變識經 ①(日) Sho-ji-hen-jit-kyō. (支) Sheng-sai-pien-shih-ching. ②1卷 ③存 ④宋沮渠京唐(一大明八A. D. 460)撰 ⑤(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五
生死辨 ①(日) Sho-ji-hen. ②1卷 ③存 ④(高僧道坦(一本保原 A. D. 1216—1733)撰) ⑤(哲、4・3・7・7)
生死本源集 ①(日) Sho-ji-hon-gen-shū. ②1卷 ③存、大日本佛教全書第二八智證大藏全集第四 ④圖書(寛平三 A. D. 891)撰
本書は生死の本源を窮むることは諸佛出世の本懐であるとして、三世不可得の本有無の生死に在らずしと勤め、終りに至りて遺業を修して早く三界輪廻の生死界より解脱せよ。一乘甚深の妙教を修すべしとす

ふ。本書は「南浮を」南都」と記す程に俗化し、文章は平安末期以後の體であり、内容も禪淨混雜時代の思想であるから智證大師開珍撰ではなす。
⑤足利末期寫 ⑥(高六、寄、一・五七) (田島徳音)
生死問題 ①(日) Sho-ji-on-dai. ②1卷 ③存 ④北村教嚴著 ⑤明治四〇刊 ⑥(帝國、三二五・一三)
生身顯密事 ①(日) Sho-shin-ken-mitsu-no-koto. ②1冊 ③存 ④應正三寫 ⑤(寶壽院)
生身所說陀羅尼抄定事 ①(日) Sho-shin-shō-setsu-da-ra-ni-shō-jō-no-koto. ②1冊 ③存 ④貞治五寫 ⑤(寶壽院)
生身の大日 ①(日) Sho-shin-no-dai-nichi. ②1卷 ③存 ④和田性海著 ⑤大正三刊 ⑥(高六、寄、一・五七)
生佛二界増減事 ①(日) Sho-butsu-ni-kai-zō-gen-no-koto. ②1冊 ③存 ④寫本(寶壽院)
生聞婆羅門經 ①(日) Sho-mon-ba-ro-mon-kyō. (支) Sheng-wen-p'o-lo-men-ching. 生聞梵志經 ①1卷 ②存 ③(參考) 出三藏記第三、法華經第三、仁壽錄第三、佛華錄第三、武則錄第一、第二、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、三四
召五方龍攝疫毒神呪經 ①(日) Sho-go-hō-gyō-shō-yaku-doku-shin-jū-kyō. (支) Chao-wu-fang-lung-shē-t'iao-kyō. (支) Chao-wu-fang-lung-shē-t'iao-kyō. ①1卷 ②存 ③(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八

shen-chou-ching. ②1卷 ③失譯 ④(參考) 三寶記第七、內典錄第三
庄松ありのまゝの記 ①(日) Sho-matsu-ari-no-ma-ma-no-ki. ②1卷 ③存 ④清水順保編 ⑤大正二刊 ⑥(龍大、研眞)
宵拍獨吟觀世音名號百韻 ①(日) Sho-haku-doku-gin-kwan-ze-on-myō-go-hyaku-in. ③存、續群書類從第一七 ④宵拍撰
抄阿差末經 ①(日) Sho-a-sha-ma-kyō. (支) Ch'ao-a-ch'ai-mo-ching. ④四卷 ⑤疑經 ⑥(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄阿毘曇五法行經 ①(日) Sho-a-bi-don-go-hō-gyō-kyō. (支) Ch'ao-a-pi-tan-wu-fa-hsing-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第二八、貞元錄第二八
抄阿毘曇毘婆沙 ①(日) Sho-a-bi-don-bi-ba-sha. (支) Ch'ao-a-pi-tan-pi-po-sha. ⑤五十九卷 ⑥疑經 ⑦(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八
抄安般守意經 ①(日) Sho-an-ha-an-shu-i-kyō. (支) Ch'ao-an-p'an-shou-i-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄爲法捨身經 ①(日) Sho-hō-shē-shin-kyō. (支) Ch'ao-wēi-fā-shē-shēn-ching. ②六卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

貞元錄第二八
抄優婆塞受戒經 ①(日) Sho-u-pa-soku-yū-kai-kyō. (支) Ch'ao-yu-p'o-sai-shou-chih-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄優婆塞受戒品 ①(日) Sho-u-pa-soku-yū-kai-hon. (支) Ch'ao-yu-p'o-sai-shou-chih-p'in. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄央崛摩羅經 ①(日) Sho-ō-gutsu-ma-ra-kyō. (支) Ch'ao-yang-chieh-mo-to-ching. ②2卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八
抄義足經 ①(日) Sho-gi-sok-kyō. (支) Ch'ao-i-tsu-ching. ②2卷 ③(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄花嚴經 ①(日) Sho-ke-gon-kyō. (支) Ch'ao-hua-yen-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄華嚴經 ①(日) Sho-ke-gon-kyō. (支) Ch'ao-hua-yen-ching. ②14卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄四諸經要數 ①(日) Sho-shi-tai-kyō-yō-shū. (支) Ch'ao-sat-ti-ching-yao-shū. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

【シ】

貞元錄第二八
抄諸佛要集經 ①(日) Sho-shō-hu-sau-yō-jū-kyō. (支) Ch'ao-shō-hu-to-yao-chi-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄諸法無行經 ①(日) Sho-shō-hō-mu-gyō-kyō. (支) Ch'ao-shū-fa-wu-hsing-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄勝鬘經 ①(日) Sho-shō-man-gyō. (支) Ch'ao-sheng-man-ching. ②七卷 ③疑經 ④(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八
抄照明三昧不思議事經 ①(日) Sho-shō-myō-san-mai-fu-shi-gi-ji-kyō. (支) Ch'ao-chao-ming-san-mei-fu-shi-gi-shih-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄成實論 ①(日) Sho-jō-jitsu-ron. (支) Ch'ao-ch'eng-shih-lun. ②九卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄淨土三昧經 ①(日) Sho-jō-do-san-mai-kyō. (支) Ch'ao-ching-t'u-san-mai-ching. ②四卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄胎經 ①(日) Sho-tai-kyō. (支) Ch'ao-t'ai-ching. ②3卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八

考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄大東方等要經 ①(日) Sho-dai-hō-dō-jū-kyō. (支) Ch'ao-t'ai-t'ai-t'ai-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄頭陀經 ①(日) Sho-tō-da-kyō. (支) Ch'ao-t'ou-to-ching. ②2卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄德光太子經 ①(日) Sho-tok-kō-tai-shi-kyō. (支) Ch'ao-t'ē-kuang-t'ai-shih-kyō. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄貧女爲國王夫人經 ①(日) Sho-hin-nyō-i-kōku-no-hime-no-kyō. (支) Ch'ao-p'in-nyō-wēi-kūo-wang-fu-jen-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄賢聖觀懺悔法 ①(日) Sho-fu-ken-shūan-kan-hui-fa. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄分別經 ①(日) Sho-fun-bek-kyō. (支) Ch'ao-fen-pieh-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄菩薩決定要行經 ①(日) Sho-bō-yaku-dō-jū-kyō. (支) Ch'ao-fa-hua-yao-wang

-satsu-keisan-jū-yō-gyō-kyō. (支) Ch'ao-p'u-sa-chueh-ting-yao-hsing-ching. 淨行優婆塞經、菩薩決定經 ②十卷 ③疑經 ④(參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八
抄菩薩地經 ①(日) Sho-bō-satsu-jū-kyō. (支) Ch'ao-p'u-sa-ti-ching. ②十二卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄菩薩本業經 ①(日) Sho-bō-satsu-hon-gō-kyō. (支) Ch'ao-p'u-sa-pen-yeh-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄菩薩本業願行經 ①(日) Sho-bō-satsu-hon-gō-gwan-gyō-kyō. (支) Ch'ao-p'u-sa-pen-yeh-yuan-hsing-p'in. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄方等大集經 ①(日) Sho-hō-dō-dai-jū-kyō. (支) Ch'ao-fang-tang-ta-chi-ching. ②十二卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄法句譬喻經 ①(日) Sho-hō-kū-p'yū-kyō. (支) Ch'ao-fa-p'i-yū-ching. ②三十八卷 ③(參考) 出三藏記第五、開元錄第一九、貞元錄第二八
抄法華藥品 ①(日) Sho-hō-kū-yaku-hō-hon. (支) Ch'ao-fa-hua-yao-wang

p'in. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄法律三昧經 ①(日) Sho-hō-risū-san-mai-kyō. (支) Ch'ao-fa-t'ia-san-mei-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄報恩經 ①(日) Sho-hō-on-gyō. (支) Ch'ao-pao-en-ching. ②2卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄寶積經 ①(日) Sho-hō-shaku-kyō. (支) Ch'ao-pao-chi-ching. ②1卷 ③失譯 ④大寶積經普明華會抄出 ⑤(參考) 出三藏記第三、法華經第二、仁壽錄第三、佛華錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六
抄摩訶摩耶經 ①(日) Sho-ma-ka-ma-ya-kyō. (支) Ch'ao-mo-ho-mo-ya-ching. ②3卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄鹿化比丘經 ①(日) Sho-ma-ka-bi-ku-kyō. (支) Ch'ao-mo-hua-pi-ki-ching. ②1卷 ③疑經 ④(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄未曾有因緣經 ①(日) Sho-mi-zō-ri-ian-ē-kyō. (支) Ch'ao-wēi-tz'eng-yū-yā-yuan-ching. ②1卷 ③(參考) 出三藏記第五、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八
抄妙法蓮華經 ①(日) Sho-myō-hō

【シ】

存 ①梅園述 ②(参考) 眞言宗全書刊行
決定目録
性靈集便蒙鈔 ①(日) Sho-ryō-shū
ben-mō-shō. ②十七卷 ③存 ④泰普述
⑤刊本(高木、一・五二) (京大) (首、
一・中、二〇)

性靈集補闕抄 ①(日) Sho-ryō-shū
ho-ke-sū-shō. ②一帖 ③存 ④徳川時
代寫 ⑤(實録院)

性靈集文筆私鈔 ①(日) Sho-ryō-
shū-mom-pi-sen-shi-shō. ②五帖 ③存
④足利時代寫 ⑤(實録院)

性類抄 ①(日) Sho-ryū-shō. 一書抄
②二卷或三卷 ③存 ④寫本(谷大、餘小、
七〇、餘大、三三三〇)

尚齋先生筆記 ①(日) Sho-sai-sen
sei-hik-shi. ②三冊 ③存 ④徳川時代寫
⑤(實録院)

尚時集 ①(日) Sho-ji-shū. 來々禪子
尚時集 ②存、大日本佛教全書第九卷梵
譯師語錄之内 ③梵譯(正應五一頁和四A、
D. 1392—1348) ④來々禪子尚時集の下を
見よ ⑤(参考) 日本釋林撰述書目

尚直編 ①(日) Sho-jiki-hō. (支)
Shang-chih-pien. ②二卷 ③存 ④明珍
庵(一正統頃 A. D. 1436—1449—) ⑤備錄
道三叔の論 ⑥(参考) 釋教志卷下
⑦二八八(駒大) 寛永一八刊(京大、餘大、三
一六六) (首、七・七・左・二) (京大、二四
八・六七) (京大) (帝國、八二一・一九一)

尚用補忘記 ①(日) Sho-yō-fū-mō-
ki. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實
録院)

承安記 ①(日) Sho-an-ki. ②一巻
③浄土宗教典志第二に曰く「京光潤寺新
藏。承安元年(元文六年十一月)記事」云
々

承事勝己經 ①(日) Sho-ji-shō-ki-
kyō. (支) Ch'ing-shih-sheng-chi-ching.
②一巻 ③失譯 ④出離經第十四卷の抄出
⑤(参考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁
壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞
元錄第二六

承事進退事 ①(日) Sho-ji-shin-tai-
no-koto. ②存 ③(實録院)

承不同事 ①(日) Sho-fu-dō-no-kō-
to. ②一冊 ③存 ④淨嚴(寛永一六一元
祿一五 A. D. 1639—1702) 記 ⑤天保一〇寫
⑥(金剛三昧院)

昌光寺開山德慶和上行實
①(日) Sho-kō-ji-kai-san-toku-gan-wan-jō-
gyō-jissu. ②一巻 ③存 ④智嚴撰 ⑤
〔参考〕 大日本佛教全書刊行決定書目

青岸寺事蹟碑 ①(日) Sho-gan-ji-
sei-hi. (支) Ch'ing-yan-sai-shih-chi-
pei. ②存 ③(参考) 朝鮮佛教叢書刊行
決定書目

青頭 ①(日) Sho-kyō. ②一巻 ③存、
大日本佛教全書第四七卷譯鈔之内 ④覺禪
撰 ⑤(實録院)

青頭觀音念誦次第 ①(日) Sho-
kyō-kwan-on-nen-ji-shi-dai. ②存 ③
寫本(實録院)

青頭觀自在念誦儀軌 ①(日) Sho-
kyō-kwan-ji-zai-nen-ji-shi-dai. ②存 ③
寫本(實録院)

青龍阿闍梨臨修觀行 ①(日) Sho-
ryō-ajari-in-jō-kwan-gyō. ②一冊
③存 ④寫本(京大、大木、五九一)

青龍阿闍梨臨終觀念 ①(日) Sho-
ryō-ajari-in-jō-kwan-nen. ②一紙
③存 ④鎌倉時代寫 ⑤(實録院)

青龍儀軌 ①(日) Sho-ryō-ki. (支)
Ch'ing-lang-ki. 大毘盧遮那成佛神變
加持經蓮華胎藏者提標標普通眞言藏廣大
成就瑜伽青龍寺儀軌、青龍軌、青龍 ②三
巻 ③存、大正一八・一四三 No. 853、縮餘
六、二九・四 ④唐法全集 ⑤大毘盧
遮那成佛神變加持經蓮華胎藏者提標標普
通眞言藏廣大成就瑜伽の下を見よ。

青龍權現大事 ①(日) Sho-ryō-gon-
ten-dai-ji. ②一巻 ③存 ④明治時代寫
⑤(實録院)

青龍寺阿闍梨臨終行儀 ①(日)
Sho-ryō-ji-ajari-in-jō-gyō-ki. (支) Ch'ing-
lang-sai-ajari-in-jō-chang-hsing-ki.
②一巻 ③(参考) 浄土依憑經論章疏目錄
④(参考) ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. (支) Ch'ing-lang-sai-ajari-in-jō-
gyō-ki. ②一巻 ③存、大正一八・一七二 No. 855、縮餘四、
二九・九、四

青龍寺軌記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
②一巻 ③存、大正一八・一七二 No. 855、縮餘四、
二九・九、四

青龍寺求法目錄 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青龍寺求法記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. 國譯青龍寺軌記 ②一巻 ③存、國譯
密教經部第三

青龍寺求法目録 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青龍寺求法記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. 國譯青龍寺軌記 ②一巻 ③存、國譯
密教經部第三

青龍寺求法目録 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青蓮院宮御領圖 ①(日) Sho-
ren-in-no-miya-go-ryō-zak-shi. ②一巻 ③存
④寫本(帝國、四三三・二八)

青蓮院宮壬生村御家來先例事
①(日) Sho-ren-in-no-miya-mi-bu-mura-
go-ke-rai-sen-rei-no-koto. ②一巻 ③存
④進藤爲純(一文化元 A. D. 1804—) 文
化二二、天保一五寫 ⑤(帝國、一一一・二
六)

青蓮院門跡系譜 ①(日) Sho-
ren-in-mon-zeki-keifu. ②一巻 ③存、續
群書類從第四補正部之内

山行玄大付正を中心として上は寛慶、廣景、
慶範、慶命、遍賢、相應、安惠、慈覺、傳
教大師と溯り、下は第二世覺快親王から

【シ】

①(日) Sho-shiki-dai-kon-gō-ya-sha-byō-
ku-ki-ma-hō. (支) Ch'ing-shih-shih-chin-kang-
-yao-chi-a-pi-kwai-mo-fa. 辟鬼殊法 ②一
巻 ③存、大正二一・九九 No. 1231 ④唐
代寫本

①本書はまた辟鬼殊法とも名づけ、諸の惡
魔・惡鬼の障害を摧滅する法を説いたもの
である。先づ根本印や眞言を出した病魔
等を除くためには其の療法を示してゐる。
例へば病人に灸する場合には、灸に頂心脈
丹田等九の下し場所あることを説き、其處
に灸を下すときには眞言五七反ハ唱へる
べしとある。

②寫本(實録院) (岡田契昌)

青池口決 ①(日) Sho-chi-ku-ke-tsu.
②一巻 ③存 ④唐寫本

青池宗義問書 ①(日) Sho-chi-shū
-gi-iki-gaki. 例問問答問書 ②一巻 ③
存 ④唐寫本 ⑤應永六(A. D. 1399) ⑥
寫本(抄法院)

青梅集 ①(日) Sho-bai-shū. (支)
Ch'ing-mei-chi. ②一巻 ③存 ④青梅著
⑤(参考) 朝鮮佛教叢書刊行決定目録

青白蓮華論經 ①(日) Sho-byaku-
ren-ge-ya-kyō. (支) Ch'ing-pai-lien-hua-
-yō-ching. ③存、中國合經第二三(大正一・
五七四 No. 26, 92)

青面金剛 ①(日) Sho-men-kōn-gō.
②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(實録院)

青面金剛供 ①(日) Sho-men-kōn-
gō-ku. ②一帖 ③存 ④寫本(京大、一・
一)

二六・小別)

青面金剛法及入護摩 ①(日) Sho-
men-kōn-gō-hō-nyō-ni-gō-ma. ②一帖
③存 ④足利時代寫 ⑤(實録院) (實録院)

青龍阿闍梨臨修觀行 ①(日) Sho-
ryō-ajari-in-jō-kwan-gyō. ②一冊
③存 ④寫本(京大、大木、五九一)

青龍阿闍梨臨終觀念 ①(日) Sho-
ryō-ajari-in-jō-kwan-nen. ②一紙
③存 ④鎌倉時代寫 ⑤(實録院)

青龍儀軌 ①(日) Sho-ryō-ki. (支)
Ch'ing-lang-ki. 大毘盧遮那成佛神變
加持經蓮華胎藏者提標標普通眞言藏廣大
成就瑜伽青龍寺儀軌、青龍軌、青龍 ②三
巻 ③存、大正一八・一四三 No. 853、縮餘
六、二九・四 ④唐法全集 ⑤大毘盧
遮那成佛神變加持經蓮華胎藏者提標標普
通眞言藏廣大成就瑜伽の下を見よ。

青龍權現大事 ①(日) Sho-ryō-gon-
ten-dai-ji. ②一巻 ③存 ④明治時代寫
⑤(實録院)

青龍寺阿闍梨臨終行儀 ①(日)
Sho-ryō-ji-ajari-in-jō-gyō-ki. (支) Ch'ing-
lang-sai-ajari-in-jō-chang-hsing-ki.
②一巻 ③(参考) 浄土依憑經論章疏目錄
④(参考) ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. (支) Ch'ing-lang-sai-ajari-in-jō-
gyō-ki. ②一巻 ③存、大正一八・一七二 No. 855、縮餘四、
二九・九、四

青龍寺軌記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
②一巻 ③存、大正一八・一七二 No. 855、縮餘四、
二九・九、四

青龍寺求法目錄 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青龍寺求法記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. 國譯青龍寺軌記 ②一巻 ③存、國譯
密教經部第三

青龍寺求法目録 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青龍寺求法記 ①(日) Sho-ryō-ji-ki.
ki. 國譯青龍寺軌記 ②一巻 ③存、國譯
密教經部第三

青龍寺求法目録 ①(日) Sho-ryō-
ji-gō-hō-moku-roku. ②一巻 ③存、大
正五五・一〇五九 No. 2171 ④圓珍(一寛平
三 A. D. 891) 撰

青蓮院宮御領圖 ①(日) Sho-
ren-in-no-miya-go-ryō-zak-shi. ②一巻 ③存
④寫本(帝國、四三三・二八)

青蓮院宮壬生村御家來先例事
①(日) Sho-ren-in-no-miya-mi-bu-mura-
go-ke-rai-sen-rei-no-koto. ②一巻 ③存
④進藤爲純(一文化元 A. D. 1804—) 文
化二二、天保一五寫 ⑤(帝國、一一一・二
六)

青蓮院門跡系譜 ①(日) Sho-
ren-in-mon-zeki-keifu. ②一巻 ③存、續
群書類從第四補正部之内

山行玄大付正を中心として上は寛慶、廣景、
慶範、慶命、遍賢、相應、安惠、慈覺、傳
教大師と溯り、下は第二世覺快親王から

して次に陀羅尼を出して不空三藏が陀羅尼
の句を釋義されてゐる。終に三面四臂の畫
像法と青頭印を説かれる。三面は正面は慈
悲憫愍の面相、右邊は童子の面相、左邊は諸
の面相、首に寶冠を戴き冠中に化無量壽佛
あり、四臂とは右第一臂は杖を執り、第二
臂は蓮花を執り左第一臂は輪を執り、左第
二臂は錘を執り虎皮を褌とす等と説く。

青頭大悲心陀羅尼 ①(日) Sho-
kyō-dai-hi-shin-da-ra-ni. (支) Ch'ing-
ching-tai-pai-shin-to-lo-ni. 大悲大悲救苦
觀世音自在王菩薩廣大圓滿無礙自在青頭大
悲心陀羅尼 ②一巻 ③存、大正三〇・四九
八 No. 1113 B、縮餘二、二九・一三・二
④唐不空(神龍元一六八九 A. D. 705—774) 撰
⑤大慈大悲救苦觀世音自在王菩薩廣大圓滿
無礙自在青頭大悲心陀羅尼の下を見よ。

青頭大悲念誦儀軌 ①(日) Sho-
kyō-dai-hi-shin-da-ra-ni. (支) Ch'ing-
ching-tai-pai-shin-to-lo-ni. 金剛頂瑜伽
青頭大悲王觀自在念誦儀軌、青頭觀自在念
誦儀軌 ②一巻 ③存、大正三〇・四九
八 No. 1113 ④縮餘二、二九・一三・二 ⑤金剛
智(成亨二一開元二九 A. D. 671—741) 撰
⑥唐開元五一一三(A. D. 717—735) ⑦金
剛頂瑜伽青頭大悲王觀自在念誦儀軌の下を
見よ。

青谷寺事蹟 ①(日) Sho-koku-ji-
sei-shi. (支) Ch'ing-ku-sai-shih-chi. ②一巻
③存

青色大金剛藥叉辟鬼魔法

眞、良導、良快、慈源、道覺、最守、尊助、慈禪、道玄、慈實、慈助、慈玄、良助、慈道、行仁、慈深、慈圓、道照、慈眞、祐助、慈道、慈濟、道圓、義圓、義快、尊慶、尊傳、尊朝、尊純、尊證、親王等の三十三師を乗せてある。其間凡そ五百餘十年、宗祖大師以下各師の行蹟を簡明に敘述して居る。行支大僧正は四十七歳のとき牛車御禮を以て名がある。鳥羽天皇第七子覺快法親王に至つて尊貴の枝葉法統を嗣ぐの端を發し青蓮院と稱し合宗三昧流の本寺となつた。慈眞歌聖住して宗風の振策弘張をした事は誰も知る通りである。又尊圓法親王によつて其筆風今日に名のある粟田流又御家流はその目覺ましき一門である。

青蓮院門跡皇族御傳 (日) Shō-in-ke no Onna no Monogatari (支) 1 卷 ① 百水覺昌編 ② 明治九寫

招魂經 (日) Shō-kō-kyō (支) Chao-hua-ching ① 一軸 ② 存 ③ 寶永八、建長八寫 ④ (寶善院)

招魂作法 (日) Shō-kō-sa-hō ① 一帖 ② 存 ③ 足利時代、徳川時代寫 ④ (寶善院)

招魂經 (日) Shō-kō-kyō-paku-kyō (支) Chao-hua-p'o-ching ① 招魂經、招魂經 ② 一巻 ③ 長保 ④ (参考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、内典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

招魂法 (日) Shō-kō-hō 招魂法三

寶院流 ① 一册 ② 存 ③ 寫本(高大、寄一六五)

招魂法叢書 (日) Shō-kō-hō-sō-shū ① 一括 ② 存 ③ 徳川時代寫 ④ (寶善院)

招提寺舍利記 (日) Shō-tai-ji-shō-ji ① 一巻 ② 存 ③ 寫本(正大、一〇三・五四)

招提寺之圖 (日) Shō-tai-ji-no-e ① 一枚 ② 存 ③ 寫本(帝國、一〇八・二〇〇)

招提千歲傳記 (日) Shō-tai-sen-nai-den ① 九巻 ② 存、大日本佛教全書第一〇五、群書類從第一一 ③ 義澄記 ④ 元祿一四(A.D.1701)

⑤ 本書は元祿十四年義澄律師が唐招提寺に於て集記する所の十有五年辛苦の結晶たる律宗の史傳記で、上中下全九巻よりなり、初上の三巻は傳律篇で本山千歲住持傳を載せ、中の三巻は明律篇で本山千歲律師を載せ、下の三巻は自門千歲之傳を載し、僧侶百九十三人、天平勝寶より元祿に至る上下一千年、記述の素直首尾併せて祖道勃興の一助となさんと志し之を集録せりと云ふ。今其の項目を列すれば次の如し。

〔卷上之一〕 傳律篇 (1) 扶桑律宗太祖鑑真大師傳 (2) 第二祖法親和尙傳 (3) 第三祖義靜和尙傳 (4) 第四祖如少僧都傳 (5) 第五祖豐安僧正傳 (6) 第六祖眞理和尙傳 (7) 第七祖戒成和尙傳 (8) 第八祖壽高和尙傳 (9) 第九祖智恩和尙傳 (10) 第十祖

安談和尙傳 (11) 第十一祖喜寬和尙傳・道勝仁階眞空三大和尙傳・施護尊敬二和尙傳・明哲和尙傳・隆和眞觀眞盛三和尙傳・清眞眞亮眞澄三和尙傳・昌壽壽延二和尙傳・圓勝豐惠安廣三和尙傳 (12) 第十二祖層隆和尙傳 (13) 第十三祖雲茂和尙傳 (14) 第十四祖戒光和尙傳 (15) 第十五祖一教老徳傳 (16) 第十六祖實範律師傳 (17) 第十七祖眞俊僧正傳 (18) 第十八祖覺慧僧正傳 (19) 第十九祖眞慶律師傳 (20) 第二十祖戒如律師傳

〔卷上之二〕 傳律篇 (21) 第二十一世(中興第一世)大悲菩薩傳 (22) 第二十二世圓律玄和尙傳 (23) 第二十三世勝順性和尙傳 (24) 第二十四世道御廣和尙傳 (25) 第二十五世勸性算和尙傳 (26) 第二十六世了寂證和尙傳 (27) 第二十七世律受乘和尙傳 (28) 第二十八世示觀然國師傳

〔卷上之三〕 傳律篇 (29) 第二十九世禪戒和尙傳 (30) 第三十世寂圓律師傳 (31) 第三十一世寂心誠和尙傳 (32) 第三十二世禪了眞和尙傳 (33) 第三十三世眞惠和尙傳 (34) 第三十四世圓了海和尙傳 (35) 第三十五世高信智和尙傳 (36) 第三十六世空秀和尙傳 (37) 第三十七世眞忍和尙傳 (38) 第三十八世仰圓和尙傳 (39) 第三十九世眞一海和尙傳 (40) 第四十世心光欣和尙傳 (41) 第四十一世等圓惠和尙傳 (42) 第四十二世本地宗和尙傳 (43) 第四十三世宗源和尙傳 (44) 第四十四世眞如和尙傳 (45) 第四十五世了親和尙傳 (46) 第四十六世眞智和尙傳 (47) 第

四十七世惠仁意和尙傳 (48) 第四十八世眞一林和尙傳 (49) 第四十九世眞明宗和尙傳 (50) 第五十世性如源和尙傳 (51) 第五十一世戒圓和尙傳 (52) 第五十二世眞如尊和尙傳 (53) 第五十三世眞惠和尙傳 (54) 第五十四世眞海和尙傳 (55) 第五十五世源祐和尙傳 (56) 第五十六世愛盛和尙傳 (57) 第五十七世眞順英和尙傳 (58) 第五十八世光忍海和尙傳 (59) 第五十九世眞英珍和尙傳 (60) 第六十世光宜眞和尙傳 (61) 第六十一世智教和尙傳 (62) 第六十二世眞海和尙傳 (63) 第六十三世眞圓周和尙傳 (64) 第六十四世南溪海和尙傳 (65) 第六十五世眞玉峰和尙傳

〔卷中之一〕 明律篇 (1) 唐揚州崇福寺詳譯師傳 (2) 唐台州開元寺思託律師傳 (3) 唐仁律師傳 (4) 唐法親律師傳 (5) 唐泉州超功寺曇律師傳 (6) 唐廣州開元寺法成律師傳 (7) 唐智成律師傳 (8) 唐靈巖律師傳 (9) 唐懷律師傳 (10) 唐靈空盛律師傳 (11) 唐慧律師傳 (12) 唐慧律師傳 (13) 唐慧律師傳 (14) 唐慧律師傳 (15) 唐慧律師傳 (16) 唐慧律師傳 (17) 唐慧律師傳 (18) 唐慧律師傳 (19) 唐慧律師傳 (20) 唐慧律師傳 (21) 唐慧律師傳 (22) 唐慧律師傳 (23) 唐慧律師傳 (24) 唐慧律師傳 (25) 唐慧律師傳 (26) 唐慧律師傳 (27) 唐慧律師傳 (28) 唐慧律師傳 (29) 唐慧律師傳 (30) 唐慧律師傳 (31) 唐慧律師傳 (32) 唐慧律師傳 (33) 唐慧律師傳 (34) 唐慧律師傳 (35) 唐慧律師傳 (36) 唐慧律師傳 (37) 唐慧律師傳 (38) 唐慧律師傳 (39) 唐慧律師傳 (40) 唐慧律師傳 (41) 唐慧律師傳 (42) 唐慧律師傳 (43) 唐慧律師傳 (44) 唐慧律師傳 (45) 唐慧律師傳 (46) 唐慧律師傳 (47) 唐慧律師傳 (48) 唐慧律師傳 (49) 唐慧律師傳 (50) 唐慧律師傳 (51) 唐慧律師傳 (52) 唐慧律師傳 (53) 唐慧律師傳 (54) 唐慧律師傳 (55) 唐慧律師傳 (56) 唐慧律師傳 (57) 唐慧律師傳 (58) 唐慧律師傳 (59) 唐慧律師傳 (60) 唐慧律師傳 (61) 唐慧律師傳 (62) 唐慧律師傳 (63) 唐慧律師傳 (64) 唐慧律師傳 (65) 唐慧律師傳 (66) 唐慧律師傳 (67) 唐慧律師傳 (68) 唐慧律師傳 (69) 唐慧律師傳 (70) 唐慧律師傳 (71) 唐慧律師傳 (72) 唐慧律師傳 (73) 唐慧律師傳 (74) 唐慧律師傳 (75) 唐慧律師傳 (76) 唐慧律師傳 (77) 唐慧律師傳 (78) 唐慧律師傳 (79) 唐慧律師傳 (80) 唐慧律師傳 (81) 唐慧律師傳 (82) 唐慧律師傳 (83) 唐慧律師傳 (84) 唐慧律師傳 (85) 唐慧律師傳 (86) 唐慧律師傳 (87) 唐慧律師傳 (88) 唐慧律師傳 (89) 唐慧律師傳 (90) 唐慧律師傳 (91) 唐慧律師傳 (92) 唐慧律師傳 (93) 唐慧律師傳 (94) 唐慧律師傳 (95) 唐慧律師傳 (96) 唐慧律師傳 (97) 唐慧律師傳 (98) 唐慧律師傳 (99) 唐慧律師傳 (100) 唐慧律師傳 (101) 唐慧律師傳 (102) 唐慧律師傳 (103) 唐慧律師傳 (104) 唐慧律師傳 (105) 唐慧律師傳 (106) 唐慧律師傳 (107) 唐慧律師傳 (108) 唐慧律師傳 (109) 唐慧律師傳 (110) 唐慧律師傳 (111) 唐慧律師傳 (112) 唐慧律師傳 (113) 唐慧律師傳 (114) 唐慧律師傳 (115) 唐慧律師傳 (116) 唐慧律師傳 (117) 唐慧律師傳 (118) 唐慧律師傳 (119) 唐慧律師傳 (120) 唐慧律師傳 (121) 唐慧律師傳 (122) 唐慧律師傳 (123) 唐慧律師傳 (124) 唐慧律師傳 (125) 唐慧律師傳 (126) 唐慧律師傳 (127) 唐慧律師傳 (128) 唐慧律師傳 (129) 唐慧律師傳 (130) 唐慧律師傳 (131) 唐慧律師傳 (132) 唐慧律師傳 (133) 唐慧律師傳 (134) 唐慧律師傳 (135) 唐慧律師傳 (136) 唐慧律師傳 (137) 唐慧律師傳 (138) 唐慧律師傳 (139) 唐慧律師傳 (140) 唐慧律師傳 (141) 唐慧律師傳 (142) 唐慧律師傳 (143) 唐慧律師傳 (144) 唐慧律師傳 (145) 唐慧律師傳 (146) 唐慧律師傳 (147) 唐慧律師傳 (148) 唐慧律師傳 (149) 唐慧律師傳 (150) 唐慧律師傳 (151) 唐慧律師傳 (152) 唐慧律師傳 (153) 唐慧律師傳 (154) 唐慧律師傳 (155) 唐慧律師傳 (156) 唐慧律師傳 (157) 唐慧律師傳 (158) 唐慧律師傳 (159) 唐慧律師傳 (160) 唐慧律師傳 (161) 唐慧律師傳 (162) 唐慧律師傳 (163) 唐慧律師傳 (164) 唐慧律師傳 (165) 唐慧律師傳 (166) 唐慧律師傳 (167) 唐慧律師傳 (168) 唐慧律師傳 (169) 唐慧律師傳 (170) 唐慧律師傳 (171) 唐慧律師傳 (172) 唐慧律師傳 (173) 唐慧律師傳 (174) 唐慧律師傳 (175) 唐慧律師傳 (176) 唐慧律師傳 (177) 唐慧律師傳 (178) 唐慧律師傳 (179) 唐慧律師傳 (180) 唐慧律師傳 (181) 唐慧律師傳 (182) 唐慧律師傳 (183) 唐慧律師傳 (184) 唐慧律師傳 (185) 唐慧律師傳 (186) 唐慧律師傳 (187) 唐慧律師傳 (188) 唐慧律師傳 (189) 唐慧律師傳 (190) 唐慧律師傳 (191) 唐慧律師傳 (192) 唐慧律師傳 (193) 唐慧律師傳 (194) 唐慧律師傳 (195) 唐慧律師傳 (196) 唐慧律師傳 (197) 唐慧律師傳 (198) 唐慧律師傳 (199) 唐慧律師傳 (200) 唐慧律師傳 (201) 唐慧律師傳 (202) 唐慧律師傳 (203) 唐慧律師傳 (204) 唐慧律師傳 (205) 唐慧律師傳 (206) 唐慧律師傳 (207) 唐慧律師傳 (208) 唐慧律師傳 (209) 唐慧律師傳 (210) 唐慧律師傳 (211) 唐慧律師傳 (212) 唐慧律師傳 (213) 唐慧律師傳 (214) 唐慧律師傳 (215) 唐慧律師傳 (216) 唐慧律師傳 (217) 唐慧律師傳 (218) 唐慧律師傳 (219) 唐慧律師傳 (220) 唐慧律師傳 (221) 唐慧律師傳 (222) 唐慧律師傳 (223) 唐慧律師傳 (224) 唐慧律師傳 (225) 唐慧律師傳 (226) 唐慧律師傳 (227) 唐慧律師傳 (228) 唐慧律師傳 (229) 唐慧律師傳 (230) 唐慧律師傳 (231) 唐慧律師傳 (232) 唐慧律師傳 (233) 唐慧律師傳 (234) 唐慧律師傳 (235) 唐慧律師傳 (236) 唐慧律師傳 (237) 唐慧律師傳 (238) 唐慧律師傳 (239) 唐慧律師傳 (240) 唐慧律師傳 (241) 唐慧律師傳 (242) 唐慧律師傳 (243) 唐慧律師傳 (244) 唐慧律師傳 (245) 唐慧律師傳 (246) 唐慧律師傳 (247) 唐慧律師傳 (248) 唐慧律師傳 (249) 唐慧律師傳 (250) 唐慧律師傳 (251) 唐慧律師傳 (252) 唐慧律師傳 (253) 唐慧律師傳 (254) 唐慧律師傳 (255) 唐慧律師傳 (256) 唐慧律師傳 (257) 唐慧律師傳 (258) 唐慧律師傳 (259) 唐慧律師傳 (260) 唐慧律師傳 (261) 唐慧律師傳 (262) 唐慧律師傳 (263) 唐慧律師傳 (264) 唐慧律師傳 (265) 唐慧律師傳 (266) 唐慧律師傳 (267) 唐慧律師傳 (268) 唐慧律師傳 (269) 唐慧律師傳 (270) 唐慧律師傳 (271) 唐慧律師傳 (272) 唐慧律師傳 (273) 唐慧律師傳 (274) 唐慧律師傳 (275) 唐慧律師傳 (276) 唐慧律師傳 (277) 唐慧律師傳 (278) 唐慧律師傳 (279) 唐慧律師傳 (280) 唐慧律師傳 (281) 唐慧律師傳 (282) 唐慧律師傳 (283) 唐慧律師傳 (284) 唐慧律師傳 (285) 唐慧律師傳 (286) 唐慧律師傳 (287) 唐慧律師傳 (288) 唐慧律師傳 (289) 唐慧律師傳 (290) 唐慧律師傳 (291) 唐慧律師傳 (292) 唐慧律師傳 (293) 唐慧律師傳 (294) 唐慧律師傳 (295) 唐慧律師傳 (296) 唐慧律師傳 (297) 唐慧律師傳 (298) 唐慧律師傳 (299) 唐慧律師傳 (300) 唐慧律師傳 (301) 唐慧律師傳 (302) 唐慧律師傳 (303) 唐慧律師傳 (304) 唐慧律師傳 (305) 唐慧律師傳 (306) 唐慧律師傳 (307) 唐慧律師傳 (308) 唐慧律師傳 (309) 唐慧律師傳 (310) 唐慧律師傳 (311) 唐慧律師傳 (312) 唐慧律師傳 (313) 唐慧律師傳 (314) 唐慧律師傳 (315) 唐慧律師傳 (316) 唐慧律師傳 (317) 唐慧律師傳 (318) 唐慧律師傳 (319) 唐慧律師傳 (320) 唐慧律師傳 (321) 唐慧律師傳 (322) 唐慧律師傳 (323) 唐慧律師傳 (324) 唐慧律師傳 (325) 唐慧律師傳 (326) 唐慧律師傳 (327) 唐慧律師傳 (328) 唐慧律師傳 (329) 唐慧律師傳 (330) 唐慧律師傳 (331) 唐慧律師傳 (332) 唐慧律師傳 (333) 唐慧律師傳 (334) 唐慧律師傳 (335) 唐慧律師傳 (336) 唐慧律師傳 (337) 唐慧律師傳 (338) 唐慧律師傳 (339) 唐慧律師傳 (340) 唐慧律師傳 (341) 唐慧律師傳 (342) 唐慧律師傳 (343) 唐慧律師傳 (344) 唐慧律師傳 (345) 唐慧律師傳 (346) 唐慧律師傳 (347) 唐慧律師傳 (348) 唐慧律師傳 (349) 唐慧律師傳 (350) 唐慧律師傳 (351) 唐慧律師傳 (352) 唐慧律師傳 (353) 唐慧律師傳 (354) 唐慧律師傳 (355) 唐慧律師傳 (356) 唐慧律師傳 (357) 唐慧律師傳 (358) 唐慧律師傳 (359) 唐慧律師傳 (360) 唐慧律師傳 (361) 唐慧律師傳 (362) 唐慧律師傳 (363) 唐慧律師傳 (364) 唐慧律師傳 (365) 唐慧律師傳 (366) 唐慧律師傳 (367) 唐慧律師傳 (368) 唐慧律師傳 (369) 唐慧律師傳 (370) 唐慧律師傳 (371) 唐慧律師傳 (372) 唐慧律師傳 (373) 唐慧律師傳 (374) 唐慧律師傳 (375) 唐慧律師傳 (376) 唐慧律師傳 (377) 唐慧律師傳 (378) 唐慧律師傳 (379) 唐慧律師傳 (380) 唐慧律師傳 (381) 唐慧律師傳 (382) 唐慧律師傳 (383) 唐慧律師傳 (384) 唐慧律師傳 (385) 唐慧律師傳 (386) 唐慧律師傳 (387) 唐慧律師傳 (388) 唐慧律師傳 (389) 唐慧律師傳 (390) 唐慧律師傳 (391) 唐慧律師傳 (392) 唐慧律師傳 (393) 唐慧律師傳 (394) 唐慧律師傳 (395) 唐慧律師傳 (396) 唐慧律師傳 (397) 唐慧律師傳 (398) 唐慧律師傳 (399) 唐慧律師傳 (400) 唐慧律師傳 (401) 唐慧律師傳 (402) 唐慧律師傳 (403) 唐慧律師傳 (404) 唐慧律師傳 (405) 唐慧律師傳 (406) 唐慧律師傳 (407) 唐慧律師傳 (408) 唐慧律師傳 (409) 唐慧律師傳 (410) 唐慧律師傳 (411) 唐慧律師傳 (412) 唐慧律師傳 (413) 唐慧律師傳 (414) 唐慧律師傳 (415) 唐慧律師傳 (416) 唐慧律師傳 (417) 唐慧律師傳 (418) 唐慧律師傳 (419) 唐慧律師傳 (420) 唐慧律師傳 (421) 唐慧律師傳 (422) 唐慧律師傳 (423) 唐慧律師傳 (424) 唐慧律師傳 (425) 唐慧律師傳 (426) 唐慧律師傳 (427) 唐慧律師傳 (428) 唐慧律師傳 (429) 唐慧律師傳 (430) 唐慧律師傳 (431) 唐慧律師傳 (432) 唐慧律師傳 (433) 唐慧律師傳 (434) 唐慧律師傳 (435) 唐慧律師傳 (436) 唐慧律師傳 (437) 唐慧律師傳 (438) 唐慧律師傳 (439) 唐慧律師傳 (440) 唐慧律師傳 (441) 唐慧律師傳 (442) 唐慧律師傳 (443) 唐慧律師傳 (444) 唐慧律師傳 (445) 唐慧律師傳 (446) 唐慧律師傳 (447) 唐慧律師傳 (448) 唐慧律師傳 (449) 唐慧律師傳 (450) 唐慧律師傳 (451) 唐慧律師傳 (452) 唐慧律師傳 (453) 唐慧律師傳 (454) 唐慧律師傳 (455) 唐慧律師傳 (456) 唐慧律師傳 (457) 唐慧律師傳 (458) 唐慧律師傳 (459) 唐慧律師傳 (460) 唐慧律師傳 (461) 唐慧律師傳 (462) 唐慧律師傳 (463) 唐慧律師傳 (464) 唐慧律師傳 (465) 唐慧律師傳 (466) 唐慧律師傳 (467) 唐慧律師傳 (468) 唐慧律師傳 (469) 唐慧律師傳 (470) 唐慧律師傳 (471) 唐慧律師傳 (472) 唐慧律師傳 (473) 唐慧律師傳 (474) 唐慧律師傳 (475) 唐慧律師傳 (476) 唐慧律師傳 (477) 唐慧律師傳 (478) 唐慧律師傳 (479) 唐慧律師傳 (480) 唐慧律師傳 (481) 唐慧律師傳 (482) 唐慧律師傳 (483) 唐慧律師傳 (484) 唐慧律師傳 (485) 唐慧律師傳 (486) 唐慧律師傳 (487) 唐慧律師傳 (488) 唐慧律師傳 (489) 唐慧律師傳 (490) 唐慧律師傳 (491) 唐慧律師傳 (492) 唐慧律師傳 (493) 唐慧律師傳 (494) 唐慧律師傳 (495) 唐慧律師傳 (496) 唐慧律師傳 (497) 唐慧律師傳 (498) 唐慧律師傳 (499) 唐慧律師傳 (500) 唐慧律師傳 (501) 唐慧律師傳 (502) 唐慧律師傳 (503) 唐慧律師傳 (504) 唐慧律師傳 (505) 唐慧律師傳 (506) 唐慧律師傳 (507) 唐慧律師傳 (508) 唐慧律師傳 (509) 唐慧律師傳 (510) 唐慧律師傳 (511) 唐慧律師傳 (512) 唐慧律師傳 (513) 唐慧律師傳 (514) 唐慧律師傳 (515) 唐慧律師傳 (516) 唐慧律師傳 (517) 唐慧律師傳 (518) 唐慧律師傳 (519) 唐慧律師傳 (520) 唐慧律師傳 (521) 唐慧律師傳 (522) 唐慧律師傳 (523) 唐慧律師傳 (524) 唐慧律師傳 (525) 唐慧律師傳 (526) 唐慧律師傳 (527) 唐慧律師傳 (528) 唐慧律師傳 (529) 唐慧律師傳 (530) 唐慧律師傳 (531) 唐慧律師傳 (532) 唐慧律師傳 (533) 唐慧律師傳 (534) 唐慧律師傳 (535) 唐慧律師傳 (536) 唐慧律師傳 (537) 唐慧律師傳 (538) 唐慧律師傳 (539) 唐慧律師傳 (540) 唐慧律師傳 (541) 唐慧律師傳 (542) 唐慧律師傳 (543) 唐慧律師傳 (544) 唐慧律師傳 (545) 唐慧律師傳 (546) 唐慧律師傳 (547) 唐慧律師傳 (548) 唐慧律師傳 (549) 唐慧律師傳 (550) 唐慧律師傳 (551) 唐慧律師傳 (552) 唐慧律師傳 (553) 唐慧律師傳 (554) 唐慧律師傳 (555) 唐慧律師傳 (556) 唐慧律師傳 (557) 唐慧律師傳 (558) 唐慧律師傳 (559) 唐慧律師傳 (560) 唐慧律師傳 (561) 唐慧律師傳 (562) 唐慧律師傳 (563) 唐慧律師傳 (564) 唐慧律師傳 (565) 唐慧律師傳 (566) 唐慧律師傳 (567) 唐慧律師傳 (568) 唐慧律師傳 (569) 唐慧律師傳 (570) 唐慧律師傳 (571) 唐慧律師傳 (572) 唐慧律師傳 (573) 唐慧律師傳 (574) 唐慧律師傳 (575) 唐慧律師傳 (576) 唐慧律師傳 (577) 唐慧律師傳 (578) 唐慧律師傳 (579) 唐慧律師傳 (580) 唐慧律師傳 (581) 唐慧律師傳 (582) 唐慧律師傳 (583) 唐慧律師傳 (584) 唐慧律師傳 (585) 唐慧律師傳 (586) 唐慧律師傳 (587) 唐慧律師傳 (588) 唐慧律師傳 (589) 唐慧律師傳 (590) 唐慧律師傳 (591) 唐慧律師傳 (592) 唐慧律師傳 (593) 唐慧律師傳 (594) 唐慧律師傳 (595) 唐慧律師傳 (596) 唐慧律師傳 (597) 唐慧律師傳 (598) 唐慧律師傳 (599) 唐慧律師傳 (600) 唐慧律師傳 (601) 唐慧律師傳 (602) 唐慧律師傳 (603) 唐慧律師傳 (604) 唐慧律師傳 (605) 唐慧律師傳 (606) 唐慧律師傳 (607) 唐慧律師傳 (608) 唐慧律師傳 (609) 唐慧律師傳 (610) 唐慧律師傳 (611) 唐慧律師傳 (612) 唐慧律師傳 (613) 唐慧律師傳 (614) 唐慧律師傳 (615) 唐慧律師傳 (616) 唐慧律師傳 (617) 唐慧律師傳 (618) 唐慧律師傳 (619) 唐慧律師傳 (620) 唐慧律師傳 (621) 唐慧律師傳 (622) 唐慧律師傳 (623) 唐慧律師傳 (624) 唐慧律師傳 (625) 唐慧律師傳 (626) 唐慧律師傳 (627) 唐慧律師傳 (628) 唐慧律師傳 (629) 唐慧律師傳 (630) 唐慧律師傳 (631) 唐慧律師傳 (632) 唐慧律師傳 (633) 唐慧律師傳 (634) 唐慧律師傳 (635) 唐慧律師傳 (636) 唐慧律師傳 (637) 唐慧律師傳 (638) 唐慧律師傳 (639) 唐慧律師傳 (640) 唐慧律師傳 (641) 唐慧律師傳 (642) 唐慧律師傳 (643) 唐慧律師傳 (644) 唐慧律師傳 (645) 唐慧律師傳 (646) 唐慧律師傳 (647) 唐慧律師傳 (648) 唐慧律師傳 (649) 唐慧律師傳 (650) 唐慧律師傳 (651) 唐慧律師傳 (652) 唐慧律師傳 (653) 唐慧律師傳 (654) 唐慧律師傳 (655) 唐慧律師傳 (656) 唐慧律師傳 (657) 唐慧律師傳 (658) 唐慧律師傳 (659) 唐慧律師傳 (660) 唐慧律師傳 (661) 唐慧律師傳 (662) 唐慧律師傳 (663) 唐慧律師傳 (664) 唐慧律師傳 (665) 唐慧律師傳 (666) 唐慧律師傳 (667) 唐慧律師傳 (668) 唐慧律師傳 (669) 唐慧律師傳 (670) 唐慧律師傳 (671) 唐慧律師傳 (672) 唐慧律師傳 (673) 唐慧律師傳 (674) 唐慧律師傳 (675) 唐慧律師傳 (676) 唐慧律師傳 (677) 唐慧律師傳 (678) 唐慧律師傳 (679) 唐慧律師傳 (680) 唐慧律師傳 (681) 唐慧律師傳 (682) 唐慧律師傳 (683) 唐慧律師傳 (684) 唐慧律師傳 (685) 唐慧律師傳 (686) 唐慧律師傳 (687) 唐慧律師傳 (688) 唐慧律師傳 (689) 唐慧律師傳 (690) 唐慧律師傳 (691) 唐慧律師傳 (692) 唐慧律師傳 (693) 唐慧律師傳 (694) 唐慧律師傳 (695) 唐慧律師傳 (696) 唐慧律師傳 (697) 唐慧律師傳 (698) 唐慧律師傳 (699) 唐慧律師傳 (700) 唐慧律師傳 (701) 唐慧律師傳 (702) 唐慧律師傳 (703) 唐慧律師傳 (704) 唐慧律師傳 (705) 唐慧律師傳 (706) 唐慧律師傳 (707) 唐慧律師傳 (708) 唐慧律師傳 (709) 唐慧律師傳 (710) 唐慧律師傳 (711) 唐慧律師傳 (712) 唐慧律師傳 (713) 唐慧律師傳 (714) 唐慧律師傳 (715) 唐慧律師傳 (716) 唐慧律師傳 (717) 唐慧律師傳 (718) 唐慧律師傳 (719) 唐慧律師傳 (720) 唐慧律師傳 (721) 唐慧律師傳 (722) 唐慧律師傳 (723) 唐慧律師傳 (724) 唐慧律師傳 (725) 唐慧律師傳 (726) 唐慧律師傳 (727) 唐慧律師傳 (728) 唐慧律師傳 (729) 唐慧律師傳 (730) 唐慧律師傳 (731) 唐慧律師傳 (732) 唐慧律師傳 (733) 唐慧律師傳 (734) 唐慧律師傳 (735) 唐慧律師傳 (736) 唐慧律師傳 (737) 唐慧律師傳 (738) 唐慧律師傳 (739) 唐慧律師傳 (740) 唐慧律師傳 (741) 唐慧律師傳 (742) 唐慧律師傳 (743) 唐慧律師傳 (744) 唐慧律師傳 (745) 唐慧律師傳 (746) 唐慧律師傳 (747) 唐慧律師傳 (748) 唐慧律師傳 (749) 唐慧律師傳 (750) 唐慧律師傳 (751) 唐慧律師傳 (752) 唐慧律師傳 (753) 唐慧律師傳 (754) 唐慧律師傳 (755) 唐慧律師傳 (756) 唐慧律師傳 (757) 唐慧律師傳 (758) 唐慧律師傳 (759) 唐慧律師傳 (760) 唐慧律師傳 (761) 唐慧律師傳 (762) 唐慧律師傳 (763) 唐慧律師傳 (764) 唐慧律師傳 (765) 唐慧律師傳 (766) 唐慧律師傳 (767) 唐慧律師傳 (768) 唐慧律師傳 (769) 唐慧律師傳 (770) 唐慧律師傳 (771) 唐慧律師傳 (772) 唐慧律師傳 (773) 唐慧律師傳 (774) 唐慧律師傳 (775) 唐慧律師傳 (776) 唐慧律師傳 (777) 唐慧律師傳 (778) 唐慧律師傳 (779) 唐慧律師傳 (780) 唐慧律師傳 (781) 唐慧律師傳 (782) 唐慧律師傳 (783) 唐慧律師傳 (784) 唐慧律師傳 (785) 唐慧律師傳 (786) 唐慧律師傳 (787) 唐慧律師傳 (788) 唐慧律師傳 (789) 唐慧律師傳 (790) 唐慧律師傳 (791) 唐慧律師傳 (792) 唐慧律師傳 (793) 唐慧律師傳 (794) 唐慧律師傳 (795) 唐慧律師傳 (796) 唐慧律師傳 (797) 唐慧律師傳 (798) 唐慧律師傳 (799) 唐慧律師傳 (800) 唐慧律師傳 (801) 唐慧律師傳 (802) 唐慧律師傳 (803) 唐慧律師傳 (804) 唐慧律師傳 (805) 唐慧律師傳 (806) 唐慧律師傳 (807) 唐慧律師傳 (808) 唐慧律師傳 (809) 唐慧律師傳 (810) 唐慧律師傳 (811) 唐慧律師傳 (812) 唐慧律師傳 (813) 唐慧律師傳 (814) 唐慧律師傳 (815) 唐慧律師傳 (816) 唐慧律師傳 (817) 唐慧律師傳 (818) 唐慧律師傳 (819) 唐慧律師傳 (820) 唐慧律師傳 (821) 唐慧律師傳 (822) 唐慧律師傳 (823) 唐慧律師傳 (824) 唐慧律師傳 (825) 唐慧律師傳 (826) 唐慧律師傳 (827) 唐慧律師傳 (828) 唐慧律師傳 (829) 唐慧律師傳 (830) 唐慧律師傳 (831) 唐慧律師傳 (832) 唐慧律師傳 (833) 唐慧律師傳 (834) 唐慧律師傳 (835) 唐慧律師傳 (836) 唐慧律師傳 (837) 唐慧律師傳 (838) 唐慧律師傳 (839) 唐慧律師傳 (840) 唐慧律師傳 (841) 唐慧律師傳 (842) 唐慧律師傳 (843) 唐慧律師傳 (844) 唐慧律師傳 (845) 唐慧律師傳 (846) 唐慧律師傳 (847) 唐慧律師傳 (848) 唐慧律師傳 (849) 唐慧律師傳 (850) 唐慧律師傳 (851) 唐慧律師傳 (852) 唐慧律師傳 (853) 唐慧律師傳 (854) 唐慧律師傳 (855) 唐慧律師傳 (856) 唐慧律師傳 (857) 唐慧律師傳 (858) 唐慧律師傳 (859) 唐慧律師傳 (860) 唐慧律師傳 (861) 唐慧律師傳 (862) 唐慧律師傳 (863) 唐慧律師傳 (864) 唐慧律師傳 (865) 唐慧律師傳 (866) 唐慧律師傳 (867) 唐慧律師傳 (868) 唐慧律師傳 (869) 唐慧律師傳 (870) 唐慧律師傳 (871) 唐慧律師傳 (872) 唐慧律師傳 (873) 唐慧律師傳 (874) 唐慧律師傳 (875) 唐慧律師傳 (876) 唐慧律師傳 (877) 唐慧律師傳 (878) 唐慧律師傳 (879) 唐慧律師傳 (880) 唐慧律師傳 (881) 唐慧律師傳 (882) 唐慧律師傳 (883) 唐慧律師傳 (884) 唐慧律師傳 (885) 唐慧律師傳 (886) 唐慧律師傳 (887) 唐慧律師傳 (888) 唐慧律師傳 (889) 唐慧律師傳 (890) 唐慧律師傳 (891) 唐慧律師傳 (892) 唐慧律師傳 (893) 唐慧律師傳 (894) 唐慧律師傳 (895) 唐慧律師傳 (896) 唐慧律師傳 (897) 唐慧律師傳 (898) 唐慧律師傳 (899) 唐慧律師傳 (900) 唐慧律師傳 (901) 唐慧律師傳 (902) 唐慧律師傳 (903) 唐慧律師傳 (904) 唐慧律師傳 (905) 唐慧律師傳 (906) 唐慧律師傳 (907) 唐慧律師傳 (908) 唐慧律師傳 (909) 唐慧律師傳 (910) 唐慧律師傳 (911) 唐慧律師傳 (912) 唐慧律師傳 (913) 唐慧律師傳 (914) 唐慧律師傳 (915) 唐慧律師傳 (916) 唐慧律師傳 (917) 唐慧律師傳 (918) 唐慧律師傳 (919) 唐慧律師傳 (920) 唐慧律師傳 (921) 唐慧律師傳 (922) 唐慧律師傳 (923) 唐慧律師傳 (924) 唐慧律師傳 (925) 唐慧律師傳 (926) 唐慧律師傳 (927) 唐慧律師傳 (928) 唐慧律師傳 (929) 唐慧律師傳 (930) 唐慧律師傳 (931) 唐慧律師傳 (932) 唐慧律師傳 (933) 唐慧律師傳 (934) 唐慧律師傳 (935) 唐慧律師傳 (936) 唐慧律師傳 (937) 唐慧律師傳 (938) 唐慧律師傳 (939) 唐慧律師傳 (940) 唐慧律師傳 (941) 唐慧律師傳 (942) 唐慧律師傳 (943) 唐慧律師傳 (944) 唐慧律師傳 (945) 唐慧律師傳 (946) 唐慧律師傳 (947) 唐慧律師傳 (948) 唐慧律師傳 (949) 唐慧律師傳 (950) 唐慧律師傳 (951) 唐慧律師傳 (952) 唐慧律師傳 (953) 唐慧律師傳 (954) 唐慧律師傳 (955) 唐慧律師傳 (956) 唐慧律師傳 (957) 唐慧律師傳 (958) 唐慧律師傳 (959) 唐慧律師傳 (960) 唐慧律師傳 (961) 唐慧律師傳 (962) 唐慧律師傳 (963) 唐慧律師傳 (964) 唐慧律師傳 (965) 唐慧律師傳 (966) 唐慧律師傳 (967) 唐慧律師傳 (968) 唐慧律師傳 (969) 唐慧律師傳 (970) 唐慧律師傳 (971) 唐慧律師傳 (972) 唐慧律師傳 (973) 唐慧律師傳 (974) 唐慧律師傳 (975) 唐慧律師傳 (976) 唐慧律師傳 (977) 唐慧律師傳 (978) 唐慧律師傳 (979) 唐慧律師傳 (980) 唐慧律師傳 (981) 唐慧律師傳 (982) 唐慧律師傳 (983) 唐慧律師傳 (984) 唐慧律師傳 (985) 唐慧律師傳 (986) 唐慧律師傳 (987) 唐慧律師傳 (988) 唐慧律師傳 (989) 唐慧律師傳 (990) 唐慧律師傳 (991) 唐慧律師傳 (992) 唐慧律師傳 (993) 唐慧律師傳 (994) 唐慧律師傳 (995) 唐慧律師傳 (996) 唐慧律師傳 (997) 唐慧律師傳 (998) 唐慧律師傳 (999) 唐慧律師傳 (1000) 唐慧律師傳 (1001) 唐慧律師傳 (1002) 唐慧律師傳 (1003) 唐慧律師傳 (1004) 唐慧律師傳 (1005) 唐慧律師傳 (1006) 唐慧律師傳 (1007) 唐慧律師傳 (1008) 唐慧律師傳 (1009) 唐慧律師傳 (1010) 唐慧律師傳 (1011) 唐慧律師傳 (1012) 唐慧律師傳 (1013) 唐慧律師傳 (1014) 唐慧律師傳 (1015) 唐慧律師傳 (1016) 唐慧律師傳 (1017) 唐慧律師傳 (1018) 唐慧律師傳 (1019) 唐慧律師傳 (1020)

元一五・二、北1119、南1136、元1139、明北793、清793、麗1110、天1235、法1231、兵、至735、明南801、天798、宋施護(太平興國5 A. D. 980) 譯

①佛、合衛國に在し、過去如来所説の消除一切閃電障難求如意陀羅尼經を説いて言、東方に阿伽羅、南方に舍多時、西方に放光明、北方に維那摩尼と名づくる電あり。一切閃電を發せしむるには檢摩阿摩尼言を書き彼處に安置すしとしてこの陀羅尼を説き玉ふ、その時聖觀自在菩薩また檢摩阿摩尼言を説く(佛所説の眞言と異)。次に金剛手結書主は無能勝の眞言及びその功德を説き、大梵天王は梵天摩訶陀羅尼を、帝釋天主は金剛坐明を、四天王は無怖畏眞言を説き、次で佛また交誼時龍王乃至百光龍王等の我慢貢高心を止息せんが爲に眞言及びその功德を説き玉ふ。本經は所謂の雷除の咒を説けるものであつて、これ障除法を説くものなり。(坪井徳光)

無妙法蓮華經に限る、唱題の一行に萬行萬善を攝す、南無妙法蓮華經と唱へれば南無日蓮大聖人と唱ふるに及ばず等の陣門獨特の教觀の要義を窺ふに足る好資料で、假字書で解し易く書かれてある。(馬田行啓)

消息 ①(日) Sho-seku. ②九通 ③存、日蓮宗々々全書 ④日存(應安三一文安四 A. D. 1268-1447)

⑤法華宗(善本成寺派)派祖日陣の門下日存の消息文、與妙法蓮華經、與善式部丞書以下計九通を収む、本蓮勝劣の義、末法應寺の要法は本門善法品の題目に限る等の義を説いたものなり。(馬田行啓)

消息阿字觀 ①(日) Sho-seku-a-jō. ②一巻 ③存 ④道鏡(元暦元一建長四 A. D. 1184-1232) 説建長四、年七五(五) ⑤延寶六刊 ⑥(谷大、長保二一六)(龍大、二六六、七一)(哲、け、二、中、一六)(正大、一四八、六七)

消息眞經記 ①(日) Sho-seku-kyō-ki. ②三巻 ③存 ④善運(一直延頃、A. D. 1748-1750) ⑤寶曆五刊 ⑥(龍大、一三四、四一五)

消息五帖 ①(日) Sho-seku-go-ji. ②御文、御文章、蓮如上人御文、勅章、勅文、五帖消息 ③五巻 ④存、大正八三・七七一 No. 2668 ⑤蓮如上人全集、眞宗聖典、眞宗假名法典巻上 ⑥蓮如上集(應永三二一明應八 A. D. 1415-1499) ⑦

十五通。第五帖二十二通。合八十通。寛正元年庚辰(五)明應七年。凡四十年間。中興蓮如上人中。眞弟備前院圓如僧都集。又於五帖中。擇二十四首。別爲一卷。此亦有新舊兩本之差六條八條等異。云々。御文の下を見よ。

消息集 ①(日) Sho-seku-shū. ②御消息集、親覺聖人御消息集 ③一巻 ④存、大正八三・二二二 No. 2660 ⑤親覺門侶編

御消息集の下を見よ。

消息狀 ①(日) Sho-seku-jō. ②一巻 ③存 ④空海(實録五)承和二 A. D. 774-835) ⑤(参考) 諸宗章疏録第三

消息帖 ①(日) Sho-seku-ji. ②一巻 ③存(前後開) ④存、慈覺尊者全集第一五(慈覺飲光(享保三)文化元 A. D. 1718-1804) ⑤尼衆のために書かれたる習字手本である ⑥自筆本(河内長榮寺) (高見寛徳)

消息法語 ①(日) Sho-seku-hō-go. ②存、日本各宗祖師遺文

消毒藥辨 ①(日) Sho-doku-yaku-ban. ②一巻 ③實道編 ④天明三(A. D. 1783) ⑤(参考) 淨土眞宗教典志第二

笑叢了悟禪師語要 ①(日) Sho-an-ryō-go-zen-ji-go-yō. ②(支) Hsiao-an-hsiao-wu-ch'an-shih-yō-yō. ③存、己藏二・三四一續古尊宿語録第四 ④宋代笑叢了悟

蘇の人、天童の密庵成儀に嗣いで、杭州靈隱寺に化を揚げた。僧集續傳燈錄第二巻、續燈存稿第二巻等に收むる語要は、本書の上堂語の終に收められた、昨日菰子、今日種冬瓜、云々の語要である。從つて本書に輯められたるものは、散逸せる笑叢了悟の語要の多くを蒐めたものと云ふことが出来る。(大久保堅瑞)

笑隱語錄 ①(日) Sho-in-go-roku. ②(支) Hsiao-yin-yō-roku. 廣智全悟禪師語錄、笑隱大師禪師語錄 ③二巻 ④存、己藏二・二六・二 ⑤元笑隱大師(至元二一至正四 A. D. 1284-1344) 語、延俊等編 ⑥五山版(駒大)

笑隱大訴禪師語錄 ①(日) Sho-in-dai-ō-zen-ji-go-roku. ②(支) Hsiao-yin-tai-ō-zen-ji-go-roku. 廣智全悟禪師語錄、笑隱語錄 ③二巻 ④存、己藏二・二六・二 ⑤元笑隱大師(至元二一至正四 A. D. 1284-1344) 語、延俊等編 ⑥廣智全悟禪師語錄の下を見よ。

笑雲入唐記 ①(日) Sho-un-nyō-ō-ki. ②一巻 ③存 ④笑雲瑠璃記 ⑤(參考) 續編目録

笑語辨訛 ①(日) Sho-go-ben-kwa. ②三巻 ③存 ④摩尼庵著 ⑤寫本(帝國、一一・一九〇)

笑辭論 ①(日) Sho-ei-ron. ②一冊 ③存 ⑤寫本(高木、寄、一・二四)

笑禪錄 ①(日) Sho-zen-roku. ②一巻 ③存、五朝小説第二四 ④寫本(京大、藏、一七・二二)(駒大、帝國、七六・一)

名所行録◎(名庫書)漢語所現◎月年の刊取◎(書考書書刊註)書太◎説解存内◎代年作書◎著◎ 佚存◎ 散書◎(名書)名題◎ 號碼◎

笑調理論 ①(日) Sho-dō-ri-ron. ②三巻 ③存 ④編成(寛政七一明治二〇 A. D. 1795-1887) ⑤寫本(谷大、宗一、三六)

笑堂和尚語錄 ①(日) Sho-dō-shō-go-roku. ②(支) Hsiao-tang-ho-shang-yō-roku. ③一巻 ④存 ⑤明代笑堂明哲語、超脫等編 ⑥廣照四刊 ⑦(駒大)

笑評破塵問對 ①(日) Sho-hyō-han-jim-mon-tai. ②一巻 ③存 ④藤谷幸惠編 ⑤明治三二刊(谷大、宗小、一〇四)(龍大、一七七・五) ⑥明治三九刊(谷大、宗洋、五四)

笑評破塵問對續 ①(日) Sho-hyō-han-jim-mon-tai-toku. ②(支) Hsiao-hyō-han-jim-mon-tai-toku. ③增補笑評破塵問對續 ④一巻 ⑤存 ⑥大村大念 ⑦明治三〇刊 ⑧(谷大、宗洋、三五八、五四)

笑旨訣 ①(日) Sho-ji-ke. ②一巻 ③存 ④大圓(安永六 A. D. 1777) ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥寛政二刊 ⑦(龍大、一七五・四九)(谷大、宗大、一三二)

笑響贊 ①(日) Sho-kyō-hi. ②六巻 ③存、眞宗全書第五九 ④法華(元祿六一寛保元 A. D. 1693-1741) ⑤享保一六(A. D. 1731)

佛敎風流が「念佛往生明導」を著して淨土門を駕倒せしに對して、法華は「淨土折衝」二巻を作りて之を評破するところあり、然るに老將風流は意氣屈せず、嘗て二

他を作りて應戰を試みた、仍つて法華は當奈何するものぞ、牛車に向ふ婦人の我後過ぎずと一笑に附し、肝煎なきまでに辯駁せるものが六巻の本である。實に本書は輕妙の筆致をもつて宗要の精髓を開明にし、博引廣證に於ては、流石の猛將風流をして後に敵若たらしめたものであつて、法華世の學殖を傾倒せるものである。その後風流は本書に對して「却却」といふ小冊子を編したが、もとより比肩すべくも非ず、本書の雄大に比すれば殆ど一顧の價値もなきものである。

(參考) 淨土眞宗教典志第二

①正崇寺藏版(立大、A三〇・一五〇)享保一八刊(正大、一五七・一三)(龍大、一六三・三) ②明和五刊(谷大、宗大、四二二)(正大、一五七・一五)

詳符法實錄 ①(日) Sho-fū-hō-jō-roku. ②(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ③(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ④(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑤(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑥(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑦(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑧(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑨(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑩(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑪(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑫(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑬(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑭(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑮(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑯(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑰(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑱(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑲(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ⑳(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉑(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉒(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉓(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉔(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉕(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉖(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉗(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉘(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉙(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉚(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉛(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉜(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉝(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉞(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㉟(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊱(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊲(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊳(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊴(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊵(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊶(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊷(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊸(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊹(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊺(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊻(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊼(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊽(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊾(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku. ㊿(支) Hsiao-fū-hō-jō-roku.

四百十三巻、結書監揚徹光梵大師淨等編次、又謂以兩朝御製佛乘文集編入大藏、下動裝許」とあるから、宋太祖の太平興國年より今詳符六年に至る。大約三十餘年間に譯出された經律論四百十三巻を整理したものであることが知られる。大藏部教法寶標目第一には、詳符録所記經律論と一、大藏經一百四十二部二十九巻三十三、律一部一巻、論一十一部二十九巻三十三、小乘經四十四部六十九巻七、律五部五巻一、總數二百部(實數は二百一)三百八十四巻を記載し、至元録又これと全く同一の部数を擧げて居る。從て、本録は此部数だけの經典を前代既入藏の法寶に附加したわけである。本録附加の經典卷数は、統紀は四百十三巻と云ひ、法寶標目及び至元録は三百八十四巻として、その間二十九巻の相違が存在するが、これは至元録等の一々の内容に當れば自ら決せられる問題である。猶、統紀は本録を二十一巻となし、至元録は二十二巻となして居るか、今のところ何れが正しいか決定出来な。

(參考) 大藏部教法寶標目第一、至元録第一、第一〇、佛祖統紀第四四

詳流印信口訣興雅及習勢集記 ①(日) Sho-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ②(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ③(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ④(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑤(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑥(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑦(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑧(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑨(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑩(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑪(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑫(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑬(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑭(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑮(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑯(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑰(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑱(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑲(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ⑳(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉑(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉒(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉓(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉔(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉕(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉖(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉗(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉘(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉙(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉚(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉛(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉜(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉝(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉞(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㉟(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊱(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊲(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊳(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊴(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊵(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊶(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊷(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊸(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊹(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊺(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊻(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊼(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊽(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊾(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū. ㊿(支) Hsiao-ryū-in-shin-koku-kyō-gei-shū-shū.

詳流折紙傳授用書 ①(日) Sho-ryū-ori-kami-dea-jō-yō-hiki-pōki. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

詳流口 ①(日) Sho-ryū-kuchi. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

詳流許可印明秘訣 ①(日) Sho-ryū-kyō-ka-im-myō-hi-kei. ②一帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

詳流最秘口 ①(日) Sho-ryū-sai-ki. ②一帖 ③存 ④興雅記 ⑤徳川時代寫 ⑥(寶龜院)

詳流授與記 ①(日) Sho-ryū-ju-yō-ki. ②一帖 ③存 ④省快(貞和元一應永三三 A. D. 1345-1416) ⑤永享八寫

詳流抄摩次第 ①(日) Sho-ryū-shō-ma-shi-dai. ②一帖 ③存 ④貞享五寫 ⑤(寶龜院)

詳流抄曼荼羅供次第本座 ①(日) Sho-ryū-shō-man-dara-ka-ku-shi-dai-hira-za. ②一帖 ③存 ④(金剛三昧院)

詳流鈔諸尊目錄 ①(日) Sho-ryū-shō-shō-sōn-moku-roku. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

詳流章法目錄 ①(日) Sho-ryū-shō-moku-roku. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

詳流秘部傳授記 ①(日) Sho-ryū-hi-ho-den-jō-ki. ②二帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

詳流臨終大事 ①(日) Sho-ryū-rin-jō-jōji. ②一帖 ③存 ④(寶龜院)

名所行録◎(名庫書)漢語所現◎月年の刊取◎(書考書書刊註)書太◎説解存内◎代年作書◎著◎ 佚存◎ 散書◎(名書)名題◎ 號碼◎

【シ】

① 山田孝道(文久三)昭和三 A. D. 1893—1923) 述 ② 大正七刊 ③ 東京光風館

從容錄講話 ① (日) Sho-yo-roku-ko wa ② 二卷 ③ 存 ④ 秋野孝道、安藤文英共著 ⑤ 大正一刊 ⑥ 東京丙午出版社

從容錄講話 ① (日) Sho-yo-roku-ko wa ② 一巻 ③ 存 ④ 神保如天著 ⑤ 大正三刊 ⑥ 東京無我山房

從容錄講話附觀坐禪儀講話 ① (日) Sho-yo-roku-ko wa tsuikan-ji ② 一巻 ③ 存 ④ 日置默然、久内大賢共著 ⑤ 大正七刊 ⑥ (駒大)

從容錄國字解 ① (日) Sho-yo-roku-ko no kokuji ② 一巻 ③ 存 ④ 本光勝道(安永二) A. D. 1773) 述 ⑤ (參考) 附錄目錄

從容錄事考 ① (日) Sho-yo-roku-ko no shikō ② 六卷 ③ 存 ④ (參考) 附錄目錄

從容錄事略 ① (日) Sho-yo-roku-ko no shiryō ② 十七卷 ③ 存 ④ 宗融(慶長一四) 寛文四 A. D. 1669—1664) 述 ⑤ 寛文年間刊 ⑥ (帝國) 三三・一七八) 治二刊 ⑦ (駒大)

從容錄註釋 ① (日) Sho-yo-roku-ko no chu-shaku ② 一巻 ③ 存 ④ 獨佛佛仙述

從容錄百畫餅 ① (日) Sho-yo-roku-ko no hyakubai ② 一巻 ③ 存 ④ 洞外著 ⑤ 大正一四刊 ⑥ (駒大)

從容錄辨解 ① (日) Sho-yo-roku-ko no hen ② 二巻 ③ 存 ④ 傳珠天桂(慶安元)享保三 O. A. D. 1642—1735) 述 ⑤ 明治二九刊 ⑥ 東京江書店

從容錄略 ① (日) Sho-yo-roku-ko no ryaku ② 三巻 ③ 存 ④ 天保七寫 ⑤ (駒大)

清河常樂圖覺祖師塔碑 ① (日) Sho-ka-jo-tai-e-gaku-so-shi-to-hi ② (支) Ching-ho-chang-tai-yuan-chueh-tsu-shih-ta-pei ③ 存 ④ (參考) 朝鮮佛教叢書刊行決定書目

清虛集 ① (日) Sho-ko-sha ② (支) Ch'i-ni-ni-sha-chi ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 休辭撰 ⑥ (參考) 朝鮮佛教叢書刊行決定書目

清珠集 ① (日) Sho-ju-sha ② (支) Ch'i-ni-ni-sha-chi ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 記續二・一五・一 ⑥ 清幻空治光撰 ⑦ 同治九(A. D. 1870)

⑧ 本書は清末の高僧、古雲山・普光寺・淨願社主幻空治光が諸家の淨土法語を節録したもので、實にその名の如く清珠集であり、同時に又警懼集でもある。その凡例に「往生方便有二門、一曰觀想、二曰持名、是集專主持名、而略觀想、者、衆生心亂、觀想成就、且此土根機持名甚易、有願必生故耳。」と云ふもの、以て本書の意趣を知るべきである。その目次には自己佛・秘密法門を初め二百二十有餘則を収め、引用書目だけでも「淨土十疑論」「智者」念佛三昧寶王論」(飛鶴)など三十有餘を算する。尙ほ附録に孫光普元の「結社文」「淨願社」・美蓮性蓮の「發願文」・雲雲圓明の「慕緣疏」がある。卷首には轉機樓主人少荷居士の序、法橋山人盧舟堂德眞の序、並びに編者治光の自序があり、卷尾には門人六然居士淨信の跋、佛國三沙の跋が添へてある。(前田理輝)

清淨威儀經 ① (日) Sho-ji-gi-kyō ② (支) Ch'ing-ching-wei-ching ③ 一巻 ④ 根本説一切有部毘奈耶事第十六卷の抄出 ⑤ (參考) 開元錄第一七、貞元錄第二六

清淨經 ① (日) Sho-ji-kyō ② (支) Ch'ing-ching-ching ③ (日) D. 29 Parādika S ④ 存 ⑤ 長阿含經之内(大正一・一 No. 1, 17)

清淨經 ① (日) Sho-ji-kyō ③ 存 ④ 現

各所行發◎(名庫書)表題所現◎ 月年の刊宣◎ (書考)參書附註◎書末◎ 説題存内◎ 代年作著◎ 著書◎ 録存◎ 歌卷◎ (名書)名題◎ 號地字數

【シ】

代宣譯根本佛敎聖典叢書第一卷長阿含經鈔

① 初溪了譯、林五邦共譯

清淨觀世音菩薩普賢陀羅尼經 ① (日) Sho-ji-kwan-ze-on-bo-satsu-tu-ge-da-ra-ni-kyō ② (支) Ch'ing-ching-kuan-shih-yin-p'u-sa-p'u-hsien-to-lo-ni-chi-ng ③ (林) Samantabhadra dharaṇī (藏傳) ④ (支) Hphags-pa kun-tu-bzav-po shes-bya-bahi gnyas 觀音普賢陀羅尼 清淨觀世音菩薩經 ⑤ 一巻 ⑥ 存 ⑦ 大正二〇・二一 No. 1038、編成一〇・二二・五、北453蓋、南68蓋、元463蓋、明北490行、清490行、麗456蓋、天461蓋、法443蓋、至643表、明南460行、天494 ⑧ 唐智通(一貞觀元)永徽四 A. D. 627—653) 譯

⑨ 概要、王舍城に於て觀世音、一切衆生利益の爲に、佛の許可を得て月光佛より受くる所の普賢陀羅尼、結界陀羅尼、奉請陀羅尼を説き、次で普賢陀羅尼の功德を説きて曰く、此の呪を誦する者は夜半に觀世音自ら爲に身を現じ、行者見已て勝地陀羅尼三摩地を得、四方に四佛、十方に諸佛如來の光明色相を見たまつり、命終して淨佛土に生ずと。觀世音、普賢陀羅尼を説き見れば同座の九十二俱胝の菩薩は所願満足し、首楞嚴等一切三昧、七寶三摩提、放光三摩提、大海水三摩提、虚空三摩提、出沒三摩提等の無量三昧を得。此の呪名を聞き、誦持する者は永く地獄等の惡趣に墮すること無しと。次に誦持者常見の釋迦、普賢、觀世音、毘陀天女等の畫像法、入壇及び供養法を説く。

本經は普賢及び觀音法を説けるものなり。異譯、不空譯、觀自在菩薩說普賢陀羅尼經あり。本經と比較するに叙述の順序に不同あり。又不空譯には畫像、入壇、供養法を説かず。開元錄第八に曰く、永徽四年(A. D. 653)總持寺に於て譯すと。

清淨心破邪顯正義 ① (日) Sho-ji-gwan-shin-ka-ha-ken-shō-gi ② 一巻 ③ 存 ④ 寫本(谷大、宗大・一七五五)

清淨華嚴院記錄抄 ① (日) Sho-ji-ke-ji-in-ji-roku-ha-shō ② 一巻 ③ 存 ④ 寫本(正大、一五四・四七)

清淨華嚴院誌要 ① (日) Sho-ji-ke-ji-in-ji-yō ② 一巻 ③ 存 ④ 淨土宗全書第二〇

⑤ 本書は京都市二條にある淨土宗大本山清淨華嚴院の院要記録を抄録編纂せるものにして宗祖法然の七百年遠忌記念に出版せるものを、大正二年補訂せるものなり。第一治華、第二歴代、第三古文書、第四什寶の四章に收めてある。第一治華の項下に於ては清和天皇の觀願に依り貞觀年中御所御構内に創建せる經道并に院沿革の大略を叙し、殊に明治に至るまで幾度かの宮中の御外護の様を特筆して、清淨殿たる同院の面目を示し、第二歴代の項下に於ては開山慈覺大師より第六十九世實融に至る略歴を擧げ、第三古文書の項下に於ては光明寺制法以下、繪旨、書狀、朱印、目錄等の二十餘部を列ね、第四什寶の項下に於ては佛像背像十八、佛畫繪圖二十八、眞蹟古書二十

八、寶物重器二十六等の寺寶物品を擧げてゐる。

要之本書は淨華院の手近なる案内書とも云ふべく、特にその編纂は近時なるを以てその叙述の如く大略の院誌を窺知する事が出来ると思ふ。(森本眞順)

清淨居士度人經 ① (日) Sho-ji-ko-ji-shi-do-ni-kyō ② (支) Ch'ing-ching-ko-ji-shi-ta-tu-jen-ching ③ 一巻 ④ 疑經 ⑤ (參考) 開元錄第一八、貞元錄第二八

清淨金剛泉淵四度授決辨開抄 ① (日) Sho-ji-kōn-gō-shū-en-shi-do-ji-ketsu-ben-mon-shō ② 一巻 ③ 存 ④ 疑經 ⑤ 寫本(藥師院)

清淨進無上眞諦大比丘懸法 ① (日) Sho-ji-kun-shō-jin-mu-ji-shin-tai-dai-shi-ka-e-hō-kyō ② (支) Ch'ing-ching-tai-dai-shi-ka-e-hō-kyō ③ 一巻 ④ 疑經 ⑤ (參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

清淨心經 ① (日) Sho-ji-shin-kyō ② (支) Ch'ing-ching-hsin-ching ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 大正一七・七四九 No. 803 ⑥ 記續一・一四、麗1500號 ⑦ 宋施護譯 ⑧ 太平興國五(A. D. 980—)

⑨ 本經は極めて短かく、大正藏經で言へば一頁の三分の一にも足らぬ程である。思想的に見れば阿含經的のもので、阿含類にでも入れるべきものであらうが、阿含中には同類の經は見當らない。次に本經の内容は

經名の示す如く、心を清淨ならしむることを説いてゐる。即ち清淨心を得る爲には五法を斷じ七法を修すべきである。五法とは食欲・瞋恚・昏沈睡眠・掉悔・展の五蓋であり、七法とは淨法覺支等の七覺支である。而して清淨心とは心解脫と慧解脫とを指し、心解脫を除ふるは貪染汚であり、慧解脫を妨ぐるは無明染汚である。以上の染汚を除くことによつて、心解脫を得れば身作證と名づけ、慧解脫を得れば無學と名づけ、乃至苦の邊際を盡すことが出来る。故に修學すべしと結んでゐる。(水野弘元)

清淨毘尼方廣經 ① (日) Sho-ji-hi-ni-hō-gyō ② (支) Ch'ing-ching-p'i-ni-fa-ang-kuang-ching ③ (漢) Hphags-pa kun-rd-sob dan don-dam-pahi bden-pa bstan-pa shes-bya-ha theg-pa chen-poi mdo 清淨毘尼經 毘尼方廣經 清淨毘奈耶方廣經 ④ 一巻 ⑤ 存 ⑥ 大正二四・一〇七五 No. 1489、編列二・二一七二、北542行、南553行、元539行、明北1096初、清1096初、麗546念、天538行、指505念、法303念、至1195 ⑦ 後漢地持譯 ⑧ 弘始二二(一四(A. D. 402—412))

⑨ 方廣大乘の淨戒を説けるもの、寂調伏音天子に對する文殊の說法の形相になつてゐる。經中、毘尼の意義を説く所と、摩訶毘尼と菩薩毘尼との相異を説く所とは、明らかに戒であるが、その他の人生について如實知見を開くことを説く部分も、毘尼の意義を、煩惱を調伏し、煩惱を知るが爲の故に毘尼と名づく」とするによりて、亦戒と

各所行發◎(名庫書)表題所現◎ 月年の刊宣◎ (書考)參書附註◎書末◎ 説題存内◎ 代年作著◎ 著書◎ 録存◎ 歌卷◎ (名書)名題◎ 號地字數

【シ】

して眺むべきである。聲聞と菩薩との思尼の相異は、十七種の對比で説かれてゐるが實は兩者の生活態度の比較である。中には聲聞を貶して菩薩を揚ぐるものもある。此經の異本に説く所問題一巻(宋法海譯)、文殊師利淨法經一巻(西晉竺法護譯)がある。此經を羅什譯とするは法上録が始めで、開元錄第十二、貞元錄第二十二已下それを採用するが、法經錄第五、靜泰錄第一、内典錄第六は竺法護譯とする。しかし法護は淨法經を譯してゐるから、羅什譯とするが正しい。

【参考】三寶紀第一三 (大野法道) 清淨毘尼方廣經 ①(日)Shō-jō-hō-shi-ni-hō-kyō. 國譯清淨毘尼方廣經 ②存、國譯一切經律部十二 ③大野法道譯

清淨法行經 ①(日)Shō-jō-hō-kyō. (支)Ch'ing-ching-fa-hsin-ching. ①卷 ②失譯 ③疑偽經 ④(参考) 出三藏記第四、法經錄第二、三寶紀第四、仁壽錄第四、内典錄第一、開元錄第一八、貞元錄第二八 ⑤奈良朝現在一切經目錄1765

清淨法身毘盧遮那心地法門成就一切陀羅尼 ①(日)Shō-jō-hō-shin-bi-ru-sha-na-shin-jō-hō-mō-jū-jū-ai-da-ra-ni. (支)Ch'ing-ching-fa-shō-p'i-lu-ch'e-na-hsin-ti-fa-meh-ch'i'ng-ch'i-hi-t'ch'ieh-t'o-lo-ni. 清淨法身毗盧遮那心地法門成就一切陀羅尼三種悉地、毘盧遮那別行經 ②一巻 ③存、大正一八七七六No. 899(正續)一三・五 ④寫本(龍大、別號)

唱導摘要 ①(日)Shō-dō-atsū-yū. ①一巻 ②存 ③寫本(龍大、一〇五五・七四) 唱導選 ①(日)Shō-dō-sen. 兒僧手引唱導選 ②二巻 ③存 ④嶺南 ⑤天明五刊 ⑥(龍大、一〇五五・七五) 唱導集 ①(日)Shō-dō-tesu. ①一巻 ②存 ③(天明八)明治二A. D. 1788-1869)迄 ④安政二刊 ⑤(龍大、一〇五五・七六) 唱導指南 ①(日)Shō-dō-kan-shi-nan. ①一巻 ②五智堂藏(享保一九)寫本A. D. 1731-1794)迄 ③安永三(A. D. 1773) ④淨土真宗教典志第一に曰く「安永三癸巳、支智堂藏述。記。正信偈和讃口口五帖消息唱讀法。并附。六首和讃念佛偈讚。』云々

唱導集 ①(日)Shō-dō-shū. ③三巻 ④存 ⑤其文三刊 ⑥(立大、A. O. 八・三・一〇)⑦(首、あ・い・中・九)⑧(京大、一・二六・二七) 唱法題目鈔 ①(日)Shō-hō-ke-dai-mōku-shō. ①一巻 ②存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第四 ③日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1223-1284) ④文應元(A. D. 1260) ⑤鎌倉に於て著した書、法華經の題目を唱へる功德を十五番の問答を以て明し、法華經は上根上智の者には成佛の功德もあらうが、末代の下根下智の者には適しなからう、法然の「選擇集」の邪義を破斥し、法華經こそ釋尊出世の本懷であるから、上根下根を問はず、上智下智を擇ばず、一切衆生

【シ】

清淨法身毘盧遮那心地法門成就一切陀羅尼三種悉地 ①(日)Shō-jō-hō-shin-bi-ru-sha-na-shin-jō-hō-mō-jū-jū-ai-da-ra-ni-san-shū-shic-chū. (支)Ch'ing-ching-fa-shō-p'i-lu-ch'e-na-shin-ti-fa-meh-ch'i'ng-ch'i-hi-t'ch'ieh-t'o-lo-ni-san-chung-hai-ti. 毘盧遮那別行經、清淨法身毘盧遮那心地法門成就一切陀羅尼 ②一巻 ③存、大正一八・七六六No. 899(正續)一三・五 ④毘盧遮那佛、蓮華藏世界に在し、百千億化身の釋迦佛の爲に心地毘盧淨行法門の行じ難き所及び此の法門の功德を説きたまひ、釋迦佛開き已り本源世界に至り、一切菩薩乃至鬼神等に向ひ此の法門により作佛すべしと説く、時に忿怒金剛。執金剛出でて三種悉地乃至大悉地を成就する相を釋迦佛に問ひ、こゝに於て釋迦佛は俱に毘盧遮那佛の前に至りて是を問ふに毘盧遮那佛は爲に心地神呪を説きたまふ。毘盧遮那佛説き已るや、忽然として滅して清淨法界一身に入る。釋迦も文殊、普賢、觀音、彌勒、金剛藏の五菩薩と俱に法界同一眞體に入り、此處に於て佛、五菩薩の爲に持心地神呪法門軌則、成儀悉地の相、三部の神呪及び精勤心呪を説く。時に觀世音は三種悉地を求むる相を問ひ、佛は上悉地の相を説き、次に文殊の爲に中悉地の、又觀世音の爲に下悉地を説く。次に普賢の爲に、陀羅尼に經鬼神、治病救衆生苦、滅重罪及び破地獄苦等を説く所以を明す。時に觀世音は糧食乏少の爲に菩提心を退轉する者の爲に諸天阿

が平等に成佛できる經典であることを經論疏釋を引いて説明し、かゝる法華經の題目を唱へる功德によつて一切衆生の成佛すべきを説いた書である。但し唱導成佛の眞義は未だ本書には充分現はされて居らぬ。 ④(参考) 録内卷第二三、録内扶老第八、御書鈔第二二巻 (馬田行啓) 唱導文 ①(日)Shō-dō-mon. (支)Ch'ang-i-wen. ①八巻 ②(参考) 奈良朝現在一切經目錄2696 莊嚴集 ①(日)Shō-ko-shū. (支)Chuang-yen-shū. ①一巻 ②(参考) 入唐新求聖教目錄 莊嚴王陀羅尼呪經 ①(日)Shō-gōn-da-ra-ni-jū-kyō. (支)Chuang-yen-wang-t'o-lo-ni-chō-ching. (支)Sarvas-taha-gatadhīhānasattva-valokanabuddha-kyērasandarsān-ryōkarjū-sūtra. (藏傳) ②Hphags-pa de-bshin-gcegs-pa thams-cad kyibyan-gyis-tabs sems-can lag-zigs chen sa-sar-gyas kyi shins gi bkod-pa kun-tu-ston-pa shes-bya-ba theg-pa chen-poju mdo. 莊嚴經、雜密經、施護發法 ③一巻 ④存、大正一一・八九四No. 1375-縮成八二二・六、北461羊、南474羊、元469羊、明北500行、清500行、麗465葉、天467葉、法華經、至650次、明南67行、隋504 ⑤唐義淨(貞觀九一先天二A. D. 635-713)譯 ⑥佛、布世洛迦山に在し、觀自在菩薩及び妙吉祥菩薩に告げて言く、經有り、一切如來所讚觀衆生示現佛刹莊嚴王陀羅尼と名づく、これ佛、初發心時、花光顯現如茶

神呪、軌則、功德を説き、金剛藏王は三部の呪を持し而も未だ成就者を防護せん爲に呪を説くに釋迦佛は五菩薩を讚歎し、毘盧遮那佛は此の經の流布の功德を説きたまふ。 本經は經錄には毘盧遮那別行經、大毘盧遮那三種悉地法、清淨毘盧遮那三種悉地等と云ふ。又これ別行經鈔上に蘇悉地中最極成就法也と云へる如く蘇悉地法を説ける者なり。 ⑦別行經鈔二巻、(日本大藏經密部章疏下二) ⑧寫本(京大藏、一六・一) (坪井徳光)

清淨法身毘盧遮那心地法門成就一切陀羅尼三種悉地 ①(日)Shō-jō-hō-shin-bi-ru-sha-na-shin-jō-hō-mō-jū-jū-ai-da-ra-ni-san-shū-shic-chū. 國譯清淨法身毘盧遮那心地法門成就一切陀羅尼三種悉地 ②存、國譯一切經密部第三 ③神林隆譯 清淨本覺問者ノ草 ①(日)Shō-jō-hō-gaku-mōn-jō-sō. ①一帖 ②存 ③德川時代寫 ④(實録院) 清信士阿夷扇持經 ①(日)Shō-shin-jū-ai-sen-ji-kyō. (支)Ch'ing-hsin-shū-a-t-shao-ch'i-ching. ①一巻 ②失譯 ③生經第五卷の抄出 ④(参考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六 ⑤清辨護法空有諍論 ①(日)Shō-ben-go-hō-kō-u-jō-ron. 空有成不成諍論

に開きたてまつるれるものなりと。次で勝持及び書寫の功德、神呪を説き、終に功德成就の修法及び如法修法者は捨身の後必ず極樂世界に往生し、壽命色力悉く皆具足すべしと説く。 本經は施護發法を説けるものなり。開元錄第九に曰く、大足元年(A. D. 702)東都大福光寺に於て譯すと。 ④(参考) 開元錄第九 (坪井徳光) 莊嚴記 ①(日)Shō-gōn-ki. 推邪輪莊嚴記 ①一巻 ②存、淨土宗全書第八 ③高辨(承安三)貞永元 A. D. 1173-1232)の説を見よ。 ④(参考) 諸宗聖蹟錄第二下を見よ。 ⑤(参考) 諸宗聖蹟錄第二 莊嚴經 ①(日)Shō-gōn-kyō. (支)Chuang-yen-ching. 莊嚴王陀羅尼呪經、雜密經、雜護發法 ②一巻 ③存、大正一一・八九四No. 1375-縮成八二二・六、北461羊、南474羊、元469羊、明北500行、清500行、麗465葉、天467葉、法華經、至650次、明南67行、隋504 ⑤唐義淨(貞觀九一先天二A. D. 635-713)譯 ⑥(首、あ・い・中・九) 莊嚴供物錄 ①(日)Shō-gōn-ku-mōtsu-roku. ①一巻 ②最澄(神護景雲元年一弘一三A. D. 757-822)撰 ③(参考) 山家祖師撰述信目集卷上、密乘撰述目錄、本朝合撰撰述密部書目 莊嚴菩提心經 ①(日)Shō-gōn-bo-dai-shin-ching. (支)Chuang-yen-p'u-t'i-hsin-ching. 菩提心經 ①一巻 ②存、大正一〇・九六一No. 307 縮成八二二・六、北92次、南44次、元98次、明北95葉、清95葉

①一巻 ②(参考) 東城傳燈目錄卷下 清涼量決 ①(日)Shō-ben-ryō-ke-ssu. (支)Ch'ing-pien-liang-ch'ueh. ①一巻 ②(参考) 東城傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏 清涼遺考 ①(日)Shō-ryō-ko. ①一巻 ②存 ③名和宗源(天保六一明治二七 A. D. 1835-1894)編 ④明治一七刊(谷大、宗大・二七三)(龍大、一五〇二・一九七)明治二六刊(谷大、宗大・一三二)(帝國、一〇・一五二) 清涼譚 ①(日)Shō-ryō-dan. ①一巻 ②存 ③辻森要眼(慶應三一昭和五 A. D. 1867-1930)藤谷義宗共編 ④明治二六刊 ⑤(谷大、宗大・七四)(龍大、研眞) 唱經堂聖人千案 ①(日)Shō-kyō-dō-shō-an-sen-an. ③存、唱經堂藏書之内 ④寫本(帝國、一一四・二二三) 唱題勸發抄 ①(日)Shō-dai-kwam-pōtsu-shō. ①一巻 ②存 ③日興述 ④寫本(正大、一八四・二〇) 唱題抄見聞 ①(日)Shō-dai-shō-ken-mon. ①一巻 ②存 ③日成述 ④寫本(立大、D. O. 二四五) 唱題抄略要 ①(日)Shō-dai-shō-ryō-yō. ①一巻 ②存 ④寫本(立大、V. 一九七) 唱導禪師詩集 ①(日)Shō-dō-shi-shū. ①一巻 ②存 ③(参考) 禪師詩集 ①(日)Shō-dō-shi-shū. ①一巻 ②存 ③(真如藏) ④存

歷96伏、天91戒、指85伏、法89伏、至15十頁、明南90通、隋99 ④鳩摩羅什譯 ⑤蘇恭弘始二一一四(A. D. 402-412) ⑥元魏古迦夜譯大方廣菩薩十地經と同趣意のもので、菩提心の如何なるものであるか、其の進展し行く様、即十波羅蜜・十地を明し、各地所屬の三摩地・地相・所得の陀羅尼を譯し、終りに十波羅蜜の一々を十種に分けて之を説明し、波羅蜜の意義を與つて居る。 莊嚴菩提心經 ①(日)Shō-gōn-bo-dai-shin-kyō. 國譯莊嚴菩提心經 ②存、國譯一切經律部第四 ③雜密經 ④(支)Chuang-yen-tai-shin-kyō. 大業莊嚴經論疏 ①(支)Chuang-yen-tai-shin-ku. 唐代慧淨述 ②(参考) 奈良朝現在一切經目錄2350 涉典續紹 ①(日)Shō-ten-zoku-shū. 正法眼藏涉典續紹 ②六巻 ③存、正法眼藏註解全書之内 ④黃泉無着述 ⑤正法眼藏涉典續紹の下を見よ ⑥刊本(首、あ・い・中・九) 章安大師碑文 ①(日)Shō-an-dai-shi-hi-mon. (支)Chang-an-ta-shih-pai-wen. ①一巻 ②法宣撰 ③(参考) 傳教大師將來越州錄 章疏序並跋 ①(日)Shō-shō-jō-an-rabun-batsu. ③存、惠心僧都全集附錄之

名所行録 ①(名庫書)表題所見 ②月年の刊寫 ③(書考)書目附註 ④書目 ⑤説解書内 ⑥代年作書 ⑦書考 ⑧佚存 ⑨數巻 ⑩(名書)名題 ⑪號字數

生に同じと論じ、論議工高等の生活は全
て法に導かれしと説く。(撰題目)
勝軍地蔵秘法 ①(日) Shō-gun-ji-
so-ho. ②一巻 ③徳川時代寫
勝軍地蔵法 ①(日) Shō-gun-ji-
ho. ②一巻 ③徳川時代寫
勝軍比叢集記 ①(日) Shō-gun-ji-
70-shū-hi. ②一巻 ③(参考)
東城傳燈目錄卷下、注通法相宗章疏、請宗
章疏録第一
勝軍不動儀軌 ①(日) Shō-gun-ji-
do-gi-ki. (支) Shō-gun-ji-dō-pu-tsu-gi-ki.
勝軍儀軌、勝軍不動密儀軌、不動儀軌、
勝軍不動明王四十八使者密成儀軌 ②
一巻 ③存、大正二・三・三三No. 1305、
餘四、已録二・九三 ④唐通智(神龍元一
大曆九A.D. 705-710)譯 ⑤寫本(寶壽院)
勝軍不動秘密儀軌 ①(日) Shō-
gun-ji-dō-hi-mitsu-gi-ki. (支) Shō-
gun-ji-dō-hi-mitsu-gi-ki. 勝軍不動明王
四十八使者密成儀軌、勝軍不動儀軌、
勝軍儀軌 ②一巻 ③存、大正二・三・三
No. 1305、餘四、已録二・九三 ④唐不
空通智(神龍元一六曆九A.D. 705-710)集
成就儀軌 ⑤(日) Shō-gun-ji-dō-
jō-gi-ki. (本地) 不動明王
 ①(日) 俱利伽羅龍王 不動明王
 ①(日) 龍蓮華又王 阿闍佛
 ①(日) 尸棄大梵王 開敷華王佛

kyō-dō-shū-ji-hachi-shū-sha-ji-mitsu-jo-
ju-gi-ki. (支) Shō-gun-ji-dō-pu-tsu-gi-
wang-eki-shū-pa-shū-cha-pi-mitsu-
chin-ki-ki. 勝軍不動密儀軌、勝軍不
動儀軌、勝軍儀軌 ②一巻 ③存、大正二
一・二二No. 1205、餘四、已録二・九三
④唐通智(神龍元一六曆九A.D. 705-710)
集
 ①初に功德を説く中に於て、勝軍不動明王
とは、大日の心より出生せる五明王の一な
ることを示し、次に成就諸法を列ね、次に畫
像法として、身赤黄色にして赤衣を著し、
左手には鬚索、右手には其の首蓮華の葉狀
の如き鏡を把れる形像を畫すべきことを明
し、次に道場觀として、壇の中に須彌有り
上に赤蓮華有り、蓮華の上に樓閣有り、其
の中に聖石有り、聖石の中に佛(Shō)字有
り、字號じて勝軍不動尊として觀すべき
ことを説き、次に略布字法として、唯(ōn)
を頂に、轉(ōn)を用間に、日羅(Ta)を兩
肩に、阿左(ā)を上上に、夫々配すべき
ことを示し、次に護身、入佛三昧耶、法界
生、轉法輪、四方結界(無塔忍)、慈救、開
佛、華座、檀香、華鬘、燒香、飲食、燈
明、普供養等の作法印明を列ね、次に不動
尊像を明し、次に四十八使者の本地と形像
とが詳細に説いてある。今簡單に表で示す
と左の如くである。

① 初禪若干大梵王	阿闍陀佛	鉢	赤
② 二三四禪大明王	普賢菩薩	杖	黑
③ 三十三天各天王	文殊菩薩	杖	黑
④ 阿迦尼多天王	觀自在菩薩	杖	赤
⑤ 央俱將迦羅王	彌勒菩薩	杖	赤
⑥ 修羅金縛王	拘那含牟尼佛	杖	黑
⑦ 大鉢沙羅王	毘婆沙佛	杖	黑
⑧ 拔苦婆多羅王	毘婆沙佛	杖	黑
⑨ 多羅迦王	毘婆沙佛	杖	黑
⑩ 牛頭馬頭王	觀自在菩薩	杖	赤
⑪ 光炎摩訶王	觀自在菩薩	杖	赤
⑫ 五天人散羅王	毘沙門天	杖	赤
⑬ 神母大小諸王	延命菩薩	杖	赤
⑭ 翅龍迦羅大王	准提觀音	杖	赤
⑮ 迦羅迦羅法王	千手觀音	杖	赤
⑯ 藥叉諸天王	妙見菩薩	杖	赤
⑰ 三界授天大王	藥王菩薩	杖	赤
⑱ 俱多羅化天王	藥上菩薩	杖	赤
⑲ 火羅諸天王	地藏菩薩	杖	赤
⑳ 皆攝持天王	龍樹菩薩	杖	赤
(右使者)	(本地)	(右手)	(左手)
① 金剛修羅王	勢至菩薩	杖	黑
② 神王引攝大士王	吉祥天女	杖	赤
③ 二十八宿諸大王	觀自在菩薩	杖	赤
④ 一切諸法受用王	思慮命那如來	杖	赤
⑤ 迦羅大呪大士王	無盡意菩薩	杖	赤
⑥ 一各有大士王	妙音菩薩	杖	赤
⑦ 護持諸法王	陀羅尼菩薩	杖	赤
⑧ 吽發多羅王	虛空藏菩薩	杖	赤
⑨ 蘇小拔苦王	茶吉尼天	杖	赤
⑩ 忿忿大小神天王	奉教宮	杖	赤

名所行記 (名庫書) 西國所撰 月年の刊記 (書考參書註) 書末 説解管内 代年作書 書體 缺存 數卷 (名書) 名題 號地字數

(11) 那縛迦羅王 月天
 (12) 悉底地大士王 暗夜天
 (13) 神王眷屬大智王 娑羅羅王
 (14) 摩登迦羅天人王 那羅延天
 (15) 天地受用大明王 廣目天
 (16) 請神皆得大王 水天
 (17) 一一東西南北王 辯才天
 (18) 密呪受持王 羅刹天
 (19) 迦葉大王 阿修羅王
 (20) 沙羅伽大神王 滿意天
 (21) 莫呪大呪大明王 大日如來
 (22) 會集神王 遍智天
 (23) 太一德王 普世天
 (24) 一切諸神王 火天

向右の外、これ等使者の本誓も示してあ
るが、煩を恐れて省略する。此の四十八使
者は、勝軍不動明王が、持法の行者を守護
する爲に現じた諸鬼王の身であつて、左使
者は發心修行の義を證し、右使者は修果成
佛の義を顯すと云つてある。更に末尾に
は、法界生の眞言を誦じて、大自在天
(Mahāvairocana) を蘇息せしめる法が説かれて
ある。
 本書は不空三藏が、天竺國婆羅門僧通智
と共に、詔を奉じて集したことになつて居
るが、然し通智の傳が未詳であるばかりで
なく、儀軌とは云へ、般若(Pratyak)菩薩が
佛前に於て之を説いたものであつて、完全
に胎藏部に屬する經であるから、題名と内
容とが一致してゐない。且つ尼盧舍那如來
と言ひ或は四十八使者の中には、本誓や形
色が脱落して居るものもあり、疎漏な

等處是後十卷抄外等法之也云云とある。
 この勝定房が惠什のことで、十卷抄とは同
儀抄又は尊勝抄と稱せらるゝ密法關係の
有名なる書である。又曼印の付法心覺が著
はせる心覺抄は本書を基として記したと稱
せられたる。
勝光王禮佛經 ①(日) Shō-kō-
shō-ō-ki. (支) Shō-kō-
shō-ō-ki. ①一巻 ②存、大正二・三・三
No. 1305、餘四、已録二・九三 ③唐不
空通智(神龍元一六曆九A.D. 705-710)集
成就儀軌 ④(日) Shō-kō-
shō-ō-ki. (本地) 不動明王
 ①(日) 俱利伽羅龍王 不動明王
 ①(日) 龍蓮華又王 阿闍佛
 ①(日) 尸棄大梵王 開敷華王佛

勝軍不動明王四十八使者秘密成就儀軌
 ①(日) Shō-gun-ji-dō-hi-mitsu-gi-ki. (本地) 不動明王
 ①(日) 俱利伽羅龍王 不動明王
 ①(日) 龍蓮華又王 阿闍佛
 ①(日) 尸棄大梵王 開敷華王佛

名所行記 (名庫書) 西國所撰 月年の刊記 (書考參書註) 書末 説解管内 代年作書 書體 缺存 數卷 (名書) 名題 號地字數

—yāng-do-to-lo-ni-ching (梵) Dvaigara-
Kerpa (寫本) ①一卷 存 大正二一・
九二五No.145 縮成八、記一五・四、北
1173家、南1183家、元1183家、明北833命、
清833命、麗1170命、天1168家、法1284命、
至735海、明南843命、元838 ①宋施護譯
①雜部密教の所屬にして、除障法を明す。
釋尊が喜樂山頂の天宮に於て、大梵天王
(Mahabrahma)及び觀世音(Avalokitesava-
ra)菩薩の爲に、此の勝鬘理持陀羅尼一首
と、其の功徳とを説き、能く之を受持し讀
誦すれば、所有の五逆重罪悉く皆滅盡し
し、大富貴を獲、當來世には上族に生るゝ
んやを得と云々。

勝峯山峨眉光傳 ①(日) Shō-bun-
na-ga-hi-kō-den. (支) Shēng-feng-shan
-pei-kuang-ch'uan. ④四卷 存 ①
明 明光集 ②寫本(京大、藏・二〇・四)
③(支) Shō-fu-taka-
-jo-jo-do-kyō(支) Shēng-fu-wang-shēng-
-ching-t'u-ching. 拔濟苦難陀羅尼經、拔濟
苦難經 ②一卷 存 大正二一・九二二
No.1393 縮成七、記一五、北441蓋、
南本4蓋、元453蓋、明北496行、清466行、
麗453行、天475蓋、指433蓋、法499蓋、至
639蓋、明南456行、元490 ①拔濟苦難陀
羅尼經の下を見よ。

勝佛頂儀軌 ①(日) Shō-bu-chō-
-gi-ki. ①一帖 存 ①南北朝時代寫 ①
(寶壽院藏)

勝寶院門跡列祖次第 ①(日) Shō-
-bō-in-mon-keki-ryō-ji-dai. ①存

續群書類從第四
①高祖弘法大師十二代の祖、勝寶院阿闍梨
額舜(佛頂房)に初まり、源寬(勝寶院已講、
定法師)、隆興(勝寶院法印、彌勒寺)、貞
鳴(勝寶院法印、鎌倉法印)、道勝(勝寶院
法務大僧正)、道順(勝寶院法務大僧正)、
道意(勝寶院法務大僧正)、道嚴(勝寶院僧
正)、道紹(勝寶院僧正)を経て勝寶院法眼
實定に至る十世の各稱號と出生に就いて略
記するもの。(不破幹雄)

勝寶感神聖武皇帝銅板詔書
①(日) Shō-bō-kan-jin-shō-ten-ko-
-ban-shō-shō. ①存 大日本佛教全書第一
二一東大寺藏書第一 ①聖武天皇 ①天平
勝寶五(A. D. 753)正月十五日

①本詔書は天平勝寶五年正月十五日、東大
寺落成の際、其の塔中に金字金光明最勝王
經一卷を安置し給へる時の勅額文で、現在
奈良正倉院に藏せられてある銅板の詔書で
ある。その内容を見るに、かの天平十九年
十一月己卯の詔と其意同じであつて、天平
十三年二月十四日に全國に國分寺造營を發
願せられた勅額と目的に就いて述べられて
ゐる。聖武帝の國分寺創立の意圖は、金光
明最勝王經の信仰に基くものであることは
天平十三年の詔勅に於て明かに示されてゐ
るので、其の目的が、此經を供養し流通する
時は四天王の擁護を受け、一切の災障疫
が除滅されること、説く本經の功徳を得ん爲
に在つたものであるが、例々當時に於つた
疫癘の流行が一層その直接の動機となつた
ものであらう。其の國分寺を以て金光明

四天王護國之僧寺となし、國分尼寺を法華
滅罪之尼寺と稱し、上下一致して金光明經
及法華經の二經を供養せしめ、その功徳を
以て國家安穩と萬民の除災招福を祈念され
たのである。本詔書に關して『古京遺文』に
其考證が見えてゐる。

①(正倉院藏) (不破幹雄)

勝寶皇寺御寶物品錄 ①(日) Shō-
-bō-ō-ji-go-hō-utsu-hin-roku. ①存
①(龍大、二九六五・二二二)

勝寶開講 ①(日) Shō-bō-kan-kō.
①一卷 ①最澄(神護景雲元一弘仁一三A.
D. 767-823)撰 ①(參考) 山家祖徳撰述
篇目集卷上

勝寶義記 ①(日) Shō-bō-gi-ki.
(支) Shō-bō-gi-ki. ①一卷 存 大
正八五・二五三No.2761

①本書はメタイン氏蒐集の燧燭出土寫本
で、跋記に依れば北魏の年號を有し、現存
せらるる數多き勝寶經の註釋書の中で、最古
の珍疏である。奥題並に後記は

勝寶義記一卷
宣統元年二月十四日寫 用紙十一張
とあり、北魏の正始元年(A. D. 504)の華
寫にかゝり、從來未だ曾て我國に將來せら
れざりしは勿論、抑も亦支那に於ても多く
の勝寶疏主と與り知られざりしもので、實
に稀代の逸品である。

本義記一部殘卷の結構は、首題缺如して
知り難きも、如來妙色身の偈文の中で、如

來色無盡の句釋以下より、經末流通
段に及び、各行三十字内外にして奥題を合
して、全部四百六行を存し、卷子本の全
長、大約十七呎に及び、筆體は雅致にして
雄勁である。本書に關しては、鳴沙餘韻の
解説第一部四九一五〇頁と第二部三二五四
頁の論文『北魏正始元年筆寫現存最古の勝
寶經義記に就いて』に、弘く諸目錄並に僧
傳に勝寶の古疏を搜りて本書の由来と其の
特質とを明にしてゐるので参照すべきもの
である。

①燧燭出土本(大英博物館藏・S. 2900)
(矢吹麗輝一蔵田昌信)

勝寶經 ①(日) Shō-bō-kyō. (支)
Shō-bō-kyō. ①一卷 ①缺 ①北涼
曇無讖(一正始三一一五A. D. 414-426-)
譯 ①第一譯 ①(參考) 開元錄第一四、
貞元錄第二四

勝寶經 ①(日) Shō-bō-kyō. (支)
Shō-bō-kyō. 勝鬘師子吼經、師子吼
方便方便廣經 ①一卷 存 大正一
二・二一七No.353 縮地二、記六・五、北
5推、南5推、元53推、明北53推、清55
推、麗53家、天53推、指53家、法53家、至
123有、明南53推、元53、譯學大系經論部
之内 ①劉宋 求那跋陀羅(太元一九一泰始
四A. D. 394-408)譯 ①勝鬘師子吼一乘大
方便方便廣經の下を見よ ①寶永元刊(大正一三
刊(正大、一七二・二〇)刊本(首、二・
左・九)

勝鬘經 ①(日) Shō-man-kyō. (支)
Shō-man-kyō. ①一卷 ①最澄撰 ①
(參考) 出三藏記第五、法華錄第二、仁壽
錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞
元錄第二八

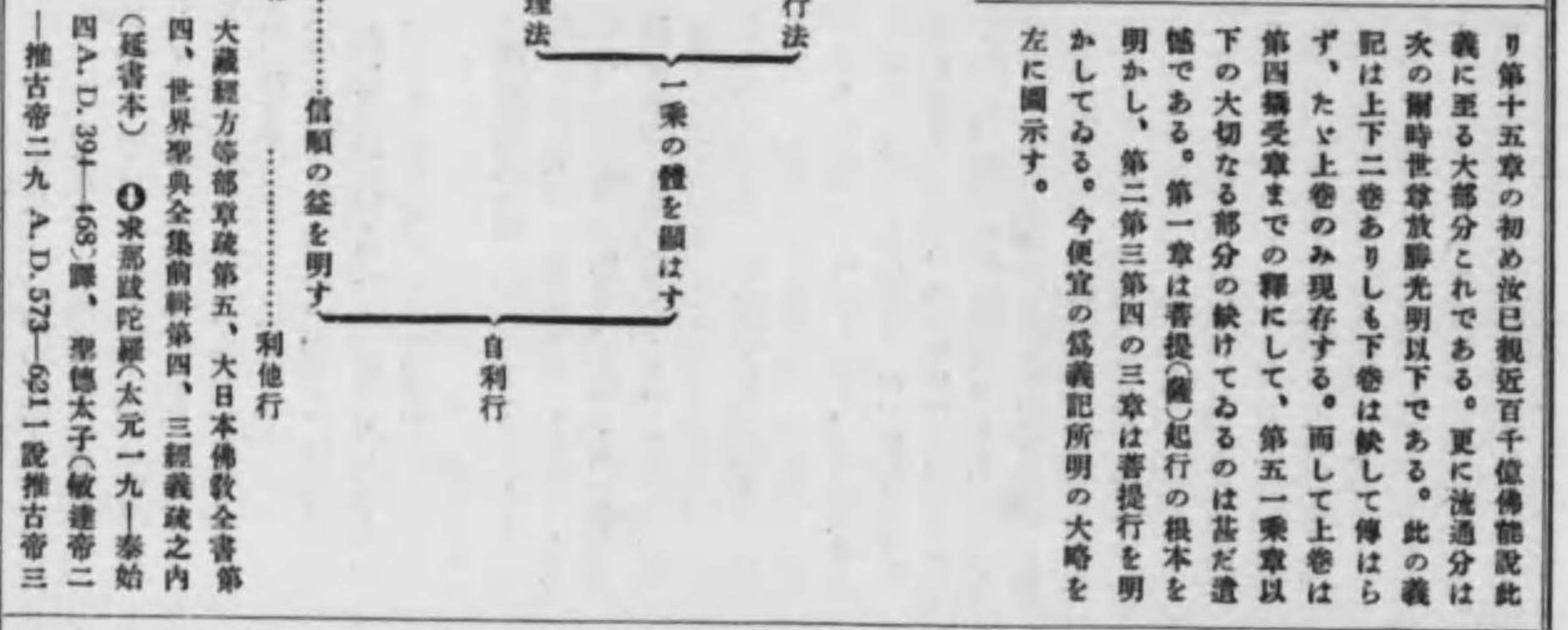
勝鬘經 ①(日) Shō-man-kyō. (支)
Shō-man-kyō. ①一卷 ①新羅元興
(真平王三九A. D. 617-) ①(參考) 花嚴
宗經論章疏目錄

勝鬘經 ①(日) Shō-man-kyō. ①一卷
存 ①河内豐海譯 ①大正二二刊 ①
(龍大、一・二六) ①東京世界の庫刊行會

勝鬘經記 ①(日) Shō-man-kyō-ki.
①二卷 存 ①勝尾良圓(文政一〇一明
治三八A. D. 1827-1905)述 ①明治一四
(A. D. 1881) ①寫本(谷大、輪大、一五七
下)

勝鬘經義記 ①(日) Shō-man-kyō-
-gi-ki. (支) Shō-man-kyō-gi-ki. ①一
卷(缺下卷) ①存 記續一・三〇・四 ①隋
慧遠(普通四一開皇一一A. D. 533-582)述
①聖教高亮なるも要はこれを大別して聲聞
藏と菩薩藏との二種に分ち得る。更に聲聞
藏を聞いて聲聞聲聞と聲聞聲聞となし、菩
薩藏を漸悟と頓悟とに分ち得る。而して本
經は此の二藏の中菩薩藏に收められ、根熟
人の爲の頓悟の法輪である。本經は詳しく
は勝鬘師子吼一乘大方便方便廣經と稱す。此
の經名はその所説の内容を總稱して名づけ
しものである。即ち勝鬘師子吼とは本經を
十五章に分ち、第十五勝鬘章より得たも
のであり且つ又本經を師子吼せる勝鬘夫人

の名を題したものである。次に一乘とは第五
一乘章より取れるものにして、一乘は今經
に於て強要せる根本義である。更に大方便
とは前四章の所説より名づけ、方便とは第
六無邊證章より第十三自性清淨章に至る
まで一乘の理法を包含するが故に名づけし
ものである。次に本經を三分して序分正宗
分流通分とす。此内序分を分ちて發起序と
證信序とし、第一章の中の第四頌即ち歡佛
實功徳までを發起序となし、第十五勝鬘章
中佛が阿難に所傳せるを證信序となす。次
に正宗分は第一章中第五頌、如來妙色身よ
り第十五章の初め迄已親近百千億佛説此
義に至る大部分これである。更に流通分は
次の爾時世尊放勝光明以下である。此の義
記は上下二卷ありし下巻は缺して傳はら
ず、たゞ上巻のみ現存する。而して上巻は
第四獨受章までの釋にして、第五一乘章以
下の大切なる部分の缺けてゐるのは甚だ遺
憾である。第一章は善提提(起行の根本を
明かし、第二章は善提提(起行の根本を
明かし、第三章は善提提(起行の根本を
明かし、今便宜の爲義記所明の大略を
左に圖示す。



○源(製)
①聖德太子が、推古天皇の御前に於て、勝
鬘經の御講讀のあつたことは、史上有名な
事實である。其の御講讀の年に就いて異説
があり、日本書紀は推古十四年とし、法王
帝説は推古六年といふ説である。十四年説
は、法華講讀と混同した疑があるから、六
年説が正しいかと思ふ。然し御講讀は三日
にして終つたとあるから、極めて要領を講
ぜられしものと推察される。講讀の場所
は、一般に後の講讀のある所で、こゝはも
と天皇の離宮の在りし所といふことであ
る。太子の講讀御製作も、之と關係のある
もので、多分講讀の必要から研究を御進め
になつたものか、或は既に御製疏の御意志
で、大體の組織の立てられしものにより、
略して講讀したまひしものであらう。義
疏御製作の年代に就いては、太子補闕記に
は、推古の十七年四月起稿、十九年正月に
脱稿せられたと傳へて居る。尤も之にも異
説ありて、古今目録抄には、現今流布する
ものは略疏であり、之を初疏とし、後に更
に廣疏を著せられた。これ後疏であると言
つて居る。然しこれは信じ難い。推古の十
七年は、太子御年三十六歳である。此の義
疏は、本經を解するに、序正流通の三大科
に分つことは常の如くであるが、更に正宗
分をば、本經末文の語によりて、十四章に
分ち、以て全經を秩序的に説明して居るの
である。即ち所謂十四章とは、一、嘆佛眞
實功德章。二、十大受章。三、三大願章。
四、攝受正法章。五、一乘章。六、無邊聖

【シ】

勝章。七、如來藏章。八、法身章。九、空義隱覆真章。十、一勝章。十一、一依章。十二、顯倒眞章。十三、自性清淨章。十四、如來眞子章。

此の十四章の中で、初五章は「乘の類」、次ぎの八章は「乘の類」を明し、最後の一章は、「乘を御する人」を明すと列して居る。要するに此の書、古來勝義經を註するものの中、簡潔にして、最も要領を得たるものとして推される所である。本書引くところの「本義に云く」としてある原本は、果して何であり、誰の説であるかは、今日では推測を許さないのであるが、太子は蓋し之を本として、自己の意見を加へ、製作したまふものと見らるゝのである。

更に釋を施したものである。明空は惟揚法雲寺の僧とあり、天台の妙樂大師荆溪の弟子であると云はれて居る。偶々觀山の慈覺大師が支那に赴くや、此の書を得て頗る其の因縁の奇に驚き、至念に之を寫し、携帶して歸朝し、世に弘まつたものである。

①刊本(京大、藏・九・二)(龍大、研佛)寫本(谷大、餘大・一七〇三) (瑠野黄洋)

勝義經口義 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②四卷 ③存 ④附録(一)天明三A. D. 1782. ⑤寫本(谷大、餘大・一五七六)

勝義經關宗鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②三卷 ③存、日本大藏經方部部章疏第五、大日本佛教全書第五 ④普寂(實永四)天明元A. D. 1781. ⑤德川時代に於ける、一大學者として推重せらるゝ、淨土宗の普寂徳門が、主として太子の義疏に基き、佛菩薩の勝義經寶窟の說を参照し、普寂自己の見解によつて取捨し、新意を加へて成す所である。其の太子の義疏に就いては、上宮の義疏は、其の文簡なりと雖、其の義最も豊なり、方等の玄微を申明し、修證の御府を陶甌す、謂ひつべし此の經の可なりといひ、又、其れ事義文辭を詳にし、實以創學の識智を擴むる者は、宜なり、實より精しくはなし、其の藏性の顯義を究め、以て權實の兩義を探る者は、聖皇の義疏獨り其の美を擅にす。二家各此の經を解するに利ありと雖、而も上宮の疏、特に其の右に居るしと言つて居る。其の太子義疏に重きを置きしことは推

して知るべきである。然しながら其の分科に註して、「分科の大綱は上宮の疏に依る、但し一乘章は、半ね寶窟を事とし」と言つて居るので寶窟にも取り、創見も加へしことが、略ぼ推知するものである。

①安永九刊(正大、一七七一・一四一五)(龍大、二四一五・二二五)(谷大、餘大・九五)寫本(龍大、二四一五・二二六) (瑠野黄洋)

勝義經述記 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu-chi. ③二卷或一卷 ④存、記續一・三〇・四 ⑤唐靈基(貞觀六)永淳元A. D. 632. ⑥説、義合記

①本經を三分して由致分と廣説分と依行分とす。由致分は第一章の初四頌までにして、これに通叙と別叙とあり、更に別叙を四分して一、平章遺信。二、勝義喜誦(勝義得書以下)。三、佛現在世(即生此念時以下)。四、接歡歸證(勝義及眷屬以下)とす。廣説分は第一章の第五頌如來妙色身より第十五勝義章の初め故已親近百千億佛能説此義に至るまでにして、その内容を區分すれば(下段別表)の如くである。

依行分は第十五勝義章の時世尊放勝光明以下にして、これを三分して一、如來等遊。二、大乘奉行(時世尊入祇洹以下)。三、大乘奉行(時世尊入祇洹以下)とす。

此の述記は慈恩法師の説けるものを有人これを書寫し、慈恩法師の撰撰二年の夏洛都東太原寺に於て門人義合が更にこれを

如來眞實功德章第一
十受章第二
三願章第三
攝受章第四
一乘章第五
無邊聖壽章第六
如來藏章第七
法身章第八
空義隱覆眞章第九
一勝章第十
一依章第十一
顯倒眞章第十二
自性清淨章第十三
如來眞子章第十四
……辨人
……利他行
……修萬行
……自利行

如來眞實功德章第一 …… 行
十受章第二 …… 果
三願章第三 …… 明法
攝受章第四 …… 教理
一乘章第五 …… 辨人
無邊聖壽章第六 …… 利他行
如來藏章第七 …… 修萬行
法身章第八 …… 自利行
空義隱覆眞章第九 …… 辨人
一勝章第十 …… 利他行
一依章第十一 …… 修萬行
顯倒眞章第十二 …… 自利行
自性清淨章第十三 …… 辨人
如來眞子章第十四 …… 利他行

校正して記せるものである。此の述記は隋慧遠の撰せる勝義經義記と比するに、その釋經に際して佛地論、攝論、唯識論、成唯識論等の唯識唯識系の諸經論を引用してゐる點は特に注目すべきである。

①(支)Sheng-man-ching-shu. ②一巻 ③存、大正八五・二六二・No. 2763 ④照法師撰

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③一巻 ④存、大正八五・二六二・No. 2763 ⑤照法師撰

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③一巻 ④存、大正八五・二六二・No. 2763 ⑤照法師撰

名所行記◎ (名庫書)高麗所撰◎ 月年の刊寫◎ (書考)書影註◎ 書末◎ 説解存内◎ 代年作撰◎ 書者◎ 撰存◎ 教書◎ (名書)名題◎ 號地字號

【シ】

延昌四年五月二十三日於京承明寺寫勝義經一部高昌道人得受所供贊許

とあるに依れば、本書は勝義經疏の筆寫本たるを知る。江字は法の寫誤なれば、照法師といふ人の註釋書で、延昌四年に就いては高昌のそれと、北魏の延昌とあり。こゝではその何れかは定め難き。北魏の延昌四年ならば、西紀五一五に當り、高昌のそれならば西紀五六四に當り、略五十年間の差異を見る。照法師の傳未だ詳かでない。

本書は經首「勝義夫人是我之女(中略)心得無憂」の句釋に始つて、經末の流通結題に及んでゐる。一經を十五章に分ち、同じく煥爛本の正始義記や慧遠の義記などに似て、十五章と見えてゐる。太子の勝義疏は十四章となし、兩者の間に差異を見る。本疏を通讀して見るに、本經の文句を細釋するに當り、後代の如く徒らに博引傍證に努め、訓詁の弊に陥るの風なく、専ら、一經の大宗大義を闡明して、直に佛道修行の實際に適用せんとしたることに注目すべきである。其の點、他の正始の義記に於ても認めらるゝ所である。勝義經研究者に取りて必讀の書で、又良參考書である。鳴沙餘韻解説第一部五〇一五三頁を参照せよ。

①煥爛出土本(大英博物館藏S. 834) (矢吹、慶應一成田昌信)

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

勝義經疏私鈔 ①(日)Shōman-kyō-shū. ②(支)Sheng-man-ching-shu. ③二巻 ④唐代通倫述 ⑤(參考)新編諸宗藏疏總錄第一

名所行記◎ (名庫書)高麗所撰◎ 月年の刊寫◎ (書考)書影註◎ 書末◎ 説解存内◎ 代年作撰◎ 書者◎ 撰存◎ 教書◎ (名書)名題◎ 號地字號

【シ】

顯宗鈔の下を見よ ④寫本(龍大、二四一五・二二六)安永九刊(正大、一一七一・一四一五)龍大、二四一五・二二五(谷大、餘大・九五)

勝鬘師子吼一乘大方廣經

①(S)Shō-man-shi-shi-ku-ichi-jō-dai-hō-ben-shō-kyō (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼一乘大方廣經、勝鬘經、師子吼經、勝鬘師子吼經、師子吼方廣經、勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443)

⑥求那跋陀羅三藏、劉宋文帝元嘉十三年八月十四日、丹陽都にて譯出す。此は求那跋陀羅の支那に來た聖なること、譯者は未だ支那語には通じて居なかつたと思ふ。故に譯すと云つても、譯主として、印度語にて之を講述し、其の經意を明にしたので、之を聞いて支那語に轉じたのは、實に實徳の力である。此の經の特色は、純小乘を破斥して、大小二乘の一致、即ち大乘を離れて小乘の成立しないことを明し、次に大乘の體としての各人の如來藏を開明し、本性清淨なることを示

し、本性開顯すれば、即ち法身現出して、成佛の大道に歸することを述べ、しかも此の經は勝鬘夫人なる一女性が、佛の威神力を蒙りて、全體を説けることを大體の形式として居るので、男女二者平等の妙境を暗示し、以て男女平等の、舊來の一般思想を打破したる所にあるのである。

勝鬘師子吼一乘大方廣經

⑦光緒三三刊(京大、一・五)寛文二二刊(谷大、餘大・一六二七)(高、寄・一・二二)寛永元刊(高、寄・一・二二)正大、一一・一・一一(瑛野實洋) ⑧(S)Shō-man-shi-shi-ku-ichi-jō-dai-hō-ben-shō-kyō. 國譯勝鬘師子吼一乘大方廣經 ⑨存、國譯大藏經各部第三 ⑩瑛野實洋譯

勝鬘師子吼經 ①(S)Shō-man-shi-shi-ku-iching (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經、勝鬘經、師子吼方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二)

勝鬘上宮疏 ①(S)Shō-man-shō (支) Shōng-man-shū (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. ②存、大正五・一No. 2185、日本大藏經方部章疏第五、大日本佛教全書第四、世界聖典全集前輯第四、三藏經疏之内海印題譯之内 ③勝鬘太子(敏達帝二)推古帝二九A. D. 573—631一説推古帝三〇(敏) ④勝鬘經疏の下を見よ。 ⑤寫本(龍大、二〇三・一一)

勝鬘夫人會

①(S)Shō-man-hui (支) Shōng-man-hui (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. ②存、大寶積經第四八(大正一一・六七二) ③唐菩提流志(大建四一開元一五A. D. 672—727)譯 ④求那跋陀羅譯勝鬘經の再出であつて、菩提流志三藏が、大寶積經の全部を譯し、翻譯するに當り、大寶積一百二十卷、四十九卷の内、一百十九卷第四十八會に加へられたものである。内容は、求那譯と大差はなす。(瑛野實洋)

勝鬘夫人本緣經 ①(S)Shō-man-hui (支) Shōng-man-hui (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. ②存、大正三・一No. 174、指一・三〇・三 ③隋吉藏(太清三)武徳六A. D. 549—633)譯 ④支那で製作された勝鬘經註疏中で、最も評語を極めて居るの、後世の學者此の經を學ぶもの、専ら此の註を依用して來て居ることである。著者吉藏高僧大師は「余餘味すること既に重く、隨年累ね、古今を拮据し、經論を搜檢し、其の文支を得し、勸して三卷を成す」とあるので、自ら得意の作たることを想像せしむるに足るのである。三卷を更に六卷となすものは、後世の便に隨ふのである。太子義疏は正宗全體を十四大段に區分せるに對し、此の寶窟は之れを十五章となし、前の十三章を正說法とし、後二章を勸信護法とし、また正說法十

七二) ⑤唐菩提流志(大建四一開元一五A. D. 672—727)譯 ⑥求那跋陀羅譯勝鬘經の再出であつて、菩提流志三藏が、大寶積經の全部を譯し、翻譯するに當り、大寶積一百二十卷、四十九卷の内、一百十九卷第四十八會に加へられたものである。内容は、求那譯と大差はなす。(瑛野實洋)

勝鬘夫人本緣經

①(S)Shō-man-hui (支) Shōng-man-hui (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. ②存、大正三・一No. 174、指一・三〇・三 ③隋吉藏(太清三)武徳六A. D. 549—633)譯 ④支那で製作された勝鬘經註疏中で、最も評語を極めて居るの、後世の學者此の經を學ぶもの、専ら此の註を依用して來て居ることである。著者吉藏高僧大師は「余餘味すること既に重く、隨年累ね、古今を拮据し、經論を搜檢し、其の文支を得し、勸して三卷を成す」とあるので、自ら得意の作たることを想像せしむるに足るのである。三卷を更に六卷となすものは、後世の便に隨ふのである。太子義疏は正宗全體を十四大段に區分せるに對し、此の寶窟は之れを十五章となし、前の十三章を正說法とし、後二章を勸信護法とし、また正說法十

第一章に蛇龍麻の三喻が説かれて居るのであるが、こゝには麻の代りに分(又は長行には支分)とせられて居る。此の喻は一切の境は纏に喩へらるゝ依他性のもので因縁法たるに過ぎないが、凡夫は、之れを蛇と計度妄想し蛇想によつて恐怖等の心を起して居るも、元來纏に過ぎないことを知れば分別性たる蛇の解は消滅するに至るに相違ないし、更に又之れと同じく依他性の纏も麻であり、分が纏と現はれて居るに外ならぬことを了知し得れば纏の解も亦消滅すること蛇の解の如くで分のみとなり遂には分も留まらぬに至り眞實性となるといふのである。第二頌に於ては此の喻を諸有の假設の事にあて、説いて一切は世俗諦の境となし、第三頌では、恰も麻又は分に當る如き種數が残ると考へられむも至種數は非有と同じで惑亂心の所産のみとなすのであるから、此の所縁の無から當然種數の非有がいはねばならぬとなし、所謂境俱滅が其の最後點なることを表はして居る。第五頌は以上を實踐に適用して煩惱斷除に進むべきを説くのである。最後の別頌は以上のいはい、自利の行を利他の方面に向はしめ、和光同塵の同事に於て化他に努め其の間にも眞勝義を明にして共に解脱に至るべきを勸むるものである。かく一覽するに此の論は甚だ要領を得た簡潔な論なることが判る、まさにこれ陳那菩薩が攝大乘論に基いて簡潔にかく述べたもので、菩薩にはかかる簡潔にして要領を得た著者が少くない。漢譯に傳はらなかつた入聲論の如き

【シ】

三章の中で、初めの三章を説を起すの方便とし、次ぎの十章が、眞の正説段と見て居るのである。

勝鬘師子吼一乘大方廣經

①(S)Shō-man-shi-shi-ku-ichi-jō-dai-hō-ben-shō-kyō (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼一乘大方廣經、勝鬘經、師子吼經、勝鬘師子吼經、師子吼方廣經、勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443)

大、二六五・一七) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二) ⑦勝鬘師子吼經 ⑧(S)Shō-man-shi-shi-ku-iching (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經、勝鬘經、師子吼方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二)

勝鬘師子吼經

①(S)Shō-man-shi-shi-ku-iching (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經、勝鬘經、師子吼方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二)

一般に選いものであるから、たとひ此の論が西蔵に譯された時既に提婆菩薩の著とせられて居たにしても、漢譯よりも後であるが、此の論の著者に關する説としても、漢譯の方が古傳である。又義淨三藏は印度に留まつたこと長く、印度で此の論を自ら得て來たのであるから、陳那菩薩の著となすことも印度の説である。西蔵の提婆菩薩説も、たとひそれが印度の説であつて決して西蔵に來てからいへるに至つたのではないにしても、年代上西蔵に傳はつた説の方が新しい。故にかゝる點のみでいうても古説たる陳那菩薩説を眞と認む可である。然し既に傳説が一致しない以上は、一層決定的となる根據は之れを此の論中の内容に求むべきである。其の内容は所謂蛇龍麻の三喻によつて唯識無境を明すにあるのであるから、かゝる説が提婆菩薩の時代に存する所以は、到底考へらるゝことでない。殊に蛇龍麻の三喻は元來攝大乘論に於て説かれたものであつて、從つて此の論はそれに基づいて、簡単に纏めたものであると見らる。故に此の内容は唯識行派の人たる陳那菩薩の著となす方が正しいと考へらるゝ。從つて時に學者が兩傳説を折衷して論中の頌文は提婆作で釋文が陳那造であらうとなすのも決して承認せられ得る説でないといはねばならぬ。

勝鬘師子吼經

①(S)Shō-man-shi-shi-ku-iching (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經、勝鬘經、師子吼方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二)

本論は極めて簡單なものであつて、僅かに六頌と長行とから成つて居る。而も最後の頌は別頌といはれて居るから、本論に屬するものとしては五頌のみである。

勝鬘師子吼經

①(S)Shō-man-shi-shi-ku-iching (支) Shōng-man-shi-shi-ku-iching (梵) Śrīmālā-sūtra-nāda-sūtra (引用)(藏)Hphags-pa lha-mo dpa'i-phreṅ gi sde-gehi sgra shee-pya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 勝鬘師子吼經、勝鬘大方廣經、勝鬘經、師子吼方廣經 ②一巻 ③存、大正一一・二七No. 353、縮地一一、二六・五、北54推、南53推、元52推、明北55推、清55推、麗55推、天53推、指46卷、法54卷、至122有、明南53推、天59 ④求那跋陀羅譯 ⑤劉宋元嘉一一〇(A. D. 435—443) ⑥寛文二二刊(高、寄・一・二二)

【シ】

て總じて空を立つるも遠表にして詮表に非ず、俗神に約しては心境並有と立つるも正しくは唯識の義を立つ、勝義に約しては心境並無と立つ、然らば何によつて唯識の義を立つるや。答曰、護法は識が境を現するの能變所變門に約して唯識を立つ、清辨は境によりて識を生ずとの境因識果の門に依つて唯識を立つ(何れも俗に依る)廣百論疏十(何人の疏なりやは不明)に若問世説唯識者、亦應隨世故、說唯境と云ふ。境無くば心生ぜず、又境は常恒、心は間絶する故唯識と説くと論じ、以上かく清辨護法の宗義を略述し了りて後に撰者は私見を以て云ふ、凡て清辨の義は支婁迦濕那の何故に餘師言を加ふるや(支婁の義即ち唯識の義)、即ち護法の義を以て正義とすべし(の義か)支婁已に基師(慈恩)に授け、此の系統以外に何人か入竺して清辨の義を受けたりや、諸三論家は皆基師に(清辨の義を)受く、然るに今誰に依つて選つて師を評するや(護法師當時の論争を思ふべし)。又智度、中・十二の三論は龍樹造及び百廣百二論は提婆の造にして支婁譯の廣百論を除いて餘は羅什の所譯なり、羅什は悉有佛性の義を立せず(一)、今三論師誰の所説を受けて悉有佛性の義を立つるやと本論を終る。要するに本論一巻法相宗の立場より空・有の評論を述論し護法を以て中道の正義を説くものとして掲げ、清辨を以て偏空に墮するの過を犯すものと判定せんとするものゝ如し、その清辨辨解、從つてその判定の是非は遂に首肯し難かるべし、唯空・有評論に

關する文献として珍重すべきものゝ一ならんか。
次に撰者秀法師に就いては不明なるも寫本の奥書によれば、最初の寫本は保元元年(A. D. 1156)に已に藏後の弟子覺憲によりて爲されたより見て藏俊以前の人なることを知るべく、又寫傳の人々が皆法相宗の人となることより秀法師も亦然りしを察し得べし。今試みに藏俊等より法相宗系譜を辿りて此の名を探るに派秀等を得れども果して此の人なるや否やは審ならず。最後の寫本は藥師寺僧大同房基辨(A. D. 1722-1791)によりて安永二年に成されしものなり。
●享保三寫 (谷大、長保・二五四)寫本(藥師寺藏本) (遠藤二平)
●掌珍量體注 (日)Sho-chin-ron-jo-chi-sho 掌珍量體 一巻 存、大正六五・二六六頁、1935、大日本佛教全集書第八〇、日本大藏經家珍智度宗論章疏 一、秀法師述
●掌珍論 (日)Sho-chin-ron. (支)Chang-chen-ron. 大乘掌珍論 二巻 存、大正三〇・二六八頁、1978、續書五、三三三・三四、北622頁、南636頁、元638頁、明北1231性、清1231性、藏627則、天632則、指585則、法610則、至1344條、南明1270條、Nj. 1237 一、清辨菩薩藏、唐支婁(仁壽二)翻德元A. D. 602-664譯
●本論は上下兩卷に分れ、上巻最初の總序に於ては法相の無自性空の理を證つて法性に入り、煩惱より解脱せしめて、以て有情を饒益せんとする造論の目的が宣示せら

れ、次いで本論の主題たる「眞性有爲空、如幻緣生故、無爲無有實、不起假空華」といふ一偈が掲げられてゐる。その前の二句「眞性には有爲は空なり、幻の如し、緣生なるが故に」と云ふは、有爲の空を立言したものであつて、以下の上巻全部はその立量の意義を説明したものであり、その後の二句「無爲は實有ることなし、不起なればなり、空華に似たり」と云ふは、無爲の空を立言したものであつて、その立量の意義は下巻に於て説明せられてゐる。かくして有爲無爲ともに空なることを夫々宗・因・喻の整然たる論理的形式を辿つて證明した後、本論の總結として「諸心慧境現、智者由不取、慧行無分別、無所行而行」といふ一偈を擧げ、分別を離れたる空智を以て八正道並に六波羅蜜を完成すべきことが力説せられてゐる。(利溪了讀)
●掌珍論義疏 (日)Sho-chin-ron-gi-sho. (支)Chang-chen-ron-gi-sho. 五巻 (參考) 東城傳燈目録卷下
●掌珍論古述 (日)Sho-chin-ron-ko-shaku. (支)Chang-chen-ron-ku-shi. 掌珍論古述記 一巻 (新編大買)一貫條五二二A. D. 753-754 (參考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏卷第一
●掌珍論古述記 (日)Sho-chin-ron-ko-shaku-ki. (支)Chang-chen-ron-ku-shi-ki. 掌珍論古述 一巻 (新編大買)一貫條五二二A. D. 753-754 (參考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏卷第一
●掌珍論宗要 (日)Sho-chin-ron-

shu-yo. (支)Chang-chen-ron-tsung-yao. 一巻 (新編元曉)眞平王三九A. D. 617 (參考) 新編諸宗章疏卷第三
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、注進法相章疏卷第一
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏卷第一
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、注進法相章疏卷第一
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏卷第一
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、注進法相章疏卷第一
●掌珍論疏 (日)Sho-chin-ron-sho. (支)Chang-chen-ron-sho. 二巻 (參考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏卷第一
●掌珍論問答 (日)Sho-chin-ron-

【シ】

mda-da. (支)Chang-chen-ron-mda-da. 二巻 (参考) 奈良朝現在一切經目錄2501, 2502
●焦山芥航和尚尺牘 (日)Sho-san-kai-kō-o-shō-seki-toku. (支)Chiao-shan-chieh-hang-ho-shang-ch'i-hu. 一巻 存
●清芥航撰 寫本(京大、藏・二四・六〇)
●焦山志 (日)Sho-san-shi. (支)Chiao-shan-shi. 二十六巻 存
●清代吳雲撰 同治九(A. D. 1870)
●焦山は、江蘇省鎮江縣に在り、揚子江中の一小島であつて、江岸の金山、北固山と鼎立して京口三山と稱せられ、古來、景勝の地として知られてゐる。山志は初め、明正徳年間に京口三山志なる舊志があつたが、明天啓年間、釋智先が輯録したのを清朝に入つて釋行藏、謝家樹、潘耒が共補し、又、釋詳印が增補して、志略と名づけられたものが基礎となり、乾隆年間には十二巻となり、道光年中、王柳村等が更に之を修輯したが、長髮賊の難に遭ふて散佚した。其後、吳雲が主として編纂して本書を完成したものである。内容目錄は、焦山全圖、卷首宸翰、卷一、山水、建置、卷二、三、周鼎、卷四、定陶鼎、雜器、卷五、六、釋藝銘、卷七、八、碑刻、卷九、高隱、卷十、方外、卷十一、雜識、卷十二、二十六、藝文といふ順序である。
●同治十三刊 (谷大、餘大・三七九四)
●駒大(水野梅曉文庫) (藤井草宜)

●焦山續志 (日)Sho-san-zoku-shi. (支)Chiao-shan-shu-shi. 八巻 存
●清代陳任鳴撰 光緒三〇(A. D. 1904)
●焦山志の成りしより三十五年の後、其の缺くるを補ふ、特に山水の中に就て水を詳細に述べてゐる。卷一、山水。卷二、建置。卷三、碑刻。卷四、方外。卷五、雜識。卷六、七、八、藝文。京口三山志焦山志、北固山志、金山志、參照。
●光緒三三刊 (水野梅曉文庫、藤井草宜文庫)
●焦尾帚 (日)Sho-bi-shū. (支)Chiao-we-i-chou. 存
●清德心(天授元)文安四A. D. 1375-1447 (參考) 日本釋林撰述書目、釋經目錄
●湘谿集 (日)Sho-kei-shū. 存
●本圖(兎半) (參考) 釋經目錄
●湘山野錄 (日)Sho-san-yū-roku. (支)Hsiang-shan-yeh-lu. 三巻 存
●宋文登撰 寫本(京大、藏・二四・六二)
●湘南和尚語錄 (日)Sho-nan-ō-shō-go-roku. 大鑑眞源禪師湘南和尚語錄 一巻 存
●宗沅(湘南)語、宗頌編 釋經目錄
●湘南葛藤錄 (日)Sho-nan-ka-tō-roku. 一巻 存 (參考) 釋經目錄
●相樹林指南記 (日)Shō-ji-in-shin-an-ki. 一巻 存
●舟舟宗胡(元和四)一元祿九A. D. 1618-1696)記 (參考) 釋經目錄

●相樹林大乘護國禪寺清規指南 一巻 (日)Shō-ji-in-dai-jō-go-koku-zen-ji-shin-gi-shi-nan-bo. 大乘寺内清規 二巻 存
●舟舟宗胡(元和四)一元祿九A. D. 1618-1696) 大正一四寫 (駒大)
●偏歌通經 (日)Shi-ka-tō-kyō. (支)Shang-ko-tō-ching. (日)A. 60 Saha-stra. 存、中阿含經第三五(大正一・六五〇No. 36, 143)
●聖一語錄並年譜注 (日)Shō-ichigo-roku-narabini-nen-pu-cha. 乾山 (參考) 日本釋林撰述書目
●聖一國師語錄 (日)Shō-ichigo-roku. 聖一國師住東福禪寺語錄 一巻 存、大正八〇・一七No. 334
●大日本佛教全集第九五、釋學大系祖師部第四、國師傳宗叢書第一〇、四爾爾國(建仁二)弘安三A. D. 1202-1280)語、虎關師錄(弘安元)貞和II A. D. 1278-1346)編
●東福寺開山勸修院光聖一國師開闢辨圓和尚の語録中の東福寺語録、法語、偈頌、佛祖贊、自贊、並に宋の孤山の無準師範、四明天童の了慧禪師の書牘を収めたものである。即ち弘安三年(A. D. 1280)十月十七日壽七十九の示寂より五十二年後の元徳三年(A. D. 1331)二月五日東福寺十五世三聖寺虎關師範師序文を附して校纂したものであつて、重刊は、元和六年(A. D. 1630)二月下流守藤の撰述にある如く、東福寺二百二十三世集雲守藤和尚が、聖一國師年譜再刊の助縁の餘資を以つて重刊し、東福寺藏板

として梓行したものである。三期は、文政十二年(A. D. 1829)十月虎關の法孫合村和尚等が捐資して、元和本を整理し、三林長老語以下六首の自贊を增補して、國師示寂の地たる東福寺常樂庵に留板し、刊行流通せしめたもので、佛教全書本、國師傳宗叢書本等は文政本を参照したものである。其の列次は、卷首に元徳三年二月五日虎關師範の序、次に東福寺に於ける上堂小參の語要三十二、示寂上人などの法語七、偈頌十六、佛祖贊六、自贊六並に無準師範の復書。宋寶祐三年三月二十五日天童了惠の書二通。元和六年本の守藤の撰述となつて居り、更に文政十二年本に依つて、六首の自贊を補入し、合村の撰述を以つて終つて居る。
●(參考) 扶桑釋林撰述書目 ①元和六刊(谷大、余大・二八六九)文政二刊(駒大) (京大、日大未・四六九)延寶三刊(帝國、八二・一一二七)大正九刊(駒大) (帝國、三三・二〇五)
●聖一國師住東福禪寺語錄 (日)Shō-ichigo-roku-shū-ji-ō-fuku-zen-ji-go-roku. 聖一國師語錄 一巻 存、大正八〇・一七No. 334、大日本佛教全集第九五、釋學大系祖師部第四、國師傳宗叢書第一〇、四爾爾國(建仁二)弘安三A. D. 1202-1280)語、虎關師錄(弘安元)貞和II A. D. 1278-1346)編 ②元和六刊 ③(龍大)二六七四・一〇
●聖一國師住東福禪寺語錄 (日)Shō-ichigo-roku-shū-ji-ō-fuku-zen-

【シ】

ch'i-lshang-ch'i-shih-t'o-lo-ni-ching. 大乘吉祥持世陀羅尼經、聖吉祥持世經
 ① 卷一、大正二〇・六六九No. 1164、縮成八・二一五・三、北10965、南1112、清・元1106、明・北782力、清782力、麗1101杜、天1095、法1213千、至772、明南778、清・元809、宋法天譯 ② 大乘吉祥持世陀羅尼經の下の見よ
 ③ 聖圖贊 ④ (日) Sho-kyo-san. ⑤ 四卷 ⑥ 存 ⑦ 良定(天文一三)寫本一六・A. D. 1541-1639) ⑧ 慶安四刊 ⑨ (正大、一〇九・二九一)
 ⑩ 聖行決 ⑪ (日) Sho-gyo-keisu. 聖行坊決 ⑫ (永承頃 A. D. 1046-1053) ⑬ (参考) 山家祖師撰述諸目集卷下、密乘撰述目録、請宗章疏錄第一
 ⑭ 聖行坊決 ⑮ (日) Sho-gyo-ho-keisu. 聖行決 ⑯ (院尊) 一水承頃 A. D. 1046-1053) ⑰
 ⑱ 本朝台祖撰述密部書目曰く「院昭アサリ記、アサリ抄所引、又佛註に曰く、院尊ナキニ、院々」
 ⑲ 聖教集必書者 ⑳ (日) Sho-gyo-a-tsume-gaki. ㉑ 一巻 ㉒ 存 ㉓ 文化一〇寫
 ㉔ (谷大、宗大、一五三三)
 ㉕ 聖教隱形 ㉖ (日) Sho-gyo-on-gyo. 天台圓宗至極口決血脈 ㉗ 一巻 ㉘ 存 ㉙ 忠孝記 ㉚ 寫本(正教藏)
 ㉛ 聖教開版諸記録 ㉜ (日) Sho-gyo-kai-han-sho-ki-roku. ㉝ 一巻 ㉞ 存 ㉟ 文化五寫 ㊱ (龍大、別館)
 ㊲ 聖教校合之記 ㊳ (日) Sho-gyo-kyo-kyo-ro-ki. ㊴ 一巻 ㊵ 存 ㊶ 明治八寫
 ㊷ (谷大、宗大、一八二〇)
 ㊸ 聖教訓譯法身藏 ㊹ (日) Sho-gyo-kun-yaku-hos-shin-zo. ㊺ 一巻 ㊻ 存 ㊼ (京專)
 ㊽ 聖教寫得校合目録 ㊾ (日) Sho-gyo-shu-toku-kyo-gō-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊽ 存 ㊾ 明治九寫 ㊿ (谷大、宗大、一八〇七)
 ㊿ 聖教拾遺 ㊿ (日) Sho-gyo-shū-i. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ (参考) 眞宗全書刊行決定書目
 ㊿ 聖教書寫校合目録 ㊿ (日) Sho-gyo-sho-shū-kyō-gō-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 明治九寫 ㊿ (谷大、宗大、一八二〇)
 ㊿ 聖教助見 ㊿ (日) Sho-gyo-jō-ken. ㊿ 存、輪池叢書第六 ㊿ 刊本(帝國、二一〇・二七)
 ㊿ 聖教小集 ㊿ (日) Sho-gyo-shū-shū. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 上村長子編 ㊿ 昭和三年(京大、一、二六・三三)
 ㊿ 聖教全集 ㊿ (日) Sho-gyo-sen-shū. 承闡大師聖教全集 ㊿ 三巻 ㊿ 存 ㊿ 弘津院三編 ㊿ 明治四二刊 ㊿ 東京 永平寺出張所
 ㊿ 聖教の正義 ㊿ (日) Sho-gyo-no-sei-i. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 龍木英一著 ㊿ 大正四刊 ㊿ (立大、B〇四・六一)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存、目録外聖教目録 ㊿ 一巻 ㊿ 存、目録集之内 ㊿ 知堂(寛永一一)享保三A. D. 153-1718) 撰 ㊿ 寫本(龍大、一〇三・四九)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 聖賢(寛文元一)延享三 A. D. 1661-1746) 撰 ㊿ 正徳二寫 ㊿ (谷大、宗大、一七)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 超常撰 ㊿ (参考) 眞宗全書刊行決定書目
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 實永五寫 ㊿ (谷大、宗大、一八〇)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 原本(攝津西福寺藏) ㊿ 寫本(龍大)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 金襴聖教目録 ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 文化七寫(寶善院)寫本(京大、藏・二二・一・三三)
 ㊿ 聖教目録 ㊿ (日) Sho-gyo-moku-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 德川時代寫 ㊿ (寶善院)寫本(龍大)
 ㊿ 聖教問答鈔 ㊿ (日) Sho-gyo-mon-go-sho. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 東武撰人(淳應)撰 ㊿ (参考) 淨土眞宗教典志第二 ㊿ 正徳四刊 ㊿ (龍大、一、九四・三〇一三) 撰(上・下・右・七)
 ㊿ 聖教略述章 ㊿ (日) Sho-gyo-ryaku-jū-shō. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 道隆 ㊿ (参考) 東城傳目録卷下、請宗章疏錄第二
 ㊿ 聖教科簡口傳事 ㊿ (日) Sho-gyo-kyō-ken-ku-den-no-koto. ㊿ 存、續淨土宗全書第一四 ㊿ 傳、最澄(神慶景雲元一弘仁三 A. D. 767-822) 撰
 ㊿ 聖教論題摘要録 ㊿ (日) Sho-gyo-ron-dai-teki-yō-roku. ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 寫本(京大、大末・六九五)
 ㊿ 聖教度佛母二十一種禮讚經 ㊿ (日) Sho-ku-do-pusan-mo-ai-jū-ichū-rai-san-gyō. (支) Sheng-chiu-tu-lo-mu-erh-shih-i-chung-i-tsan-ching (梵) Ekavimsati-stotra (Tāra-stotra) (寫本) Tārā-stotra ekavimsaka-ādhana (藏譯) (藏) Sgroi-ma la phyag-jishal hi-cu-rtsa-gcig gis bstod-pa phan-yon dab-cas-pa. 二十一種禮讚經 ㊿ 一巻 ㊿ 存 ㊿ 大正三〇・四七八No. 1108、縮成一三・二一六・一〇、明北1063、清1063、明南779、清・元1068、元代安藏譯
 ㊿ 雜部密經で、多羅法に屬す。多羅菩薩を、二十一種に禮讚し、終りに根本十字眞言及び救度八難の眞言を説く。救度佛母とは梵語多羅(Tārā)の譯で、西藏語の sgroi-ma に相當する。多羅菩薩を二十一種に禮讚すれば、現世に富貴、長壽、安穩を得、當來世に佛と成る。若復此れを二、三七日禮讚すれば、諸の苦惱を消除し、隨意に男女の子供、及び財寶を獲得することが出来ると言はれてゐる。
 此の經の西藏譯は版により、題名に小異がある。
 ナルカ版 iphyag-jishal der-gcig-gi phon-yon(二十一功德禮拜)
 ナルカ版 sgroi-ma-la phyag-jishal

名所行録 (名庫書) 西蔵所現 月年の刊録 (書考參書附註) 書主 説解存内 代年作書 著書 録存 數巻 (名書) 名題 號略字數

【シ】

hi-sh-rtsa-gcig gis bstod-pa (救度佛母二十一禮讚)
 北京版 boom-ldan-jdas-ma sgroi-ma a-la yuh-dag-par-rdregs-pahi sahas-rdzas bstod-pa (世尊救度佛母正等覺者禮讚)
 尙北京の町版 u ryal-yum lphags-ma sgroi (ephitri?) phyag-jishal hi-sh-rtsa-gcig (勝母聖度佛母二十一禮拜)
 とある様に、西藏譯と漢譯とが對照してある。これに依り漢譯は西藏譯よりの重譯ではなからうかと思はれる點が多々ある。但し終りの根本十字眞言と救度八難眞言とが缺ける。
 聖恩問答鈔 ㊿ (日) Sho-gu-mon-go-shō. ㊿ 二巻 ㊿ 存、日蓮聖人御遺文之内日蓮聖人全集第一 ㊿ 日蓮(貞應元一)弘安五 A. D. 1222-1283) 述 ㊿ 文永二 (A. D. 1255)
 ㊿ 聖人と愚人との問答に託して生死問題より説き起し、極めて通俗的に律宗、念佛宗、禪宗、眞言宗の四宗が出離生死の眞法に非ず佛意に契合せざる所以を順大明し、最後に法華經の信に歸せしめた書。
 ㊿ (参考) 録外考文第一、録外微考卷上 (馬田行啓)
 聖果寺志 ㊿ (日) Sho-kuwa-ji-shi. (支) Sheng-kuo-ssu-chih. ㊿ 一巻 ㊿ 存、武林掌故叢編第六 ㊿ 超乾撰
 ㊿ 最初に聖果寺所在の鳳皇山の位置を記し、白居易、蘇軾趙孟頫等の詩詞を列舉してゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二一・三三三No. 1275 ㊿ 唐代般若聖觀經撰
 ㊿ 聖天法に於て大いに靈驗を得んと欲する者の爲めに、式法、次第を簡単に説いたものである。即ち天地盤の造立法、召請印乃至威冥符圖、移攝符圖を明し、次に凡そしてゐるが、大體以下皆此の體に倣つてゐる。即ち次の山寺舊蹟の條には、巖、巖、洞、壩、嶺等に説明、乃至考證を加へて詩人墨客の吟什を添へてゐる。一例を示せば石の條には、鳳皇石。在寺右郭公泉下。石如掌平長。江浮面。其形若勝若臥。上鐫臥勝二字。蘇軾詩。有道難行不如靜。有口難言不如睡。先生醉臥此石間。萬古無人識此意。(以下省略) 如し。次に寺誌を載せてゐる。其れに依れば聖果寺は隋文帝開皇二年の創設に係り、後唐昭宗乾寧年間無著菩薩再興す。其の後廢あり、然かも此の寺鳳皇山の右に在り、南秦望東吳山の諸刹と相輝映し、江滸影評、松徑盤紆、湖涼潺湲、竹木蔭蔚、洵に昭代の竺徒園、靈林の魯靈光と最後に歴代弘法の諸師の傳を掲げて終つてゐる。要するに此寺志は僅に一巻であるが良く寺の面目を述べて遺憾なく以て撰者、超乾の凡筆に非ざるを表明してゐる。
 ㊿ 光緒七年錢唐丁氏刊 (谷大、外大・一五六九) 寫本(帝國、一七六・五) ㊿ 中華民國杭州縣浙江省立圖書館附設印行所 (國根靜應)
 聖歡喜天法 ㊿ (日) Sho-kwan-shih-tien-shih-fa. ㊿ 一巻 ㊿ 存、大正二

【シ】

塔を建立し、常に念佛を行ずるといふと、法然上人が、善導の勸を看るに起立塔寺を疎雑の業とし稱名念佛を正定の行とす、但念佛の義は横に九宗に通じ、堅に淺深を諒み、子の念佛は何の念佛ぞと問はれて、始めて身不肖なるを知つて閉口して、吾若し調せずんば豈に天の高を知り、地の厚を學ばんと。法然上人より三重念佛を分別を受けた、これより高華の心頓に息み、大歡喜して三月の間片時も座下を離れなかつた。後歸郷して更に建久十年三十八歳の時上洛し、大師に謁した時選擇集を授けられ六年間連日參學懈らず、相傳刺すところなかつた事實を記し、次に元久元年歸郷の後の行化、安養寺の本尊の奇瑞、善導寺の起立、往生院に於て授手印製作の顛末、嘉祿三年敬選擇の述作。

淨土法門と第三祖然阿へ付属の事を記し、法然上人に謁してよりの日常の行儀、靈儀感見等の奇瑞ありしを述べ、嘉祿三年十月已來漸く不食翌四年二月二十九日入滅に至る間の法語、行儀、垂示を記し、往生の瑞相等を述へ本傳を終り。

專修念佛師 辨阿聖賢基 正助行不退 蓮往生樂業 嘉祿四年戊戌閏二月二十九日御入滅

と善導寺石塔地輪の刻文を挙げ、了惠が本傳を草し、再治したる夜、先師良忠と聖光上人が膝を交へて語る席に了惠が居たのを夢んだのを弘安十年十一月追記してある。淨土宗全書教本は付録として上人の遺蹟、京都聖光寺、石州大願寺以下二十二ヶ

寺を挙げ、記主の乞或疏文。金光禪師行狀附正中山縁起として、陸奥行岳西光寺開山金光上人の傳記を掲げ、奥州東日流正中小大權現略縁起を録してある。

清光寺信間は則金光禪師傳記を書き更に尾張國關光大師遺蹟再興記を付して居る。淨土宗全書教本即ち文政四年の刊本は松坂清光寺信間の校訂纂註をしたもので、專念寺隆圓の識語に依ると、本書は鑄板は出来たが、まだ校訂が終らないで、信間が示寂したので、隆圓が代つて校訂し、巻頭に二眼肖像と華頂山大僧正眞殿の序を寫して、出版して宿志を遂げさせたのである。信間は白蓮社波譽阿と號し、寶曆五年尾張海西部に生れ、俗姓中山氏、九歳にして梅香院譽譽和尚に依り蓬染し、三條山に學び、初め江州金勝山に住し、城州藤森靈顯寺に轉じ、後勢州松波清光寺に轉じ、到るところ專修念佛を勧め、善薩大戒を授け、行化盛であつた。文政三年十一月十一日没、世壽六十七であつたことが知られる。

【参考】 總淨土依憑章疏目錄 ①弘安一〇刊(龍大、二九六・五・三三、研眞) 慶安四〇刊(龍大、文化一四四刊(正大、一五二・一・三三) 文政四刊(正大、一五二・一・三三) 京大、一・二二・七・〇刊本(各六、宗大、二六九〇) 龍大、二〇〇・二・七 (中谷在禪)

聖光上人遺蹟 ①(日) Sho-ko-sho-nin-de-eki ①卷 ②信間(寶曆五一文政三A.D. 1753-1820) ③文政四刊 ④正大、一五二・一・三三(龍大、研史) 聖光上人臨終用意 ①(日) Sho-ko

一-sho-in-ri-to-no-ryō ①卷 ②存、臨終南錄之内 ③辨長(應保二一嘉祿四A.D. 1162-1238) ④刊本(各六、宗大、九八七)

聖皇本紀 ①(日) Sho-ko-no-ki ④卷 ②淨土眞宗教典第三に曰く「作者未詳。依内題。先代舊事本紀。三十五至三十八之四卷也。舊事本紀。又名大成經。宣傳流世。唯今紀四卷。印本別行。或云。大成經爲後人偽造。未考。且如此紀所叙。多同平氏傳。間有少差。加飾屢載。怪異事述。謂之眞偽混淆。亦可云云。

聖金剛手菩薩一百八名梵讚 ①(日) Sho-ko-ni-ho-shi-ho-astan-ippa-ku-hachi-nyū-bo-san (支) Sheng-chin-kang-shou-p'o-sa-i-pai-pa-min-gan-ta-na. 金剛手菩薩一百八名梵讚。一百八名梵讚。①卷 ②存、大正二〇・五六九 No. 1131 縮成一三、二一六・一〇、北1132 附、南1237 附、元1231 附、明北1070 附、清1070 附、1231 高、天1217 附、明南99 附、元1075 附、宋法賢(一咸平四A.D. 1001) 譯

聖最勝陀羅尼經 ①(日) Sho-sai-shō-da-ra-ni-kyō (支) Sheng-tsui-sheng-to-lo-ni-ching (梵) Vīśvavāra-nama-dhāraṇī (藏) Hphags-pa khyad-par-tan shes-bya-bahi gsums ①卷 ②存、大正二二・九二四 No. 1409 縮成一〇、

二一五・五、北1199 附、南1216 附、元1210 附、明北873 附、清73 附、1196 八、天1196 兵、法1311 處、至771 附、明南756 附、元878 附、宋施護(一太平興國五 A.D. 980) 譯

聖最上燈明如來陀羅尼經 ①(日) Sho-sai-jō-myō-nyō-ri-da-ra-ni-kyō (支) Sheng-tsui-shang-ting-ming-ri-tai-to-lo-ni-ching (梵) Aśa-pradīpa-dhāraṇī (藏) Hphags-pa rje-shangs-kyi rgyal-mo sgröl-ma mchog-gi gsums. 聖最上燈明陀羅尼經 ①卷 ②存、大正二一・八七二 No. 1355 縮成一三、二一、北1120 附、南1137 附、元1120 附、明北794 附、清794 附、1115 附、天1117 附、法1238 兵、至777 附、明南802 附、元799 附、宋施護(一太平興國五 A.D. 980) 譯

この結界陀羅尼を誦し已つて大莊嚴陀羅尼を誦せば一切の所作成就せざるは無しと。時に慈氏菩薩、大梵天王、壽時分天、帝釋天、四天王、妙月天子、一切天衆、諸星宿天、一切龍衆、二十八天衆又軍主衆、畢鉢多思合造場樂茶等衆、布單龍羯吒布單衆、一切末恒哩衆、四方四羅刹、捺羅囉多羅刹女等々順次に莊嚴陀羅尼を説く。次で大梵天王は此れ等莊嚴陀羅尼の功德を佛に白し、又佛は大梵天王所説の眞實なること及び佛所説の陀羅尼の功德を阿難に告げ玉ふ。

【シ】

千二百五十人と俱に在せし時、娑婆世界を去ること百千俱佛刹於て世界あり無邊花世界といひ、最上燈明如來と稱する如來住し給ふ、而して彼處に大光明と無量光と名づくる二菩薩が居た。最上燈明如來は此の二菩薩を娑婆世界に遣して世尊の少病少惱を問訊し、娑婆世界には人非人夜叉羅刹等横行し王法、盜賊、蛇蝎、惡毒、蟲蟻等擾亂するを以て常恒に陀羅尼眞言章句を説かんとて陀羅尼六種出し、而して世尊は尊者阿難に告げて此の陀羅尼章句は甚だ得難く受持讀誦し他のために解説すれば一切の煩惱は皆悉消除し、乃至正法久住すと説いて陀羅尼の功德を讚歎してある。

聖財集 ①(日) Sho-zai-shū ③卷 ②存、無住(嘉祿二一正和元A.D. 1236-1312) 著 ③(参考) 扶桑釋林書目、日本釋林撰述書目 ④寛永二〇刊、明治二六再刊 ⑤(京大、藏、二四九・九九) 哲、あ、六、右・二〇 (龍大、二六七九・二〇) (谷大、餘洋・五八) (正大、一〇・一三) (京大、一・二五乙・七) ⑥京都一切經印房

聖財論私釋 ①(日) Sho-zai-ron-shi-shaku ①卷 ②存、應麟聖財論私釋、聖財論私記 ③二卷或四卷 ④存、良定袋中(天文二一一寛永一六A.D. 1552-1639) 述 ⑤寛永一六(A.D. 1639) ⑥(参考) 總淨土依憑章疏目錄 ⑦寛永二二刊(各六、宗大、六〇九) (龍大、二六八一・八五、研眞) 延寶四刊(正大、一五三・二・六) 哲、ふ、七・中、一・五

聖持世陀羅尼經 ①(日) Shi-ji-se-da-ra-ni-kyō (支) Sheng-chi-shih-t'o-lo-ni-ching (梵) Vāndhara-dhāraṇī (寫本) (藏) Hphags-pa nor-gyi rgyan shes-bya-dahi gsums. 聖持世經 ①卷 ②存、大正二〇・六二二 No. 1165 縮成一八、二一五、三、北1132 附、南1166 附、元1140 附、明北804 附、清804 附、1132 附、天1136 附、法249 高、至726 附、明南806 附、元809 附、宋施護(一太平興國五 A.D. 980) 譯

聖者名 ①(日) Sho-jina-myo (支) Sheng-ni-ching ①卷 ②(参考) 慈覺大師在唐遺傳錄

聖者文殊師利發菩提心願文 ①(日) Sho-jin-mon-ji-shi-i-hō-sha-to-dai-shin-gwan-mon (支) Sheng-chi-wen-shi-shi-i-ta-p'i-t'i-shia-yuan-wen. 文殊師利發菩提心願文 ①卷 ②存、大正二〇・九四〇 No. 1198 縮成九、二一六・六

【シ】

①(参考)淨土真宗教典志 ②寫本(龍大、一五〇・一八) (大原性實)
聖淨二門兩眞實之記旨趣 ①(支)Sho-ji-ol-mon-ryō-shin-jitsu-no-ki-shi-shu. ②一卷 ③存 ④寫本(谷大)
聖水經 ①(支)Sho-shui-kyō (支)Sho-shui-kyō-ching. ②一卷 ③疑偽經 ④(参考)武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八
聖水山養源寺記 ①(日)Sho-shui-san-yō-gen-ji-ki. ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一九四・六)
聖水寺志 ①(日)Sho-shui-ji-shi (支)Sho-shui-ji-shi-chi. 雲居聖水寺志 ②六卷 ③存、武林拿故叢編第一六 ④明倫原輯、實德重纂
 ⑤本寺志は上天竺講寺志や聖果寺志に比し些か記述の體を異にしてゐる。即ち卷一形勝、建置、卷二、祖師、香窟、講堂、靈異、卷三、題詠、卷四、法譜、卷五、贊偈、卷六清規と分け、形勝の部には雲居聖水寺附近の山河の形勝を述べ、建置の部には堂塔の興廢、規模を述べて、寺田、常住法器等に及ぶ。卷二に於ては歴代の住持、香窟より、來往の詩人墨客に至るまで細大漏さず詳載し、その末に靈異、古蹟を添へてゐる。卷四法譜には初祖菩提達磨尊者より四十一祖互如奇禪師に至る迄の法統を擧げ、道膺禪師、明本、守泉禪師、心上人、寶雨禪師等の傳を述べ、最後に贊偈清規を収めて終つてゐる。要するに此の寺志は陳宗楷の序にも

云へる如く從源達磨、井井有條、別類分門、班班可考、情最耽吟吟味、後復附以詩篇、尤矣と云つてゐるのは篤論と云ふべきであらう。
 ⑥寫本(京大、藏・二〇三・三)光緒一八重刊(谷大、外大、一五六九) (關根靜庵)
聖水寺志補遺 ①(日)Sho-shui-ji-shi-to-i. (支)Sho-shui-ji-shi-chi-pu-i. ②一卷 ③存、武林拿故叢編第一六
 ④此の補遺、武林拿故叢編本にては聖水寺志と合冊を爲す。然して此の補遺を撰した理由は開卷第一の書已成帙。易來掛漏之譏事有可觀用智經細之富。況乎名勝之地、實多異見新聞。而且說法之場不棄片言隻字。散金碎玉皆生色於琳宮。集錦鋪委每重煩于毛頭。と云つてゐるのである事が出来る。然して補ふところ宋仁宗、佛牙贊、許覺禪師明本傳、清慈道人周初平忍說、許時若修雲居記、浙江巡撫都察院張公完案、元雲居寺中峯和尚札、茅坤貴池會近溪沈公墓誌銘、徐一聖重刊中峯和尚傳錄序等是也。
聖師子經 ①(日)Shō-shi-ji (支)Shō-shi-ji-ching. ②一卷 ③(参考)釋尊錄第三
聖箭堂述古 ①(日)Shō-san-dō-ki (支)Shō-san-dō-ki-chi. ②一卷 ③存、己辰三・三三・一 ④明成化道釋(萬曆四三—康熙三三)後A. D. 1615—1684)
 ⑤福建福州府鼓山湧泉寺永覺元賢禪師の法嗣として、明末清初に湖上の宗風を宣揚し

た爲雲道禪師が、繼席せる鼓山の聖箭堂に於て、古の佛圖の言行にして末法の弊風を救ひ、其の行業よく學人をして慧目を肅清せしめ、智證を潔白ならしめ、履踐嚴明にして道業の規範たるべきものを、見聞に隨つて記述したもので、同志の人々、捐資して續梓せんことを請ひたるに任せ、道釋四十五歳の明永曆十三年二月(A. D. 1659)自叙して梓行せしめたものである。記述に際しては、時の古今、人の先後を分たず、見聞のまゝ隨記して、此れに評を加へたもので、述記せられた經論並に祖師は、安智正覺禪師の僧堂記、大般若經、性空卷主、慧洪覺範禪師、安智正覺禪師、嵩嶽元珪禪師、雲門區眞禪師、實誌和尚十二時頌、汾陽善昭禪師、香嚴和尚、死心預禪師、芙蓉道楷禪師、大實禪師、靈源惟清禪師、後分大涅槃經、黃龍清禪師、明教契嵩禪師、嵩山贊元禪師、羅湖野錄、圭峯宗密禪師、汾陽善昭禪師、永明延壽禪師、天童圓悟禪師、大洪恩禪師、汾州大達無業禪師、大智度論、善慧大士、移別真卿丞相、大珠和尚、菩提達磨大師、六祖大師、息心銘の三十二條に涉つて居る。
 ⑥寫本(京大、藏・二〇四・六) (大久保聖瑞)
聖善住意天子所問經 ①(日)Shō-shan-ju-i-ten-shi-shō-mon-kyō. (支)Shō-shan-ju-i-ten-shi-shō-mon-kyō-ching. ②四卷 ③存、大正二二・一八八八 No. 1371 縮成八、二一五・三、北1167家、南1182家、元1172家、明北825則、清825則、歷1172則、天1162家、法1293條、至733條、明南841命、No. 830 ④宋施護(太平興國五A. D. 980—)
 ⑤佛、祇樹給孤獨園に在し、阿難に告げたまはく、摩訶陀羅尼大總持王あり、過去七十七俱胝如來の説く所、これ威德勢力皆具足し、讀誦せば宿命通を得て七生事を知り、永く菩提を過かすとして、この陀羅尼を説きたまふ。次で過去八十八俱胝如來所説にして十四生事を知り得る陀羅尼、無量の威德力あり、二十一生事を知り得る陀羅尼及びこれに培する功徳あり、受持讀誦せば他人を護り、書寫し身に持すれば自らを護護する陀羅尼等々を説き、最後にこの陀羅尼に違逆する者の受くる報を明す。(坪井德光)
 ⑥刊本(各本、大・五二八)(龍大)
聖天 ①(日)Shō-ten. 聖天法 ②一卷 ③存、大日本佛教全書第五〇卷神妙之内 ④聖譯(康治二—建曆二)後A. D. 1143—1212 ⑤寫本(寶善提院)(寶龜院)
聖天儀軌 ①(日)Shō-ten-gi-ki. (支)Shō-ten-gi-ki-chi. 摩訶盧盧道那如來定惠均等入三昧耶身變身大聖歡喜天菩薩修

聖善住意天子所問經

名所行録◎(名庫書)藏書所現◎月年の刊載◎(書考)書目録◎書目◎説解書内◎代年作書◎書目◎佚存◎歌詠◎(名書)名題◎號字歌

【シ】

聖多羅菩薩一百八名陀羅尼經 ①(支)Shō-ta-ra-ho-sat-u-p-ya-ku-ha-chi-myo-da-ra-ni-kyō. (支)Shō-ta-ra-ho-pu-sa-i-pat-pa-ming-to-lo-ni-ching. (支)Tara-devi-namasatakā (藏書)
 ①(支)Iha-mo-ge-ri-mahā-mūshān-bh-gya-rta-bhryad-pa. 聖多羅一百八名經、一百八名陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二〇・四三三No. 1105 縮成一一、二一五・三、北1134則、南1143則、元1143則、明北808則、清808則、歷1133則、天1131千、法1261高、至710條、明南808則、No. 813 ④宋法天(咸平四A. D. 1001)
 ⑤多羅大菩薩、陀羅尼法を説き、天人夜叉乾闥婆等は之れを聞き怖怖す。時に自在天王は呪を説き、多羅菩薩の一百八名を讚歎し、多羅菩薩十方国土を照し自在天王及び諸天人の爲に一切如來の一切衆生を覆護し度脱する所以を説く。次で光焰種種莊嚴如來は多羅菩薩一百八名を誦する者の功徳を明し玉ふ。
 ⑥本經は雜密經、多羅法を説けるものにして天息災讚揚聖多羅菩薩一百八名經一卷、施護譯、聖多羅菩薩梵讚一卷と類本あり。(坪井德光)
聖多羅菩薩經 ①(日)Shō-ta-ra-ho-sak-kyō. (支)Shō-ta-ra-ho-pu-sa-ching. 聖多羅經 ②一卷 ③存、大正二〇・四七〇No. 1104 縮成八、二一五・五、北1360則、南1274則、元1268則、明北901則、清901則、歷1260則、天1260則、法1374條、至709條、明南932則、No. 906 ④宋代法賢

譯 ⑤佛圖統紀(四三、四四)下れば法天を法賢と改名せるは建隆二年(A. D. 985)にあり、示寂は咸平四年(A. D. 1001)なるが故に譯時は此の間の十七年間と云ふべし。
 ⑥佛、香摩山五髻乾闥婆王宮に在し、五髻乾闥婆王の請により會座の衆の爲に多羅菩薩陀羅尼を説き、多羅菩薩一百八名を宣説し玉ふ。次で多羅菩薩の像或は香木像を安置し、一日三時に陀羅尼及び一百八名を誦せば諸障消滅し、又一遍乃至二十七遍誦せば所願成就し、諸賢聖はその本身を護してこの人を擁護し、當に蘇利耶帝佛刹に生ぜしむと説きたまふ。時に五髻乾闥婆王は佛の所説を聞き頌を説き佛を讚歎す。(坪井德光)
聖多羅菩薩梵讚 ①(日)Shō-ta-ra-ho-sak-kyō-hon-san. (支)Shō-ta-ra-ho-sak-kyō-hon-san. 聖多羅菩薩梵讚 ②一卷 ③存、大正二〇・四七六No. 1107 縮成一三、二一六・一〇、北1196則、南1207則、元1201則、明北1074則、清1074則、歷1195八、天1187則、法1318條、至1307則、明南874則、No. 1079 ④宋施護(太平興國五A. D. 980—)
 ⑤多羅菩薩讚歎の梵頌。法天譯、聖多羅菩薩一百八名陀羅尼經一卷、天息災讚、讚揚聖多羅菩薩一百八名經一卷と類本なり。(坪井德光)
聖壽經 ①(支)Shō-shū-kyō. 現代意譯 聖壽經 ②存、現代意譯根本佛教聖典叢書第一〇 ③羽溪了諦、甲斐實行共譯

聖大總持王經 ①(日)Shō-dai-ō-ji-kyō. (支)Shō-dai-ō-ji-kyō-ching. ②一卷 ③存、大正二二・一八八八 No. 1371 縮成八、二一五・三、北1167家、南1182家、元1172家、明北825則、清825則、歷1172則、天1162家、法1293條、至733條、明南841命、No. 830 ④宋施護(太平興國五A. D. 980—)
 ⑤佛、祇樹給孤獨園に在し、阿難に告げたまはく、摩訶陀羅尼大總持王あり、過去七十七俱胝如來の説く所、これ威德勢力皆具足し、讀誦せば宿命通を得て七生事を知り、永く菩提を過かすとして、この陀羅尼を説きたまふ。次で過去八十八俱胝如來所説にして十四生事を知り得る陀羅尼、無量の威德力あり、二十一生事を知り得る陀羅尼及びこれに培する功徳あり、受持讀誦せば他人を護り、書寫し身に持すれば自らを護護する陀羅尼等々を説き、最後にこの陀羅尼に違逆する者の受くる報を明す。(坪井德光)
 ⑥刊本(各本、大・五二八)(龍大)
聖天 ①(日)Shō-ten. 聖天法 ②一卷 ③存、大日本佛教全書第五〇卷神妙之内 ④聖譯(康治二—建曆二)後A. D. 1143—1212 ⑤寫本(寶善提院)(寶龜院)
聖天儀軌 ①(日)Shō-ten-gi-ki. (支)Shō-ten-gi-ki-chi. 摩訶盧盧道那如來定惠均等入三昧耶身變身大聖歡喜天菩薩修

行秘密法儀軌、變身大聖歡喜天菩薩修行秘密法儀軌 ②一卷 ③存、大正二二・三〇五No. 1271 縮成一三・五、唐不空(神龍元—大曆九A. D. 705—774)
 ④摩訶盧盧道那如來定惠均等入三昧耶身變身大聖歡喜天菩薩修行秘密法儀軌の下を見よ。
聖天供 ①(日)Shō-ten-gu. ②一帖 ③承久元寫(寶善院)貞享五寫(寶善提院)
聖天頌次第 ①(日)Shō-ten-gū-shū-dai. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)
聖天供 ①(日)Shō-ten-gu. ②一帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)
聖天供開結作法 ①(日)Shō-ten-gū-kaishū-kyō. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)
聖天供開結表白 ①(日)Shō-ten-gū-kaishū-hyō. ②一帖 ③存 ④空海(實錄五一承和二A. D. 774—835)
聖天供次第 ①(日)Shō-ten-gū-shū-dai. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)
聖天供七ヶ日略支度 ①(日)Shō-ten-gū-shichi-nichi-ryaku-shido. ②一紙 ③存 ④寫本(高天、寄・一・六六)
聖天供神分 ①(日)Shō-ten-gū-shim-bun. ②一帖 ③存 ④徳川初期寫

名所行録◎(名庫書)藏書所現◎月年の刊載◎(書考)書目録◎書目◎説解書内◎代年作書◎書目◎佚存◎歌詠◎(名書)名題◎號字歌

